平成 26 年度

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

ひきこもり問題の 社会的理解・支援促進事業

報告書テキスト集

平成 27 年 3 月



特定非営利活動法人 全国引きこもり Κ Η J 親の会(家族会連合会)

はじめに

【ひきこもり問題の社会的理解・支援促進事業のご報告にあたって】

全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)代表 池田佳世

ひきこもりに関する対策については、社会全体で進めて行かなければならない課題であり、厚生労働省においても、ひきこもり対策は重点課題として掲げられています。しかし、ひきこもり当事者とその家族が抱える問題は、多種多様であり、長期化した場合は、回復までに時間がかかることも多く、家族の状況に応じた早期対応と、切れ目のない継続支援が求められています。

「全国引きこもり KHJ 親の会」(以下、『KHJ 親の会』) は、1999 年、埼玉県で産声を上げました。当時、「ひきこもり」と言えば「親の育て方が悪い」「本人のなまけだ」というのが社会の認識でした。当時から考えると「ひきこもり支援」は進みました。「ひきこもり対応ガイドライン」の制定(2003 年)、「ひきこもり地域支援センター」の整備(2009 年)、「子ども若者育成支援推進法」の施行(2010 年)、そして2013 年から「ひきこもりサポーター養成・派遣事業」が始まりました。このように、国によるひきこもり対策が推進された背景には、ひきこもりへの社会的理解が進んだことと同時に、ひきこもり長期高齢化の問題が浮き彫りになってきたことがあると思います。

当会が11年に渡り実施しているひきこもりに関する調査報告書の推移を見ると、ひきこもり本人の平均年齢は、調査開始の2002年では26.6歳だったものが、2014年では、33.1歳、親の平均年齢も、2006年で60.11歳だったものが、2014年では62.89歳となっています。この調査は親の会に集う人たちを対象としていますが、現実には、社会的に孤立した家族が地域の中で息を潜めて暮らしていることは、昨今のひきこもりに関する事件報道からも想像に難くありません。家族の社会的孤立が、ひきこもりの長期化を招いてしまう要因であると考えます。家族への早期対応が可能となるような、支援情報の発信と社会的啓発、ひきこもりに対する正しい知識の提供は、早急に取り組むべき課題でしょう。

さらに、4月から生活困窮者自立支援制度が始まりますが、自治体担当者からは、ひきこもり相談に対して、具体的にどのように対応したらいいのかという声も聞かれ、困窮者事業を受託する全国各地の社協職員、民生委員、保健師等からも、ひきこもりに関する知識習得への関心、要望は高まっています。

そういった中、KHJ親の会では、発足当初から、世の中に先駆けて、ひきこもりの理解と対応を学び、回復の道を模索するために、毎月、定期的に学習会や講演会を重ねてまいりました。当事者家族会として培った10年以上の経験を活かして、本事業で開催した学習会(講演会)には、ひきこもり支援に携わる福祉専門職や支援関係機関の方にも多数ご参加いただくことができました。また、ひきこもりの家族会が無い地域においても、家族会発足のための講演会を開き、地元メディアの協力を得て、支援に対する理解を促すことができました。本事業により、身近な地域における人と人、人と資源を結ぶ、地域連携の基盤づくりにつながったことと確信しています。

本報告書には、ひきこもりに対する理解の情報資源となるような、全国の学習会の内容、成果と課題、取り組みを記し、使用したテキスト集を掲載いたしました。今後、各地の自治体、支援機関におきまして、ひきこもりの理解と支援促進のために、お役立ていただければ幸いです。

ひきこもり問題の社会的理解・支援促進事業 学習会報告書・テキスト集 目次

事第	美実力	施の	の背景にある「ひきこもり」の現状と課題・・]
第-	一部	:	: 学習会活動報告	
	1.	家	家族会発足のための学習会活動・テキスト集 山梨・島根・鳥取・青森・岐阜・三重・福井・熊	
	2.		東北ブロックにおける学習会活動・テキスト集 宮城・山形・米沢	47
	3.		と陸ブロックにおける学習会活動・テキスト集 石川・新潟	78
	4.		関東ブロックにおける学習会活動・テキスト集 千葉・東東京・栃木 ※別添成果物(東東)	
	5.		東海ブロックにおける学習会活動・テキスト集 ひきこもり大学・浜松・名古屋 ※別添成果物・	
	6.		丘畿ブロックにおける学習会活動・テキスト集 大阪・京都・滋賀	195
	7.		中国ブロックにおける学習会活動・テキスト集 広島・鳥取・山口	230
	8.		□国ブロックにおける学習会活動・テキスト集 高知・愛媛・徳島	279
	9.		L州ブロックにおける学習会活動・テキスト集 鹿児島・沖縄	300

第二部 : 学習会アンケート報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	313
1. アンケート結果から見えた傾向と課題	
2. 学習会全体の成果と課題	
おわりに ~今後の家族会全体の取組みについて~ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	329
資料編	331

掲載テキスト一覧				
ブロック・学習会名		テキスト名	講師(作成者)	頁数
本部	家族会発足講演会	ひきこもりを学ぶ、家族のための学習会 引きこもり者に対する接し方 親の学習会の効果と全国導入	池田 佳世	29
	一 	大人のひきこもり~高齢化・潜在化する ひきこもりの実像とその取り組みについて~	池上 正樹	36
	宮城・学習会	夢ある未来の描き方	東野眞由美	50
東北	山形·米沢 学習会	ひきこもりの理解と対応	村岡 義明	62
北陸	石川·学習会	家族の中の自分をみつける試み	上田 理香	82
	千葉·学習会	ひきこもり外来から見えるもの	中垣内正和	93
		ひきこもりの理解と対応の基本	牟田 武生	113
関東	古古古, 学羽스	ひきこもり経験者より望むこと	斉藤 信	130
渕 宋	東東京·学習会	ひきこもり等の就労支援について (藤里町社会福祉協議会)	菊池 まゆみ	131
	栃木·学習会	ひきこもりからの回復への道	鈴木 美登里	140
	ひきこもり大学	ひきこもり大学 普通学科	宮武 将大	150
	浜松·学習会	クラフト(CRAFT) コミュニティ強化と家族訓練	境 泉洋	156
東海		社会的孤立を防ぐためのネットワーク作り	斎藤 縣三	182
	名古屋·学習会	生活困窮者自立促進支援モデル事業の取り組み 名古屋市仕事・暮らし自		184
	大阪·学習会	ひきこもり当事者を元気にする家族の対応 岡	崎 剛(講演要旨)	199
近畿	京都·学習会	ひきこもり施策の方向性 (厚生労働省社会・援護局総	務課 荒川 英雄)	213
		ひきこもり対策推進事業等について (厚生労働省社会・援護局	総務課 日野 徹)	218
	広島·学習会	生活困窮者自立支援制度について	広島市健康福祉 局地域福祉課	234
中国		広島ひきこもり相談支援センター西部	齋藤 圭子	248
		広島ひきこもり相談支援センター(中部・北部センター)の相談状況	山田 晃靖	250
	鳥取·学習会	ひきこもりの孤立を防ぐために~ひきこもりから、 いつ、誰と、どのようにつながっていったか~	渡辺 聖史	261
		ひきこもりの孤立を防ぐために	森下 徹	267
	山口·学習会	ひきこもり当事者とのコミュニケーションの取り方	牟田 武生	276
四国	愛媛•学習会	ひきこもりの体験、ピアサポート活動について	香川オリーブの 会・宮武将大	289
	徳島·学習会	ポレポレ農園の若者について	松田 勝	296
	鹿児島·学習会	進化するひきこもり支援	松本 太郎	304
九州	沖縄•学習会	見える存在感のある活動へ - 「職親事業」と 「当事者向けハンドブック作成事業」-	大脇 正徳	310

事業実施の背景にある「ひきこもり」の現状と課題

本事業の実施の背景にある、ひきこもり問題の現状と課題は、以下のとおりである。

①ひきこもりの社会問題化について

平成22年度(2010年)の内閣府「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」よると、日本の「引きこもり」群15歳~39歳)は、推計で70万人。その「潜在」群は、推計で155万人に上る。ひきこもり当事者及び、ひきこもりを抱える家族の孤立化や長期化、高齢化につれて、深刻な社会問題となっている。

また、ひきこもり対策については、社会全体で進めて行かなければならない課題であり、 厚生労働省においても、ひきこもり対策は重点課題として掲げられている。

(全国厚生労働関係部局長会議、社会・援護局関係主管課長会議等)

②ひきこもり長期高齢化に伴う親亡き後の困窮化の問題

KHJ親の会が、全国の家族会を対象に行ったひきこもり実態調査の調査報告書(平成25年度)によると、ひきこもり本人及び家族の年齢について、以下のような結果が示されている。

- ○家族:平均62.9歳(2006年の平均年齢60.1歳・・・約2年上昇)
- ○本人:平均33.1歳(2002年の平均年齢26.6歳・・・約7年上昇)
- ○男性:33.2歳 ○女性:32.6歳
- ○ひきこもり期間:平均10.7年(最長37年)

以上の結果から、この 10 年間で本人と家族の年齢に明らかな高齢化が示されている。 また、親亡き後の本人の困窮化の問題については、生活の困窮のみならず、関係の困窮に ついての問題(孤立化の問題)が大きく浮上している。

③地域社会から孤立した家族への早期対応の必要性

ひきこもり長期化の背景に、家族の孤立無援状態(家族ごと地域の中にひきこもってしまう)がある。人脈や情報、地域資源との繋がりが絶たれ中で、ひきこもり状態が長期化する可能性である。

精神疾患などの二次障害を併発した場合に、医療や支援機関と繋がらなければ、ひきこもり状態がさらに重篤化してしまうリスクも懸念される。ひきこもりを抱える家族の早期発掘、早期対応は、大きな課題となっている。

④生活困窮者自立支援制度の開始に伴うひきこもり相談の増加(支援者のニーズ)

この4月に生活困窮者自立支援法が施行され、ひきこもり問題も個別課題に対応する相談事業の一つとして同法のなかに位置付けられた。各自治体に設置される自立相談支援機関にも、ひきこもりを抱える家族からの相談が増えると予想されるが、困窮者事業を受託する支援者(社協職員、民生委員、保健師等)間で、ひきこもり本人及び家族への対応方法に関するノウハウやスキルが不足しているのが現状であるように思われる。

平成25年4~5月に山形県が実施した「困難を有する若者に関するアンケート調査報告

書」において、ひきこもり相談に関わる民生委員らに「ひきこもり当事者への支援の状況」を聞いたところ、回答者数 1,607 人のうち 907 人が、「わからない」と回答している。ひきこもりに関する理解と対応習得について、支援者からのニーズは高いと思われる。

⑤ひきこもりに関する学習会開催への要望高まる(家族・当事者のニーズ)

当会実施の調査研究結果(平成25年度)において、ひきこもりを抱える家族・当事者の83.7%が、ひきこもり問題の学習会、講演会、体験発表(回復経験談の発表)への参加を望んでいることがわかった。学習会開催について、支援者のニーズの高まりと共に、家族・当事者からの要望も高いことが示されている。

●本事業の目的~①~⑤の背景とニーズを踏まえて~

上記のひきこもり問題の背景と、現状のニーズを踏まえて、本事業では、KHJ親の会が、全国各地の支部と連携し、ひきこもりの社会的理解と支援促進のため、ひきこもりに関する学習会(または講演会)を開催する。これにより、当事者及び当該家族のみならず、行政、自治体、社協職員、民生委員等の支援関係者に対して、ひきこもり問題に対する正しい理解と、対応方法の習得機会を提供し、効果的な支援を促進することが可能となる。また、地域資源との連携促進により、身近な地域での助け合い、支え合いの基盤づくりに貢献する。

また、本事業を通して見えてきた課題をもとに、今後のひきこもり支援の取り組みの方向性を検討していくことを目的とする。

第一部 学習会活動報告

全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)

1. 家族会発足のための学習会活動

活動報告テキスト集

家族会発足のための活動 (山梨・発足講演会)

開催日・開催タイトル	2014年8月16日(日)
	山梨県家族会発足講演会「ひきこもりからの回復」
実施(連携)団体名	NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部
会場	山梨県立図書館(イベントスペース)
参加人数	約95名(当事者及び家族、親族、支援者・医療関係者・民生委員・
5 /4F/ C 3/C	ボランティアなど)
広報	新聞紙上及び、ホームページにて告知
	山梨日日新聞より事前取材。8月1日掲載紙面にて広報。
実施内容	下記の2本立てによる講演が行われた。 【前半 13:30~14:30】池上正樹氏(フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し、多くの当事者の思いを発信している池上正樹氏から、「ひきこもり当事者たちの思い」が語られた。ひきこもり者は、セーフティネットの狭間、社会保障制度の谷間にいる人たちである。選択肢のない中、誰にも相談できず、本人も家族も孤立し追いつめられていく。そんな中、ネットを介して、池上氏に相談を寄せる人たちが増え、当事者の思いから当事者の希望に合った企画も動き出している。当事者が講師になる「ひきこもり大学」や「フューチャーセッション・庵-IORI・」などである。当事者たちが自分の経験をどう生かしていくか、その手段を提示する大切さを伝えた。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ親の会代表、臨床心理士)ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を25年継続。回復の各段階について説明し、「親は、子の快復段階を少しずつ上げていく」責任者であること、ひきこもりの回復に親が関わることの重要性について呼びかけた。また、親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるかについて伝えた。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 8 人程度のグループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。また、家族会発足に当たり、今後の運営内容についての話し合いが持たれた。
開催の模様 (写真)	びきこもりの経験者や当事者とのつながりから「本人のペースに配慮しなが

ら本人の望む支援を」と語るフリージャーナリストの池上正樹氏

実施成果 決定事項	・山梨県では初の家族会誕生。名前は「桃の会」と決定した。 ・多様な関係諸機関からの出席を得た。 ・同日、当事者団体の協力で、当事者の「居場所」も同時に開催された。 ・居場所開催の記事が山梨日日新聞に掲載されたことで、当事者の参加を 多く得た。 ・今後についても、担当記者の方々から、継続的なバックアップを得ること ができた。 ・次回の家族会の開催日が決定 9月23日(日)13時~16時 同会場
開催に関連する 新聞記事	・山梨日日新聞(8月16日)の一面に、「『ひきこもり』支え合う」として「山梨親の会」設立の告知紹介記事が掲載された。 また、社会面に「ひきこもりにどう向き合うか」について、親の会代表の 池田へのインタビュー記事が掲載された。
紹介記事の反響	・8月16日への講演会についての問い合わせ、個別相談予約が2週間で20件以上に上った。 ・講演会前の個別相談会には、定員6名を超える、14名が集まった。 ・山梨日日新聞が、この講演会を皮切りに、ひきこもりを題材にした 「扉の向こうへ」の連載を開始した。当事者の声を集めた第一部は、9月22日から9回に渡って一面で連載された。
アンケートから見え た良かったこと	・同じ問題で悩みを抱えている方が沢山いることを知りました。 ・親の態度の取り方が学べた。 ・ピアカウンセリングをやっています。参考にしたいと思います。 ・発達障害の親の会に参加しているが、その会で、役に立ちそうな内容が 多々ありました。ASD の会とつながりをも持っていければ良いと思いました。 ・会話について、それぞれが声を出して取り組んだところがよかった。
学習会・ アンケートから見え た課題など	・「居場所」といった交流の場所がないこと、話せる場所がないこと。 ・精神(統失)、発達もあると、ハローワーク、サポステも困り顔、たらい 回し。 ・通信制の大学を出た後、(学校という既存のレールを少しでもはみ出ると) 社会的に適応するのが困難に感じる。継続的に就労できない。古い男尊女卑 や地域社会に溶け込めない。 ・親子関係の確執、会話がないのでコミュニケーションが取れなくて悩んで いる。
今後の取り組み	・郡内地区の全般に言えることですが、地域性(外間を気にする)のため、 相談に来所される方が少なく、状況把握が出来ないという声があった。 今回のように NPO の形式から顕在化し連携することで、潜在的に孤立する 家族の拠り所(繋がる場所)を提供していく。そのための家族会運営の 充実に繋げていく。

講演会

ひきこもりからの回復

近年、若者のひきこもりやニートなど、青少年を取りまく諸問題はますます深刻化してきています。 様々な生きづらさを抱え、うまく社会とつながることのできない若者へどのようなサポートが必要か、 若者が社会的に孤立してしまわないために必要な支援を考える講演会を開催します。

日時

平成26年**8月16日**(土)

参加無料

13:30~16:30 (受付13:00~)

※12:00~ 個別相談(御一人30分ずつ6名様まで)

場所

山梨県立図書館 イベントスペース (山梨県甲府市北口 2-8-1)

内容

13:30~ 「ひきこもりを元気にする親の対応」 池田佳世

14:30~ 「ひきこもり大学」当事者の事例 池上正樹

15:30~ グループ相談会

16:30~ 「ひきこもり家族会の必要性」

16:45 終了

講師

ジャーナリスト 池上正樹 氏 (ひきこもり大学 当事者交流会主催) 臨床心理士 池田佳世 氏 (NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会)

豊かな自然のなかで、不登校やひきこもり、二一ト等の若者及び家族を対象に、相談はもちろん、居場所や生活・労働体験の機会を提供 し、社会復帰、自立を支援する活動を行っています。

受講 対象者 ひきこもりでお悩みのご家族、ご本人、 支援関係者、その他関心のある方



[主催] NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-4-4 TEL: 03-5944-5250 FAX: 03-5944-5290

—— 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 —

家族会発足のための活動 (山梨・学習会)

開催日・開催タイトル	2014年9月23日(火) KHJ 山梨県「桃の会」 第一回月例会(山梨学習会)
実施(連携)団体名	NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) 本部
会場	山梨県立図書館 交流スペース 102 号室
参加人数	計 51 名(当事者家族、当事者など)
973H7C9X	・8月16日の参加者に郵送にて告知(約80名)
広報	・山梨日日新聞にて、8月16日の講演の反響を新聞紙面で掲載し、広報。
実施内容	【13:30~15:00】ひきこもり回復のための学習会講師:池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) テーマ「日常会話と治療会話~快話と不快話~」家の中の環境を整えるために、"わかってもらえた"と感じる治療会話(快話)と、"わかってもらえない"と感じる普通会話(不快話)の違いについて具体例を交えながら学んだ。親の価値観を押し付けず、子どもの価値観を尊重しあるがままの姿を受け入れることによって、安心感の持てる環境を作っていく。そのためにも今後の活動を通して親自身が学び気づき、変わっていく必要性がある。 【グループトーク 15:30~17:00】 10人程度のグループに分かれ自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。同じ悩みを抱える親同士で共感できることも多く、またひきこもり当事者もグループに参加し、親からの質問に対し、ひきこもっている間の気持ち、ひきこもりから出ようと思うきっかけ等を話した。
実施成果 決定事項	・山梨「桃の会」の第一回運営会議が持たれ、運営委員が整った。 会長(親1名)、副会長(当事者2名)、会計、会報が決定した。 ・来月の月例会の日程が10月12日に決定し、「当事者のための居場所」 を定期的にスタートすることが決まった。
開催に関連する 新聞記事と反響	・山梨日日新聞の「扉のむこう」で、ひきこもりに悩む当事者、家族、 支援の情報が一面で連載され始め、初めての方の問い合わせ(電話・ メール)が増加した(1 週間で約 10 件)。
アンケートから見え た良かったところ	・今まで(山梨では)相談する場所が見つからなかったので、行き詰まっていたが、この会に参加して気分が少し明るくなった。 ・親御さんの気持ちに触れられたことがよかった。 ・役立つ情報が得られた。 ・講演会の後のグループトークで、他の参加者との交流・情報交換が図れて良かった。
学習会・アンケート から見えた課題など	・今まで若者サポートステーションに本人、親とも関わっていましたが、 就職に結びつかない若者は支援できないと言われて相談する場所が見つ からないです。 ・同じような状況の方のご意見やアドバイスを頂きたい。 ・良い変化へのきっかけを見つけたい。当事者の対応方法を知りたい。 病気なのかやる気がないのか、何かのトラウマを引きずっているのか。 ・だいぶ元気になって来ましたが、どんな言葉で世に送り出したらよいか ・お酒をたくさん飲む。 ・家庭で生活する上では特に問題はないが、このまま世間に出られないことは心配が多い。 ・子供がひきこもっているため、外出も思うようにできない。 ・娘が病院、相談所に行かないので、どうしたらいいか。力づくで 行かせるか。

	・支援をスタートしたが、途中で連絡が取れなくなったケースが数件発生
	した。⇒地道に電話・手紙を送付し、反応を待つこととした。(この場合)
	は期間が読めないことが困難)
支援者の課題	・4月から今の仕事に就きました。現在、何人も、不登校のケースを抱え
人版石 V IK 医	ていますが、なかなか、どの様に関わっていくか悩んでいます。親の方も
	様々で、本気でどうにかしたいと思う方と、そうでない方もいて、支援の
	仕方を悩みます。
	①現在の利用者と OB が交流するイベントの開催
	②60 日間の仲間づくり、コミュニケーション力向上の集中訓練プログラム
今後の改善案 (挑戦)	③ ①②の広報を9月~10月に行っている。
	・訪問をして話を聞いて来ましたが、今は本人から拒否され、間をあけて
	いるところ(本人 40 代)。・居場所を作ってあげたい。

山梨県桃の会働



○○○KHJ山梨支部 桃の会発足○○○

去る8月16日(土)、山梨県立図書館にて、「ひきこもりからの回復」と題し、ひきこもりについて考える講演会が開催されました。当日は90名を超える参加者があり、ジャーナリストの池上正樹氏と、全国ひきこもりKHJ親の会代表の池田佳世氏の講演につづき、グループ相談会がおこなわれ、KHJの新しい支部として「山梨県桃の会」が発足しました。今月は、「山梨県桃の会」の発足記念となる第一回目の月例会をおこないます。

~~~ 山梨県「桃の会」第一回月例会 ~~~

日時 2014年 9月 23日 火曜日(祝日)

13:30 ~ 16:30 (※運営会議は10:30開始)

場所 山梨県立図書館 交流スペース 102 号室 (山梨県甲府市北口 2・8・1)

講師 池田佳世「日常会話と治療会話~快話と不快話~」

NPO 法人全国ひきこもり KHJ 親の会(家族会連合会)代表理事。臨床心理士。 東京都スクールカウンセラーを経て、一般社団法人 SCS カウンセリング研究所設立、代表理事。 引きこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続。 著書『困った子ほどすばら しい』、『新困った子ほどすばらしい』。 ハート出版。

【家族会の運営会議にご参加ください】

10:30~12:00 まで、交流スペース 102 で、運営会議を行います。

各地の「親の会」は、親御さん自身の手で、力を合わせながら継続されています。一緒に作り上げていきましょう。一人でも多くの方のご参加をお待ちしています。

【当事者の会 第一回目を開催します】

9月19日(金) 14時~17時 山梨県立図書館 交流ルーム 202

気軽に遊びにきてくださいね。

【問い合わせ】

NPO 法人 全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) 本部事務局 E-mail: info@khj-h.com 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-4-4 TEL: 03-5944-5250 FAX: 03-5944-5290

---独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業---

島根・家族の集い講演会

開催日・開催タイトル	2014年 9月 13日(土) 島根県「家族の集い」講演会
実施(連携)団体名	NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部
会場	島根県民会館 303 号室
参加人数	約40名(当事者及び家族、行政関係者、民生委員など)
	山陰中央新報(9月6日)の紙面にて広報
広報	ダイヤモンドオンライン「引きこもり」するオトナたち(池上正樹氏
	コラム)にて告知。
	13:00 開場
	13:30 報告「全国のひきこもり当事者の現状」
	~ジャーナリスト 池上正樹
	14:00 講演「ひきこもりを元気にする親の対応」
	〜全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)
	代表理事 池田佳世(臨床心理士) 《14:40~14:50 休憩》
	14:50 グループ相談・当事者交流会
	14:30 9ルーラ相談・当事有交流会 15:30 親の会設立 16:30 終了
	【前半 池上正樹氏(フリージャーナリスト)
	17年前からひきこもり問題を取材してきた池上氏が、市内の50代の男性
	から助けを求めるメールを受け、男性のひっ迫した状況からメール相談を
実施内容	続けた。現在まで多くの当事者の思いを発信。ひきこもり者は、セーフテ
(次ページへ続く)	ィネットの狭間、社会保障制度の谷間にいる人たち。選択肢のない中、誰
	にも相談できず、本人も家族も孤立し追いつめられていく現状を話した。
	当事者が講師になって体験談を語る「ひきこもり大学」や「フューチャー
	セッション・庵‐IORI‐」、シェアハウスなど自身が関わる東京都内の取
	り組みを紹介した
	【後半 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士)
	ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続。回復
	の各段階について説明し、「親は、子の快復段階を少しずつ上げていく」
	責任者であること、ひきこもりの回復に親が関わることの重要性について
	呼びかけた。また、親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるか について伝えた。
	【グループトーク・質問会 16:00~17:00】
	親のグループ、当事者のグループに分かれて話し合いがもたれた。
実施成果	・参加者の有志2人を中心に「島根家族会」を結成し、定期的にひきこも
決定事項	りについて、家族が語り合う場が設けられた。
開催の新聞記事	山陰中央新報(9月6日)に告知記事掲載。
アンケートから	・当事者の話しを聞けて良かった。
見えた良かったこと	・家庭が安心できる場所になることが大切だと改めて気づいた。
Jarcic XIV Jice C	・本人の話し・思いが聞けないので困っている。
学習会・アンケート	・いつまで保護者としての役割を果たしていけるか不安。
から見えた課題など	・今回は別々に話し合いが出来たり、話しを聞いたり出来て良かった。
	帰って話しかけてみたいと思った。
	・コミュニケーションの取り方で違うということ。それを学ばなくては
今後の取り組み	いけないと思いました。
ブ仮の取り組み	・家庭の色々ないい事をしている。例えば食事は一緒にするようにして
	いる。なるべくほめるようにしている。

家族会発足のための活動 (鳥取・発足講演会)

が元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力なら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらった。 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。	пп /ш → пп /ш >. > >	
会場		
参加人数 約35名(当事者及び家族、行政関係者、民生委員など) 山陰中央新報(9月6日)の紙面にて広報 ダイヤモンドオンライン「引きこもり」するオトナたち(池上正樹氏コラム)にて告知。 11:00~12:00 個別相談会 13:00 開場 13:30 報告「全国のひきこもり当事者の現状」 ~ジャーナリスト 池上正樹 14:00 講演「ひきこもりを正気にする親の対応」 ~全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)代表理事 池田佳世(臨床心理士) 《14:40~14:50 休憩》 14:50 グルーブ相談・当事者交流会 15:30 親の会設立 16:30 終了 【前半 13:30~14:30】池上正樹氏(フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっているこ。や、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急げで「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要が急がで「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要が表述についてこまり、第2た。毎日の声掛けや暴力がたっなることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら返ばることの大切さ、自分たちの失政体験を話すなど、家族のあるべきが定について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらかた。 実施成果 決定事項 開催に関連する 新聞記事		
広報		
広報 ダイヤモンドオンライン「引きこもり」するオトナたち(池上正樹氏 コラム)にて告知。 11:00~12:00	参加人数	
コラム)にて告知。 11:00~12:00 個別相談会 13:00 開場 13:30 報告「全国のひきこもり当事者の現状」	ale to	, territorial and the second and the
11:00~12:00 個別相談会 13:00	ム報	
13:00 開場 13:30 報告「全国のひきこもり当事者の現状」		
13:30 報告「全国のひきこもり当事者の現状」		
14:00 講演「ひきこもりを元気にする親の対応」		
ペ全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会) 代表理事 池田佳世(臨床心理士) 《14:40~14:50 休憩》 14:50 グループ相談・当事者交流会 15:30 親の会設立 16:30 終了 【前半 13:30~14:30】池上正樹氏 (フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの言事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 強調した。 【後半 14:45~16:00】池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがっか元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。 実施成果 決定事項 10月12日(1)10時半~16時 同会場 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
代表理事 池田佳世 (臨床心理士) 《14:40~14:50 休憩≫ 14:50 グループ相談・当事者交流会 15:30 親の会設立 16:30 終了 【前半 13:30~14:30】池上正樹氏 (フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの当事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」を強調した。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世 (全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがが元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 1 0 月 1 2 日 (日) 10 時半~16 時 同会場 開催に関連する 新聞記事 (9 月 15 日)、山陰中央新報 (9 月 22 日) に発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞 (11 月 7 日) に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
(※14:40~14:50 休憩≫ 14:50 / グルーブ相談・当事者交流会 15:30 規の会設立 16:30 親の会設立 16:30 終了 【前半 13:30~14:30】池上正樹氏 (フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの当事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 1当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 1当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 1当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 1当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 1当を主もりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがが元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分からでった。 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報 (9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞 (11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
14:50		
15:30 親の会設立 16:30 終了 16:30 終了 16:30 終了 【前半 13:30~14:30】池上正樹氏 (フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの言事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」を強調した。 【後半 14:45~16:00】池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士)ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わが一が元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力があるべきがいことでいて紹介した。「グループトーク・質問会 16:00~17:00】グループトーク・質問会 16:00~17:00】グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。 実施成果		=
16:30 終了		
【前半 13:30~14:30】池上正樹氏 (フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの意事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」では、また。		*
実施内容 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 強調した。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがが元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらった。 実施成果 決定事項 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 1 0月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		10.00
実施内容 1 7年前からひきこもり問題を取材し池上氏は、現在まで届いた多くの事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 強調した。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがが元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらった。 実施成果 決定事項 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 1 0月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		【前半 13:30~14:30】池上正樹氏 (フリージャーナリスト)
事者の思いを届けた。引きこもりの世代が高年齢層にも広がっていることや、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」。強調した。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがっが元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらった。 ・ 漁取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・ 次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 1 0月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。	実施内容	
や、親の年金に頼る生活で困窮化している傾向を指摘。支援の必要が急利で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」。強調した。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがった。 (現立 を	JC/2E1 3-E	
で「当事者のペースに配慮し、本人の望む設計をしていくことが必要」で 強調した。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがっ が元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちてった。 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
 強調した。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがった気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらった。 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。10月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報 (9月22日)に発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞 (11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。 		
【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わが一が元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。 実施成果 決定事項 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 ・発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わがった気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力がら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。		
が元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力なら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらった。 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
ら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちらった。 実施成果 決定事項 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		ひきこもりを元気にする親の対応について。「親が勉強して導く。わが子
対応について紹介した。 【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かちてった。 実施成果 決定事項 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		が元気になることを他人に任せないで」と訴えた。毎日の声掛けや暴力か
ばループトーク・質問会 16:00~17:00】グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。実施成果 決定事項・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。 ・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場開催に関連する 新聞記事日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報 (9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		ら逃げることの大切さ、自分たちの失敗体験を話すなど、家族のあるべき
グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。 実施成果 決定事項 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。 ・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		対応について紹介した。
実施成果 決定事項 ・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。 ・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報 (9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		【グループトーク・質問会 16:00~17:00】
実施成果 決定事項・鳥取県では初の家族会が誕生。名前は「鳥取らくだ会」と決定した。 ・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場開催に関連する 新聞記事日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報 (9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合
美施成果 決定事項・次回の「鳥取らくだ会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場開催に関連する 新聞記事日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
決定事項 ・次回の「鳥取らくた会」の開催日が決定。 10月12日(日)10時半~16時 同会場 開催に関連する 新聞記事 日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報 (9月22日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。	宝施成里	**************************************
T 0 月 1 2 日 (日) 10 時半~16 時 同芸場 日本海新聞 (9 月 15 日)、山陰中央新報(9 月 22 日)に 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11 月 7 日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
新聞記事 発足講演会の取材記事が掲載された。 朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。		
朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。	開催に関連する	日本海新聞 (9月15日)、山陰中央新報(9月22日)に
	新聞記事	発足講演会の取材記事が掲載された。
		朝日新聞(11月7日)に、鳥取らくだ会結成後の会長の声が取材された。
	切か記車の豆郷	「家族は本人が動き出したくなった時に手助けになる情報を集めておく
必要がある。会では参加者がくつろける雰囲気をつくり、互いに話す中	和川 礼事V/八人音	必要がある。会では参加者がくつろげる雰囲気をつくり、互いに話す中で
(引きこもりから抜け出す) ヒントを出し合えたらいい」		
・当事者と交流を持ち話すことができたのが良かった。		
アンケートから見え・子供との関わり方が少しわかった。	アンケートから見え	
	た良かったこと	・フューチャーセッションが当事者の心を開く事が出来るようなので、ワ
ークショップ形式は得ろ事があろのかたと感じた		ークショップ形式は得る事があるのかなと感じた。

学習会・アンケートから見えた課題など	・これまで相談する人がいなかったので、交流を通して学びたい。 ・安定した収入がないこと ・家族、知人の心配が重荷になる ・生活のメリハリがつかない(ダラダラしてしまう) ・この生活がいつまで続くというよりは、いつになったら自分で自立出来 るだろうか?この先に不安があります。 ・茶碗を30分以上洗っています。家族の私達と話しをしません。 ・ひきこもりを社会から隠そうとする点 ・個性とか、生き方の選択肢が広がり、行政、家族、地域の支援が遅れて しまっているのが原因の一つではないか ・人権とか差別について一般市民の方の関心が薄く、平気で相手を痛めつ けていても感じない人が多いという事です。 ・家族が動かない。どこから接近したらいいか。
今後の取り組み	・フューチャーセッションが当事者などの心を開く事が出来るようなので、ワークショップ形式は得る事があるのかなと感じた。でもファシリテーターのスキルが問われるのではないのかなと感じた。 ・ひきこもり・発達障害の早い段階での関わり開始を長い間フォローできる流れが大切と考える。家族・親の支援も大切と考えるので。・何ができるかわかりませんが、長く関わっていきたいと思っています。共に学ばせて下さい。

家族会発足のための活動 (青森・発足講演会)

	少亿约约旧势(日林)记代时段四)
開催日・開催タイトル	2014/10/25 (土) 青森県家族会発足講演会
実施(連携)団体名	NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部
会場	沖舘市民センター 2 階 中会議室
参加人数	約 70 名(当事者及び家族、行政関係者、支援関係機関など)
広報	陸奥新報(10月3日)の一面にて告知記事掲載 東奥日報(10月18日)の紙面にて告知記事掲載
	13:30~ご挨拶フリースクール青い森下山洋雄13:40~「ひきこもりの現状」池上正樹14:30~「ひきこもりを元気にする親の対応」池田佳世15:40~グループ相談会・当事者の交流会16:40~親の会立ち上げ17:40閉会
実施内容	【池上正樹氏(フリージャーナリスト)】 17年前からひきこもり問題を取材し、多くの当事者の思いを発信している池上正樹氏から、高年齢化する現状や社会とつながりを持とうとする当事者の様子を紹介し、「当事者目線の支援が必要」と話した。
	【池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士】 ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続。 回復の各段階について説明し、「親がまず勉強して、家庭を治療の場にしてほしい」。親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるかについて伝えた。
	【グループ相談会・質問会・親の会立ち上げ】 8人程度のグループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。また、家族会発足に当たり、今後の運営内容についての話し合いが持たれた。
実施成果 決定事項	・青森県では KHJ アップルの会に次いで2番目、青森市では初の家族会が誕生した。 名前は「青森さくらの会」と決定した。主に津軽地方に住む家族を支えていく。
開催に関連する 新聞記事	東奥日報(10月18日)の紙面にて発足講演会の記事掲載
紹介記事の反響	講演会への問い合わせが十数件あり、青森市外からの問い合わせも多く、 個別相談に繋がった。その後の会の動きを、陸奥新報が一面で「明日へ」 と題して、ひきこもり親の会の記事を掲載した(12月6日、7日紙面)
アンケートから見え た良かったこと	・ほめる事の大切さを知りました!考え方が全てプラス思考でホッとした講演でした。 ・池田佳世さんのご講演は有意義だった。 ・親の当事者への対応の仕方等について具体的で参考になった。 ・池上さんのご著書から(文字から)得られた知識以上に実感をもって、身に染みて実態が伝わって来ました。 ・ひきこもりの就労支援を始めるため、支援する者としてもっと勉強したい
学習会・アンケート から見えた課題など	・息子を社会復帰させる参考にしたい。 ・孤立しないで欲しいし、朝起きて学校へ行きご飯を美味しく食べて欲し い

支援者の課題	・働きたくてもなかなか外に出るのが恐くて働けない。意欲はあるが。 ・親も高齢(75歳)になったのでまだ元気なうちに回復させたいと焦る。) ・来談される方と十分な関係を築けないままに相談が中断することが多 々あり、ご本人との関係まで届かないことが多い。
今後の取り組み	・ほめる事の大切さを知りました!考え方が全てプラス思考でホッとした 講演でした。 ・県として、支援機関のネットワークや相談窓口を作っている。 ・ご家族、特に親の方との関係づくりの中で、ご家族内の関係が「よくな る」ことを目指したいと思っています。

講演会

ひきこもりからの回復

近年、若者のひきこもりやニートなど、青少年を取りまく諸問題はますます深刻化してきています。 様々な生きづらさを抱え、うまく社会とつながることのできない若者へどのようなサポートが必要か、 若者が社会的に孤立してしまわないために必要な支援を考える講演会を開催します。

日時

平成26年10月25日(土)

参加無料

13:30~16:30 (受付13:00~)

場所

沖舘市民センター (青森県青森市沖館 1-1-11)

13:30~ ご挨拶 フリースクール青い森 下山洋雄

13:40~ 「ひきこもりの現状」 池上正樹

14:30~ 「ひきこもりを元気にする親の対応」 池田佳世

15:40~ グループ相談会・当事者の交流会

16:40~ 親の会立ち上げ

17:40 閉会

講師

ジャーナリスト 池上正樹 氏 (ひきこもり大学 当事者交流会主催) 臨床心理士 池田佳世 氏 (NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会代表)

豊かな自然のなかで、不登校やひきこもり、二一ト等の若者及び家族を対象に、相談はもちろん、居場所や生活・労働体験の機会を提供 し、社会復帰、自立を支援する活動を行っています。

受講 対象者 ひきこもりでお悩みのご家族、ご本人、 支援関係者、その他関心のある方

[主催] NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-4-4 TEL: 03-5944-5250 FAX: 03-5944-5290

—— 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 ——

家族会発足のための活動(岐阜・発足講演会)

開催タイトル 大田 12月7日 1日 1日 1日 1日 1日 1日 1日	74 / 10 / L			
実施 (連携) 団体名				
会場		NPO 法人名古屋オレンジの会、NPO 法人東海なでしこの会		
 		ハートフルスクエア G (生涯学習センター研究室 50)		
広報 配布先:精神保健福祉センター、市町の保健師、岐阜県社会福祉協議会、就労移行支援事業所、NPO支援団体 下記の2本立てによる講演が行われた。 【前半 13:15~14:30】 池上正樹氏(フリージャーナリスト) 1 7年前からひきこもり問題を取材し、多くの当事者の思いを発信している池上正樹氏から、「ひきこもり当事者たちの思い」が語られた。ひきこもり者は、セーフティネットの狭間、社会保障制度の谷間にいる人たちである。選択肢のない中、誰にも相談できず、本人も家族も孤立し追いつめられていく。そんな中、ネットを介して、池上氏に相談を寄せる人たちが増え、当事者の思いから当事者の希望に合った企画も動き出している。当事者が講師になる「ひきこもり大学」や「フューチャーセッション・庵・IORI・」などである。当事者たちが自分の経験をどう生かしていくか、その手段を提示する大切さを伝えた。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士】ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続。回復の各段階について説明し、「親は、子の快復段階を少しずつ上げていく」責任者であること、ひきこもりの回復に親が関わることの重要性について呼びかけた。また、親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるかについて伝えた。 【グループトーク 16:00~17:00】6~7人程度のグループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。また、「鵜の会」発足に当たり、今後の運営内容についての話し合いが持たれた。	参加人数	11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11 11		
【前半 13:15~14:30】池上正樹氏(フリージャーナリスト) 17年前からひきこもり問題を取材し、多くの当事者の思いを発信している池上正樹氏から、「ひきこもり当事者たちの思い」が語られた。ひきこもり者は、セーフティネットの狭間、社会保障制度の谷間にいる人たちである。選択肢のない中、誰にも相談できず、本人も家族も孤立し追いつめられていく。そんな中、ネットを介して、池上氏に相談を寄せる人たちが増え、当事者の思いから当事者の希望に合った企画も動き出している。当事者が講師になる「ひきこもり大学」や「フューチャーセッション・庵・IORI・」などである。当事者たちが自分の経験をどう生かしていくか、その手段を提示する大切さを伝えた。 【後半 14:45~16:00】 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士】ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続。回復の各段階について説明し、「親は、子の快復段階を少しずつ上げていく」責任者であること、ひきこもりの回復に親が関わることの重要性について呼びかけた。また、親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるかについて伝えた。 【グループトーク 16:00~17:00】6~7人程度のグループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。また、「鵜の会」発足に当たり、今後の運営内容についての話し合いが持たれた。	広報	配布先:精神保健福祉センター、市町の保健師、岐阜県社会福祉協議会、		
参加した当事者家族・支援者に対し、家族会の岐阜県支部発足に伴い、ひきこもりの回復に親が関わることの重要性について呼びかけ	実施内容	下記の2本立てによる講演が行われた。 【前半 13:15~14:30】池上正樹氏(フリージャーナリスト) 17年前からひきこもり問題を取材し、多くの当事者の思いを発信している池上正樹氏から、「ひきこもり当事者たちの思い」が語られた。ひきこもり者は、セーフティネットの狭間、社会保障制度の谷間にいる人たちである。選択肢のない中、誰にも相談できず、本人も家族も孤立し追いつめられていく。そんな中、ネットを介して、池上氏に相談を寄せる人たちが増え、当事者の思いから当事者の希望に合った企画も動き出している。当事者が講師になる「ひきこもり大学」や「フューチャーセッション・庵‐IORI‐」などである。当事者たちが自分の経験をどう生かしていくか、その手段を提示する大切さを伝えた。 【後半 14:45~16:00】池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士】ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を25年継続。回復の各段階について説明し、「親は、子の快復段階を少しずつ上げていく」責任者であること、ひきこもりの回復に親が関わることの重要性について呼びかけた。また、親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるかについて伝えた。 【グループトーク 16:00~17:00】6~7人程度のグループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。また、「鵜の会」発足に当たり、今後の運営内容についての話し合いが持たれた。 参加した当事者家族・支援者に対し、家族会の岐阜県支部発足に伴い、ひきこもりの回復に親が関わ		

開催の模様 (写真)



ひきこもりの経験者や当事者 とのつながりから「本人のペ ースに配慮しながら本人の望 む支援を」と語るフリージャ ーナリストの池上正樹氏



 ・東海地方では、愛知県、静岡県に続いての支部発足。三重県にも家族会発足。 ・精神保健福祉センター、市町の保健師、岐阜県社会福祉協議会、東護事業所、NPO支援団体など、多様な関係諸機関からの出席を得・次回の家族会の開催日が決定 		
	2015年1月4日(日)13時~16時 同会場 当事者の体験発表「当事者会の発足に向けて」、家族の発表「家族として学 んだこと」	
開催に関連する 新聞記事	・中日新聞(2014年12月8日)にて、紹介記事が掲載 ・福祉新聞(2015年2月16日)に、「ひきこもり回復へ活動」と題して紹 介記事が掲載	
紹介記事の反響	・農業体験や木工体験の申し出があった。 ・東濃地方での家族会開催の要望が挙がった。	
アンケートから見え た良かったこと	・当事者の思いを聞いて、自分の息子の思いも考えさせられました。 ・日々の生活の中で親のとるべき態度として、いくつか参考になりました。 たとえば「ひとりごとを言う」等。 ・池田先生が話された第一段階での親の対応「ひと言、ひと言」が 参考になりました。今、聞きたい内容でした。 No.2 の一泊、小遣い等。 ・ひきこもり大学の存在を知ったこと、当事者が発言出来る場所、機会がある。 ・ひきこもりが社会的問題になっている事が少し、理解できた。 ・様々な活動が活発に行われていることを知れて、私も何かに参加してみたり、参考にして何か始めてみたいと思いました。 ・当事者とあまり接する機会はないのですが、どんな思いでいるのかを垣間見ることができた。	
学習会・アンケートから見えた課題など	・ベースに障害を持っていることもあるため、見極めが必要。 ・親自身も問題を抱えている場合の支援方法を知りたい。 ・当事者だけでなく、家族も孤立するため、情報が行き届かない。 ・息子への接し方。 ・1 岐阜ポポロ参加→映画(図書館)→チラシ(ハチドリ)→ 名古屋オレンジの会→本日 2カウンセリング(私)、社協とは関わりがあるが、ひきこもり本人と関わる人(団体)がないので、探している。 ・社会とのつながりを求めて(当事者)参加した。 親がいなくなった後のことが心配。 ・就職したいが、希望するところで採用がない。 ・人と関われないというが、どうしたら可能なのか助言も出来ないでいる。 ・長い間、風呂にも入っていない。 ・どのような声かけがよいか困っている。 ・ひきこもりの中に、何%かは、精神の病を持っている方がいる。 当家族会へのTEL 相談より。 ・息の長い支援が必要ですが、行政は転勤があったり、制約も多いと感じてしまいます。 ・ひきこもりの原因がわからない。又、病気であれば病院につなげるようにしたいのだが、素直に受診してくれない。 ・親へは会えるが、当事者に会えない。	
今後の取り組み	・ひきこもりの期間が長く、社会復帰がなかなか出来ない。何かきっかけをと考え、よい知恵があれば取り入れ、早く社会人として役立つ人となれるよう助言したい。 ・社協でひきこもり支援に取り組む全国事例を聞いています。岐阜県ではま	

今後の取り組み (つづき)

だ事例がありません。今回の動きを広報誌に取り上げ、各市町村の社協や民 生委員、福祉施設へ伝えたいと考えています。

- ・ぜひ (家族会の) ボランティアがやりたいです。
- ・自分の町の活動の参考に。今年度から家族の集いを始めました。2~3人+スタッフ3人。今年度は4回の予定。
- ・池田さんのお話しで「すぐ仕事に結びつけてしまう」という内容がありました。パーソナルサポートセンターや若者サポートステーションも、労働が関係しています。仕事に就く→収入が得られる→自立する、という考えがありますが、その前段階での支援が必要かと思います。
- ・「支援」というより面白いことをやりたい。
- ・ひきこもりの家族は、地域の民生委員情報をいただいて、保健師から手紙を出します。 (集いのチラシ OK)



家族会発足のための活動 (三重・発足講演会)

	,以心以以间朔(二至)心心阴识五/	
開催日・	2015年1月12日(月)	
開催タイトル	KHJ 三重発足講演会/ひきこもり家族会・発足講演会	
実施(連携)団体名	NPO 法人名古屋オレンジの会、NPO 法人東海なでしこの会	
会場	三重県教育文化会館 第5会議室	
参加人数	計55名(家族(父母/兄弟)ならびに関係者)	
	チラシ 400 部作成及び配布。	
広報	配布先:精神保健福祉センター、市町の保健師、ひきこもり支援センター	
	三重県社会福祉協議会、就労移行支援事業所、NPO 支援団体	
	【挨拶 13:00~】	
	三重県看護大准教授 船越明子さん「家族会の必要性について」	
	三重県引きこもり支援センター職員「三重県内の引きこもり支援の案内」	
	【前半:池上正樹氏(フリージャーナリスト)】	
	引きこもりの人は「空気を読んで周囲を気遣い、傷つきたくない、迷惑を	
	かけたくないと思って自己防衛の手段をとっている」。そのうえで、社会	
	保障制度などの安全網が当事者にかかっていない問題や、一度失敗すると	
	社会に戻れない風潮、引きこもりを個人の問題に帰結しがちな支援現場の 問題点を指摘。「家族は引きこもりの子どもを恥と捉える。誰にも相談で	
	「中國点で相隔。「家族は引きこもりの」ともを恥と捉える。誰にも相談と きず、最悪の場合は心中や殺傷事件に結びつく」と話した。「当事者が感	
	情を言葉にすることが大切。声を上げてもいい、助けを求めてもいい。安	
	心して言葉を発せられる場が必要だと思う」と伝えた。	
実施内容	【後半:池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士)】	
	ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続。引き	
	こもりの段階を、「誰にも会わない」から「アルバイトに行ける」まで5	
	段階に分けて説明。「親は、深刻に考えすぎず、子の快復段階を少しずつ	
	上げていく」責任者であること、ひきこもりの回復に親が関わることの重	
	要性について呼びかけた。また、親の態度の変化が子どもの変化にどのよ	
	うに繋がるかについて伝えた。	
	【グループトーク 15:45~16:40】	
	6~7人程度のグループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や	
	悩みを分ち合った。	
	【運営委員会 16:40~17:00】	
	家族会発足に当たり、今後の運営内容についての話し合いが持たれた。	
	(役割分担、次回の月例会の予定、その他)	
開催の模様 (写真)		
	津市の県教育文化会館で、引きこもりの取材を18年間続けているジャー	
	ナリストの池上正樹さんが講演、保護者ら約50人が耳を傾けた。	
	/ /	

実施成果 決定事項	・多様な関係諸機関、地域資源からの出席を得て、関係機関とのネットワークが構築された。 〈内訳〉 三重県立看護大学准教授(保健師/看護士/精神保健福祉師)同大学学生 サポートステーション三重、伊賀(社会福祉協議会)障害者包括支援センター職員(社会福祉協議会) 鈴鹿保健所(保健師)、三重県精神障害者家族会(三島会)・次回の家族会の開催日が決定2015年2月15日(日)13時~16時 同会場・学習会の翌日、新たに4家族から、ひきこもりに関する電話相談、問い合わせを受けた。 その他志摩市の支援関係機関から情報交換の申し出があった。	
開催に関連する 新聞記事	毎日・朝日新聞、中日新聞(1月13日)にて、紹介記事が掲載	
紹介記事の反響 (次ページへ続く)	・電話相談が1週間で7件入り、志摩市の支援活動家から、今後の情報 交換希望の問い合わせがあった。また、津市で活動する高齢の男性から、 応援の電話があった。 ・朝日新聞の取材が入り、2月15日開催の「みえオレンジの会」の月例会 について紹介記事が翌日2月16日に掲載された。	
アンケートから見え た良かったこと	・池田先生のお話しで、「子供の受け止め方」が勉強になった。 ・今までにない具体的な情報が得られてよかったです。新しい人に出会え てよかった。 ・引きこもり当事者の心の中を少し覗くことが出来た。 ・引っ込み思案だった私が、運営委員に手を挙げてしまいました。	
学習会・ アンケートから 見えた課題など	・長い間ひきこもっているので、周りの人にわからないように隠していたのが、これが悪かった。 ・新聞を見て参加。長い間ひきこもりをして友達だった人にも会う事をしないから。 ・引きこもって5年が経過。親だけでは何もできないという思い、焦り。・子供が外へ出るのが不便。三重交通バスのみ本数が少ない。免許を取らせてあげたいけど、焦っていてはダメですね。 ・心療内科の医師より「発達障害」があると言われました。 ・親とは殆ど話しをせず、父親(私)とは、まったく話しをしない。・親が外出する時は、何も(食事の支度)してくれないので用意しなくてはならないのでそれが苦痛。させようとしても拒否する。 ・風呂に入らない。会話がない。 ・子供がニート状態からどのように社会に出て行く手助けをしたらいいのか悩んでいる。 ・親が年をとってくるので、当事者の自立。	
今後の取り組み	・スキルアップ。情報の交換。 ・三重の「ひきこもり関連」の予算は(おそらく)全国最低額。ひきこも り支援が全く重視されない三重の現状を打破するのは、親の会の活動しか ないと思う。 ・情報の提供。特にホームページに力を入れています。	



ひきこもりの有効な支援策がみつからないまま、 若者の孤立化・長期化・高年齢化が進み、家族の孤立や高齢化もすすんでいます。 私たちKHJ銅の会は、全国で銅の会を組織し、若者の居場所運営、政策通言などを行っています。 まずは家族が集まり、つながる事で共に一歩を踏み出しましょう! 長年ひきこもりの問題を取材し、ひきこもり大学などの開催を通じ、 多くの経験者や当事者とのつながりを作っているフリージャーナリストの池上正樹氏から ひきこもりの現状についてご紹介し、続いてひきこもる若者や家族のカウンセリングを

東京・巣鴨で長年続けている朝の会代表の池田住世からその活動についてご紹介します。

「ひきこもりの現状」 瞬師:池上 正樹氏(ジャーナリスト) 日時

「ひきこもりを元気にする親の対応」 講師:池田 佳世氏 (KHJ東議会代表)



1/12(祝) 13:00~17:00

三重県教育文化会館 第5会議室

三重県津市桜橋2丁目142(駅前徒歩5,6分)

参加費 無料 (定員70人)

予約・問い合わせ 鈴木 090-6585-5770



PO他人全国引きこもりIOLA編の会(収集会集合会)代表 外の他人が認めまさらかの心臓がな(単純性質の物)代数 観察、痛ならぬさま。 意意様スタールのワンセラーを終て、一般知識性人が5の ワンセリンが研究事故と、代表の種を、対きてもりの問題と 関のない場所を、「関心学者は、また学者は、選手「関っ た子伝どすばらしい」、「新聞った子伝どすばらしい」。

全国引きこもりKHJ親の会 (家族会連合会)とは?

現在生きづらさも抱える引きこもりの数は、平成22年の内閣府議室によると70万人を超えています。これは社会的政策の現れでおり、当人や家族の危機でおると同時に、大きな社会問題でもおります。全部31きこもりKHJ線の会では、引きこもりで苦しんでいる子どもの一日も早い回復や社会参加のため、様々な活動を行っています

家族会発足のための活動(福井・発足講演会)

開催タイトル 福井県家族会発足講演会「ひきこもりからの回復」 実施(連携) 団体名 PO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部 フェニックスプラザ 映像ホール (120 名収容) ※告知チラシから会場変更 参加人数 約130 名 (当事者及び家族、親族、支援者・医療関係者・民生委員・ボランティアなど) 広報 福井新聞 (1月27日) の紙面にて広報 1 3時30分 開会宣言 支部発起人挨拶 … 日本心理学会認定心理士 ひきこもり支援相談士 近藤茂樹 来 賓 挨 拶 … 福井市議会議員 田中良乃 (よしのり) 先生 1 3時40分 講演1「ひきこもりの現状」 ジャーナリスト 池上正樹先生 1 4時40分 休憩 1 4時50分 講演2「ひきこもりを元気にする親の対応」 KHJ家族会代表 池田佳世先生 1 5時50分 グループワーク「自己紹介、結びつきのワーク」 1 6時20分 家族会の結成 名称、運営委員の人送出、次回の家族会の日程発表 1 6時30分 一般の講演会終了 運営委員の人選出、次回の家族会の日程発表 1 6時30分 一般の講演会終了 運営委員のの財際について				
実施(連携) 団体名 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部 フェニックスプラザ 映像ホール (120 名収容) ※告知チラシから会場変更 約 130 名 (当事者及び家族、親族、支援者・医療関係者・民生委員・ボランティアなど) 広報 福井新聞 (1月27日) の紙面にて広報 1 3時30分 開会宣言 支部発起人挨拶 ・・・ 日本心理学会認定心理士 ひきこもり支援相談士 近藤茂樹来 賓 挨 拶 ・・・ 福井市議会議員 田中良乃(よしのり)先生 1 3時40分 講演1「ひきこもりの現状」ジャーナリスト 池上正樹先生 1 4時40分 休憩 1 4時50分	開催日・	2014年2月11日(日)		
実施(連携) 団体名 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部 フェニックスプラザ 映像ホール (120 名収容) ※告知チラシから会場変更 約130名 (当事者及び家族、親族、支援者・医療関係者・民生委員・ボランティアなど) 広報 福井新聞 (1月27日) の紙面にて広報 1 3時30分 開会宣言 支部発起人挨拶 … 日本心理学会認定心理士 ひきこもり支援相談士 近藤茂樹来 賓 挨 拶 … 福井市議会議員 田中良乃(よしのり)先生 1 3時40分 講演1「ひきこもりの現状」ジャーナリスト 池上正樹先生 1 4時40分 休憩 1 4時50分 講演2「ひきこもりを元気にする親の対応」 KHJ家族会代表 池田佳世先生 1 5時50分 グループワーク「自己紹介、結びつきのワーク」 1 6時20分 家族会の結成 名称、運営委員の選出、次回の家族会の日程発表 1 6時30分 一般の講演会終了 運営委員の人だけ残って、第1回運営委員会の	開催タイトル	福井県家族会発足講演会「ひきこもりからの回復」		
フェニックスプラザ 映像ホール (120名収容) ※告知チラシから会場変更				
*** *** *** *** *** *** *** *** *** **	大地 (建功) 固件石			
参加人数 約130名(当事者及び家族、親族、支援者・医療関係者・民生委員・ボランティアなど) 広報 福井新聞(1月27日)の紙面にて広報 1 3時30分 開会宣言 支部発起人挨拶 … 日本心理学会認定心理士 ひきこもり支援相談士 近藤茂樹 来 賓 挨 拶 … 福井市議会議員 田中良乃(よしのり)先生 1 3時40分 講演1「ひきこもりの現状」 ジャーナリスト 池上正樹先生 1 4時40分 休憩 1 4時50分 講演2「ひきこもりを元気にする親の対応」 KHJ家族会代表 池田佳世先生 1 5時50分 グループワーク「自己紹介、結びつきのワーク」 1 6時20分 家族会の結成 名称、運営委員の選出、次回の家族会の日程発表 1 6時30分 一般の講演会終了 運営委員の人だけ残って、第1回運営委員会の	会場	The state of the s		
広報 ボランティアなど				
広報 福井新聞 (1月27日) の紙面にて広報 1 3時30分 開会宣言 支部発起人挨拶 … 日本心理学会認定心理士 ひきこもり支援相談士 近藤茂樹 来 賓 挨 拶 … 福井市議会議員 田中良乃(よしのり) 先生 1 3時40分 講演1「ひきこもりの現状」 ジャーナリスト 池上正樹先生 1 4時40分 休憩 1 4時50分 講演2「ひきこもりを元気にする親の対応」 KH J 家族会代表 池田佳世先生 1 5時50分 グループワーク「自己紹介、結びつきのワーク」 1 6時20分 家族会の結成 名称、運営委員の選出、次回の家族会の日程発表 1 6時30分 一般の講演会終了 運営委員の人だけ残って、第1回運営委員会の	参加人数			
1 3 時 3 0 分 開会宣言 支部発起人挨拶 … 日本心理学会認定心理士				
支部発起人挨拶 … 日本心理学会認定心理士 ひきこもり支援相談士 近藤茂樹 来 賓 挨 拶 … 福井市議会議員 田中良乃(よしのり)先生 1 3 時 4 0 分 講演 1 「ひきこもりの現状」 ジャーナリスト 池上正樹先生 1 4 時 4 0 分 休憩 1 4 時 5 0 分 講演 2 「ひきこもりを元気にする親の対応」 KH J 家族会代表 池田佳世先生 1 5 時 5 0 分 グループワーク「自己紹介、結びつきのワーク」 1 6 時 2 0 分 家族会の結成 名称、運営委員の選出、次回の家族会の日程発表 1 6 時 3 0 分 一般の講演会終了 運営委員の人だけ残って、第 1 回運営委員会の	広報	福井新聞(1月27日)の紙面にて広報		
17時00分 終了 「ひきこもりの現状」 池上正樹氏 (フリージャーナリスト) 17年前からひきこもり問題を取材し、多くの当事者の思いを発信している池上正樹氏から、「ひきこもり当事者たちの思い」が語られた。 「周囲を気遣う優しい人が引きこもりになりやすい。引きこもりは誰にても起こりうる」。ひきこもり者は、セーフティネットの狭間、社会保障制度の谷間にいる人たちである。選択肢のない中、誰にも相談できず、本人	実施内容	13時30分 開会宣言 支部発起人挨拶 … 日本心理学会認定心理士		

	「ひきこもりを元気にする親の対応」池田佳世 (全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士) ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続。親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるかについて伝えた。「子どもの話しを否定せず受け入れることが大切。みなさんがお互いに助け合って、当事者や家族が孤立しないようにしてほしい」と話した。	
実施成果 決定事項	・福井県では初の家族会が誕生した。 名前は「KHJ福井県すいせんの会」と決定した。 ・次回の家族会は、3月29日に決定した。	
開催に関連する 新聞記事	毎日新聞(2月12日)、福井新聞(2月12日)に発足講演会の取材記事が掲載された。	
紹介記事の反響	・講演会には、予想を超える 130 名の来場があった。 ・講演会の模様が当日夕方の NHK で報道された。 ・ご家族からの相談、問い合わせが、相次いだ。	
アンケートから見え た良かったこと	 ・池上正樹先生のお話しが具体的で良かった。ひきこもりの実態の一部がわかった。 ・サポーターになりたい。スキルアップの道が開けたようです。 ・池田さんの話しはすごく良かった。 ・光が見えた。 	
学習会・アンケートから見えた課題など	・ひきこもりが県内5~6000人というが、もっと多いのではないか。今日出席者の多さにそれを実感した。 ・孫の為、何か出来る事はないか。今迄相談する所がなかった。 ・息子50歳、母73歳。私自身も体に問題を持っている。私自身を支えて欲しい。 ・一歩を踏み出すきっかけをどうしたらつかんでくれるか。 ・大切な青春時代が、かわいそうでならない。もったない、人生が。 ・運動不足が心配。 ・特になし。にこにこしているけど外出しない。 ・時々、暴力が出る。普通にならないとしたらどうしたらよいか。 ・親へのアプローチ。本人とのコミュニケーション (会話がとれない)	
今後の取り組み	 ・サポーターになりたい。スキルアップの道が開けたようです。 ・出来れば会に参加して勉強して行ければと思っています。 ・つながろう会より。スキルアップになれば。 ・コミュニティカフェを作りたい。 ・誰が、何をどうしていいか、これからなので、困難さはまだわかっていないと感じた。 ・今日のお話しを聞いて、安易に支援という言葉が使えない気がしました。 	

福井県 ひきこもり家族会 発足講演会

ひきこもりからの回復

近年、若者のひきこもりやニートなど、青少年を取りまく諸問題はますます深刻化してきています。 様々な生きづらさを抱え、うまく社会とつながることのできない若者へどのようなサポートが必要か、 若者が社会的に孤立してしまわないために必要な支援を考える講演会を開催します。

日 時

平成27年**2月11日**(水·祝)

参加無料 予約不要

13:30~16:30 (受付13:00~)

場所

フェニックスプラザ 402 号室

(福井県福井市田原1丁目13番6号)

「ひきこもりの現状」

講師:池上正樹氏(ジャーナリスト)

1962 年生まれ。大学卒業後、通信社などの勤務を経て、フリーのジャーナリストに。1997 年から「ひきこもり」当事者の取材を続け、ダイヤモンド社の「ダイヤモンド・オンライン」で、『「引きこもり」するオトナたち』を5年以上にわたって連載中。主な著作に『ドキュメントひきこもり』「ダメダメな人生を変えたいM君と生活保護』、最新刊に『大人のひきこもり~本当は「外に出る理由」を探している人たち~』(講談社現代新書)など。

「ひきこもりを元気にする親の対応」

講師:池田佳世氏(KHJ家族会代表)

NPO 法人全国ひきこもり KHJ 親の会 (家族会連合会) 代表理事。臨床心理士。東京都スクールカウンセラーを経て、一般社団法人東京都団体 SCS カウンセリング研究所設立、代表理事。引きこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続し、効果を上げている。著書『困った子ほどすばらしい』、『新困った子ほどすばらしい』、の一ト出版。

全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)では、全国で家族会を組織し、 親の学習会、若者の居場所、行政への政策提言などを行っています。まず は家族が集まり、つながる事で共に一歩を踏み出しましょう。ご家族、当 事者、ひきこもり問題に関心のある方、是非お越しください。

[主催] NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) [お問合せ] 本部事務局 03-5944-5250 または 090-9442-5859 (近藤)

—— 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 ——

家族会発足のための活動(熊本・発足講演会)

	ツルツツ川野 (流牛)10年明界五/
開催日・開催タイトル	2014年2月28日(土) 熊本県家族会発足講演会
実施(連携)団体名	NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部
会場	熊本市国際交流会館 交流会館 5階 大広間 A
参加人数	60 名(家族、当事者、行政・精神保健福祉センター、支援関係者など)
広報	熊本日日新聞(2月20日)、毎日新聞(2月26日)、西日本新聞に告知が
/公 邦	掲載された。
実施内容(次ページへ続く)	下記の2本立てによる講演が行われた。 【前半 13:30~14:30】池上正樹氏(フリージャーナリスト) 講師の池上正樹氏は高年齢化した当事者たちが増えていること、その人たちの生きる力をどのように支えていくか、彼が今展開している「ひきこもり大学」について講演。 【後半 14:30~15:30】「ひきこもりを元気にする親の対応」 池田佳世(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理土) KHJ 代表池田佳世さんが川崎での事件について、上村意太君を救えなかったことが他人ごとと思えず悲しかった、親はもっと必死になって子を救わなければならないと訴えました。そして「わが子の回復を他人に任任ない、わが子の責任者は親である。親は子の未知の分野を勉強して、子を回復させよう、そのために、家庭を治療の場にしていこう。」「親は、子の回復珍階を少しずつあげて行こう。」と呼びかけ、家族による家族会の自主的な活動、学習会の効果と、今ひきこもり対策に国の支援があること、よって全国的なネットワークを作っていく意味があると親の会の必要性を訴えました。 その直後、会場にジョン・レノンの「mother」が流れました。曲をパックに池田さんが以下の詩を読み上げました。 お母さん お母さんは僕を生んでくれたでも愛してはくれなかったよね僕はお母さんにそばにいて欲しかっただけなのにだからもう言わなくっちゃねさよならさよなら お父さん お父さんは僕から逃げたよね 僕は決して逃げなかったのに僕はお父さんが必要なだけだったのにだからもう言わなくっちゃねさよならさよならおよならが必要なだけだったのにだからもう言わなくっちゃねさよならお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってき来でお母さん、お願い行かないでお父さん、お願い帰ってまれて来て

	不幸を感じている子どもは親に何を訴えているのでしょうか。 育った環境も違うのだから親子の間に大きなずれがあるのは当然です。 だからこそ、親は言葉にならない子どもの心の声を聞き取っていかなけれ ばならないと話されました。
	【グループトーク・質問会 16:00~17:00】 グループに分かれ、自己紹介を行い、自分の抱える問題や悩みを分かち合った。また家族会発足に当たり、今後の運営内容についての話し合いが持たれた。
実施成果 決定事項	・名前は「KHJ熊本県くまもんの会」と決定した。 ・家族会発足初の家族会は、4月4日に決定した。 ・別室(茶道室)で、当事者の相談会(4名参加)が行われた。 ・県の精神保健福祉センターからの今後の情報交換、連携についての話し がもたれた。
開催に関連する 新聞記事	熊本日日新聞(3月1日)に家族会発足講演会の模様が掲載された。
アンケートから見えた 良かったこと	・池上氏が話したひきこもりのカテゴリ(要因)の話しや、ひきこもり大学の話など、大変興味深く聴かせて頂いた。ジャーナリストの目が生きた講演の会であった。 ・ひきこもりを学ぶ、家族のための学習会No.1、No.2の1つ1つの言葉に感動した。 ・家庭が治療の場ということ。専門機関の中には、本人が動くのを待てばと言われ、私自身困惑する事がある。 ・家族にとって光となる情報。池上さんのおもしろい情報。 ・支援に役立つ視点をたくさんいただいた。ご家族自身のことばが心強かった。 ・当事者の方々から直接お話しを聞くことができてよかったです。 ・同じ悩みを持つ方々と話しが出来て、それが一番ホッとしました。
学習会・アンケートから見えた課題など	・ひきこもりを年齢で上限を区切る根拠がわからない。みんなひとりの人間である。40 代以上のひきこもりの割合が高い。 ・本人との会話が無い。お金のことで心配。将来のことが心配。 ・本人は人と関わりたいのに、関われない。人に飢えているのにひきこもっている。 ・近所の人達に冷ややかな人が多い。暴れても他人は助けない。町に要請してもなかなか困っている若者支援をしてくれない。 〈支援者として〉 ・平成25年12月から社協の方で家族の会を立ち上げて、現在では7家族の方が参加され、当事者も3名参加されるようになり、今後どのように進めて行こうかと思っていた時でした。 ・相談の窓口、担当者が少ないこと。年齢の高い方、40歳以上等に対しての窓口の問題。 ・長期化している方。強迫性障害の症状が強い方。 ・対象となる方の把握方法や関係機関との連携体制が不十分で、今後の課題となっています。 ・当事者の思いがなかなかわからない。
今後の取り組み	・今後の支援活動の参考に、家族会と社協の連携ができればと思う。 ・毎月第三土曜日 10 時から KMS (家族みんな幸せ) 家族の会を開いています。 ・家庭訪問、本人・家族へのカウンセリング、集団グループワーク ・「かこかり」という自助グループを運営しています。

KHJ 能本県支部

家族会発足講演会

近年、若者のひきこもりやニートなど、青少年を取りまく諸問題はますます深刻化してきています。 様々な生きづらさを抱え、うまく社会とつながることのできない若者へどのようなサポートが必要か、 若者が社会的に孤立してしまわないために必要な支援を考える講演会を開催します。

平成27年2月28日(土)

13:30~16:30 (受付13:00~)

態本市国際交流会館 5階 大広間 A

(熊本市中央区花畑町4-18)

「ひきこもりの現状」

講師:池上正樹氏(ジャーナリスト)

1962 年生まれ。大学卒業後、通信社などの勤務 を経て、フリーのジャーナリストに。1997年から「ひ きこもり」当事者の取材を続け、ダイヤモンド社の 「ダイヤモンド・オンライン」で、『「引きこもり」する オトナたち』を5年以上にわたって連載中。主な 著作に『ドキュメントひきこもり』『ダメダメな人生を 変えたいM君と生活保護』、最新刊に『大人のひ きこもり~本当は「外に出る理由」を探している人 たち~』(講談社現代新書)など。

「ひきこもりを元気に する親の対応」

講師:池田佳世氏(KHJ家族会代表)

NPO 法人全国ひきこもり KHJ 親の会 (家族会連 合会) 代表理事。臨床心理士。東京都スクール カウンセラーを経て、一般社団法人 SCS カウン セリング研究所設立、代表理事。引きこもりの 回復に親の力が必要と、「親の学習会」を25 年継続し、効果を上げている。 著書 『困った子 ほどすばらしい』、『新困った子ほどすばらし

い』。ハート出版。

全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)では、全国で家族会を組織し、 親の学習会、若者の居場所、行政への政策提言などを行っています。まず は家族が集まり、つながる事で共に一歩を踏み出しましょう。ご家族、当 事者、ひきこもり問題に関心のある方、是非お越しください。

[主催] NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) [お問合せ] KHJ本部事務局 TELO3-5944-5250 FAXO3-5944-5290

—— 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 ——

家族会発足のための活動(兵庫宍粟市・発足講演会)

開催日・開催タイトル	2015 年 3 月 7 日 (土) 兵庫県宍粟市家族会発足講演会
実施(連携)団体名	NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部
会場	NPO 法人ピアサポートひまわりの家 (兵庫県宍粟山崎町段 194-1)
参加人数	約60名(当事者及び家族、親族、行政職員、支援者など)
広報	チラシ 50 部作成、及び配布。 宍粟市の社会福祉協議会、保健所、神戸新聞、毎日新聞、朝日新聞
	紙面にて事前告知。
実施内容	13時30分 開会宣言 ひまわりの家理事長 発起人挨拶 家族会代表 来賓挨拶 社会福祉協議会 (山本局長) 宍栗市 市長代理 13時50分 講演 「ひきこもりを元気にする親の対応」 講師 KHJ家族会代表 池田佳世先生 15時20分 当事者の発表 (母親 副代表) 質疑応答 16時20分 家族会の結成,名称、運営委員の選出、次回の日程発表 16時30分 運営委員会・役割分担、次回の日程中内容について 17時00分 終了 【講演:池田佳世 - 全国引きこもり KHJ親の会代表、臨床心理士】ひきこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を25年継続。回復の各段階について説明し、「親は、子の快復段階を少しずつ上げていく」責任者であること、親の態度の変化が子どもの変化にどのように繋がるかについて伝えた。学習会での学びを継続する意味と効果が示された。 【当事者の母親発表・質問会】 ①当事者の母親の家疾会の副代表):不登校から引きこもりまでの経緯を話され、どうしたらいいのか行き詰まっていたときに社会福祉協議会の広報誌で、ひまわりの家を知った。との発言。②元引きこもり当事者(31歳男):長い間、結局どこにも行き場がなかった。新聞でひまわりを知り、たどり着いた。苦しんでいるのは自分だけでないことを知った。ひまわりのような場所をもっと早く見つけていたらと思う。自分の経験を生かし、引きこもり支援に取り組んでいきたい。・家族(母親)の力の結集が出来た。近隣地域に、引きこもりの居場所が
実施成果	あること、家族会ができたことを知らせることができた。
決定事項	・次回の家族会の開催日が決定した。4月12日10時から 同会場に
八儿子兄	て。(月1回 第2日曜日10時から 定例会)
	朝日新聞 2/27、神戸新聞 3/3、読売新聞 3/5 の紙面にて事前告知掲載。
用作因との利用記事	電話による問い合わせが、30件位あった。(場所の確認、ひまわりの活動
紹介記事の反響	についての問いあわせ、次回講演会等の質問 等)
	・実話が聞けて、母親のありかたが聞けて良かった。知らないうちにプレ
	ッシャーをかけていること。本人も何か理由がわかっていないと思った。
	<支援者からの参加> ・ひきこもりの方への支援方法の1つとして、本

	しったノ如 の土板 254円44221 1 25 末を どかよしよ
アンケートから見え	人でなく親への支援が効果的だという事を学びました。
た良かったこと	・現在、障がい者に対する計画相談業務を行なっております。最近「ひき
70000	こもり」の方に対する支援がクローズアップされてきており、今後取り組
	んでいかなければいけない分野だと思って、当事者、家族へどう関わって
	行けばいいのか勉強させて頂こうと思い参加。
	・地域の見守りをするにあたり、ひきこもりの子(16歳)がいる。今後
	親御さんに説明してこの会に参加できるようにすすめたい。
学習会・アンケート	・最初のアプローチの方法の難しさ。家族からの相談がないと、こちらか
から見えた課題など	ら動くことが出来ないところがあり、地域内でも情報が少なく見えない部
	分であることが多い。親自身の理解がなく、隠して生活している事が多い。
相談にまる望がある	・相談に来られた方に対しては本人の活動の場(作業所等)の紹介を行い、
	・相談に来られた方に対しては本人の指動の場(作業所等)の稲角を11で、
	希望があればつなげる事をしています。
今後の取り組み	・障害者の通所サービス利用もしてもらえたらと思います。
	・まだまだこれからですが、「ひまわりの家」と協働し取り組みたい。
	・よによにこイレクザウ(ダタザ、「いよイクり炒豕」 ~ 勝側 し取り組みにペ。

KHJ 兵庫県宍粟支部

ひきこもり家族会発足講演会

「ひきこもり」は全国で70万人と推定され、深刻な社会問題となっています。しかし、実際に直面すると、家族や周囲の者はどう対応したらよいのか判断に迷うものです。うまく社会とつながることのできない若者にどのようなサポートが必要か、ひきこもりの回復に親が関わることの重要性についてお話します。



平成27年3月7日(土)

13:30~16:30 (受付13:00~)

参加無料 予約不要 定員50名

場所

NPO 法人ピアサポートひまわりの家 (兵庫県宍粟山崎町段 194-1)

「ひきこもりを元気にする親の対応」

講師:池田佳世氏(全国引きこもり KHJ 親の会代表、臨床心理士)

NPO法人全国ひきこもり RHJ 親の会 (家族会連合会) 代表理事。臨床心理士。東京都スクールカウンセラーを経て、一般社団法人東京都団体 SCS カウンセリング研究所設立、代表理事。引きこもりの回復に親の力が必要と、「親の学習会」を 25 年継続し、効果を上げている。著書『困った子ほどすばらしい』、『新困った子ほどすばらしい』、ハート出版。

全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)では、全国で家族会を組織し、親の学習会、若者の居場所、行政への政策提言などを行っています。まずは家族が集まり、つながる事で共に一歩を踏み出しましょう。ご家族、当事者、ひきこもり問題に関心のある方、是非お越しください。



[主催] NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)

[協賛] NPO 法人ピアサポートひまわりの家・引きこもり家族会

[後援] 宍粟市 • 宍粟市社会福祉協議会

[お問合せ] NPO 法人ひまわりの家(松本) 0790-65-9205 KHJ 本部事務局(上田) 03-5944-5250

—— 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 ——

ひきこもりを学ぶ、家族のための学習会 No.1

池田 佳世

親御さんに向けて伝えたいこと

「我が子の快復を他人に任せない。我が子の責任者は親である。親はこの未知の分野を勉強して、子を快復させよう。そのために、家庭を治療の場にしていこう。」

「親は、子の快復段階を少しずつ上げていこう。」

第一段階 すっかりひきこもって誰にも会わない段階。

第二段階 買い物や散髪に出るが友人はいない。

第三段階 居場所に(集団に)出た。

第四段階 仲間ができた。

第五段階 バイトにいける。他の居場所にも行ってみる。就労のことも 考えられる。

ひきこもりを学ぶ、家族のための学習会 No.2

池田 佳世

学習	親の態度
1. なぜひきこもったのか理解している。	ひきこもりへの理解
2. 神経症や精神科についてわかっている。	他の科と精神科の違い
3. 子供の話を無条件に肯定的に聴こう。	世間の目を気にしない
4. 自分のこと(親)は話さない。	ガムテープを口に貼れ
5. 三年寝太郎。まゆごもり。	我が子の話を聴く
6. 親の焦り。子の焦り。	親の態度
7. 過去へのこだわり。繰り返し出てくる	傷つき体験への対応
言葉。	
8. トラブルには意味がある。	エネルギーが出て来たということ
9. 無言の子への働きかけ。	親のひとりごと
10.暴言・暴力への対応。	子どもと距離をあける
11. 自立とは。	自立とは他人に甘えられること
12. コミュニケーションリハビリ。	コミュニケーション能力をつける
13. 本音の練習。	子どもが本音を言えるように
14.日常会話と治療会話の違い。	家庭内を治療環境に
15. 快話と不快話。	家庭内では快話を
16. 強迫的な子への対応。	強迫症状や対人恐怖など
17. 我慢が見せかけの回復を生む。	いい子をやめる
18. 反抗・退行で動じない親。	反抗・退行への考え方
19. 危機をチャンスにするには。	危機の見方
20. 買い物・お金の使い方。	お小遣いをあげる
21. ひきこもりのタイミングの見方。	タイミングをとらえ早く対応
22. 親が変わること。成長とは。	親が変わる=親の成長
23. 仕事とは。	若者の仕事についての考え方
24. 異性と仲良く。	異性の心はわからない

「引きこもり者に対する接し方」

―ひきこもった子に変化を与える親の動き方―

・・ひきこもりは自分だけでは回復しない・・・

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会代表 臨床心理士 池田 佳世

親の態度で子は
ひきこもり継続

- 1. 親は世間体を考え、動かない
- 2. 自分の育った価値観、常識で動く
- 3. 昼夜逆転しないように睡眠を管理
- 4. 過去と未来を考える
- 5. 親の気持ちで接する
- 6. 家庭内暴力、壁をたたく、入院などで抑えようとする
- 7. しつけや良い行動を教える。気分が下がっても良い行動を。
- 8. 親の愚痴、怒りを家庭の中で。
- 9. 一般的な、ひきこもり用の就労支援は長続きしない。
- 10. 異性への関心を抑えよう。

親の態度で子はひきこもりから回(快)復

- 1. 親の必死な動き
- 2. ストレスから健康に…メンタルヘル スの価値観で動く
- 3. いつでも眠れる時に眠る。睡眠は大切。気分を上げる。
- 4. 現在だけを考える
- 5. 子どもの気持ちを考え接する
- 6. たまっていたものを吐き出すのに暴力、暴言が始まる。親も対抗せず、 距離を空ける工夫
- 7. トラブルは回(快)復に向かっている
- 8. 親の愚痴・怒りを別のところで吐く
- 9. 就労支援はひきこもりのことを良く 知っている人に預けよう。
- 10.20代は、異性への関心が強い時期。 両親の男性、女性への関心を見せましょう

Mother

Mother, You had me but I never had you I wanted you, You didn't want me So, I, I just gotta tell you Good bye, Good bye

Father, You left me but I never left you I needed you, you didn't need me So, I, I just gotta tell you Good bye, Good bye

Juniour, Don't do what I have done
I didn't want natural love
So, I, I gotta tell you
Good bye, Good bye

Mamma, Don't go. Daddy, Come home.

Mamma, Don't go. Daddy, Come home.

John Lennon

お母さん

お母さんは僕を生んでくれた でも愛してはくれなかったよね 僕はお母さんにそばに居て欲しかった だけなのに だから もう言わなくっちゃね さよなら さよなら

お父さん

お父さんは僕から逃げたよね 僕は決して逃げなかったのに 僕にはお父さんが必要なだけだったのに だから もう言わなくっちゃね さよなら さよなら

息子よ

僕のような人生を歩むんじゃない 本当の愛をみつけるんだ だけど もう言わなくっちゃな さよなら さよなら

お母さん お願い 行かないで お父さん お願い 帰って来て お母さん お願い 行かないで お父さん お願い 帰って来て

「親の学習会の効果と全国導入」

臨床心理士 池田 佳世

私は"家庭を当事者の治療環境"と位置づけることが現実的と考え、2002年から「ひきこもり」支援の「親の学習会」を始めました。不登校問題の対応として、その20年ほど前から『母親ノート法(東山紘久著)』にヒントを得て「母親講座」を毎週開いていてきたので、どのような「ひきこもり」対応講座内容にしたら母親たちの参加が長く続くか、効果があがるかということについては、既に実践経験済みの応用問題だったのです。

実際に、一回ごとに講座で教えたことを母親の皆さんに実行しやすいことからやってもらうと、子供たちや青年達が随分と楽になっていったのです。情緒や行動が不安定だった子供たちに落ち着きがでてきて、着実に回復に向かうようになったのです。しかし、母親の皆さんのグループ内での自発性にも焦点を置くと、グループとしての活性が出てくることは歓迎でしたが、グループが成長して親が自主的になり過ぎ、肝心の子供たちは回復するのに時間がかかり、子ども・若者は元気にはならないという問題があったのです。

「楽の会」の学習会では、具体的な事柄のケーススタデーを基本としています。限られた紙幅での説明は容易ではありませんが、考え方や行動の根底として、子供の回復を信じて父母で協力し合い、腰を据えて取り組む家庭環境を作ることが必須です。そして、"無条件の肯定的関心を持ち続けることが重要です。

2011年親の会の代表になり全国に学習会を拡げていきました。親の学習会を開催することで家庭が治療環境になり、居場所へ出てくる青年が増えてきました。

「親の学習会」には一貫性が必要

「楽の会」の例会では毎月いろいろな方に講師を依頼してきました。時には、相反する回復方法が語られることもありました。そのため、親達はかなり異なる方法論に振り回されて、子供に対して一カ月は優しく、次ぎの一か月は厳しくと態度がくるくる変わってしまったりすることもありました。これでは親子共々に混乱して、回復への効果が上がらないのです。長い道のりを歩いて行くのですから、一つの一貫した価値観や、やり方が必要なのです。外部から招く講師の選定は複数の指導スタッフが慎重に協議して、ストレスに対応できるかどうか、ひきこもりをよく知っているかどうか、実際に適しているかどうか、指導スタッフが慎重に協議して、半年度毎の計画を慎重に立てています。ストレスの克服やメンタルへルス向上の基本的に必要な価値観を持つことが必要です。メンタルヘルスの価値観は普通の価値観とは違います。精神科専門医の診断と必要な治療だけではなく、徐々に対人関係の中に入ってコミュニケーションのリハビリをしていってほしいのです。親御さんたちが落ち着いてご自分の基本姿勢の理解と具体的行動をしてもらえるように、事例と関係付けながら指導しております。これは、一時的なカウンセラーや精神科医、支援

者ではなく、一生を共に歩む親に、しっかりと身につけてもらうことが極めて有効なことだと思っています。

「親の学習会」の講座では、回復の道筋が見え、講師には人間的魅力が必要

子供が成長するためには、その鏡として親が成長し、変化していく姿を見せる必要があります。講座の講師にも同じことが求められます。あらゆる意味で変化し、成長していく過程の人であり、講座の聴講者である親や当事者もそこに触発され、変化するものなのです。完成された講師よりも成長過程にある、例えば、元ひきこもりの講師の方が影響力は強いのです。講師でも成長や勉強が止まったら、もう講師をする資格がないと思っています。ひきこもりの気持ちや理解が不可欠です。これも"生きにくさ"を抱えた若者の復活の道です。

「親の学習会」は「ひきこもり」脱出に必要不可欠

精神科医自身が往診に行けない日本の保健システムの現状では、公的機関の保健スタッフが家庭までなんとか行けても、「ひきこもり」の現実を親以上には知らないため、必要な判断もできず、効果的な対応は難しく、長続きしないのです。よくわかった訪問スタッフが家庭に行っても、本人が外に出るまで長い時間がかかります。これでは親も失望してしまいます。これがこれまでの実態です。ですから、まずは他人に託すより、両親の勉強から始めると、子どももひきこもりから出てきて、結果が良く効率的なのです。

働きかけや声かけで当事者を説得したり、時に怒鳴ったり、叱ったりしたがことごとく 失敗し、また深くひきこもらせてしまったという例をよく聞きます。まず、当然なことで すが、本人(子供、青年)がひきこもることを、どのように受けとめているのかを親が理 解しないと、どのような働きかけをしたら子が外に出ていくか分らないでしょう。

"死ねなかったからひきこもった"と青年達は言います。元気になっても、状態が悪くなれば死にたくなるのです。子供がひきこもっているのだから本来なら「子供の会」なのに、なぜ「親の会」なのかと、初め親は思うようです。しかし、実践してもらうと、わりと早く子どもに変化がみられます。本を読んだだけでも、親の対応は変わり、子どもは変化します。しかし本を読んだだけでは、小さな変化で終わってしまいます。そこで学習会で継続的に学ぶことが必要なのです。

「親の学習会」で親が、コミュニケーションの幅と回数を広げよう

限られた家庭の中だけで、長い間困っているだけでは解決にはほど遠いのです。第3者の力を借り、柔軟に行動してみることから始めましょう。親が第3者の力を入れていくことにより人間関係の幅を広げ、時流を掴み、世の中へ出て、「ひきこもり」問題への理解を広め、深めることが重要となってきているのです。親に力を与えた方が、日本全国に早く広まり、この「ひきこもり」脱出支援の糸口をつかむ必須な条件です。

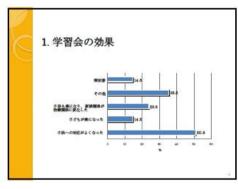
「親の学習会」は子どもの行動の意味(見方、とらえ方)を学んでいくもの

暴力が出たら普通はいけないし、親は子を押さえようとするでしょう。家を壊し始めたり、自傷・他害の危険のある場合は警察に訴えるしかないでしょう。しかしこれは、今までいい子が演じ続け回復へ取り組む姿勢になりきれずに、ただ我慢していた十何年かの結果なのです。人生再生の始まりという風に、新しい見方を学んでいく必要があるのです。ひきこもったまま静かに"いい子"をして何年も過ごしてしまっていても、多くは親を思って、自分はだめだと責め続けて、時だけが過ぎてしまった事例も多いのです。この長期化は、このように親も子も動けなくなった結果なのです。究極は、子が動かない時は親が動けということです。これが親の学習会強化の必要性の由縁です。

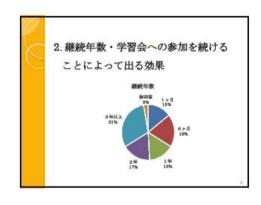
現在の雰囲気ですが、親御さんたちが学習会に来出すと例会の雰囲気も静かになり、いつも「大変、大変」と云っていた姿が少なくなっています。皆が、子の回復へと励むようになり、トラブルの意味も、トラブルのないという意味もわかるようになっています。

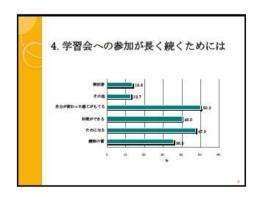
親の学習会でのアンケート結果のご報告

KHJ 東東京「楽の会」で親の学習会を始めてから8年がたち、多くの家族に変化がでてきました。 その効果を目に見える形で示そうと、今年10月に東京、千葉、静岡の学習会で学習会に関するアンケートを実施しました。 110名の方から回答をいただきました。 その一部をご報告します。









「大人のひきこもり」 ~高齢化・潜在化するひきこもりの 実像とその取り組みについて~

池上正樹

ひきこもりという概念

人は誰でも大なり小なり凸凹がある

知覚、理解、記憶、推論、問題解決等の認知能力 凹が大きいと、そこばかり目立つ 生まれつき凸凹が突出→発達障害

様々な診断名、定義、実態のないレッテル →分類するのは、あまり意味がない 年齢で上限→区切る根拠がない ひきこもりとは、そういう状態が共通 みんなひとりの人間である ひきこもるという特性

空気を読んで周囲を気遣う

他人に迷惑をかけたくない →自ら椅子取りゲームから下りてしまう 心優しい人たち

社会的撤退→次第に意義や意欲を失っていく

「ひきこもり」は社会からの孤立

これ以上傷つけられたくない 他人に迷惑をかけたくない

自分を防御する手段 ひきこもらざるを得ない 意欲を失いあきらめの境地に至った人たち →セーフティネットの谷間に 救済が必要なのは

生活保護、障害年金 セーフティーネットの<mark>谷間にいる</mark>人たち

私たちが取り組んでいるのは

医療、福祉とは別に、自助活動をサポート

「ひきこもり評価・支援ガイドライン」(2010) ひきこもる要因の第1位「発達障害」 27% 「不安障害」 22%、 「パーソナリティー障害」 18%、 うつなど「気分障害」 14%、 統合失調症など8%、「適応障害」 6%... 精神医療で対応?→全国5カ所で152人 外来患者の診断であって、ひきこもりの全容ではない

何人くらいいるのか 225万人 70万人 +155万人(予備軍) 15オ~39才 (2010年の内閣府調査による推計値) 島根県、山形県 調査 40代~半数以上 秋田県藤里町 実態調査 40代~半数近く 東京都町田市 実態調査 40代~3割強

セクシュアル・マイノリティ 異性愛の社会に抱えさせられる生きづらさ 性的少数者 LGBTも含まれる 性的指向、性のありようを明かせない 性別役割を求められる社会 場面回避の連続 → ひきこもり状態に陥る 調査対象 → 性別欄に選択肢がない

・これまでの心の傷 周囲から口止め
・表は夫の所有物という強い価値観に束縛
・ママ友のコミュニティで疎外感
・諦め 沈黙 内面は本質的に変わらない
いつも家にいても誰も困らない 安心(周囲)
調査対象「自宅で家事・育児と回答した者を除く」→社会が想定していない

就職できない「新たなひきこもり層」
1度滑り落ちると、社会に戻れない
生活困窮 父親のひきこもりも
→誰にでも起こり得る

誰にも言えない。家の恥。
人脈、情報がなくなる。
地域の中で家族ごと埋もれていく。悲劇も

いったん社会から離脱すると 個人に問題 治療対象 見下される せっかく意欲を持ち始めても 支援の現場でまた深く傷つけられていく

様々な背景 それぞれのペース
公的な目的のハードルに合わせられない
支援者の設計思想に合わない人も
相談窓口はある。そこから先がない
外に出てもどこへ?
将来の道筋が見えない

ミスマッチが起きているのでは?
 当事者の目線で、
本人のペースに配慮しながら、
本人の望む支援の設計が
必要なのではないか

群しくは、
『大人のひきこもり~本当は「外に出る理由」を探している人たち~』講談社現代新書

大人のひきこもり
**当は「外に出る場点を開えている人たち
冷上正樹

いま、日本に
潜む大問題

セーフティネットの映画で
震き表りにされた
40歳以上は推定100万人!

【短期保険証】 国民健康保険短期被保険者証交付要領 https://www.town.oarai.lg.jp/statics/jourei/act/fra me/frame110000312.htm 無料低額診療事業を実施している病院
http://www.min-iren.gr.jp/topics/muryouteigaku.html...

受診される際、医療相談室に訪問または連絡して
いただき、【医療ソーシャルワーカー】や【医療相談
員】と呼ばれる人に事情を話す。

池上正樹

短期保険証を出してもらうこと 短期保険配を回じてもらうこと 健康保険料の減免措置をとってもらうこと 役所や無料低額診療事業の病院に、 すぐに診てもらえる内科や心療内科等の 相談をしてみる。

池上正樹

世帯収入によっては生活保護を申請できる。 持ち家の場合、両親と住民票を分離して単独世帯 になり保護を受ける、もしくは(家族関係にもよりま すが)本人のみ家を出てホームレス状態になり、1 人で緊急宿泊施設等に保護され生活保護という 手段もある。

借金については、ある程度の金額になっていれば、自己破産を。 「自己破産」というと「戸籍に掲載される」など誤解される方が多いが、そんなことはない。 任意整理等持ち家を手放さない方法もある (債務整理=自己破産、というイメージだが、実際にはいくつかの方法がある)【債務整理の種類】 http://www.houterasu.or.jp/service/shakkin/hen

生活サポート基金や生活福祉資金等、債務整理 後の借り入れをサポートする公的機関もある

日本司法支援センター(通称:法テラス)
全国の相談窓口が一つになっていないために情報にたどりつけない、経済的な理由で弁護士など法律の専門家に相談ができない、近くに専門家がいない、といったいろいろな問題があり、これまでの司法は使い勝手がよいとは言えないものだった。そうした背景の中、刑事・民事を問わず、どこでも法的なトラブルの解決に必要な情報やサービスの提供を受けられるようにしようという構想のもと、総合法律支援法に基づき、平成18年4月10日に設立された法務省所管の公的な法人。

池上正樹

借金を返済・整理する法律の制度や方法

債務整理には、次の方法があります。任意整理

破產手続 個人再生手続

特定調停

返済に無理がある状況であるならば、早急に債務 整理を行う必要があります。 借金の返済のために借金を重ねる状態のことを、

多重債務といいます。

生活困窮者自立支援法に基づく窓口

対象は、経済的理由だけでなく 社会的孤立者など、様々な困難を抱える人たち 2015年4月~相談事業、職業訓練など

対象に「ひきこもり」も含まれる

ひきこもり施策との関係性の整理が必要

近々、実施要綱が示される→自治体が事業 社協、福祉事務所、民間法人などに委託

池上正樹

高知市のモデル事業(13年11月~)

高知市生活支援相談センター 市と社協の連携で総合相談窓口を開設

市生活困窮者自立促進支援事業運営協議会 代表 市健康福祉部長 副代表 市社協事務局長 事務局長 市役所職員 事務局次長 市社協職員 構成団体 ハローワーク、サポステ 池上正樹

生活保護受給者等就労自立促進事業

ハローワークと福祉の相談窓口が連携 →ワンストップ型の支援体制 福祉事務所窓口138カ所に常設(12月現在)

対象:生活保護受給者の「その他」世帯 「生活困窮者自立支援法」相談者 14年4月~11月 全国の利用者約2万人

上正被

感情を言葉にする

当事者たちが発信 つながりを模索 関係性 上下関係 言葉を封じ込められてきた

引きこもらざるをえなくなった人たちの思いを受け止め、構築する仕組みがない

油上正线

当事者の中に起こっていることを真ん中に 多様な人たちの思考回路で 世の中を見つめる作業

1

視点を共有し合うことで生まれる関係性 安心して言葉を発するための場を作りたい

池上正樹

ひきこもりフューチャーセッション 庵-IORI-とは・・・

「ひきこもり」というキーワードに関心のある人たちが、「ひきこもが問題でない未来を描く」をコンセプトに集まり、共に過ごす場。対話の場。

2012年にスタートしたときから、フューチャーセッションという、対話によって、新しい関係性や価値を生み出したり、 様々な分野の課題について、

未来志向で解決を図る試みを取り入れています。

池上正樹

ファシリテーター(促進者)に答えはない

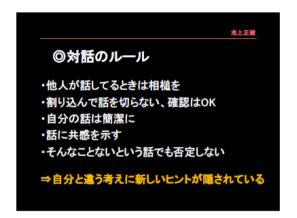
↓ 多様な参加者たちの中に答えがある

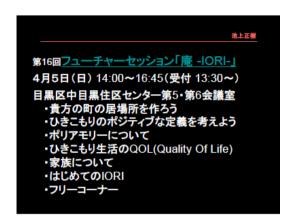
> 見えるように話し合うことで 解決の糸口が見つかる

> > 「専門家ではなく、

自分たちで何かできるかも...

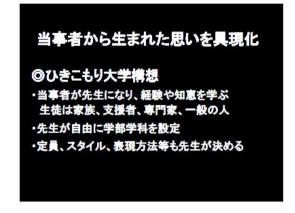
という可能性を感じる」







・当事者が自らイベント活動
・FBに巨大コミュニティ
「ひきこもり状態に関係ある人(当事者、元当事者、経験者 etc)がシェアしたり報告したり繋がったり会ったり募集したり 声かけあったりもなするグループ」
・内面を表現しながら外見を磨く
・出会いをきっかけに島へ渡って演劇活動
・地方に居場所をつくろう活動
・好きなことしながら収入につなげる





目的

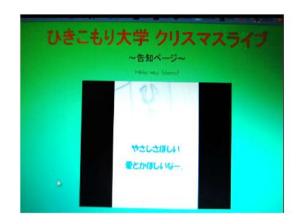
- ・周囲の誤解を解き、家族関係を改善していく
- ・ネガティブと思われていた「空白の履歴」の経験や知識、知恵を価値に変える ことにある
- ・同じ状況にある人の話を聞きたい当事 者も数多く集まる
- ・先生は、授業で話したい、伝えたいテーマに沿って、自分で自由に学科をネーミングできる
- ・生徒は授業の後、価値があると思えたら、 その分の金額を授業料として寄付金箱へ →先生を務める当事者の交通費などの報 酬に宛ててもらうのが趣旨。1コインで十 分





「自分の話したことが相手に通じて、 受け止めてくれる人がいる」 「自分の窮状を訴えて、レスポンスを きちんと得られる場が、当事者には必要」 ・身近に行けるような居場所の役割 ・自分の肩書を説明できる安心を得たい 「苦しみと哀しみに書り添う会サーラ」 自ら立ち上げた。http://saala.jimdo.com/





「ひきこもりの歌」

今日もこっそり引きこもり 寝て起きてメシ食って 今日も今日とて引きこもり 外出するの怖いから

昔は友達いたんだけどね (友達何それおいしいの?) 人の痛みは誰より知ってる (だけど何の役にも立たない) だけど誰かに認められたい wow yeah ほんとは世界変えたいとか思っちゃう ヒャッハー (中略) 父さん、母さん、ごめんなさい でも本当は大好きだったんだ だから ほんの少しだけ・・・ありがとう Going my way HIKIKOMORI 涙が頬伝ってくよ 僕は何をやってるんだ

(中略) だけど誰かとつながりたいよ 誰にも心は見せないけれど ほんとは人が好きだから そう だって僕らも生きている Lalala・・・・HIKIKOMORI (略) 今回、ひきこもり大学 自己表現学部・軽音楽学科として クリスマスライブをやらせて 頂くことになりました、Mihoです。

このイベントは 私が「ひきこもり大学」という 企画に関わっていく中で、 見たり聞いたりした、 ひきこもり当事者の人たちの言葉や思いを 私がこっそり「Hikky way」という 曲にしたことから始まりました。 重く、深刻になりがちな ひきこもりという事象に向き合う毎日の中で、 ふと笑える瞬間があったり、 心から楽しめる瞬間が あってもいいのではないかと 私は常々考えていたこともあり、 皆で楽しく歌ったり踊ったり できるような曲にできるといいなという 思いも込めて作った曲です。

けれど、私は、ひきこもりでも クリスマスを楽しんでもいいのではないかと そう思っています。

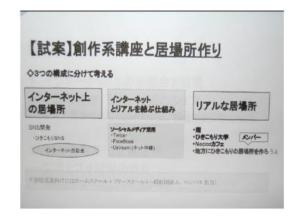
今回、音楽というものを通して 自己表現させて頂くのは主に私自身ですが 会場に来て頂く皆様にも、 今回は音楽を通して 自己表現・アウトプットして頂ける場に なればと思っています。

みんなで一緒に歌って踊りたい 注目を集めるために馬の面、奇妙な格好 ユーチューブにアップ。呼びかけ 出られない人は、ネットで4画面分割出演 希望があれば、出前バンドも チラシは相互扶助学部に発注 次回はライブ公演形式で

ひきこもり大学相互扶助学部 好きなことでつながろう学科

「好きなことは仕事につながるか?」 宮古島の当事者の思い ネットでつながった当事者らが具現化

- 1、ネット上に居場所を設置 →交流の機会、知識・技術のシェア 2、交流とプチ就労の機会(B型設置) →自助会をベースに小さな仕事づくり



池上正樹 ひきこもり大学(東京) 3月1日(日)午後3時~ ひきこもり・不登校・セクマイ・メンヘラのしごと学科 先生のQ&Aコーナー フリースペース・交流会(カフェテリア形式) 新宿区戸塚地域センター7階多目的ホール お問い合わせ・お申し込み ホームページから 当事者200円 一般 家族500円

池上正樹

「ひきこもり大学 当事者学会」(大阪) 2015 年 4 月18 日(土)13:30~ 農業学部 兵庫県三田市 まちづくり協働センター多目的ホール 見学席あり、休憩室にお茶とお菓子 グループディスカッション

問い合わせ info@wakamono-isa.com

池上正樹

ひきこもり大学のお問い合わせ お申し込み

hikikomoridaigaku@gmail.com 親や家族、一般の方々の参加も 歓迎いたします。

上正被

40歳代当事者男性Nさん

8月、山梨県に家族会「桃の会」発足 ひきこもり→当事者交流会の呼びかけに参加 家族会の副代表に就いた

家族会を窓口に地域おこし等の事業、視察も

「社会に役立つことをやりたいと思っていたいまは、それに近いイメージ」

池上正楼

当事者の活動をつくりだす

当事者の活動がどこから生まれているのかに着目

- きちんと承認される環境
- ・仲間ができるコミュニティ
- ・硬直化しない多様な情報、多様な関係性

多様な価値観の中でいろんなヒントが得られる

→みんなの答えを探す 関係性を再びつくる

池上正樹

町田市主催の講座でセッションをやってみた

1、これまでの取り組みにおける関係者の洗い出し

2、それぞれの立場から、安心できる居場所をつくる ために、どういう人たちを巻き込めるか。当事者から どうやって思いを引き出すか

「寺小屋」「家庭教師」「異性との交遊」「親が元気になる」「親も子も安心」「親亡き後」「地域で見守り」「身近な叔父叔母」「家事支援の人に来てもらう」「自分のためでなく誰かのため」「アクセサリーカフェ」「継続的に同伴してくれる人」「家族支援の場がある」「自分の住んでる地域では難しい」「ネットの中で気持ちを共有する」「コミュニティの場」...

池上正樹

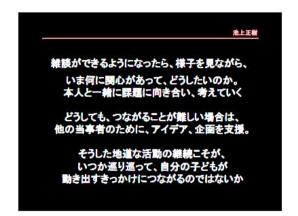
向き合い方って?

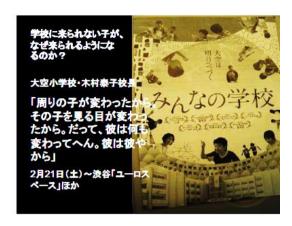
本人たちの気持ちに寄り添えていたのか?

期待や価値観を押し付けるのではなく、親たちもそれぞれ自分のゴールを目指す

興味のありそうな差し障りのないテーマで コミュニケーションは維持

政治、世界等、常に情報収集、考え続けてる





・想像する
・これまでと視点を変える
・情報を継続的に提供していく
・選択肢がある→自らの意思で選ぶ
・1人で考え込まない。みんなで向き合う
・コミュニティ活動のできる場をつくりだす
・自分のために勉強を始める
・自分の人生を楽しむ





全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)

2. 東北ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

東北ブロック(宮城)における学習会活動

開催日	2014年12月21日(日)
開催タイトル	ひきこもりのライフプラン「夢ある未来の描き方」
実施(連携)団体名	NPO法人宮城県「タオ」(全国引きこもりKHJ親の会宮城支部)
会場	みやぎNPOプラザ (宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地)
参加人数	計 24 名 (当事者家族、当事者 15 名・支援者・ボランティアスタッフ 13 名)
広報	チラシ印刷 200 枚。配布先(KHJ宮城県タオ・会員、タオの定例会に以
	前出席した方、宮城県地域ひきこもりセンター、各保健福祉事務所、民間
	支援団体、河北新報)
実施内容	【講演:13:30分~16時30分】
	幸せを運ぶ ファイナンシャルプランナーのセミナー
	<講師>(株)ファイナンシャルプランナーズ花園 東野眞由美
	自らの子供が引きこもり、我が子の将来の不安と向き合ったファイ
	ナンシャルプランナーが、ひきこもりの長期化による家族の資金的な問題
	に向き合います。親が年老いて、自らも介護が必要なった場合、引きこも
	りの我が子がどうなるのか?今現在の状況を、親がありのまま受け入れる
	事から、新しい未来が生まれるのです。
	ライフプランの具体的な設計によって、安心して過ごせる、夢のある未来
	のために、人生を豊かに暮らすための生活設計{健康・生き甲斐・人間関
	係・そして、お金〉を見直すことが必要です。そのために、今できること、
	何をするべきか?をわかりやすく解説、伝授して頂きました。
実施成果 決定事項	・ひきこもり長期化して、しばらく定例会を休んでいた高齢の親御さんの
	参加があった。
	・宮城県ひきこもり地域支援センターの職員の参加があった。
関連する新聞記事	2014年12月19日に河北新報に告知記事が掲載された。
紹介記事の反響	新聞を見た方からの問合せが4件あった。
アンケートから見え た良かったこと	・ひきこもりを抱えていても夢がある希望を描ける可能性を感じた
	・困った時に指導して教えてもらえるプロに出会えてよかった、
	・学歴も何もない息子が人を信じ頼り頼られるようになった
	・両親の生の声が聴くことができた
	・老後の設計を立てるのに役立った
学習会・アンケート	・ひきこもり家族個々のケースにあったオリジナルの支援プランの提示
から見えた課題など	や、一歩踏み込んだ具体的な取り組みを実施していく必要性を感じた。(下
	記、アンケートより抜粋)
	・親が年をとっていくのが悩み。そのため私の母親は運動を心がけている。
	・年金暮らしで 30 代の息子の衣食住を支えるのは大変です。
	・31 歳の長男が働くのはムリとしても人間らしい生活を取り戻せるよう

学習会・アンケート から見えた課題など (つづき)

にしたい。

- やはり息子のことは自分だけでは何も勧められず、アプローチはできて も本人の意志がなければ何も進まないのがもどかしい。自分ではひきこも りと自覚していないかもしれない。
- ・本人の意向と親の意向とのギャップ

今後の取り組み

・何ができるかを考える為にいろいろな方々に会いお話しを伺っている。

・当事者の母親から連絡があった時は、お話しを伺っている。必要に応じ て、まきばフリースクール職員を紹介している。



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

ひきこもりのライフプラン

一全ては OK!ー 幸せを運ぶ ファイナンシャルプランナーのセミナー

☆観難+忍耐=希望って本当?~

『人生を豊かに暮らしたい♥』誰もが望むことです。

長期の生活設計 {健康・生き甲斐・人間関係・そして、お金}を

見直すことで安心して過ごせる、夢のある未来を描くことができます。

今できること、何をするべきか?をわかりやすく解説、伝授して頂きます。



2014年 12/21 (日)

時 間 午後 13 時 30 分~16 時 30 分

参加費

申込み 2014 年12月19 日(金)までに

NPO法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族連合会)

協 **賛:**NPO法人宮城県「タオ」

申込&問合せ先

2 070-1267-6559 担当)東野

会 場 みやぎNPOプラザ

〒983-0851

宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡 5 番地

内容

自らの子供が引きこもり、我が子の将来の不安と向き 合ったファイナンシャルプランナーが、ひきこもりの長期 化による家族の資金的な問題に向き合います。親が年 老いて、自らも介護が必要なった場合、引きこもりの我 が子がどうなるのか?

今現在の状況を、親がありのまま受け入れる事から、 新しい未来が生まれるのです。引きこもりのライフブラ ンの具体的な設計によって、ファイナンスによる、わが子 との夢ある未来を描きます。

<講師>

梯ファイナンシャルプランナーズ花園 東野眞由美

切り取り・

申込み 2014年12月19日(金)までに

FAX 022-272-4875

ある未来の描き方!申込息

お名前

電話番号 (自宅・携帯どちらでも可)

夢ある未来の描き方 -全てはOK! キせを運ぶファイナンシャルブランナーのセミナー 株式会社ファイナンシャルブランナーズ花園

セミナーの流れ

現状把握

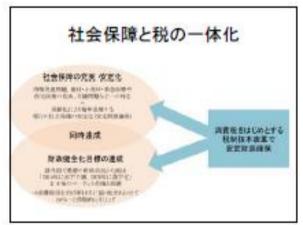
- ①夢を描く
- ②言葉を変える
- ③情報を集める

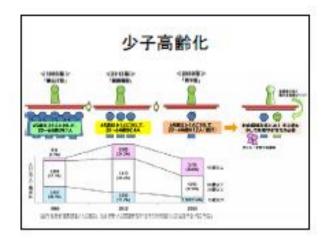
現状把握

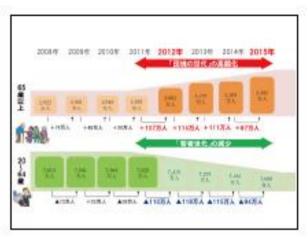
消費税增税

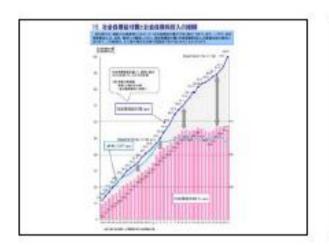
平成26年4月1日 5%から8%へ 平成27年7月1日 8%から10%へ

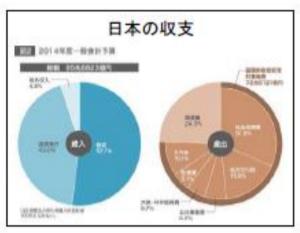












日本の財政状況

- 平成23年度財政状況(一般家庭:1ヶ月分の家 計)項目単位(万円)
- ・月収(ポーナス込み) 40
- ·ローン元利払 18
- ·家計費 45
- ・田舎への仕送り14
- ・毎月の赤字 37
- ・ローン残高 6,661

先進国の過去の財政改善策 社会保障カット 増税

税による家計への負担

消費税負担の増加は、年収200万円で、5万4000円余り。 年収500万円で8万3000円余り。

年収800万円で、10万5000円余り...

今年6月からは住民税も10年間、一律1000円が 課税される。年収に関係なく年間1万2000円の負担

厚生年金保険料の引き上げ。今年も10月納付分から 0.354%(事業者と折半で負担)上がる

税による家計への負担

4月の診療報酬改定により、初診料は120円、 再診料は30円引き上げられる(患者の負担はその1~3割)

また、70~74歳の医療費の窓口負担は、4月から 段階的に1割から2割に上がる。 具体的には4月2日以降70歳になった人が2割負担

年金分野は喜齢者の給付が減り、現役世代も 保険料負担が増す。 公的年金の支給額は4月分ら0.7%下がる

税による家計への負担

国民年金の保険料は月210円増額となり、 月1万5250円に

介護保険40歳~64歳までの現役世代の保険料の 平均が推計で月額5273円と前年度から307円上がり、 初めて5000円超え

4割カット

2015年1月1日より

基礎控除額5000万円



相続人1人当たり1000万円

600万円

相続例

例)70歳男性 妻 子供2人

- 家800万円
- 土地1500万円 →相続人と同居で20%評価
- 株300万円
- 現預金2000万円 →1500万円を生命保険に
- 自社株2500万円→温取金と物格等株業算役制度により

合計7100万円 295万円 □ ○円



リタアメントプラン

例) 夫61歳 賽58歳

平均余命まで夫22年

賽30年

生活するためにいくら必要ですか?

リタアメントプラン

- 1ヶ月当たり生活費
- ①夫婦2人の1ヶ月生活費 30万円
- ②妻1人の1ヶ月生活費 30万円×70%=21万円

老後必要資金

①夫婦2人期(22年間) 30万円×12ヶ月×22

=7.920万円

②妻1人期(8年間) 21万円×12ヶ月×8

=2,016万円

9.936万円

公的年金による収益見込み

- 夫は、厚生年金の被保険者期間37年
- 平均報酬月額37万円
- ボーナス平均60万円
- 妻は、国民年金第1号、3号被保険者として
 40年

6、800万円

9、936万円

3, 136万円

①夢を描く

夢を描く



流れ星に 願いを賭けば 必ずかなう

15秒であなたの願いを書いてみてください。

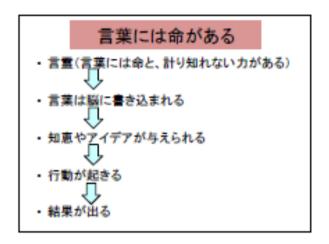
具体的に

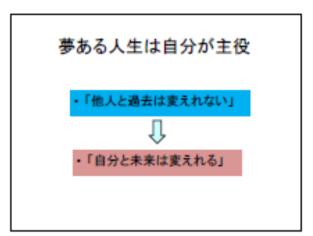
何年後に

どのように

そのために必要な資金は

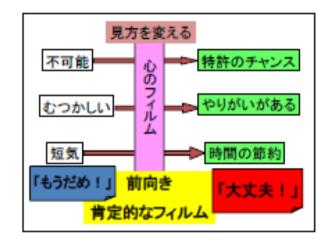
②言葉を変える

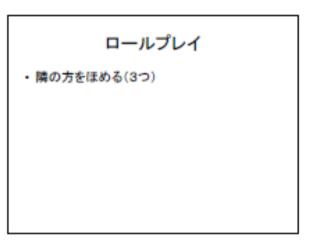












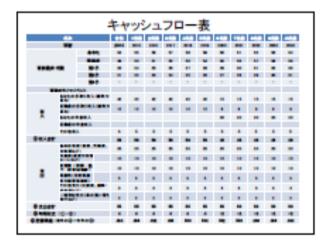
③情報を集める

引きこもりのライフプラン



親の現状認識

- 親の資産の洗い出し
- 親の資産で子供が何歳まで暮らせるか





固定費の見直し なぜ固定費?

- 生命保険の見直し
- 住宅ローンの見直し
- (10年以上1000万円以上)
- 通信費の見直し

所得控除のフル活用

- 生命保険料控除
- 40,000円
- 介護医療保険料控除

40,000円

合計120,000円

年金保険料控除

銀門000,08

40.000円

間の支払保険料等 20,000円以下 20,000円数 40,000円以下 40,000円数 20,000円以下 接除額 支払条款料等の全額 支払条款料等×1/2+10,000円 支払条款料等×1/4+30,000円 一体40,000円

子供名義にする

子供名義の銀行口座からの引き落とし

- 水道
- ガス
- 電気
- 国民健康保険
- 住民税均等割り
- 個人年金保険
- 医療保険
- 固定資産税

資産の流動性を変える

流動性が高い

現金、銀行普通預金等

生命保険、株式 投資信託等

土地、建物

→ 流動性が低い

国民年金

- 国民年金保険料の免除申請
- 国民年金基金の検討



保険による検討

- 医療保険 例)24歳男性 2500円
- 収入保障保険

例) 父親55歳、母親51歳、息子24歳男性 母80歳まで(息子53歳まで保障) 月額10万円 月額保険料7.120円

・個人年金保険 例)24歳男性個人年金保険加入 55歳払い済み 55歳から受け取り 15年確定 年間60万円の年金受け取り 月額保険料 18,654円

住居の確保

- リバースモーゲージ
- 中銀ライフケア

リバースモーゲージ

 自宅を担保に借り入れ 社会福祉協議会 東京スター銀行 庄内銀行

不労所得の検討

不動産所得 賃貸収入等の検討 アパート併設住宅



東北ブロック(山形)における学習会活動

DD ///	
開催日	2015年2月17日(火)山形市/2015年2月20日(金)米沢市
開催タイトル	KHJ 山形講演会「ひきこもりの理解と対応」
実施(連携)団体名	NPO法人から・ころセンター
	(全国引きこもりKHJ親の会山形支部)
会場	山形市 : 山形国際交流プラザ山形ビッグウイング 3階試写室
	米沢市 : アクティー米沢2階 大会議室
参加人数	山形市 : 50 名 (民生委員・児童委員・社協職員・市職員)
	米沢市 : 45 名 (民生委員・児童委員・社協職員・保健所職員・市職員)
広報	チラシ 250 枚作成。
	配布先:山形市役所生活福祉課、地区長会議、米沢市社会福祉協議会、民生
	委員、児童委員 置賜保健所
	<後援>山形市、山形市民生児童委員連合会、認定NPO法人発達支援研究
	センター(山形市)、米沢市社会福祉協議会
実施内容	2015 年 2 月 17 日 (火) は山形県にて開催 (チラシ参照)
	2015年2月20日(金)は米沢市にて開催 (チラシ参照)
	【講演 :ひきこもりの理解と対応】
	二本松会 上山病院 村岡義明先生
	<講演のポイント>
	*疾病がある方と無い方が居て、非常に細やかな診察を要する事。
	*発達障害について、様々な見立てをしていて、上山病院ではチームで検討
	をしている。 (精神科医・カウンセラー・判定員・PSW等)
	*御家族の方の手当も大事な事として捉えていて、丁寧な説明を心がけ「家
	族教室」に繋いでいる。
	*民間支援団体との連携を地域の資源と捉え、情報の共有を図っている。
	【対談:「ひきこもり支援の取組みについて」「から・ころセンターの取り
	組みについて」】
	NPO法人から・ころセンター代表理事 伊藤正俊
	*相談の依頼があれば、相談者の都合を最優先に対応を心がけている。
	*対応できる事と、出来ない事がある事を理解して頂いている。
	*当事者支援と御家族支援は車の両輪。
	*スリップのしない穏やかな回復を支援している。
	【対談:ひきこもり支援の取組みについて】
	認定NPO法人発達支援研究センター 木内千恵
	*地域の(おばちゃん)としての立ち位置を考えている。
	*何度でも、何時でも相談してね。といつも言ってる。
	*自分はアナログなのでゆっくりペースを進めている。

・民生委員・児童委員の方々の参加が多く、「担当地区にひきこもりの 複数人居住のため対応の仕方を学びたい」、「民生委員に何ができるか	
	知り
たい」、「町内会にひきこもりがいるので少しでも役に立ちたい」など	、地
実施成果 域ぐるみで取り組もうとする意識の高さがうかがえた。また、講演会後	
決定事項響も高く、「毎年開いてほしい」との声も挙がった。	~ ~
・この講演会をきっかけに、民生委員・児童委員との連携を強くし、身	近な
地域における、ひきこもり支援の促進につなげたい。	
・村岡先生の講演で、ひきこもりの心理、その特徴、かかわり方を段階	的に
理解できた。パワーポイントの内容が資料に印刷されているので、後で	-
くり読んだり、考えたりできる。	
・高齢者の相談者になっているが、若い人の相談者になっていない。な	らな
ければという意を高めた。	J 0.
・地域の方々に関わっていく時の感性の大切さを理解できた。	
アンケートから見えた・母親との関わり方や地域連携する上での基本的な考え方や支援を学べ	た。
良かったこと・から・ころセンター(家族会)の大切な働きを知ることができた。	. =0
・民生委員の責務を自分が担うことになって一年二ヶ月。抱えている問	題に
少しづつでも、近づきたいとおもい、その一歩となった。	
・26 年度のひきこもりサポーターの研修を受けたが、実質的に自分の地	域の
そうした人達の力になりたくても、家族からの悩みは聞けないと思った	
演などを聴いて、色々な角度からの知識を得たいと思い参加した。	
支援者として、地域で孤立した潜在的家族に対する見守りをどうしてい	けば
いいか?(近所にひきこもりの兄弟を持つ家庭があり、親は他にも知られ	いる
こともとても嫌がっており、なかなか実態をつかめない。近所からの情	報を
得て見守りしている)	
学習会・アンケート ・親が隠す、SOSを発しない。家族は隠したがるので、まわりは知らなり	ハふ
から見えた課題などりしているほかなく、何もできない。学校も情報を提供してくれない	
・(SOS の発信がなく)どの家庭にひきこもりがいるか把握できない。	こち
らも家族からの相談がないと動けない。	
・(親の防衛が強く)本人の防衛も強い。近寄れない。本人に会うこと	がで
きず、どのように接したらよいかが難しい。	
・生活困難家庭の支援は、これまで高齢者や経済的困難への取り組みが	中心
でしたが、最近は将来の心の支援が大切になっているように思う。	
・指導するのではなく関係機関にいかに繋ぐかが私達の仕事だと再確認	した
・民生委員、主任児童委員として、親との話の聞き方、受け方を参考に	しよ
今後の取り組みうと思う。・近所からの情報収集。親への情報提供	
・から・ころ事業のお手伝い ・時々訪問して話を一時間ほど聴いてあり	げる。
・子ども達は町内の宝。不登校の子供を見かけると声かけや、おかえり	等、
話しかけている自分です。・自治会としての日常の活動の推進。	

山形市

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

ひきこもりの理解と対応

生活困窮者自立支援法が平成 27 年 4 月から本格施行されます。地域で様々な困難を抱えて生きている方々にとって、支援の手が行き届き、温かく住みやすい地域になる様に願っています。

今回は、日々地域のために御尽力なさっている山形市の民生委員・児童委員の方々を対象 として「ひきこもりの方への理解と対応についての講演・学習会」を開催いたします。

生活困窮者予備軍とも言われるひきこもりの方に対しての基本的理解と対応について学んでいただき、今後の活動やネットワークづくりにお役立て頂きたいと考えておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

- 1 日 時 2月17日(火) 午後1時30分~午後4時
- 2 場 所 山形市平久保 100 電話: 023-635-3100 山形国際交流プラザ山形ビッグウイング 3 階試写室
- 3 内容

講演【ひきこもりの理解と対応】

社会医療法人二本松会 上山病院 村岡義明先生

対談【ひきこもり支援の取り組みについて】

NPO法人から・ころセンター 伊藤正俊

認定NPO法人発達支援研究センター 木内千恵

- 4 参加費 無料
- 《主催》NPO法人全国引きこもりKHJ親の会(家族連合会)
- 《共催》 NPO法人から・ころセンター (米沢市)
- 《後援》山形市

山形市民生児童委員連合会

認定NPO法人発達支援研究センター(山形市)

米沢市

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

ひきこもりの理解と対応

生活困窮者自立支援法が、平成27年4月に施行されます。地域で様々な困難を抱えなが 6生きている、生き辛さを感じている方々にとって、少しでも住みやすい地域、温かい地域になるように、また支援の手が行き届くようにと創られた制度です。今回は、生活困窮 者予備軍と位置付けられている、「ひきこもりの理解と対応」というテーマで日々地域のために御尽力頂いております、民生委員・児童委員の方々を対象とした、講演会・学習会を 開催致します。

「ひきこもり」について基本的理解と対応についてご理解を深め、今後の活動にお役立て 頂きたいと考えておりますので、皆様のご参加お待ちしております。



※受付締め切り 2月16日 (月) ※

★場所 山形県米沢市西大通 1 − 5 − 5 アクティー米沢 2階 大会議室

₩ 時間 13:30~16:00

* 内容と講師

【ひきこもりの理解と対応】

二本松会 上山病院 村岡義明先生

【から・ころセンターの取り組みについて】

NPO法人から・ころセンター代表理事 伊藤正俊

《主催》NPO法人全国引きこもりKHJ親の会(家族連合会)

《共催》NPO法人から・ころセンター

《後援》米沢市社会福祉協議会

「ひきこもりの理解と対応」

社会医療法人二本松会上山病院 医師 村岡義明 H27.2.23 *沢市 アクティー米沢

(独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業)

本日のお話

- 1. 「ひきこもり」とは
- 2. 「ひきこもり」の実態
- 3. 「ひきこもり」の背景要因
- 4. 「ひきこもり」の心理と、行動、精神症状
- 5. 「ひきこもり」の精神医学的背景と援助方針
- 6. 「ひきこもり」のプロセス
- 7. 「ひきこもり」への基本的な対応
- 8. 「ひきこもり」への家族支援
- 9. 本日のまとめ

「ひきこもり」とは

- ■「ひきこもり」という病気があるわけではない。 (状態像である)
- ■「ひきこもり」はさまざまな要因によって社会的な 参加の場がせばまり、自宅以外での生活の場 所が長期にわたって失われている状態。
- ストレスが大きくなったときに、消耗した心を守ろ うと、いわば殻に閉じこもり、防御している姿。

「ひきこもり」の定義

■様々な要因の結果として社会参加(義務 教育を含む就学、非常勤職を含む就労、 家庭外での交遊など)を回避し、原則的 に6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとど まり続けている状態(他者と交わらない形 での外出をしてもよい)。

(平成19年度厚生労働科学研究、齋藤万比古ら)

支援を必要とする「ひきこもり」

- 社会参加の回避が長期化し社会生活の再開が著しく困難になってしまったために、当事者や家族が大きな不安を抱えるようになった。
- 家庭内暴力や顕著な退行、あるいは不潔恐怖や手洗い恐怖などが深刻化したり、幻覚や妄想といった精神病症状が顕在化したりといった、何らかの精神障害の症状が顕在化し、その苦悩から家庭内の生活や人間関係さえ維持することが困難になっている場合。
- ■精神保健・福祉・医療の支援。

「ひきこもり」はどのくらいいるか?

- ■「これまでひきこもりを経験した者」は1.2%。
- 現在20歳代の者では2.4%が一度はひきこもりを経験。
- ■「現在ひきこもりの子供がいる世帯」は0.5%。
- →全国で約25万世帯が「ひきこもり」者を抱えていると推測された。
- (ただし、これは下限値であり、実際にはより多くの世帯がひきこもりの者を抱えていると思われる)
- →山形県に当てはめると、約2000世帯

「ひきこもりの者」の特徴(川上憲人ら)

- 1. 男性に多い。
- 2 20~29歳の者に経験者が多い。
- 現在ひきこもりの中の者は、20歳代後半が最も多い(40歳代の者もいる)
- 4. 親が高学歴の家庭に多い。
- 5. 子供時代の被養育体験、困難な体験との関係は不 明確。
- 回避傾向、動機の低下が認められる状態(自分の 状態に困ったとは感じる。学校・仕事には行きたくな かった。家庭内暴力の事例は少なかった)
- 7. 精神障害の合併例は約半数(ただし、この調査では 統合失調症、発達障害については調べていない)

社会的ひきこもりの背景要因

(近藤直司より)

- 1. 本人の要因
- (1)生物学的・身体的要因
- 精神疾患、身体疾患、発達の遅れ・偏りなど
- (2)心理的要因
- 不安・恐怖感・おびえ■ 自己愛的な傷つき、自己否定、希望の喪失
- 内的世界へのひきこもり、厭世感、防衛機制
- 2. 環境側の要因
- 社会的要因家族状況、友人関係、学校・職業の状況文化的特性、社会・経済状況

社会的ひきこもりの文化・社会的背景

- 若者の自立・自活やモラトリアムに対する意識・価値観 (自立を重視しない家族文化)
- 経済状況
- 過剰な競争社会や勝つことを諦めた若者の無気力
- 親世代の経済的余裕と子世代の働くことの価値観の相対化
- インターネットの普及や子供の遊び方の変化による社会的(対人関係)技能の低下
- 社会参加につまずいた青年を対象とする就労システム の不備
- * 今の社会は言語コミュニケーション能力の高さが重視 されており、それができない人は流れからはずれ、ひき こもる傾向にあるのではないか(高塚雄介)

ひきこもる心理と行動

- 自分はたいした人間ではなく、そこをつかれては困る。
- 傷ついて、立ち直れなくなったら困ると社会から遠ざかり、ガードに入り、ひきこもる。
- ガードしてひきこもっていても、いつかよくなる 保障はない。
- 安心して引きこもれずに不安がどんどん強く なる。
- 不安が強くなると、周囲が困る行動をする。

「ひきこもり」に伴う精神症状

- 1. 人とつきあう場面を避ける。
- •不登校
- •対人恐怖症
- 2. 不安感が強い。
- ・被害関係念慮:先が見えなくて、不安がどんどん募り 妄想様になる。
- ・強迫症状:ひきこもっている自分の状態を維持するためにおまじないや儀式行為にすがる。
- ・心気症状:自分の身体の不都合に対してすごく敏感になる。

「ひきこもり」に伴う精神症状

- 3. 状態から派生する周囲が困る行動
- ・昼夜逆転:生活リズムの乱れ:運動不足や光 の刺激が入らないため目がうまく覚めない。
- 退行:行動が子供っぽくなってきて、生産的に 考えることができない。
- 家庭内暴力:ひきこもりになってしまったのは 親のせいだ。
- ・希死念慮:どうしようもない。こんなことをしていたらこの先出ていけない。死んでしまった方がいい。

社会的ひきこもりの精神医学的背景(近藤直司より)

<第1群>

統合失調症、気分障害、不安障害、など

<第2群>

精神遅滞、広汎性発達障害、など

<第3群>

パーソナリテイ障害、身体表現性障害、など (気分障害や不安障害のうち、薬物療法よりも 心理・社会的支援が中心と判断されたものを 含む)

<第1群>(背景)

- 幻覚や被害妄想などの精神病症状によって対人 関係からひきこもる
- 生活全般にわたって意欲や活力が著しく低下している
- 不安や緊張、恐怖感のために社会的活動が著しく制限されている

<第1群>(治療・援助方針)

- 薬物療法などの生物学的治療が不可欠ない し有効性が期待される。
- 精神療法的アプローチ
- 福祉的な生活・就労支援

<第2群>(背景)

- 適応障害(心因反応)や社会恐怖(対人恐怖) などの二次的な精神医学的問題を併せて生じ ている。
- 生まれつき、学力や社会性などの面で同年代 の人についていけないところがあり、青年期に 相応の社会的機能水準に及ばない、あるいは 外傷体験が重なったことで自己評価の低下や 被害感などの二次障害を来たし、社会参加が 困難になった。

<第2群>(治療・援助方針)

- 個々の発達特性に応じた心理療法的アプローチ
- 社会生活技能訓練(SST)
- 生活、就労支援
- 二次障害としての精神症状が強ければ薬物療法も

<第3群>(背景)

- 何らかの性格特性や神経症的傾向がひきこもりの中心的なメカニズム。
- 何とかしなければと思っているが、失敗を恐れる気持ちが強すぎて行動に移せない。
- (もともとは社会的な場面で強い不安・恐怖感があったが 、ひきこもり、刺激を回避することによって、現在は軽 減している。本人も現状を変えようとは考えていないの で、その状態が固定化)
- 自尊心が傷つくことに敏感で、あらゆることに対して回避的。
- 外出や就労を迫られると、動悸や呼吸苦、消化器症状などの身体症状が起きる。
- 厭世的で万能的な感覚が強い一方、依存的・他罰的な 傾向が強く、自ら問題を解決しようとする動機付けはあ いまい

診断に関する研究から(近藤直司)

- 家族要因や文化的要因、社会的要因などの環境要因が深く関与しているものの、深刻なひきこもり状態にある人のほとんどは何らかのメンタルヘルス問題ないし精神疾患や発達障害などによる生活機能障害を有している。
- これは、ひきこもりのケースのすべてが精神科医療の対象であることを意味しない。むしろ、診断によって、心理・社会的支援の必要性が明らかになる。
- ひきこもりの背景は多様であり、原因・対策を一様に論じることはできない。

- ■「精神医学的背景」について検討することは、 「診断する」ことが目的ではなく、「援助方針を たてる」ことが目的である。
- ■「ひきこもり」=「精神的な病気」とのレッテル 張りではない。

「ひきこもり」のプロセス

ひきこもりの経過(蔵本信比古より)

①混乱期

②やや安定期

③安定期

④ためらい期

⑤試しの時期

①混乱期

- 部屋から出ない、会話がなくなる、など。
- (本人)どうしたらいいか分からない、やり場のない 気持ち。
- (家族)「何とかしなければ」とあせり、いらだつ。

<対応方法>

- 長くは続かないことを理解する。
- ・現状をありのままに受け止め、無理をしない。
- 余計なことはしない
- (×強引に立て直しをはかる)
- (×病院に無理矢理連れて行く)
- ・少し距離を置いて見守る。
- ・親の方から子供に寄り添う。
- (本定しない 傷入しない)

かかわりのパターンのチェック

(蔵本信比古より)

- ①命令(指示)
- ②否定(拒否)
- ③叱る(けなす)
- ④非難(批判)
- ⑤説教(講釈)
- ⑥質問(問いかけ、問いつめ、尋問)
- ⑦探る(探りを入れる、聞き出す)
- ⑧提案(促す)
- ⑨忠告(たしなめる)
- ⑩激励(なだめる、おだてる)
- ⑪妥協(あきらめ、手を余す)
- (12)許可(許容)

②やや安定期

引きこもってはいるが、混乱は少ない。

(本人)

気持ちは一応落ち着くが、焦りと不安を抱えている

(家族)

焦ったりいらだったりしても、逆効果なものだと 理解できる

<対応方法>

・専門機関に相談しつつ、本人を見守る

③安定期

- 少しずつ、家族のコミュニケーションが回復
- (本人)気持ちが安定し、信頼できる人となら話 をしたいと思う。
- (家族)気持ちにゆとりができ、ほっとする時間 が増える。

<対応方法>

- 無理のない働きかけをしながら、機が熟すのを待つ。
- いったん立ち止まる。
- ・本人に向けて「いい」と言う。

「いい」と言うこと

■ 親子関係の改善:

快刺激を与えることで、心の殻を固く閉ざさない ようにする。

4ためらい期

■「何かしようかな」と、ほのめかすが実行には至らない。

(本人)何かしたいが、自信が持てず不安でいっぱい。 (家族)再び焦りが出始めるが、周囲の支えを得て、本 人を見守り通せる。

<対応方法>

- 目標を高く設定せず、せかさない。
- ・周囲から動かそうとしない。
- ·親子のコミュニケーションの組み合わせの最初のか み合わせを作る。

(子供の気持ちを言葉にする。)

(親の気持ちを伝える。)

やりとりの工夫

- ①「今ここで」の気持ちを忘れずに
- ②肯定的なメッセージを送る
- ③相手の気持ちを受け止め、それをそのまま返す
- ④こちらの考えを伝えたいときは、必ず相手の 気持ちを並べて言う。
- ⑤結論を急がない。

⑤試しの時期

- 適度な対人交流や自分なりの社会参加が可能
- (本人)試行錯誤で行動を起こしつつ、様子をう かがう。
- (家族)つい欲が出て、本人の行動に一喜一憂 しがち。親自身も自分の楽しみを見出せる。

<対応方法>

- 親子それぞれのペースで、それぞれの活動を 尊重する。
- •変化けいつも「いい変化」

家族や周囲の方に理解してほしいこと

- ①「ひきこもり」は誰にでも起こりうる事態である。
- ②「挫折」や「正当に評価されなかった」、「周囲から受け 入れられていない」と感じる体質がもとで本人が自信や 安心感を失っている状態で、「怠け」や「反抗」ではない。
- ③過保護や放任などの親の子育ての仕方や家庭環境など、過去の家族の関係が原因とは言えない。
- ④子育ての期間に生じる「問題」と思われるような事柄は、 どの家族にも必ず一つや二つあるもので、そのことで自 分自身を責めないように。
- ⑤対処の仕方次第で、徐々に解決できる問題でもある。

「ひきこもり」への対応(齋藤環より) 1)家族の基本的な心構え

- 1. 本人も苦しんでいることを理解する。
- 2. 「原因探し」「犯人探し」は意味がない。
- 3. 家族で取り組む覚悟が大事。
- 4. 子ども一辺倒はやめよう。

「ひきこもり」への対応(齋藤環より) 2)本人とのコミュニケーションの基本姿勢

- 本人を相談や援助・治療に結びつけるためには、家族への不信感や警戒感を解かせ、家族の中で本人の気持ちを安定させることが最優先。
- ①まずは、あいさつから
- ②次は無難な会話を
- ③とにかく本人の話を聞く
- ④言いなりにはならない

「ひきこもり」の対応(村尾泰弘より)

(ひきこもりの特徴)

- 親との関係が悪い。
- 親や家族との間だけで、怒りや暴力が繰り返される。悪循環の渦。

(ひきこもりの家族支援)

- 親との信頼関係の構築。
- 家の中に居場所を作る。
- いかに快適な家をつくるか。

「まずは、家族が元気に」

- 家族自身が疲れないこと。みんながそれぞれ、一息入れる時間や場所をつくる。
- 親として子供に対応して、自分達のやり方の「 よかったこと」「工夫したこと」に注目する。
- 家族それぞれの考え方や感じ方は違う。 お互いの生活や生き方を尊重し、大切にする。 (ほどよい距離を保つ)

家族自身が疲れていませんか?

- 本人だけでなく、家族も心配や焦りなどから疲れ切ってしまっている。その疲れが家族の生活にも様々な影響を与えてしまう。
- 人付き合いが減る。世間の目が気になる。
- 子供のひきこもりはすべて自分の責任だと感じてしまう。
- いろいろな援助の試行錯誤がうまくいかず途方に暮れてしまう。
- 将来の設計がたたないので不安。
- 楽しみにしていた趣味の活動をやる気がしない。
- ■よく眠れない。
- 食欲がない。

対応のまとめ

- 家族だけで抱え込まない。
- (家族自身が「ひきこもり状態」にならないように。
- 家の中の風通しをよくする工夫。
- (家族自身に心のゆとりができることで、家の中の緊張がゆるみ、本人もリラックスし、本人がゆとりを取り戻し、エネルギーがためられるようになる)
- コミュニケーションが大切。
- (言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション)
- (本人とだけでなく、家族間でも)

家族支援について

- 家族自身の安定。
- 家族に本人とのかかわり、対応の仕方について理解してもらう。
- 家族機能の回復。

ひきこもりの家族支援の例

- 村尾泰弘
 - ADHD(注意欠陥・多動性障害)のペアレント・トレーニングをひきこもりに適用。
- 野中、山本ら
- CRAFT(コミュニティ強化と家族訓練プログラムをひきこもりに適用
- 境泉洋

(ひきこもり対策研修、H27.2.10 東京)より

行動を3種類に分ける

- 好ましい行動
- 肯定的な評価・行動をほめる
- 好ましくない行動

無視→待って→ほめる

(ただし、ひきこもりの家族の場合、

「そっとしておく」「放置」→ひきこもりの強化になること も)

- 危険な許しがたい行動
- 警告と制限と罰(ペナルティ)

(タイミングによっては、家庭内暴力の増強のリスクも)

「ほめる」ということ

- 「ほめられることを見つける」ことは、親自身も プラス思考になること。
- ひきこもっている本人の気持ちになると、 「ほめられる」
- →「できていることが認められる」
- →「うれしい」
- →「自己肯定感 1」
- →「本人の気持ちにゆとり」
- →「家族関係の改善」
- →「動き出し」につながる

家族関係の基盤

- 信頼関係ができていれば、ほめると子どもが喜び、しかると子どもは反省する
- 信頼関係が崩れていると、<u>ほめると子どもは嫌がり</u>、しかると子どもは反抗 する
- (この背景に「警戒心」がある。警戒している相手からほめられると、「裏があるんじゃないか」、「次に嫌なことを言われるんじゃないか」と思ってしまう。

警戒心を緩める方法

- ①子どもが嫌がることをしない
- ②子どもが安定することをする
- * それぞれどんなことがあげられますか。 できるだけたくさん考えてみましょう。

望ましい行動を増やす方針

- 警戒心を緩め、家庭の雰囲気を穏やかにする。
- 望ましい行動を見つける (今現在やっていることの中から。 「やってほしい行動」ではない。)
- 望ましい行動がなぜ起こるのかを考える
- 望ましい行動が起こりやすい工夫をする
- 望ましい行動をしたときに「ほめる」

望ましい行動を引き出す工夫

- 1. 自由に行動できるように、安心できる接し方をする。
- 2. 望ましい行動をお子さんがやれるように、家族がや らないで、あえて残しておいてあげる。
- 家族が望ましい行動を楽しそうにやっている姿を見せる。
- 4. 望ましい行動を一緒にやらないか軽く誘ってみる。
- お子さんに手伝いとして望ましい行動をやってほしいと頼んでみる。
- 6. 望ましい行動をしたらごほうびをあげる約束を提案 してみる。

ポジティブなコミュニケーションスキル

- 短く
- 肯定的に
- 言及している行動を特定する
- 自分の感情を明確にする
- 思いやりのある発言をする
- 部分的に自分の責任を受け入れる
- 自省を促す
- 援助を申し出る

相談を促す時のポイント(境泉洋)

- 本人が同意した場合、つなげられる場所を確保しておく。理想的には2か所以上選択肢を 用意しておく。
- タイミングを見逃さない。本人が同意した後は 即座に動く(例:受診する、予約を入れる、な ど)
- 一度で結論を見いだす必要はない。

受療を勧めるタイミング(境泉洋)

- 重大な問題を起こして後悔している時。
- 自分の問題について、まったく予想していなかった意見を聞いて、動揺しているように見える時。
- 家族がカウンセリングをやっていることを尋ねられた時。
- 家族の行動が変化した理由を尋ねられた時。

まとめ

- ■「ひきこもり」の者の多くには「社会文化的要因」の他に、何らかの「精神医学的な背景要因」または「その傾向」がうかがえ、何らかの支援が必要と考えられている。
- ■「経過」と「背景」をみながら働きかけをすすめる。
- (家族と本人が)ほどほどの距離をとる。
- 状況に応じて相談機関を利用していく。
- ■「家族機能」が低下しているケースがほとんどであり、 家族に対しても支援が必要。

(家族を支えて、本人を支える)

全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)

3. 北陸ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

北陸ブロック(石川)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015 年 1 月 11 日(日) KHJ 親の会北陸会 1 月例会親の学習会
実施(連携)団体名	KHJ 北陸会(全国引きこもり KHJ 親の会石川支部)
会場	石川県女性センター (石川県金沢市三社町1-44)
参加人数	参加者総計 25 名 (講師 1 名、会員 14 名、講師兼ピアサポーター1 名、非会員 5 名、 協力員 3 名、他の団体支援者 1 名)
広報	チラシ印刷 (220 枚)。 配布先:家族会会員、非会員、協力員およびボランティア、医療機関、 行政機関、社団法人、新聞社
実施内容(次ページへ続く)	・講師からの講義や体験談を進めてもらいながら、参加者からの状況を聞きながら、双方向対話になるよう、学習会を進めてもらう。全体の前では、なかなか発言しなくなりがちの会員さんが多いので、盛り上がりが心配されるが、分かりやすい方法をとってもらう。 1. 学習会 ・私の引きこもり体験を振り返りながら(12:35~13:30)ピアサポーター 谷 一真さん… 発病から入院、退院からひきこもりまでの家族とのかかわりを体験談として、お母様の優しいユーモアあふれるフォロー、家庭内での何か家事を分担する大切さ等を話した。 ・ "家族の中の自分を見つける試み" (13:40~15:00) КHJ 本部 家族相談士 上田理香 氏… 苦しかったひきこもり時期の想いを語る中で、常識的な価値観のお母様との葛藤でさらに追い込まれていた時、「あなたを死なせないからね」とおっしゃられたお母様の言葉で、自身が認められたという強い確信を得ることができ、元気になられたと体験談を活かしながら、家族との関係の大切さ、家族からの心からの支えの重要性を説いた。家族の中の自分を見つける意義は子どもの回復のために、自分が変わらざるを得なく、自分が変わるためには自分を理解し知るしか道はなかったという父親の言葉の通り、4点の意義が講義された。 ①世間・周囲から離れた内なる心の目を意識する。 ②家族のルーツを振り返り、不合理な思い込みを解放する。 ③自分の言葉で自分の人生を正直に語ってみる。 ④世帯間家族・夫婦関係が子どもに与える影響を知り家族を安全基地にする。 2. サークル会 36 に分かれ、近況など (バイトに行けた、上司に意見を言えたなど)

開催の模様 (写真)	(39) (39) (11日に学習会 11日に学習会 1	写真
実施成果 決定事項	に関わったらいいかということへの ・家族間の葛藤は長く続き、これが ・どのように学び続けるかというこ テーマでもあるが、会としてどうず	ということよりも、日常的にどのよう D関心の方があったのかもしれない。 いらのテーマと感ずる参加者もいた。
開催に関連する 新聞記事	・いつも例会当日にお知らせ欄に言 前に記事として記載してもらった。 り、表現上の問題点に気づけなかっ	
紹介記事の反響	・問い合わせがあり「行く」とのこ 確認ができなかった。	ことであったが、来られたかどうかの
アンケートから見えた 良かったこと	・あらためて家族とのコミュニケー・体験された方のお話しが聞けて理・役割の大切さに気付いてよかった・自分が楽しめる人生の見直しを関・特に親が自分自身を振り返るとい・子どもの問題であるとする捉えができたのかもしれない。	里解が深まった。 こ。 と 感。
学習会・アンケートから見えた課題など	いうことばかりで、自分としては~ ・対話がない。これが全て。	工夫が必要。 作業をするか、いかにお金を生むかと つらい。 どのようにできるのか、悩みます。 友達がいない。

	・本人の心のうちはわからないが、全く外へ出て社会生活をする意志を
	感じられない。この状況をどうすれば多少でもやってみる気にさせる手
	立てを入手できるか。見知らぬ人に会うのはもちろん、おじさんにも会
	いたがらない。非難されると思うのかさえもわからない。人に会いたく
	ない!と捨て台詞を吐くのみ。
	・発達障害の人の対応について勉強しなければいけないと思っている
	が、できていない。
	・親として今後も学び続けること。
今後の取り組み	・北陸会に参加して、学習会を大切に継続する。
	・自分を見つめ直し、自分が楽しめる人生を意識してみる。

KHJ 親の会石川県北陸会 2015 年 1 月・月例会

一 親のための学習会 一

子どもも家族も元気になるのはどんなことで・・・?しんどい心の中のモヤモヤをほどいたり、 気づかなかった自分見つけをきっかけに、家族と自分の関係を見直す機会のために学習会を開催 します。自分や家族を見直し始めることで、家族と子どもの元気回復の可能性を願って!!

"家族の中の自分を見つける試み"

講師 上田 理香 氏 全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)本部

ピアカウンセラー 谷 一真 さん (ガイドヘルパー)

上田理香氏略歴

● (家族相談士・産業力ウンセラー)大学で心理学を専攻。卒業後、社会とうまく繋がれず転職を繰り返す中、28歳のとき、数か月の社会的ひきこもり状態を経験。親子関係の葛藤(親子二重のひきこもり)に向き合う過程で、「親が楽になると子が楽になる」ことを実感する。2012年より、全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)、SCSカウンセリング研究所の門を叩き、以降、ご家族の支援に携わっている。2013年からは、厚労省社会福祉推進事業「ひきこもりピアサポーター」養成研修派遣事業を担当、運営に従事。その他、東東京支部楽の会リーラ家族会、SCSカウンセリング研究所カウンセラー、メンタルクリニックでの心理カウンセリングに従事。

谷一真さんプロフィール

- ●ガイドヘルパー。白山市自立支援協議会の精神障がい者自助グループびあ sky 代表。
- 1. 日時 平成27 (2015) 年1月11日 12:30~16:30 12:30~14:25 (学習会) 14:35~16:30 (サークル会)
- 2. 場所 石川県女性センター 4F コンベンション室 2F第3研修室
- 3. 参加費 非会員: ¥1, 100 会員: ¥1, 000
- 4. 主催 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合)
- 5. 共催 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合)石川県北陸会
- 6. WAM 事業 ~ "ひきこもり問題の社会的理解・支援事業"
 - ——独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業——
- 7. 後援 北國新聞社

【家族の中の自分をみつける試み】

(KH丁本部 家族相談士 上田理香)

家族の中の自分をみつける試み ~親が自分自身を振り返る意味~

「子どもの回復のためには、自分が変わらざるをえなかった。

自分が変わるためには、自分を見つめ、自分を知ること(自己理解)が必要だった」

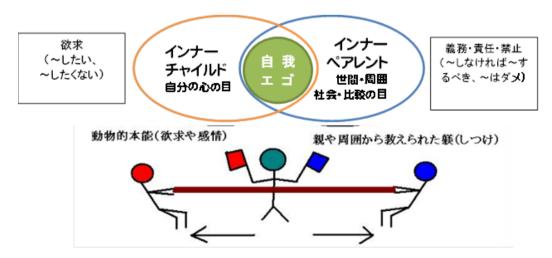
- 【1】世間・周囲から離れた内なる心の目を意識する。
- 【2】家族のルーツ(源家族)を振り返ることで、不合理な思い込みを解放する。
- 【3】自分の言葉で自分の人生を正直に語ってみる。
- 【4】世代間家族・夫婦関係が子どもに与える影響を知り、<u>家族を安全基地にする</u>

【1】世間・周囲から離れた内なる心の目を意識する。

「親の変化について。世間の常識や偏見から自由になり、親が自分自身と向き合い自分をオープンにするようになった。親を、はじめて血の通った人間と感じ、親と話したいと思えるようになった」

ひきこもり者にとっての生き辛さは社会・世間(多数派)に適応しづらいこと。大事なのは、「社会的立場」より「どう自分を生きていくか?」。我慢を重ね消耗した心と身体からは、強制されて動けるエネルギーは少ない。 就労支援より、人生支援。まず、自分の欲求・興味の沸くところ、安心できるところ(安全基地)から動き始め、少しずつエネルギーを貯め、自分づくりの足固めをしながら、ひきこもりの時間は変化する。その最初の安全基地となる場所が家族である。親が世間一般の目だけで生きようとすると、子どもの安全基地は保たれない。子どもの問題を何とかしなきゃと思っているうちに、親は自分を見失っていることも多い。親もまた、自分の人生を見つめ、「私」を知り、「私」を変えていく時間を持つことが必要になる。子どもが変化するためには、親の変化、成長が必要になる。

「私」とは何でしょうか? 周囲の教えに従う、周囲から期待された「私」(インナーペアレントに従順な私)と、自分の欲求や感情に正直な「私」(インナーチャイルドに正直な私)がいます。インナーペアレントが強すぎると、常に周囲の人々に合わせる「いい人」になります。しかしそれでは、「私」が死んでしまいます。「私」の欲求を殺さずに、内なる親と子をコントロールしていく「力」、自我機能が大切です。自我機能が高まれば、自律力(自らの意思で判断し、自分で選択する力)を高めていくことができます。



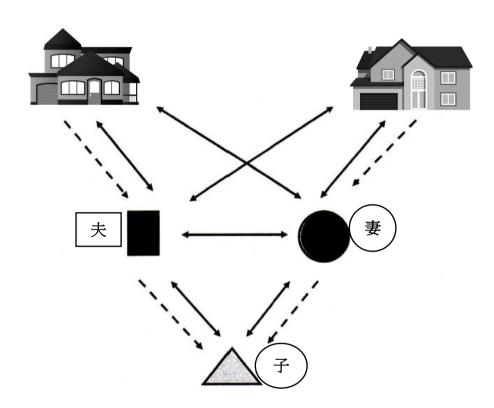
【参考文献】斎藤 学(著) 『「家族神話」があなたをしばる 元気になるための家族療法』NHK 出版

【2】家族のルーツ(源家族)を振り返ることで、不合理な思い込みを解放する。

「親が子に示していた世間は、親自身の源家族、生い立ちの中で刷り込まれた狭い価値観のひとつだった」「自分が育ったようにしか、子どもを育てていなかった。それが幸せになる道だと信じていた」

- ①夫婦それぞれの源家族
- ②暗黙のファミリールール(家族だけに通用するルール)・・・・半ば無意識に行動しているもの
- ③忠誠心 (親から代々受け継いでいるもの、関係の絆)
- ④役割期待(例:長男・長女として、妻として、母として)
- ・・・・家族の役割の他に、「ひとりの個人」として生きる「私」の時間を考えてみる

(例:家族会での新しい生き方・趣味や学びを通した自分のための生き方)



【3】自分の言葉で自分の人生を正直に語ってみる

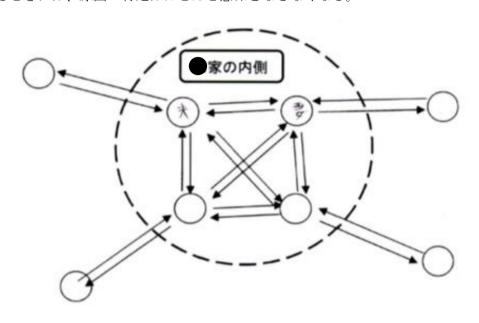
(自分について自己開示した分だけ、自己成長できる)

親の成長(親が自分と向き合う力)と、子どもの成長(自分を生きる土台づくり)は相まっている。 「親が、自分の生い立ち、親自身の挫折経験と向き合い、語り始めたとき、自分の気持ち(自分づくりの苦しみ)がわかってもらえる親になったと感じた」

「『自分が何もないのに、空っぽなのに、(外なんかに) 出られるわけがない。お母さんだって、自分を生きていないじゃないか。そんな親に、自分のことを理解してもらえるわけがない』と息子に言われた。親として何も答えられなかった。自分を生きるって、どういうことだろう? 私はどんな風に生きてきたのか、自分の生き方を振り返って何を思うのだろうか?」

【4】世代間家族・夫婦関係が子どもに与える影響を知り、家族を安全基地にする 家族は相互影響の関係にある。(相互に関わり合い、影響し合っている)

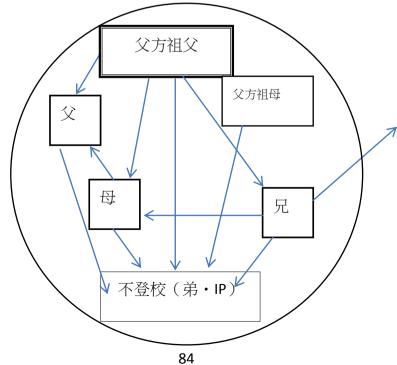
子供に問題が起きると、個人の問題ばかりに目が向きやすい。しかし、問題の因子に関わるものは、外側の関係、内側の関係、多くの要素が絡み合い影響し合っている。家族全体で問題を理解するときには、原因の特定はほとんど意味をなさなくなる。



●事例)三世代同居で不登校の子を持つ閉鎖的な家族

・IP (問題を抱えている人) は家族の中で、一番弱く、家族の負荷、影響を受けやすい立場である場合が多いため、問題を発症しやすい。

家族は、全てが影響しあっているため、誰か一人の小さな変化であっても、その影響は全体に 及ぶ。



北陸ブロック(新潟)における学習会活動

開催日・開催タイト	2015年2月21日 (土)	
ル	ひきこもりとその家族のためのフォーラム in 佐渡	
実施(連携)団体名	NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」	
	(全国引きこもり KHJ 親の会新潟支部)	
会場	佐渡市消防本部防災センター 2階 多目的ホール	
参加人数	約60名(家族、当事者、支援者、行政関係者など)	
<u> </u>	チラシ印刷:300枚 チラシ配布先配:15か所 (行政関連関係障害	
広報	者等の支援施設、民間不登校、ひきこもり支援機関など)	
	【 開 会 の 辞 】 13:00~13:05 (5分)	
	本間まゆみ 氏 (NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」佐渡支部)	
	【 来 賓 挨 拶 】 13:05~13:15 (10分)	
	佐渡市社会福祉課長 鍵谷 繁樹	
	【 講 演 】 13:15~14:30 (75分)	
	講師:三膳 克弥 氏 (NPO法人 KHJ にいがた「秋桜の会」理事長)	
	演題 「ひきこもりの現状と家族支援」	
	【 休 憩 】 (15分)	
	【シンポジウム】 14:45~16:15 (90分)	
	「ひきこもりの親は語る過去・これからの事」	
実施内容	パ ネ ラ ー : ひきこもり者の母親3人	
	【家族会の説明と発足】 16:15~16:30 (15分)	
	【 閉 会 挨 拶 】 16:30~16:40 (10分)	
	【シンポジウム概要について】	
	当事者家族のシンポジウムでは、母親3	
	名が自己紹介と共に、ひきこもったわが	
	子の経緯、その時の親の心情について語	
	った。苦しみの中、どのように協力者と	
	繋がり、親自身の心の拠り所を持っていったか、また、家族会に入って	
	からの学びと共に、親自身が変化し、家族が変化ながら、これから子ど	
	もにどのように生きて欲しいと願っているかが語られた。	
	・この講演会をもって、NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」佐渡支部が誕生	
実施成果 決定事項	した。	
	・佐渡市、佐渡市教育委員会、新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部か	
	らの後援を受け、今後のひきこもり家族支援への理解をいただいた。	
	・佐渡の既存組織との課題の共通認識を持つことができた。	
開催に関連する 新聞記事	・「市報さどお知らせ版(2月号)」に講演会の告知情報が掲載された。	

紹介記事の反響	・市に数件の問合せがあった。
	・新潟から3名のひきこもりの母親の方がわざわざ来ていただき、体験
	談を話してもらった。家族でないとわからない辛さや悔しさが伝わって
	きた。
	・親が子供の理解者であり、協力者、支援者であることの大切さを再認
	識させてもらった。
	・同じ悩みを持った方々と話せる会が出来る事は素晴らしい。自分
	一人で考え込まないで、本音が話せる、聞いてもらえること、相談
	できること、情報をもらえるができること等、仲間がいることの
アンケートから見えた	大切さを学んだ。・第三者の存在的役割がわかった。
良かったこと	・本人と関わるだけでなく、家族の支援も大事なのだと感じました。
	・家族支援の大切さ、難しさが良く解った。
	・子供への受容、共感的態度の育成での家族による会話の大切さ。
	・兄弟の思いにも耳を傾ける必要がある事。
	・夫婦の感覚の違い、父と母の考えの違いはあるが、子供のことは
	二人で相談することがとても大事。夫婦は同じ方向を向くことが大切で
	あること。・家庭には笑いが大切。・親の高齢化と長期化の問題を聞け
	て、ひきこもりの問題をより意識することが出来た。・過去は振り返ら
	ず、前に進みたい。
	・当事者家族との地盤作りが今後の課題である。
	(下記、アンケートからの抜粋)
	・本人と関わるだけでなく、家族の支援が非常に大事。
学習会・アンケート	夫婦の感覚の違い、父と母の考えの違いがある。 (→子供のことは二
から見えた課題など	人で相談することがとても大事。夫婦、家族が罪悪感を持つことなく同
	じ考えで対応し、同じ方向を向くことが大切)
	・兄弟(姉妹)の思いにも耳を傾ける必要がある事。
	・親の高齢化と長期化の問題について。
	<親の立場から>
	・怒りたくなるが、腰に力を入れて我慢する事(冷静さを保つ)。
	・今の状態で諦めている部分があったけれど、少しでも色々なところに
	参加して、最後まで諦めてはいけないと思った。
	・人を変えるには、自分自身を変える必要があり、それは大変重要なこ
今後の取り組み	とであり、取り組みづらいことかもしれないが、努力していかなければ
	前進できない。
	・子どもから学べることがたくさんあり、それをみんなで共有すべきと
	思いました。
	<支援者の立場から>
	・もっと多くの方に参加してほしい。本音で話せる場。独りで抱え込ま

ない。本当に大切です。・行政、家族会の連携が大切。

・家族支援が第一歩。でも訪問して家族に会っていることがわかると暴 れるケースもあるので、中々踏み込んだ支援ができないという葛藤があ る。(支援者は親の代理にならない)

ひきこもりについて考えてみませんか

佐渡では初めての ひきこもりとその家族のためのフォーラムを開催します

〈開催日〉 平成27年 2月21日 (土)

(時間) 13:00 ~ 16:30 (受付12:30から)

〈会 場〉 佐渡市消防本部防災センター 2階 多目的ホール

〈参加費〉 無料

不要 〈申込み〉

(プログラム)

【開会の辞】 13:00~13:05 (5分)

本間 まゆみ 氏 (NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」佐渡支部)

13:05~13:15 (10分) 【来竇挨拶】

佐渡市社会福祉課長 鍵谷 繁樹

13:15~14:30 (75分) 【講演】

講師 三膳 克弥 氏 (NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」理事長)

演題 「ひきこもりの現状と家族支援」

[休 憩] 14:30~14:45 (15分)

【シンポジウム】 14:45~16:15 (90分)

「ひきこもりの親は語る過去・これから事」

ファシリティーター 三膳 克弥 氏

パネラー ひきこもり者の母親3人

【家族会の説明と発足】 16:15~16:30 (15分)

三膳 克弥 氏 (NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」理事長)

【閉会挨拶】 16:30~16:40 (10分)

三膳 美代子 氏 (NPO法人KHJにいがた「秋桜の会」副理事長)

主催 NPO法人 全国引きこもりKHJ親の会

共催 NPO法人 KHJにいがた秋桜の会

後援 佐渡市、佐渡市教育委員会、新潟県佐渡地域振興局健康福祉環境部

お問合せ 佐渡市役所社会福祉課庫がい福祉係 ☎63-5113 NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」 三膳 ☎090-8873-4453

このフォーラムは、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業により開催されます

全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)

4. 関東ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

別添成果物:「東東京支部・学習会」DVD

関東ブロック(千葉)における学習会活動

開催日・	2015年1月25日(日)
開催タイトル	KH J 関東ブロック千葉支部学習会
実施(連携)団体名	KHJ千葉県なの花会(全国引きこもりKHJ親の会千葉支部)
会場	千葉市民会館 3階 特別会議室
≯ hn 1 ₩	計69名(当事者家族39名、当事者5名、支援者・ボランティア
参加人数	15名一般10名)
	【前半 13:30~15:30】中垣内正和氏(精神科医)
	新潟・医療法人佐潟荘医師中垣内氏はKHJ親の会副理事長である。
	0からスタートしたひきこもり外来15年にわたる取り組みを具体的
	な数値を示しながら丹念に話された。日本中を震撼させた柏崎少女監
	禁事件を間近に体験した中垣内氏はひきこもりに特化したひきこもり
	外来に着手する。その実践の中から過剰な投薬に陥らない診療と若者
	の居場所、そして親の会という3つの柱が欠かせないと語る。親の会
	の長年にわたる行政への働きかけにより"ひきこもりのガイドライ
	ン"が出され国が実質的にその存在を認めた経緯がある。40歳とい
	う年齢制限も取り払われた。4月には生活困窮者自立支援制度が動き
	出す。当初の予算を大きく上回る400億円の予算は国が本気になっ
	た証でもある。ひきこもりは世の中の変動ととも様変わりしている。
444	長期化高年齢化に対応しつつ諦めず新しい考え方を持つことの必要性
実施内容	を語った。最後に先生作成の「新・親のステップ」と「新・若者のス
(次ページへ続く)	テップ」が配布されその活用について学んだ。
	【後半 15:45~17:00】藤江幹子氏(千葉県なの花会理事長)
	「地域で出来るひきこもり支援」ということでまずひきこもりについ
	 て正しい理解をすることの重要性を説いた。その鍵を握るのは「親」
	 である。親の対応が変われば必ず子どもは変わる。学習会、家族会、
	 親の会をしっかり活用してほしい。今回は普段は集まることのない
	支援者、関係団体、当事者、親が一同に会する貴重な場となった。
	 当事者側はどんな支援を求めているのか、支援者はどんな支援が出来
	るのか、又出来ないのか、生の声を出し合いたい。その後それぞれ
	立場の異なる人が混じり合う形でグループに分かれた。忌憚のない
	意見を出し合った後グループごとに発表し時間いっぱいまで熱心に
	討議が続いた。

開催の模様 (写真)	藤江理事長と中垣内氏 「診療・居場所・親の会」に ついて語る中垣内氏
実施成果 決定事項	・千葉県なの花会では月例会、学習会が定期的に開催され多くの参加があるが、今後も一層家族会の重要性を確認し合った。 ・精神保健福祉センター、複数の中核地域生活支援センター、市町村の障害福祉課、社会福祉協議会、生活自立・仕事相談センター、NPO支援団体など多数の関係団体からの出席を得た。 ・また民間のボランティアの参加もあり関心の高さがうかがえた。 ・地域に根ざした、地域で出来るひきこもり支援を今後も力を合わせ取り組んでいくことを確認した。
開催に関連する	社協・中核地域支援センター・ボランティア団体への手紙郵送、
新聞記事	ホームページ掲載、行政関係へネット配信
紹介記事の反響	年末年始をはさみ申込者が少なかったが会員に配布したら中垣内先生 の話が聞きたいと増える。
学習会・アンケート から見えた課題など (次ページへ続く)	・経験豊かな医師の統計は説得力があった。 ・当事者団体、支援者団体、行政の連携が取れて来ているという具体的な方向がわかり安心した。 ・データ等、具体的な数値が出されていて良かった。数字の裏付けは大切だと思った。 ・陥りがちな過ちに気がついた。 ・親の会で親自身も考え方も変化する必要があると感じた。(当人への対応の仕方) ・強迫性障害については特に参考になりました。 ・父親・母親の考え方…一緒にしたい!ずっと前から思っており、夫に頼むがうまくまとまらない!!どうしたら?先生の外来に行ったらよいのでしょうか? ・親の会で親自身も考え方も変化する必要があると感じた。(当人への対応の仕方) ・勉強にもなったが、不安も出て来た ・先生のスライドの資料が欲しかった。資料代を払っても。 ・支援方法について詳しく知りたかったが。ひきこもりの思っていた

	研修内容と異なっていた。中垣内先生の後半部分のお話しをもっと聴
	きたかったです。
	・本人の生活する上での目的が早くみつかるとよい。
	・働ける場がもっとあったらいいと思う。
	・全く外に出られない (具合が悪くても医者に行けない)
	・息子 (28 歳、ひきこもり 10 年) が受診してくれない。
	<支援者の課題>
	・解決出来ず。会話もままならず。自己満足。親に対しての満足かと
	思う。ただただ見守り活動しか出来ずにいる。ひきこもりの人がいる。。
	・家族が問題意識をもってくるが、本人は今のままで良いと感じてい
	る方への支援の展開。医療の必要性がはかれないことと、必要と思っ
	ても適切な医療機関がないこと。
	・両親から相談があっても、本人が相談に来られない場合、支援して
	はいけない点。
	・定期訪問による関係づくり
	・親の会へのつなぎ
	・当事者の居場所へのつなぎ
	・ハローワークへの同行
	・面接練習、履歴書の書き方の指導等
	・家庭訪問、来所にて相談対応。一緒に好きな所へ出かける。好きな
今後の取り組み	ことをする
	・現在 19 才~62 才までの、引きこもっている方の支援をしております。
	(民生委員からの相談)当事者と周囲の考え方の違いと、当事者の問
	題意識の低さがあります。関連する機関(民生委員・高齢障害者支援
	課)と連携し、半年かかわり、(アウトリーチは毎月行い、本人と会
	っていました)今月(1月)本人同意が取れました。
	・ひきこもり支援の居場所としても機能できれば良いと思う。







KHJ関東ブロック千葉支部 学習会のごあんない

「ひきこもり問題の社会的理解・支援の促進」

①ひきこもり外来

②地域で出来る からみえるもの ひきこもり支援について

~若者に必要なこと 家族に必要なこと~ NPO法人 KHJ 千葉県なの花会 理事長 藤江幹子

精神科医 中垣内 正和 先生

プロフィール:

- •新潟大医学部卒 医学博士
- •現医療法人佐潟荘 副院長
- •日本嗜癖行動学会 理事
- ・日本産業カウンセラー 講師
- ・NPO法人 全国引きこもりKHJ親の会 副理事長

日付: 2015年 1月25日

時間:午後1時~5時

場所: 千葉市市民会館

3F特別会議室(90名収容)

参加費:無料

主催:NPO法人 全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)

問い合わせ先: なの花会事務局

TEL 090-8491-0971 FAX 043-294-7629

-独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業(WAM)-

H270125千葉菜の花会講演会

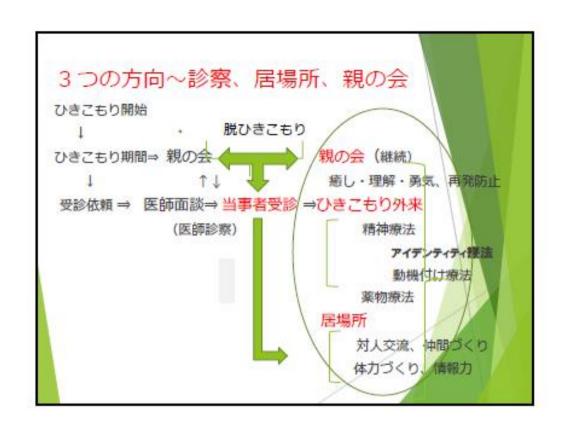
ひきこもり外来から見えるもの ~若者に必要なこと家族に必要なこと

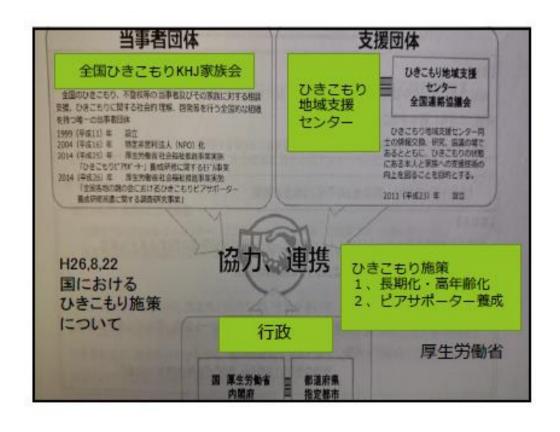
精神科医 中垣内 正和

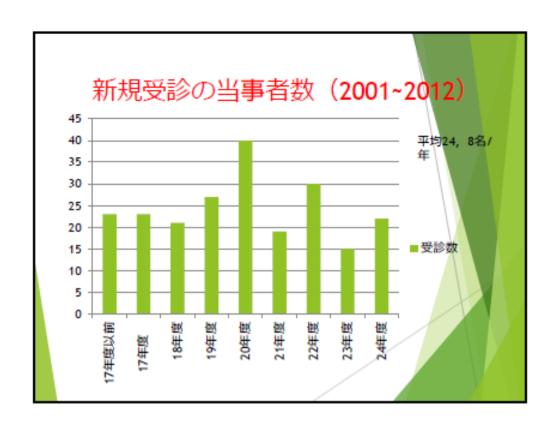
ひきこもりvs 社会的ひきこもり

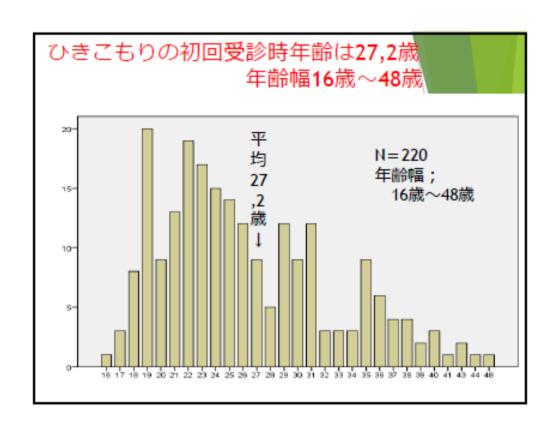
- ▶「他人との交流がない」
- ▶「就学・就労・訓練がない」
- ▶「精神病・知的障害がない」
- ▶「自家、自室中心の孤立した生活」
- ▶「6ヶ月以上」

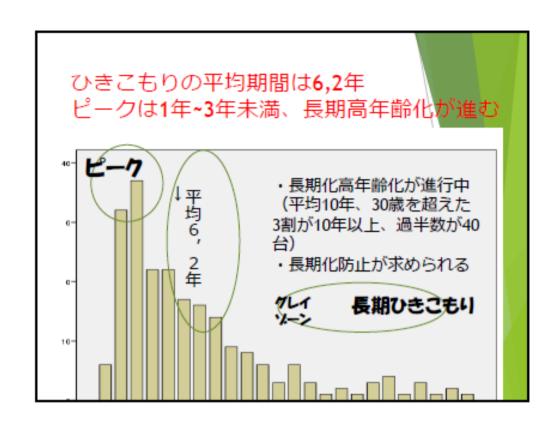
*「ニート」は他人との交流がある

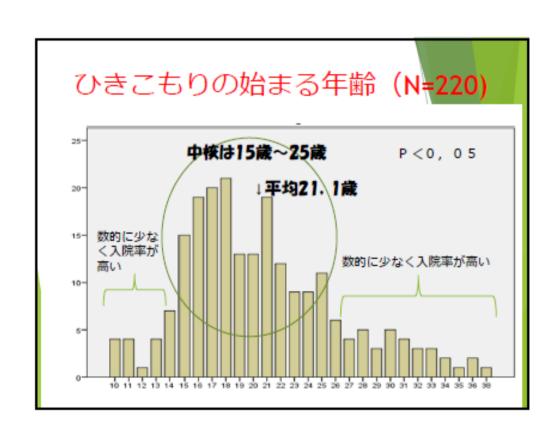


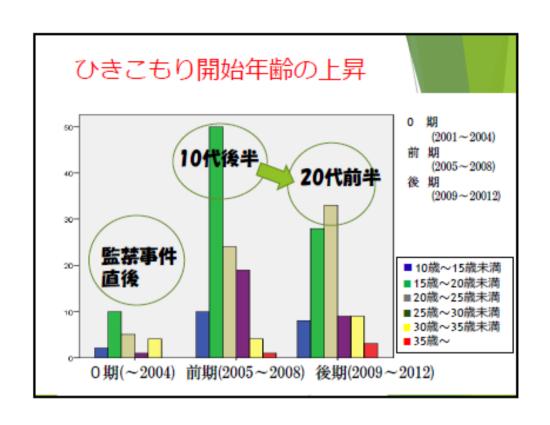


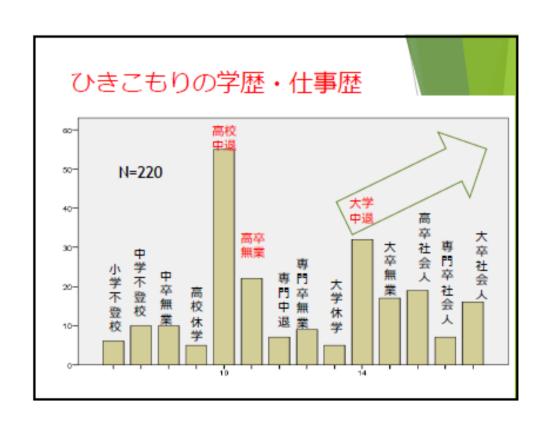


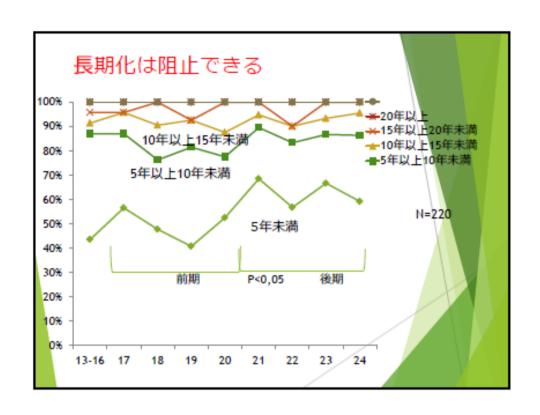


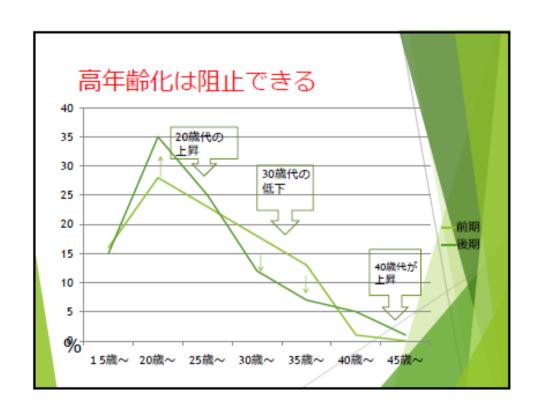


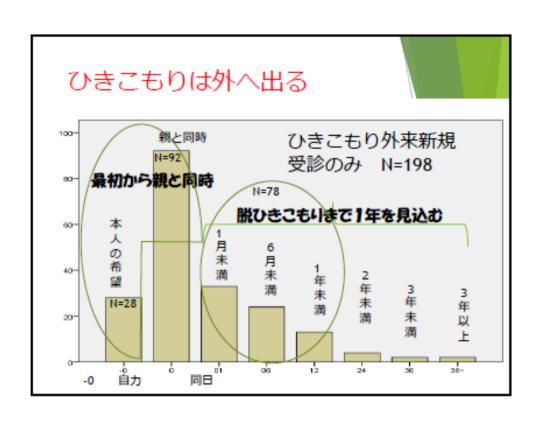


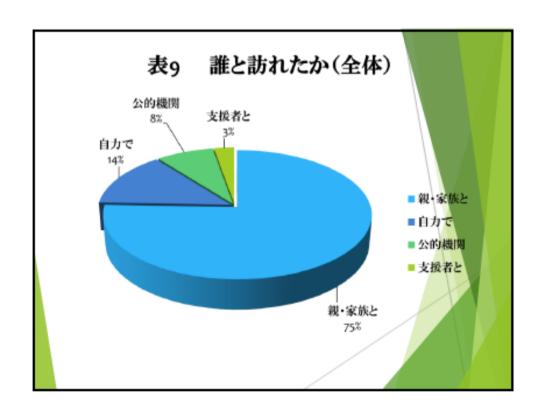


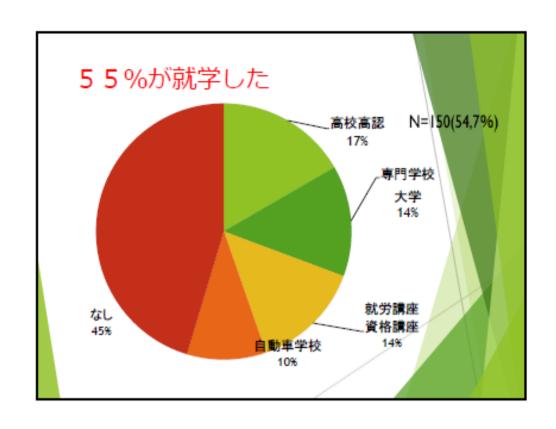


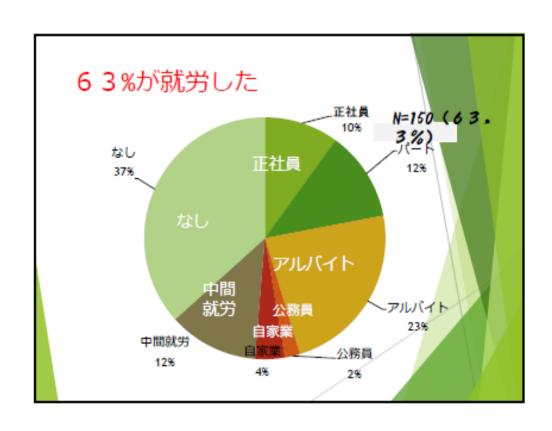


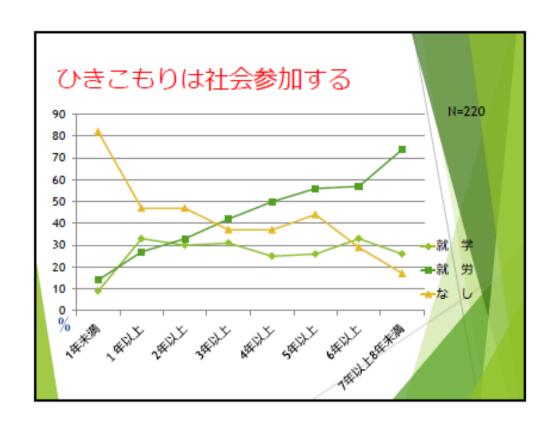






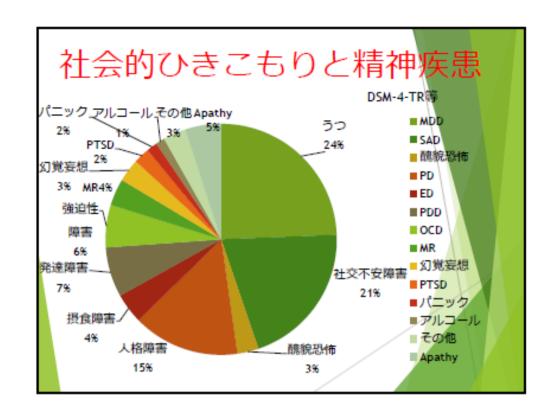






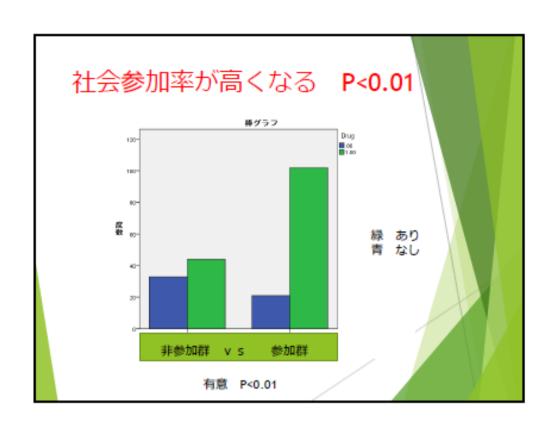
ひきこもりの精神療法

- ①アイデンティティ、自分さがし、自分づくり、 モデルさがし
- ②失われた共同性、居場所、仲間を求めて
- ③動機づけ、内発性の探求、経済強制だけでは動 けない
- ④完全主義とマイナス思考
- ⑤Social Skillの未熟、観念と行動のかい離
- ⑥教育・労働・結婚に北欧・西欧モデルは有用か



ひきこもりの薬物療法

- ▶ 当事者は不安緊張やうつが強い状態で受診する
- ▶ うつ、社交不安障害、強迫性障害、摂食障害・ SSRI
- 幻覚妄想、興奮、暴力傾向・・非定型抗精神病薬
- ▶ Minor、眠剤も使用
- ▶ 身体疾患と栄養障害にも配慮
- ▶ 通院の動機付けにできる、CF 検査、心理療法
- ▶ 抗不安効果が有効
- 短期効果が出る
- ▶ 少量で有効 CF 一日一回一錠のSSRIなど



ひきこもり対応のポイント①

- 開始年齢、継続期間、現在年齢、ひきこもりの程度
- *精神活動があるか(TV,新聞、PC、読書、会話)
- *身体活動があるか(外出、筋トレ、ジョギング、自転車)
- ×栄養状態・睡眠状態はよいか
- ×精神疾患、身体疾患はないか
- ×家事への参加はあるか
- ×家族との会話はあるか
- ×家族は孤立していないか

ひきこもり対応のポイント2

- × 1次予防=発生防止
 - 社会の仕組みの改革、メンタルヘルス教育
- x 2次予防=早期発見·早期対応
 - 1、不登校群 2、高校中退群 3 大学群
 - 4、社会人群 5、長期·高年齢化群
- × 3次予防=ひきこもり支援センター、ひきこもり外来、NPOなど を通じて社会参加(就労に限定しない)
- * 親の会(学習会、脱出、リバウンド防止) · 居場所(対人訓練)
- x 地域活動支援センター、就労支援センター
- x 訪問支援、ぴあサポート活動を洗練させる
- × 医療の必要性 (精神疾患95%、身体疾患も多い、生活習慣病、眼、 歯、痔、骨折)
- × メンタルヘルス知識 (親社会に不足する精神疾患の知識)
- x ひきこもりの「生活機能障害」
- ひきこもりは時代のカナリア・・「官民総力をあげた戦い」」

ひきこもりをとらえ直す

【観ったとらえ方】

- ▶ 落伍者、敗北者
- 何をするかわからない
- ▶ 犯罪者予備軍
- ▶ 家庭を内部から破壊する輩

【新しいとらえ方】

- ひきこもりには希望があること
- 古い生き方へのアンチテーゼ
- グローバル化社会、IT化社会の寵児
- 生き方を模索しているにすぎない
- 人材の宝庫
- 同世代支援の主体

ひきこもりは回復する

- ひきこもりには出たい気持ちがある
- ひきこもりは基本的に出やすい
- 親の会、家族会、居場所、医療などの同日連携が有効
- ▶ 時代は変化した、次は親の変化
- ▶ 支援員は自ら変化する必要がある
- ▶ 精神状態を見立てること
- ▶ 家庭訪問は、長期化予防のスタート
- 家庭訪問から親の会へのいざない
- ▶ 当事者にメモ、20分待機、食事に誘う、燃え尽きない工夫
- ▶ 長期化・高年齢化を発見する
- ▶ 長期化・高年齢化は連携で支援する
- ▶ 事件化は家庭訪問で予防できる

まとめ

- ▶ ひきこもり対応12年、ひきこもり外来8年経過
- ▶ ひきこもり開始年齢;平均21,1歳
- ▶ ひきこもり期間;平均6,2年
- ▶ 当事者の初回受診年齢;平均27,2歳
- ▶ 社会参加プログラム;150名(68,2%)が参加
- ▶ その社会参加率;79,3%
- ▶ ひきこもり開始時 ; 高校中退、大学中退、高卒無業
- ▶ 精神科診断;うつ病・うつ状態、不安障害が中心
- 精神科診断は91%に可能、他はアイデンディティ障害

ひきこもる理由①

【思春期・青年期は人生最大の危機】

- ▶ 5 大疾患;精神疾患は若年時に初発し生涯つづく
- ▶ 中学3年15%に前駆的不安定(抑うつ・不安・ひき こもり・猜疑心)
- ▶待機? 自己責任? 経過観察?
- ▶早期介入、タイミングよい介入、不登校への介入

ひきこもる理由②

【教育制度が限界に達した】

- ▶ 経済成長社会の「良い学校・良い大学・良い人生」
- ▶ 高校・大学全入と「大学は出たけれど」
- ▶ 不登校・ひきこもりは増加の一途
- 教育制度の行き詰まり・・・教育と就職のミスマッチ
- ▶ 模索のはじまり(日本再生戦略、中教審大学部会)
- ▶⇒キャリア教育・資格教育・「Social Skill」教育
- ▶ ⇒メンタルヘルス教育の必要性
- ▶ ⇒小中一貫教育、中高一貫教育の出現。
- ▶ ⇒GAP・TERMの導入、一体改革がはじまる

ひきこもる理由③③

【限界に達した家族制度】

- 伝統的家庭(男女分業)の敗北
- 戦後核家族の生き詰まり
- ▶ 【Case】杉並区の5人家族。只一人働く兄が、ひきこもりの弟に「働けよ」といったところ弟に殺傷され、弟は自殺。
- ▶ 新しい家族像は見えないまま、家族形成の意欲が低下 (未婚化・非婚化・少子化・高齢化・単身世帯化の進行)
- 「性的ひきこもり」の増加
- 「世間体」「家族の扶養責任」「労働中心主義」
- 「男女共同参画」への革新

ひきこもる理由④

【もつと精神医療を】

- ひきこもりの90~95%に精神疾患がある
- ひきこもりに特化した対応ができていない
- 2次ガイドラインは「ひきこもり」を公認
- ひきこもり型不登校もふくめた
- 厚労省ひきこもり関連施策(長期化・高年齢化)
 40代、50代のひきこもり、若年性メタボ対策)
- 不登校・ひきこもりは、早期対応が必要

ひきこもる理由⑤

【生き方・学び方・働き方のイノベーション】

- 新しい学び方
- 新しい働き方
 - ①経済のグローバル化
 - ②年功序列・終身雇用の崩壊
 - ③労働形態の変化
 - ④広がる職業プログラム
- 新しい生き方 若者、女性、高年者、障害者も共生 新たな共同と協働の創生

ひきこもり対応〜 新たなコミュニティづくり

- 1、すべての悩める家族と当事者へ支援
- 2、親の会で、学習会、CRAFT、ステップ・ミーティング
- 3、ひきこもりの長期化を防止
- 4、長期化・高年齢化事例へ即時対応
- 5、ピアは瞬時に感じ取る=サポーターの才能
- 6、みな協働者(親、当事者、支援者)
- 7、官民協働が補い合う
- 8、新たな地域づくり、コミュニティづくりの途

関東ブロック(東東京)における学習会活動

開催日・開催タイトル	平成 27 年 1 月 27 日 (火)
	KHJ 関東ブロック・東東京支部・学習会
	「ひきこもり問題の社会的理解・支援の促進」
実施(連携)団体名	NPO 法人楽の会リーラ家族会(全国引きこもり KHJ 親の会東東京支部)
会場	豊島区立生活産業プラザ 8階 多目的ホール
参加人数	100名(行政関係:25名、社会福祉協議会関係:39名、支援者4名、
	家族会 32 名)
広報	福祉事務所を有する区市町村役場、同保健所及び保健センター等、
	都精神保健福祉センター、区市町村民生員担当部署、地区社会福祉
	協議会、及び家族会へ、1,000 部配布。
	叫法代用権、労羽人 NVD + 併斗ナッ覧ノゼナル
	別添成果物:学習会 DVD も併せてご覧ください
	生活困窮者自立支援法に関連して、今後設立されることになっている福祉
	事務所設定自治体の自立相談支援窓口のご担当者等に、ひきこもりの実像
	把握し、とりわけ最近増えている 40 代以上について理解し、対応につい
	て学んでいただき、ひきこもりの状況に応じた支援の一環として、就労
	準備支援、訓練に繋げる支援を促進していただく契機としてもらう事を
	主たる目的として、当学習会を実施した。
	1.【13 時 30 分~14 時 4 5 分】「ひきこもりの理解と対応の基本」
	牟田 武生 氏 (NPO 法人教育研究所理事長)
	⇒不登校・ひきこもりの理解と対応の基本について詳細なレジメを用意
	頂き、ポイントについて分かり易く解説頂いた。(ひきこもりは今が無く
実施内容	なってしまう、未来に対する先取り不安があるので、今をどうするかに
(次ページへ続く)	ついて支援する(例:ピアサポートによる居場所への誘導等)。当レジメ
	はそのままテキストとしても使えるもので、特に福祉事務所の関係者に役
	に立つと思われた。
	2.【15 時~15 時 30 分】「ひきこもり経験者より望むこと」
	斉藤 信 氏
	⇒ひきこもりの経験者としての気持と社会参加(就労)に向けて、具体的
	に要望を述べた。特に親亡き後の相続の問題、親の介護の問題、住宅問題
	等について専門家のアドバイスが欲しい(これらの事を知っているだけで
	も心のゆとりができる)。ひきこもりの特性から、同じことを淡々とやる
	作業が向いている、1 対 1 の職場等で働きたい。支援者は、着かず離れず、
	目線を低くして接してほしい、自己主張できないひきこもりのの生の声を
	聴いてほしい等の要望がだされたが、社協、福祉事務所、保健所等の担当
	者に直ぐにも役立つ当事者の声であった。

3. 【15 時 30 分~16 時 45 分】 「ひきこもり等の就労支援について」 菊池 まゆみ 氏(社会福祉法人 藤里町社会福祉協議会 常務理事)

⇒ひきこもり等への具体的な就労支援の実際について紹介頂いた。 福祉でまちづくりを合言葉に町おこしの一環として総合相談・生活支援 システム(こみっと)でひきこもりについてとりくんできた。113名中 61名がコミットにくるようになり、40名が就職している。また「こみっ と」支援として、居場所、活動の場、シルバーバンクとの連携、体験の場 等を提供し、地域住民との交流により、理解者、支援者が増える、地域活 性化に貢献する等効果が出ている。生活困窮者の力を地域づくりに生かす 事業(りんご農家の協力等)を展開している。地域でのひきこもり対策の 具体例として、参考になった。

開催の模様 (写真)



実施成果 決定事項

生活困窮者自立支援制度に関わる市区担当者、都立精神保健福祉センター、区市保健所・ひきこもり等担当部署担当保健師等、及び当制度のモデル事業を受諾している区市の社会福祉協議会等から 64 名の参加があった。当初の目標を達成できた。ひきこもりの基本的理解と対応、ひきこもりの実像、及びその就労支援の実例の 3 本柱で講演中心の学習会を実施したが、関係者にとっての理解と対応の第一歩として大きな成果があったと思われる。

課題:当学習会参加各行政、社協等との今後の連携。

⇒今後は、家族会と区市行政、及び社協等との具体的な連携を実現したい。各地区に親の会を設立し、ピアサポータが核となって地域の資源を有効に活用する仕組みを作る事を検討したい。(KHJの支部組織にこだわらないで、草の根的、自主的な親達、当事者達中心の家族会を市区町村単位で結成することを目指す)

学習会・アンケートから見えた課題など

・国や行政機関の支援のあり方自体が問われ、重要になってくることが 理解できた。

学習会・アンケート から見えた課題など (支援者の立場から)

- ・牟田先生の「発達障害のやり直しをすると不登校は治る」「ひきこもりには決め手がないが、『認知のずれ』か?」斉藤君の「データとか、体系的に語らないで、当事者の生の声を聞いてほしい」が印象的だった。
- ・当事者のお話しが具体的で実にわかりやすく、とても良かった。今後の 相談活動に役立つ話しだった。当事者が発信してくれることで、ひき こもりへの理解が深まっていけばと思う。
- ・菊池まゆみさんの積極的支援が、支援方法を教えてくれた。実践していることはとても説得力があり、この中に私達が出来ることがあるのではと思った。
- ・藤里町社協の事業の内容を具体的に聞けたのが良かった。事業の成功例だけでなく失敗談も聞けたので。菊池まゆみさんの行政への働きかけが参考になった。「こみっと」の、地域の方とのかかわり合いについて、 具体的で有意義でした。
- ・親亡き後のこと。又、ひきこもり介護の問題。
- ・自分の住む地域での自助グループなどが存在するのかどうか、支援も含めその情報にアクセスしたいと思っているが、まだ見つけられずにいる。
- ・生活保護を受けているひきこもりの方が対象のため、居場所づくり以上 に就労につなげることなど、優先させるべきことがあり、今回のような 支援は難しいなと思いました。
- ・関係構築と出口(居場所)・ひきこもりの方への情報発信。
- ・当事者の親の協力を得る事が難しい(支援を丸投げしたい態度)
- ・中々本人と接触できないこと。本人のニーズ、ストレングス等にたどり 着けない事。
- ・ひきこもりの状態である方の第一歩の困難さ。本人・家族・地域の 気持ちを汲んだ支援の大切さ・難しさ。
- ・ひきこもりを自覚していない方へのアプローチや声がけは難しいです。

・認知のズレの矯正ができれば先に進める。

- ・当事者と接する時の N.G ワードを知りたかった。
- ・共感性と善意の押しつけにならないようなスピード。
- ・支援を必要としている対象者の抽出・把握。

今後の取り組み (支援者の声)

- ・住民の全ての困りごとを受け止める「福祉なんでも相談」を始めている。 その中で、わずかであるが、「ひきこもり」の相談もあり、さらに広げて いくつもり。
- ・ボランティア情報などの紹介。短期体験の促し。
- ・寄り添い支援。定期的に TEL をして状況把握、情報提供。
- ・家族の支援を行なうことで、(家族会)取り組んでいる。
- ・ひきこもり者に対して「今」を大切にしてくことを伝える。理想と現実 のギャップを理解させる。

KHJ 関東ブロック・東東京支部・学習会のご案内 「ひきこもり問題の社会的理解・支援の促進」

ひきこもりが生活困窮者予備軍と位置付けられている、生活困窮者自立支援法が平成27年4月施行されます。今後設立されることになっている福祉事務所設定自治体の自立相談支援窓口のご担当者にとって、ひきこもりの実像を把握し、とりわけ最近増えている40代以上についてどのように理解し、対応すればよいのか学ぶ機会が必ずしも十分とはいえません。又ひきこもりの状況に応じた支援の一環として、就労準備支援、訓練に繋げる支援の促進は緊急を要します。

そこで、関係の皆さまにぜひともひきこもりについての基本的理解と対応についてご理解を深めていただき、お役立ていただくために「ひきこもり」についての学習会を企画いたしましたので、下記にご案内申し上げます。

日時: 平成 27 年 1 月 27 日 (火曜) 13 時~17 時

場所:東京都豊島区立生活産業プラザ8階多目的ホール(約100名収容)

東京都豊島区東池袋 1-20-15 (03-5992-7011)

一プログラム—

【13 時 15 分~13 時 30 分】 「挨拶」NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)

理事長 池田 佳世

「来賓ご挨拶」 厚生労働省 社会・援護局 総務課 課長補佐 日野 徹 氏 【13 時 30 分~14 時 4 5 分】 「ひきこもりの理解と対応の基本」

牟田 武生 氏 (NPO 法人教育研究所理事長)

【15 時~15 時 30 分】 「ひきこもり経験者より望むこと」

斉藤 信 氏

【15 時 30 分~16 時 45 分】 「ひきこもり等の就労支援について」

菊池 まゆみ 氏

(社会福祉法人 藤里町社会福祉協議会 常務理事)

対 象:東京を中心とした関東各地区の社会福祉協議会の関係職員、市区町村

関係者、民生委員、家族会会員、及び一般の関心のある皆さま

参加費:無料

定 員:100名 (平成27年1月21日まで、申し込み順に受け付けます)

主 催: NPO法人全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)

共 催: NPO法人楽の会リーラ家族会(全国引きこもりКН」親の会東東京支部)

NPO 法人楽の会リーラ事務局 (祝日を除く水、金、日の14時~18時受付)

問合せ/申込先: 裏面の申込書にて申込(1月21日(水)締切)

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-16-12 第2塚本ビル 202号室

TEL/FAX (03-5944-5730) mail(info@rakukai.com)

一 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 ——

【別添成果物:学習会 DVD も併せてご覧ください】

KHJ 関東ブロック東東京支部・学習会「ひきこもり問題の社会的理解と支援の促進」

2015年1月27日

ひきこもりの理解と対応の基本

NPO法人教育研究所理事長 教育コンサルタント 牟田 武生

(1) ひきこもりの数は・・?

内閣府が平成22年2月に全国5,000人の若者(15歳以上39歳以下)を対象に実施した調査「若者の 意識に関する調査(ひきこもりに関する調査)報告書」(平成22年7月)によると、ひきこもり群は 全国で約69万6,000人と推計される。

島根・山形県で詳細な調査を行った。

山形県のひきこもりは、1607人になる。

(山形県子育て推進部調査(平成25年)男性64%、女性20%、無回答16%で、出現率(人口当たりの概数者数)では市部(0.12)町村部(0.20)である。

15歳から39歳までの「若者」が855人(53%)だが、40歳以上も相当数いる。全体の80%が「ほとんど外に出ない」「買い物程度には出る」という、ひきこもりになっている。また全体の半数以上が「買い物程度には出る」。長期化を見ると、3年以上に及ぶのは全体の3分の2、5年以上は半数を超える。

困難を有するに至った経緯(複数回答可)1607件

不登校244 (15%) 就職出来ず135 (8%) 失業408 (25%) 家族関係141 (9%) 不明573 (36%) その他191 (12%) 無回答51 (3%)

支援の状況 (複数回答可)

医療機関受診251、行政機関支援150、NPO等11、相談するが未解決103、不明907、その他216、無回答83、

ひきこもりは小中学生の不登校からも高校や大学中退からも起きます。学校卒業後、働こうとしない就労拒否や社会人になってから出社拒否になって現れることもあります。その中には無気力で勉強や働くことが嫌でひきこもっている人もいますが、大部分の人は人間関係などの問題を抱えて悩んでいる人のようです。「学校行きたくても行けない」「仕事をしたくても出来ない」状況を抱え、ひきこもりが長くなればなるほど、自分の精神世界が大きくなる二次症状(注1)が現れ、学校や社会適応がさらに困難になっていきます。

※注1:主な二次的行動と症状

不登校になって、ひきこもりが長くなってくると、二次的行動や症状として様々な行動や症状がある。

主な行動として

- ・昼夜逆転:生活リズムが次第に崩れていき、早朝から夕方にかけて眠り、夜中に起きていること
- ・家庭内暴力:親が不用意に登校刺激をしたり、本人にとって陰性感情や劣等感を刺激すると、家庭内で起こる暴力的行動のこと
- ・母親が作った食事を拒否する:母親に対する過度の要求を出すが叶えられないとわかると、示唆 行為として、拒否的態度をとり、母親が調理したものを食べなくなるが、既製の調理パンやお弁 当は食べる。
- ・風呂に長期間入らなくなり、着替えも時々しかしない。
- ・部屋のカーテンや雨戸を開けなくなる。
- ・家族と会話もしなくなる。姿を見せず用事がある時は壁や床を叩き、親を呼ぶ。

主な症状

- ・視線恐怖・・町や人が大勢いるとこの行くと、じろじろ見られるような気がする。
- ・醜形恐怖・・自分の容姿がおかしいのではないかと必要以上に気にする。
- ・自己臭恐怖・・自分の体から嫌な臭いがするのではないかと必要以上に気にする。
- 社交不安障害
- ・現代型うつ (新型)

これらの症状の視線恐怖、醜形恐怖、自己臭恐怖などはひきこもっている間に、自己肯定感が持てなくなり、劣等感や陰性感情が強くなることから、対人不安や葛藤が強くなり、他人を強く意識してしまい人に会うことを極端に恐れるようになる。これらの症状は人に対する恐怖より、人にどう思われているかの不安の要素が強い心理的な要因である。

※ 精神科や心療内科を受診し、「疑いあり」では投薬をするが、副作用で苦しみ効果がないことも 多い。

(2) 社会的ひきこもりと不登校の関係は

社会的ひきこもりと関係の深い不登校(以前は登校拒否)は、1974年(昭和49年)以降、2001年(平成14年)まで、児童生徒数・出現率とも増加傾向に歯止めがかからず平成14年度まで増加した。

「不登校がなぜ増えたのか」の疑問は「ひきこもりの子どもがなぜ増えたのか」の質問と極めて近い関係にあると考えられる。私は40余年ひきこもりを伴う不登校の子どもの支援活動をとおして感じることは、人間関係のスキルの不足が原因であると考える。

どうして70年以降、子ども達の人間関係のスキルが育たなくなったのか考えてみましょう。

経済的には70年前半で高度経済成長は終わり、不登校が増え始めた74年以降は安定成長期からバブル好景気、そしてバブル経済の崩壊期でもあった。経済繁栄の中、自家用車・家電製品やAV機器など物に溢れた消費生活は、豊かさの象徴で国民の間には一億総中流意識が蔓延化していった時代だ。

産業労働構造は、第一次産業は衰退の一途を辿り、第二次産業から第三次産業へと移り変わっていった。そして、地元の商店街は閑散とし全国展開をする大手のスーパーマーケットが台頭していった時代だ。その影響によって地縁血縁関係が強い地域社会は衰え、行政、大企業などを中心とした、個人よりも組織や団体が力を持つ管理社会が形成されていった。経済の繁栄の中で耐久消費財など、モ

ノに溢れた生活は豊かさの象徴で国民の間には一億総中流意識が蔓延化していった。

それらの影響を受けて、家族社会も大きな変化をしていった。大家族から核家族化が進み、同時に 少子化も進むといった家族構成の変化に現れていった。少子化の中で、企業や役所で働くサラリーマ ン世帯が増加して、農地や土地やお店などの生産財を子どもに相続させ、家を守るといった考え方を 多くの市民はしなくなり、子どもに学歴をつけるという考え方が強くなり、良い高校は良い大学、そ して、大きな会社に入ることが人生の幸せという学歴神話が、日本独特の雇用システムである年功序 列・終身雇用という制度と結びつき育っていった。

偏差値教育・管理教育の強化⇒ストレス⇒校内暴力・いじめの増加⇒登校拒否の増加傾向⇒マスコ ミの誤った認識(当時文部省は登校拒否児を情緒障害児と呼んだ)矯正という考え方、その後、意図 的なタイプの不登校の子どもをクローズアップしてしまいました。

不登校の中核の"ひきこもった子ども達"の認識がなされず、具体的に対応策も打たれないで、2000年になってひきこもりの青年が新潟で少女を長期間にわたって監禁した事件が発覚し、社会的ひきこもりが一般社会で認識されるようになりました。

一方、当時文部省は1992年(平成4年)にひきこもった不登校の子ども達を認識し、子どもの気持ちや不安に寄り添う対応策を打ち出しました、学校現場では、どの子に対しても同じような対応をしてしまい"新しいひきこもりの不登校"の子どもが生まれました。

<資料1>

不登校・ひきこもりの背景

不登校やひきこもりは時代とともに変遷してきた。社会の落す様々な影響をうけている。その背景と して考えられるもの

① 少子化

- ・子どもの人間関係が家庭でも地域でも育ちにくい
- ・教師の年齢ピラミッドの崩れ
- ・ 子対親の関係性の変化等
- ② 地域社会の教育力の低下

③ 学歷社会、幼児早期教育

・新しいタイプ学力優等生の息切れ (臨床の場から)

④ 効率化優先の社会

・企業の論理 競争原理「殺し」弱肉強食の世界 🥎

・家族の論理「生かし」の原理、弱者と共に生きる▲

・家族内弱者の子ども 迎合(物質主義) 子どもの症状(不登校、いじめ、学級崩壊、援助交際など)

⑤バブル経済崩壊後の空白の 10年

- ・母子家族を中心にした経済的な困窮
- ・学校に子どもを行かせることへの希薄化
- ・子どもへの虐待の増加

家に帰ってもつまらない、 寂しい。情緒的にも肉体的 にも"もの』で寂しさを打 ち消す。 ・子どもより自分が大切な親達の登場

⑥ 問われる、父性性と母性性

- ・父性は実父をモデルにしてイメージが拡がり、子どもとのかかわりの中で育つ。 二つの問題/父子関係の希薄さが人格形成の阻害と統制関係の乱れを生む
- ・祖父も高度経済成長を支える(65~80)~(モデルにならない)
- ・「心を使わずに」合理的に処理する技術(ストレスから身を守るためにつけた技術が子どもの 成長の阻害に)

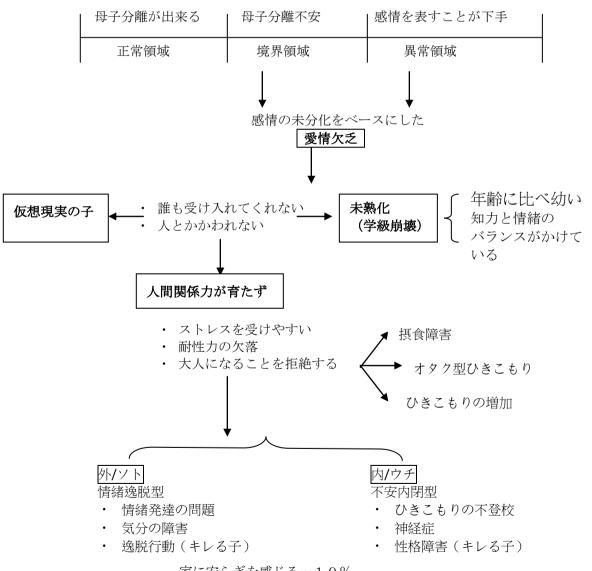
- ・母性は a.生まれながら女性として
 - b. 実母からもらったもの
 - c. 赤ちゃんとのふれあいの中から

※a·b·cを阻害する(核家族、不安、孤独)の

二つの問題点

- ・ 母子密着の問題(自立化できない 子
- ・ 母性を母親からもらえない子=過 剰適応の子

中から、育児への自信の喪失と不安から→虐待、3歳までの虐待(無意識のうちに不安と 緊張、密着性、母親の情緒不安定



家に安らぎを感じる…10% ゲームセンターに安らぎを感じる…35% (NHK子ども調査より)

(3) 2つのひきこもりと見分け方

~平成15年度に30日以上欠席した児童・生徒アンケート〈中間報告〉より~

○調査の目的

◆ 長期欠席児童・生徒の実態とその保護者の意識を数千人規模で実施する試みは過去実施されていない。今回が初めての試みとなる。この調査を実施することによって、長期欠席児童・生徒の基本的なタイプ分けとその心理・状態像に応じた教師及びスクールカウンセラー等の行う指導や対応方法を明確にすることを目的として調査を行った。

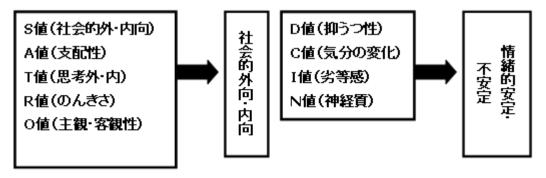
○調査対象

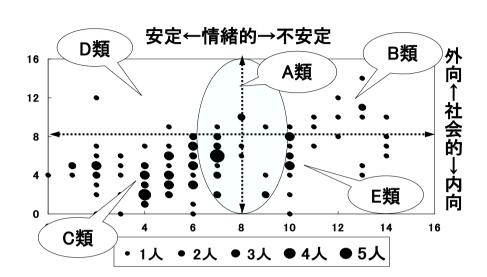
- ◆ 横浜市立小学校・中学校において、平成 15 年度に年間 30 日以上欠席した児童・生徒とその 保護者を調査対象とした。
- ◆ 平成 15 年度の学校基本調査によると、横浜市における、長期欠席児童・生徒数は、<u>小学校</u> (1,522 人)、中学生 (2,634 人) の計 4,156 人である。

○アンケート調査Q10からわかること(1)

本アンケート調査 Q10 の質問項目 (中学生)

- A. 多くの人と友達になることができる(S値)
- B. 誰とでも話すことができる(S値)
- C. リーダーを進んですることができる(A値)
- D. 一人でいたいと思うことがある(T値)
- E. 用心深い (T値)
- F. 人とはしゃぐことが楽しい(R値)
- G. 目上の人の前に出ると緊張する(A値)
- H. いつも何か失敗しないか心配してしまう(I値)
- I. 嫌な人に会うと避けて通る(O値)
- J. 劣等感に悩まされることがある(I値)
- K. 人のすることが気になる(N値)
- L. 過去の失敗をくよくよ考えることがある(D値)
- M. 興奮しやすい (C値)
- N. 時々何に対しても興味がなくなる(D値)
- O. 心を傷つけられたことがある(N値)





○社会性と情緒の分布(中学生)

(4) 最近増えている新しいタイプ(オタク型)と従来からある心因性タイプの違い

YG 検査にみる C 類とは、Y G 検査解説マニュアルでは「おとなしい、消極的な性格だが情緒的には 安定しているタイプ」となっています。このような人は、特に問題のない、どこにでもいる人と考え てよいようです。その点、従来からいた心因性のタイプは YG 検査では E 類の人で、解説マニュアルでは「情緒的に不安定で、非活動的な内向的なタイプ」となっています。

情緒的にC類は安定、E類は不安定。行動面ではC類おとなしい、E類内向的が特徴になっています。 両方のひきこもりのタイプを日常生活での行動を比較してみますと

- 1) 理由なく不安になったり、気分の浮き沈みなどの変化はない。(C類) 理由なく不安になり、気分の変化が激しくある。(E類)
- 2) 小さい時からどちらかと言うと、人間関係に消極的で自分から友達の家に遊びに行ったり、 声を掛けることはなかった。友達から誘われれば遊びに行っていた。(C・E 類共通)
- 3) おとなしく、自分の意見や主張を明確に話そうとしない。(C類) 内向的で問題を抱えると自分の殻に閉じこもり、ノイローゼ傾向を示すので、対応が難しく 問題解決に時間がかかる。(E類)
- 4) 仲間やグループを仕切ったり、指図するようなリーダー的な役割は苦手である。(C・E 類共 通)
- 5) 学校で些細なトラブルが原因で休み始め、様子をみるだけの対応をするとズルズルと休み始め長期化していく。(C・E 類共通)
- 6) あまり外に出なくなり、家で過ごすことが多くなり、友達との人間関係が次第になくなっていく。

- (C類、消極的なため自然にいつの間にかという感じで他人との関係性が薄れていく) (E類、自分の世界を作り、殻に閉じこもり、他人を拒絶するように関係性を自分から切る)
- 7) 身体症状や精神症状はほとんどない。(C類) 状態が悪いと頭痛、腹痛、吐き気、微熱 (7.5程度)、不眠状態があったり長時間睡眠を起こしたりする、朝起きようとしても起きれないなど、様々な身体症状起きる。精神症状として情緒的に不安定な状態になる。(E類)
- 8) 保護者からみると自分の趣味や好きなことをやっている時は夢中になってやっているが、それ以外の時は何も積極的にしないので無気力に見える。(C類) 自分の殻にこもり精神的に不安定な状態を過ごしていると思えば、退行(幼児もどし)を起こして甘えの行動を取ることもある。(E類)

不安や対人緊張が強く、情緒的に不安定でひきこもり傾向が強い E 類を心因性不登校や社会不適応 と呼ぶのに対して、C 類のタイプに名前をつけるとしたらオタク型不登校や社会不適応ともいえるので はないだろうか。勿論、オタクの中には、大規模なコミケなどを企画し行動する積極的なオタクも存 在するが、ここで述べるタイプのオタクは消極的な人をさします。

(5) オタク型ひきこもりの子どもに対する対応

オタク型ひきこもりの子どもが学校に行かなくなると、ズルズル不登校や社会参加しない日が続き、 自分の世界に入り趣味など好きなことに没頭し、自分を守るために詭弁であるが理論武装をしていき、 関わろうとする人を寄せ付けないようにして、自分の中の不安を煽り立てないようにしていきます。 そして、ますます、学校や社会への適応を困難にさせていきます。

最初は人間関係の消極さから始まりますが、本来、今までも人間関係の煩わしさや生き難さを薄々感じ取っていた人が、自分の趣味や好きなことだけやっていれば、良いという環境が許されたと錯覚した時から起きます。

自分探しや将来どのように生きて行けば良いかなど、どのように生きていけば良いのかという根源 的な悩みから起った問題ではないため、葛藤がないので状態がそのまま固定されていきます。だから、 オタク型の不登校や社会不適応の人に対して、様子を見るだけの誤った受容的対応をやっていくと、 自分にとって楽な世界に入っていき、対人関係において心理的にますます消極的になり、ひきこもり 状態が長期化し、学校や社会不適応が難しくなっていきます。

また、意識的にも今の学校や社会に対して魅力を感じないばかりか、どこか本質的に間違っているとも感じています。ですから、間違った価値観の学校や社会に参加することは誤っているとも感じているので、自分が生きていくための消極的な(消費者として)最小限の関わりにしたいと思っているようです。対応としても、生きることの本質的な意味や価値観から考えて行かなければなりません。対応する親や先生・カウンセラーに対して、尊敬や生き方の手本だと思っていなければ、説得にも対応にもならないところに難しさがあります。

彼らの生き方を先ずは、否定したり、否定的に捉えるのではなく、生き方を認め、自分の趣味の領域を含め、最低限生活者として生きていく糧をどのように得て行くかを一緒になって考えていかなければなりません。その姿勢から信頼感が生まれてくるはずです。信頼関係を土台に一人ひとりの心情

に応じた登校(社会参加)への適切な指導を心掛けなければなりません。

本来、受容や指導は分かれたものではなく、子どもや若者の気持ちを充分に聞き取り、理解し、信頼関係を形成することが受容であり、その信頼関係を元に「お母さんが言っているから勇気を出してやって見ようかな」や「自分のことを本当に分かってくれ、自分のために、先生は言ってくれているのだから、思いきってやってみようかな」の動きにつながる指導でなければなりません。

受容と指導は一貫性の流れの中になければ本来意味がありません。初期の対応では「不安が強く、 情緒的に不安定な」心因性タイプに比べると、最近増加しているオタク型タイプは「情緒的には問題 はないが内向的な性格」だけなので、丁寧に子どもの気持ちに沿って対応していけば、情緒的な交流 も図りやすいので受容も指導も行うことはそれほど難しいことではありません。

最近、増えているオタク型不登校の事例を通して対応を具体的な方法を考えてみましょう。

具体的対応プログラム

- ① タイプ別判断(前記の(1)から(8)までを基準にして判断する)
- ② 両親とカウンセラーで本人の状態について多角的に分析し共通の認識を図る。
- ③ 学校の先生方を含めて利用できる社会的資源(注2)を使い。状態像に応じた適度な受容と刺激(注3)を与え、本人の心をゆさぶり葛藤を起こさせる。
- ④ 葛藤から生じるエネルギー(注4)を利用し、本人を動かし、現状を少しずつ変えることによって、徐々に自信を付けさせていき、他人の目を気にする被害念慮を克服させていく。
- ⑤ 学校などの同世代社会に戻った時、注意する点として、先生や大人が配慮しなければならないことを確認する。
- ⑥ 父子関係の再構築(注5)をめざすためにはしなければならないこと などプログラムに入れる。

※注2:社会的資源

医療・福祉機関が使う言葉で保健所・精神保健センター・医療機関・福祉センター・市民団体 をさしていう。ここではさらに意味を広げ、教育機関・フリースクールなどを含めて、社会にある 組織や機関をいっている。

※注3:受容と刺激

受容 [acceptance]: ロージャースの用語。来談者中心のカウンセリングにおいて治療者はまず来談者の訴えを受け入れ。承認することが要請されている。いかなる訴えであっても、来談者を人格的に無条件に尊重し承認することをいう。こうした過程を経て来談者は、自分自身に対する否定的・両面的感情をすて、自己を受容するようになる。自己を受容すれば同時に他人に対しても受容的になる。これは治療の進展の指標にもなる。(誠信・心理学用語辞典より)

刺激(登校刺激):登校を促すための刺激や指導のことをいう。

本来は受容と刺激は一体のもので、相手の不安や苦しさを共有し、信頼関係を土台に、相談者の心の状態に応じた親身の指導をすることが望ましいが、今、心理学の世界では、混迷した時代を反映してか、癒しを求めて"受容"という言葉がもてはやされてひとり歩きしているきらいがある。

※注4: 葛藤から生じるエネルギー

不安や緊張は様々な負の葛藤を生み出すが、同時に何とかしなければならないという正のエネルギーも生み出す。それは無気力な状態から何とかしなければならないという行動力の源にもなる。

※注5:父子関係の再構築

特別な家系以外は"家"という軋轢はなくなった。と同時に、親として、子どもに伝えるメッセージも特別なものはなくなり、子どもは「人様に迷惑をかけないで自立して生きて行けば、それだけで良い」「世間と同じように普通に生きていけば良い」と多くの親父達は言う。もっと言えば、もっとも、あたりまえといえば、あたりまえの話をよく聞く。

だが、子どもにしたら家というプレッシャーが掛からないから楽であるといえば楽だが、「いったい親父は何を考えているのだろうか。人生の哲学やポリシーはあるのだろうか」と考えてしまう。

親父は人生の先輩として、自分の大人になるモデルにならないと、懐疑的になってしまう。 無気力な子ども達、大人になれない子ども達、ひと頃前は、モラトリアムと呼ばれた青年達は皆、 家族制度がなくなってから現われた。

無論、家族制度のような封建的なものはない方が良い。しかし、「俺の生き方はこうだ。俺の教育方針はこうだ」と胸をはって明確にした方が、子どもにとって親父を理解しやすいし、乗り越えやすい。何時の時代も子どもにとって、親父の生き方が明確な方が、子どもは育ちやすい。

<資料2>

社会的ひきこもりとニートの違いと共通点

社会的ひきこもりと最近話題になっているニートの違いは、家族以外の人との人間関係の有無によって、社会的ひきこもりの人とニートの人と区別します。ひきこもりは他人との係わりがなく、ニートは他人との係わりがあります。しかし、両者とも、社会参加や社会適応していないのですから、本質的には大きな変わりがありません。そこで、社会的ひきこもりの人やニートの人も、同じように「オタク型」と「心因性」の二つのタイプに分けられます。

不安や緊張感が強い心因性のタイプのほとんどは、ひきこもりだが、中には少しだけつながりのある友人がいるニートの人もいます。

このタイプの特徴として、

人間関係のスキルが不足し、現実社会でストレスを受けやすい。

現実社会のストレスから逃れるために、好きなこと(仮想世界)に逃避しやすい。

上手に対応しないと、何時までもひきこもりの状態が続くことがある。

長引けば、長引くほど、社会適応が難しくなる。

心理状態として、陰性感情や陰性思考が強く、何かを決めなければならない時、アンビバレンツな感情(注6)が起き、なかなか決められない。

自信が喪失していることが多く、必要以上に劣等感に支配されている。

などがあると考えられます。

※注6:アンビバレンツな感情(両面価値)

親に甘えたい感情もあるし、同時に拒絶したい感情もあり、自分の感情や考えが一つになかなかまとまらず優柔不断になること

「成熟社会での価値観の多様化」から起こるオタク型タイプの人の大部分はニートだが、中には、他人との係わりが全くないひきこもりの人もいます。

その特徴として、

- ・学校に行く。仕事をする。といったことに価値観を感じていない。
- ・学校や仕事に行かないことにそれほど罪悪感がない。
- ・好きなこと(趣味等)だけをして、大人が思う生産的な活動(学校に行く・仕事をする)をしなくても、自己矛盾を感じない。
- ・他人は他人、自分は自分と思っているから焦ることもないので、葛藤がない。
- ・日常生活で困ることを感じていない。
- ・自分の将来について、そんなに心配はしていない。好きなことをしながら、生きて行こうと思って いる。
- ・「社会はそんなに甘くはない」と言う意見に対して、耳を貸さないし、例え、耳を貸しても、価値 観の違いと考える。
- ・無理はしたくない。自分にあうことだけを選択して、生きていきたいと思っている。

ひきこもりから学校や社会に

私達は本人や親の人達のカウンリングを行っているが、同時に若者の自立支援の寮を運営し、学校や社会参加を目指して、一人ひとりに応じたケースワークも行っています。不安や葛藤の強いE類(心因性)のひきこもりの人は「勉強をしたいという意思がありますが、情緒的に不安定になってしまうので集中できない。」「医師によって投薬を長い間、受けているが状態は悪化し、副作用で手が振るえ勉強も出来ない」など、自分の問題を何とか解消したいと思っていますので相談に見えます。

カウンセリングを継続して行い精神的に安定してくると投薬の必要はなくなり、元々持っていた才能がようやく、開花し、自分のやりたい勉強や創造的な芸術的な活動に非凡な才能を発揮しだす人も多くいます。しかし、C類(オタク型)の人達は、不安も葛藤も少ないので、ひきこもってオタク的な生活を送っていても問題意識は低いのでカウンセリングには来ません。また、既存の価値観と合わないので、現実社会に引っ張ろうとしても動きません。

(6) 心因性・情緒混乱型不登校の回復の過程

※心因性不登校の回復の過程

前駆期→要因(きっかけ)→進行期→混乱期→回復期→再登校期がある。

- ① [前駆期の特徴]
- (1) なんとなくイライラする
- (2) 気分が沈みがちになる
 - (3) "おっくう、だったり、 "かったるい、感じがする
 - (4) 寝付きが悪くなり、長時間眠っても寝た感じがしない
 - (5) 他人との間に気分的なズレを感じる
 - (6) ぼんやりすることが多くなる
 - (7) 不安感が襲う

関東ブロックにおける学習会活動(東東京テキスト)

- (8) 学習面で集中できなくなる
- (9) 忘れも物が多くなる
- (10)遅刻が多くなる
- ②「前駆期の要因]
- (1) いじめ

- (不登校のきっかけ) (2) 友人関係での違和感
 - (3) 転校等で何となく適応できず
 - (4) 親子関係
 - (5) 先生の叱責や体罰
 - (6) 何となく
 - (7) 身体症状から
- ③ [進行期]
- (1) 対人不安・不信が強く、身体症状を伴う場合が多い 孤立感が強まる
 - (2) 対人不安・不信が強く、閉じこもりが定着し、昼夜逆転が起きる
- 4 [混乱期]
- (1) 完全なる母親像を求めて、共生関係としての退行現象の時期 確認の繰り返し 混乱

(ひきこもり期)

- (2) 母親との共生共感関係で安定したあと、母親の家族における立場 で安定と長期化 (母親が精神的に自由だと安定へ)
- (3) 母親のゆるやかな社会性の受容と意識化
- (4) 母親からの精神的な独立と父親への確認
- ⑤ [回復期]
- (1) 不特定多数の人の中に出て自己確認

(家を出て外の世界での

- (2) 不特定多数の人と同一行動(サッカー、野球観戦等)
- 確認時期)
- (3) 同世代との消極的行動 (4) 同世代との積極的行動(過剰適応に注意)
- ⑥ 再登校期

私たちは普通、自己実現のための目的意識を設定し、心をそれに添えて努力していきますが、 不登校をしていた子ども達は心を優先して目的意識をぼかすことによって自分にかかるストレ スの軽減化をはかって回復しようとします。しかし、再登校時期になると目的意識を少し明確 にしながら、心をそれに添えていきます。そして行動を具体的に起こし、自分自身にどれだけ ストレスがかかるかを確かめながら、目的意識を優先させたり、心を優先させたりし、経験・体 験を積み重ね過剰適応を取り除きつつ本来の自分自身の姿で最終的に適応していきます。

(7) ひきこもりのメカニズム

①ひきこもりとは:長期間人間関係をひいてしまい、他者とのかかわりを拒絶して、精神的に自 分の世界の中にいる状態のこと

②ひきこもりは : ①精神障害の前駆期症状としておこる場合

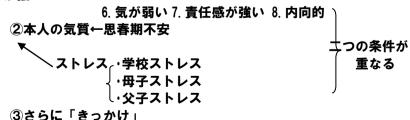
②神経症を含む境界例の状態でおこる場合

③対人不安や不信から陰性感情が強くおこり外出が困難になる場合

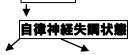
4その他

③心理的ひきこもりはなぜおこる

①本人の気質 1. おとなしい 2. まじめ 3. 完全主義 4. 神経質 5. 感受性 が強い



友人関係、いじめ、学業不安、体罰等の一時的な強いストレスが加わる ことによっての "不登校" "ひきこもり" の状態になる そこに ストレス がかかりすぎると



精神的免疫力の低下

対人不安·不信 対自不安·不信 ス安·緊張·草藤·苛立

不安·緊張·葛藤·苛立ち 憂鬱·自責·不満 ホルモンのバランスの失調

様々な身体症状 昼夜逆転 長時間睡眠

○その状態が長く続くと

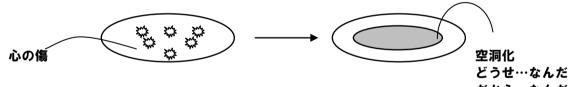
漠然とした不安に包まれ、何に対して不安なのかが不明瞭な状態が続く☆症状として

- a. 精神的な緊張感が続くかと思うと急に自分の世界に入ったように自然に落ち込む
- b. 何に対して不安なのか、理由や状況が不明確
- C. 長時間(何ヶ月も何年も)続く場合がある
- d. 突然無気力感におそわれ、不安発作が起きる場合がある
- e. 外出が困難になり外に出にくくなる

○その時の心理的世界は

"嫌な過去、に包まれる。

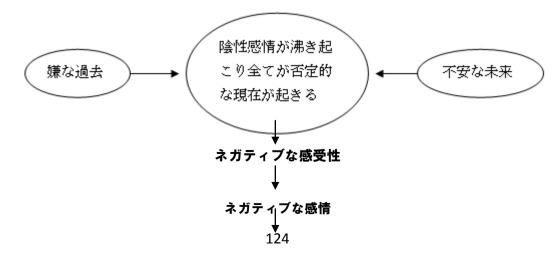
*嫌な過去、は幼少年期に、親や廻りの人の自分に対する行動や行為、思いが様々な心の傷となって、ひとつずつ思い出される。そして、思春期不安をベースにして、いじめ、体罰、教師(上司)の心ない言葉によってさらに傷つけられ、それが不登校(出社拒否)へのきっかけとなり、観念的な思考の中で過去の嫌な体験が集合して、漠然とした空虚感がおこり、心の空洞化が形成されると考えられる。



だから…なんだ

不安な心の上に心の空洞化(心ここにあらず)が起きると

- a.孤独感が強くなる。
- b.さびしい、悲しいという感情がわきおこるがどう表現してよいかわからない。
- c. 感覚の鈍摩が起きるか。または自分のことに対し、人がどう思っているのが異常に気になる。
- e. 時間の観念がズレやすくなる。
- d. 生きていることがなんとなく虚しく思える。



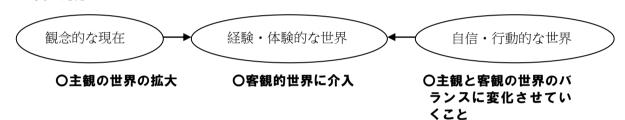
ネガティブな思考の形成

*ひきこもり、によって外的ストレスを減少させ *自我の混乱、を防ぐ。しかしその世界に長時間いると経験・体験の絶対的不足を生じさせ、自信が欠落していく。

④ひきこもりの段階

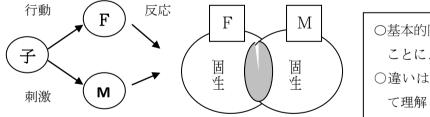
- (1)家の人に姿を見せない
- ②家の人と口を聞かない、必要な時は筆談で部屋の中の生活
- ③リビングやダイニングに母親がいる時でも一緒にいられる。家の人と 一緒に食事がとれる
- 4)家の中では制限はあるが自由に生活している
- ⑤近くのコンビ二等には時刻をみはからって出かける
- ⑥外出はするが、特別なことがない限り他人とは口を聞かない
- **⑦家でも外でも、一見自由にしているが、自分のことは何も言わない**
- 8人と積極的に(心から)かかわろうとしない
- ●ひきこもりは、家の中だけでなく、外でもひきこもっている認識が必要
- ●理由や状況に特に問題がなく、ひきこもりの症状が軽くなっていれば、少しずつ回復、反対に悪化していれば問題あり対応が必要

◇メンタル面の対応として



共生・共感 が大切、 拒否 より 受容

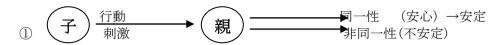
子どもは達は夫婦の同一性を求めている一つの行動や刺激に対して基本的、同じ反応が帰ってくるか 否かである.

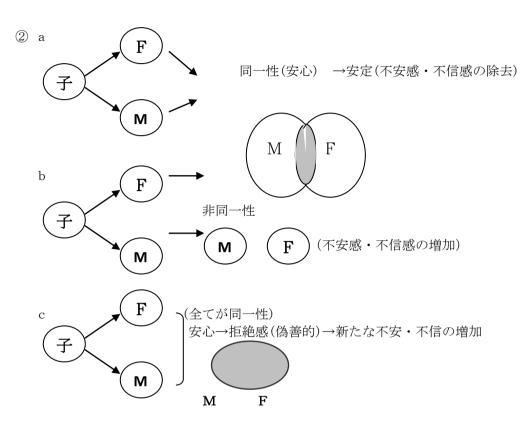


- ○基本的同一性を確認する ことによって安定(安定)
- ○違いは個性や性差によっ ▼四級

◇夫婦同一性とは

夫婦そのものが価値観·生き方に同一性を持っているか否かではない。子どもに対して、夫婦が子どもに対してとっている態度に極端な矛盾がある場合、非同一性と考えられる。





bのケース:両親の矛盾、不一致的態度だと日常の行動の中で規則性が見出せず、緊張 状態が長く続き、ひきこもりが長引くケースが多い また、優しさ 叱られ の同居状態が長く続くと不全感から神経症的な問題の 発症がおこしやすい F が服従的 M が支配的な場合性の同一性障害がおきやすい

cのケース:(仮面夫婦)のケース、理性面や考え方に一致が見られて、夫婦間の配慮 により、感情面まで表面的に一致がある一時安定するが次第に懐疑的になり、 なにも信用できなくなり、ひきこもりの長引くケース

結論:子どもは **F** と **M** の同一性を見つけて安心し、また性差の違いを認識し、両親の個性を明確化することが出来るようになる

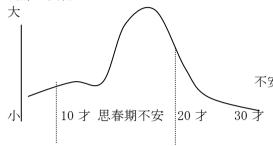
"不安"は葛藤になって

甘えとしての退行 葛藤が外に出るとき (理解しやすい) 暴力的行動・言動

b 葛藤が内に向かう時→ひきこもり

(理解しにくい)

葛藤の変化



- ○思春期不安の時、葛藤は大きい
- ○葛藤はエネルギーである

葛藤に対する適切な対応が行われると

不安→葛藤→確認→安定→不安・不信の解消→社会適応へ

(8) ひきこもりの長期化

① "ひきこもり"の長期化はエネルギーのソト(注3)に向けての低下を意味する。エネルギーはウチ(注4)に向けてつかわれている。

"理性 "は自己を守る主観のために使われ、主観を構築することと、守るために使われる。 そのため、人と話さない。客観が入ると混乱する。人に耳をかさない。という行動をとる。

② 同世代のかかわり期からひきこもりまでは身体化→行動化→意識化と次々に重なって症状が出る。ひきこもりから同世代のかかわり期までは意識化→行動化→身体化と度々に問題が解決変化していく。

身体化(ウチ)→身体症状になってあらわ

れるもの、表情の発露

行動化 →明確な行動が外にあら

われるもの

意識化 →行動化を正当化したり

支援する神経的な症状

非行・いじめ・イライラ ・焦り・反社会的行動 群化・自己弁護 不登校 身体症状 不登校 陰性感情の強い 観念化

③ ひきこもりの長期化に対して

"主観"(注1)を拒否すると関係性は終わる。そのため

- 1) "主観"を受け入れることから
- 2) 共通の話題を探す。(自然体にするため)
- 3) 緊張感をとるための(心の遊び、ゆとりを)
- 4) 心と体を動かす(共有化)
- 5) 自然体の中から、"主観"の中へ"客観"(注2) を導入する
- 6) 抵抗と排除(主観と客観のせめぎあい)
- 7) 心の中に主観と客観の成立
- 8) 客観を使って第三者との交流、社会参加への技術や資格の獲得
- 9) 少しずつ自信の拡がり
- 10) 自然体の中で交流していく。

※注1/主観とは陰性感情をベースにした観念的世界のこと

※注2/客観とは他者との共通項、一般的なこと誰でもが認めること

1)~6)では過剰適応状態

- ④・感情はエネルギー(力)である。
 - ・理性は方向性である 引き合う関係性

ソトに向かう理性でたち向かうことは争いになる→ますます守りになる。理性は外(注 5)に向かっているのでソトに向かうエネルギー(感情)を外に向かうような方向性の転換が必要。

※注3/ソトとは自分の意識内でのソトのこと

注 4/外とは自分の外、他人や外の世界 注 5/ウチとは自分の意識内でのウチのこと

(9) 長期化の子どもの体におこっていること

日周リズムがとれず、生活リズムがずれている子ども達が多くいます。ほとんどの子ども達は早朝 に寝て、夕方に起きる子ども達で昼の生活と夜の生活が逆転しているために、昼夜逆転と一般的には 呼ばれています。中には、24時間起きていて、次の日一日中寝ている子ども達も多く見られます。 半年たっても、中には6・7年続けている子ども達もいます。子ども達は好きでこのような生活をし ているわけではありません。生活リズムを正常に戻そうと努力してもなかなか直らないのです。子ど も達の体は長い間の運動不足によって、平熱が35度台まで下がるという低体温化が進み、熟睡でき ない体になり、三半規管の働きも鈍くなって、時間の調整や身体のバランスがとりにくくなっていま す。さらに、食事時間が不規則になり、血糖値の上下にも普通生活している人にくらべると異常が見 られます。また、主食が少なく副食によって糖分を補給し、血糖値が急に上がっても、インシュリン が出てまた、急に下がるという低血糖の状態の子ども達も多く見られるという報告もあります。その 結果、ストレスからくる自律神経失調症の症状と似た病状が見られる子どももたくさんいるようです。 少し整理してみますと、子ども達にかかるストレス→ストレスの発散の下手な子ども→ストレス負 荷が増加→脳の中枢神経の発熱→自律神経失調→イライラ、落ち込み、発熱、下痢、身体不調、不安 定、睡眠不足と長時間睡眠等がおこる→外部刺激の遮断としての不登校・ひきこもり→長時間睡眠→ ストレスの減少→身体症状の改善→長い間の昼夜逆転→心理的不安や緊張から外出できないでいる と→運動不足→昼夜逆転の固定化→副腎皮質ホルモン・日周リズム異常→血糖値の変化→食生活の不 規則化からくる低血糖状態→イライラ、落ち込み等の自律神経失調症と似た症状の固定化→理性と感 情がスプリットしている違和感→外出への強い不安と葛藤→不登校の長期化となります。(以上推論 も含む)以上が体におこっている変化と考えられますが、心理面では、親と顔をあわせたくない。 親が起きている時は緊張するのでその時をなるべく短くしていたい。夜中は両親が寝ているので安 心感があり、一人でいると心地がよい。気分がやすらぐ子ども達はよくいます。心理面では親と子の 信頼感をどう育てていくのが課題でしょう。また、体の面では子ども達におこっている症状はどう子 どもに伝え、体を動かしていけるかが勝負といえます。体を動かす楽しさ、心地よさを感じた子ども は回復が早いことは事実のようです。

※注7 アパシー

①アパシー (apathy) とは

冷淡、無関心の状態で、とくに政治・思想問題に関するものをいう。選挙権放棄などはその一例 ☆特色

- ○アパシーは社会的な自己(identity)を確立することができず、モラトリアム(moratorium猶予期間)にとどまり、既成の大人社会に同一化できない状態でいる人間のこと。本来、能力がないわけでもなく、なまけものでもない人間が自己の未来像を社会の中で位置づけられず、無気力な精神的状態で暮らすこと。
- ○普通の人と同じ様な暮らしをするが、本業(学校や仕事)はやらない。登校刺激等をすると、おびえたり、すくんだりの身体反応をひきおこす。(怠学、なまけとの違い)
- ○他人とは表面的な付き合いはするが、深い人間関係(恋愛等)はあまり興味を示さない。
- ○現実逃避としてのオタクも広い範囲でアパシーと考えるべきである。
- ○自己が確立しないため、自己の目的や目標がはっきりせず、先伸ばししながら暮らす。最近では、 バーチャル体験と現実体験との区別がはっきりせず、一種の自己万能感的感覚を持つ若者も多い。

②アパシーの生まれる環境

- ○豊かな経済社会に生まれ、物質的には恵まれた社会・家庭に生まれる。
- ○少子化の中で育ち、過保護と先回りの子育てを受け、親の露払いの後を歩くことが多く、自ら問題解決能力は育っていない。
- ○小さいときから人間関係の希薄化の中で育ち、子ども文化(子ども達どうしで遊ぶ)がうまく育たずに、ミニ大人化の中で育った子ども。
- ○母子関係の関係が強く、父親との関係がきわめて薄い。
- ○親が社会・政治に関しての意見や考えが不明確だったり、考えと社会的行動に同一性が見られない場合。
- ○親として、子育てに対しての意見や考えが不明確だったり、考えと社会的行動に同一性がみられない場合。
- ○女子にくらべ男子に発生率が極めて高い
- =現代の日本社会では、どの家庭でも発生する状況である。

③70年代のスチューデント・アパシーとの違い

70年代のスチューデントアパシー	現代型アパシー
日本では1960年代から出現	1990年代から出現
男子大学生を中心に	男子小・中・高生中心に
学力的にも能力的にも高い人を中心に	あらゆる男の子が (一般的に)
アルバイトやフリーターのようなことをしながら	何をやっても続かずなんとなくブラブラ
自分探しをしていた	
やりたいこと、やるべきことが明確になると金銭	学習意欲や働く意欲がなく、運転免許等資格取得
社会的地位など世間のことを考えずに動きはじめ	にもあまり意欲的でない。
る。	
大学に戻ることはほとんどなかったが、他大学に	そのままにしておくと長い間社会適応しない
進学したり、時間はかかるが社会適応していった。	
親との関係には一定の距離をとり、親の意見や考	親との関係には一定の距離をとり、自分に都合の
えは受け入れず、聞き流す。影響力のある友人が	よいことは受け入れ、都合の悪いことは拒絶する。
いる。その友人の意見は受け入れる。	浅い人間関係は保つが、深い人間関係は拒絶する。
大学に入ることが至上目的化し、それが実現し目	自分自身がいつも評論家的で客観的であり、主体
標を失うことも原因。	性が見られない。

④現代型アパシーのタイプ

○急性タイプのアパシー

いい子、優しい子、どちらかというと親の希望通り育っていった子が、中学、高校生になり、突然、 無気力状態に陥り、学校に行けなくなる。内的葛藤はあるが、外に出さない。

○慢性タイプのアパシー

いじめや学校環境、家庭環境から対人不安・不信、緊張が強くなり、不登校状態になり、受容中心の対応していくうちに、本人の中に不安・不信・緊張が弱くなるが、社会適応せず、いつまでも自己確立できずにアパシーに変化していくタイプ。

⑤アパシー対応の基本

自己(アイデンティティ)をうまくつくれずに、自分の目標と目的が明確になれず、何となく 無気力の状態になっていっていることを理解することが大切。決して本人は怠けているのでも 怠惰でもない。

- 1. 最初に受容的な対応をすることにより、親子の信頼関係を成立させること
- 2. 母子密着が強く、父親との関係が薄く、すれ違いや何となく避けている場合、 父親は子どもとの関係を情緒的交流から始めるべきである。
- 3. 父親の人間感、感情を伝えることに努力すること
- 4. 父親の『自分史』の光の部分も影の部分も、父親の肉声で伝える。
- 5. 父母ともに子どもに対する思い、一人の人間として伝えるべきことは何かを明確に し、自分の生きざまとともに伝える。
- 6. 社会に対するステップを踏み出すとき、一緒に歩き出す父親になるべきである。

【別添成果物:学習会 DVD も併せてご覧ください】

平成 27 年 1 月 27 日 斉藤 信

「ひきこもり経験者より望むこと」

ひきこもり経験者は、集団での行動が苦手でノルマや成果といったものに極端にプレッシャーやストレスを感じるので、就業形態も一人で淡々とできる業務が向いている と思います。

例えば、倉庫内作業、ビル清掃、郵便配達等の単純な業務を紹介してほしいと思います。

また、親が高齢化していて、親亡き後の家の維持(相続税、固定資産税)に対して不安を抱いている高齢のひきこもりも多いので、その辺のアドバイスや低所得者でも入居できるアパートやマンションがあれば紹介してほしいと思います。

略歴:大学卒業後2年ほど書店員として勤務。書店を解雇され3年ほどひきこもる。 28歳の時にひきこもり当事者が集まる自助グループに参加。以後ポスティング やビル清掃のアルバイトをしながら断続的にひきこもり、ニート経験者の集まる居場所やイベントに参加。

【別添成果物:学習会 DVD も併せてご覧ください】













ひきこもり対策は、誰の視点?

- ・原因探しは、何の為? 誰の為?
- 治療中の病人は、社会生活を中断すべき?



治療ではない、福祉職だからできる支援が ある筈です。

福祉の拠点「こみっと」の取り組みをお話し します。

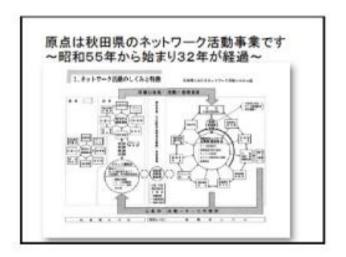
- 正式名称は、『引きこもり者及び長期不就労者及び在宅障害者等支援事業』です。
- 国が示す、平成27年度から開始予定の生活困窮者支援事業と似ています。



 藤里社協では、今年度より「生活困難者支援事業」としての 取り組みを開始しました。

社協が?何故?ひきこもり対策事業を? ~社会福祉法による規定より~

- 1.社会福祉を目的とする事業の企画及び実施
- 2.社会福祉に関する活動への住民の参加の為の援助
- 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、連絡、調整及び助成
- 4.前3号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする 事業の健全な発達を図るために必要な事業

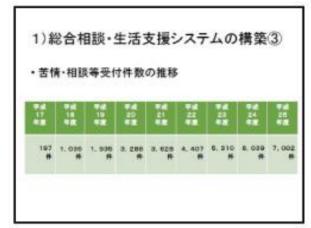


「福祉でまちづくり」を合言葉にした 地域福祉トータルケア推進事業の開始 平成17年度より

- 1)総合相談・生活支援システムの構築
- 2)福祉を支える人づくり
- 3)介護予防の為の健康づくり・生きがいづくり
- 4)福祉による地域活性化⇒「福祉でまちづくり」
- 5)次世代の担い手づくり













『ひきこもり』ってどんな人ですか?

- 「ひきこもり」はいないと言い切れる高齢者
- 自分もひきこもりだったと言い出す若者



現代の若者の生きづらさを感じるのです







「こみっと」支援の特徴

- 居場所づくり・活動の場づくり
- 自分に出来る形での参加
- 支援する者・される者の区別をつけない⇒共同事務所、シルバーバンクとの連携等
- 選択・自己決定の為の体験の場づくり⇒選択肢があって初めて自己決定できるのでは?

「こみっと」支援の効果

- 「こみっと」登録制の明るさ・積極性
- ⇒地域住民との交流の場が増えるほどに理解者・ 支援者が増えていくという現象
- 一般就労率の高さ
 - ⇒実態把握調査の効用含む
- 地域福祉活動への貢献
- ・地域活性化への貢献

そして、「生活困難者の力を地域づくりに活かす事業」へ

・藤里町社協独自の社会復帰訓練カリキュラムの作成と実施



- ·第1回 平成25年10月1日~平成25年12月27日
- ·第2回 平成26年 1月6日~平成26年3月28日
- ·第3回 平成26年5月12日~平成26年7月6日







関東ブロック(栃木)における学習会活動

開催日・開催タイトル	
	引きこもりの理解と回復に関する講演会
	『ひきこもりからの回復への道』
	~訪問カウンセリングから見えてきたこと~
実施(連携)団体名	NPO法人KHJとちぎベリー会
	(全国引きこもりKHJ親の会栃木支部)
会場	栃木県教育会館 5 階 小ホール (宇都宮市)
参加人数	139名(当事者8名、家族92名、支援者22名、社会福祉協議会1名、
	県3名、市町村6名、民生委員1名、その他6名)
	・印刷業者作成チラシ2000枚・追加自前プリンター出力チラシ
	500枚を作成し、県内公共機関を始め関係機関及びとちぎベリー会会員
広報	を始め過去の学習会参加者等に郵送と役員・協力者全員の足で配布を行
	った。
	・地元紙「下野新聞」及び「朝日新聞栃木地方版」に講演開催案内の記事
	を掲載してもらった。
	・冒頭(13:30~14:50)に主催者代表挨拶として30分弱です
	 が「池田佳世」先生のミニ講演をいただいた。短時間とは言えさすが池田
	 先生、導入にふさわしい良いお話でした。
	 ・来賓として「栃木県子ども若者・ひきこもり総合相談センター隅
	 センター長」「宇都宮市青少年自立支援センター塚田センター長」にも
	 お出でいただき、ご紹介をさせていただきました。
	 ・次に(14:50~15:10)「とちぎベリー会」経営(週一土曜日
	 のみ開店)のカレーショップ兼カフェで大活躍中の「稲葉庸介」さん
実施内容 (次ページへ続く)	 (当事者)のピアノ演奏があり、音楽大学で鍛えた腕を舞台上のグランド
	 ピアノで発揮し、大拍手の渦でした。参加者の皆さんからは、心が洗われ
	 るような素晴らしい演奏であったとの感想がありました。
	│ │・本番(15:10~15:40講演15:40~16:10質疑応答)
	 の「鈴木美登里」先生の講演は、先生特有の歯切れの良い分かりやすい話
	 の流れに皆さん引き込まれてしまいました。机上の理論と違いご自分でも
	 引きこもりを経験され、且つ十数年に及ぶ訪問カウンセリングの実践に基
	づくお話には迫力があり、皆さん盛んに頷きながら傾聴されていました。
	- ・今回の講演会は今までになく幅広い層の方にお集まりいただきました
	ので、鈴木先生からも具体的な事例に基づきいろいろなケースに応じて
	お話をいただきました。
	・鈴木先生にはA4 サイズ 6 枚にも及ぶレジュメを用意していただき
	ましたため、より理解しやすく良い講演会になったと思います。参加人数
	あしににや、あり生所レトテト以・時限云になりにし心であり。

	も130名を超えたため、レジュメ等の増刷等大変な程でした。
	・質疑応答も時間ギリギリまで続き、鈴木先生は全員に対し時間の許す限
	り丁寧に説明され、皆さん満足されたご様子でした。
開催の模様 (写真)	ひきこもり回復への道
	・参加人数は139名にのぼりましたが、内訳は
	「当事者」8名・「家族」92名・「支援者」22名・「社会福祉協議会
	関係者」1名・「県」関係者3名・「市町村」関係者6名・「民生委員」
	6名・「その他」6名でした。
実施成果	・内訳(関係)の丸の付け方が申込者によってまちまちであり、「支援者」
決定事項	や「その他」の中に「精神保健福祉センター」「社会福祉協議会」関係者
	や「民生委員」の方等が含まれていた可能性があります。
	・「生活困窮者自立支援制度」に関わる「地公体関係者」や「民生委員」
	の方等の関心は高くなりつつあるよう感じられますので、今後情報交換等
	連携を深めて参りたい。
開催に関連する	• 1月21日「朝日新聞栃木地方版」
新聞記事	・1月31日「下野新聞」
	・新聞記事の問合せ先は全て「とちぎベリー会阿久津副理事長」として、
紹介記事の反響	携帯電話番号及びメールアドレス・FAX 番号を掲載しましたが、問い
	合わせの電話が数多くありました。
	・自分で履歴書を書ければ就労は OK→自立の目安がわかった。
	・アセスメントを十分にする→他の障害にも同じ事が言える、基本的な事
	だと思いました。家の環境を含め、状態を把握する事の大切さ…
	・身辺の自立が大事だということ。ゴミ捨ても出来ない状態ですが、これ
学習会・アンケート	が解決するようにしたい。
から見えた課題など	・先生自身も当事者と言う事、訪問支援の経験豊富な事、わかりやすくて
(次ページへ続く)	勉強になりました。
	・自分の気持ちの焦りを控えて身辺の自立を促す行動をしていきたいと
	思いました。
	・当たり前のことができるように。親が手出ししないように。
	・訪問サポート現場の話が聞けて参考になった。このような講演会をもっ
	と増やしてほしい
	・ピアノの演奏が大変素晴らしく、感動しました。
	・稲葉君のピアノの演奏、感動しました。息子の小さい頃を思い出し涙が

出ました。 ・他者との出会いは大事なのだと思いました ・稲葉さんのピアノ演奏がよかった。日頃の疲れを忘れることができまし 学習会・アンケート た。また聞きたいです。 ・鈴木先生のような人はここにはいない、先生のような人が来てくれたら、 から見えた課題など いつ外に出てくれるか不安、外に出た人の話はうらやましい ・なぜ(どういう理由で)ひきこもりになったのか(原因)の説明をもう 少し聞きたかった。 ・生活に関しては特にないですが、どうして働くことができないのか? ・親が高齢になってきたので老後子供(当事者)をどうすればよいのか マネープラン、遺言 etc <支援者の立場として> ・訪問支援をきっかけにしたいのですが、それも否定されている状況です。 訪問支援サービス提供者が少ない気がします。 ・家の中では殿様みたいで、それがイライラする。息子は何も自分は感じ ないようである。「過干渉」のため当事者は満足してしまっている ・家族へのアプローチ(課題意識のうすいケース) ・ご家族が就労などにこだわり、本人の意向をきかない、現状を本人ご家 族とも受容しない為、無理をして又、精神状態を悪くしてしまう。 ・今まではキャリアの相談、能力開発が主で、最近、若者の不登校、 ひきこもりの相談が多い。 (ひきこもり相談の増加) ・当事者面談を実施しているが、保護者面談が必要なとき、苦手として いたので、何かのヒントを得たくて参加した。 <支援者としての取り組み> ・相談 訪問 事例検討 ケア会議 等 ・対応の基本を確認したい。 今後の取り組み ・お話を伺って FR 式不登校対応チャートと重なる部分が大変多いと思い (支援者として) ました。 ・まずは話をよく聞く。 ・サポートセンターや家族会(栃木サポート)等に行っている

・親・本人・関係者との面談、電話相談、訪問。関係機関との連携。



139

氏名

(連絡先電話番号

)

氏名

ひきこもりからの回復への道

1. ひきこもりの回復までの支援とは

ひとことで「ひきこもり」というが、その状態は様々で年齢性別、ひきこもっている期間や家族との関係性などによって当事者への支援も異なり、回復の道筋も一定ではない。社会参加しないことによる当事者の精神的な変化や社会性の変化があるため、そんな彼らに対してそれぞれの状態に合わせての個別で段階な支援が欠かせない。

①個別な支援

ひきこもりの問題は個々の状況やニーズに応じた個別的な対応が必要となる。待つことも大切ではあるが、待つばかりではなくアウトリーチ (訪問など)が必要な場合もあるし、 医療的な観点での支援もまた必要となる場合もある。

個別な支援の中で特に難しいものとして家庭内暴力がある。家庭内暴力にはじまり、家 族支配と金銭の要求など、時を選ばず個別な支援(介入)が必要となる。

②段階的な支援

状態による段階的な支援もまた欠かせない。同じ人に対しても、その時々に応じて、必要な支援・言葉は変わってくる。

「外に出るために誰かの手助けが欲しいとき」

「同世代の人と交流したいと願っているとき」

「なんとか自立したい、働きたい、でもどうしたらよいか分からない」など そんな当事者の変化に気づくことから支援のきっかけが見えてくる。

③十分な準備(アセスメント)

当事者と出会うまでのアセスメントを十分にする中で、家族が知っている事柄と、家族が把握できていない事柄を把握し、当事者へのアプローチを考えていく。

多角的な視点でとらえるためには、成育歴、学校での人間関係、家庭環境、家庭内暴力の有無、どんなストレスを抱えているか、メンタル面での耐性、医療機関の必要性、どんなコンプレックスを抱えているか、過食・拒食・食行動の異常の有無、母親との共依存の有無、いじめを受けていたか、睡眠障害、身辺の自立なども含めた社会性の発達の段階、被害妄想、趣味や現在の興味をもっている事柄、など多岐にわたる当事者への理解の手掛かりとなる情報を得る必要がある。

④身辺の自立

まずは、当事者がエネルギーを十分に貯めていることが大切である。次に身辺の自立、身辺の自立がないと社会的な自立もない。生活のスキルが身についていないと、ごく当たり前のゴミ捨てもできないとアルバイトもできない。身辺の自立ができていないと時間管理もできない。身支度ができない、または時間がかかりすぎる、またはどうしたらよいかわからなくて混乱する。当たり前のことを当たり前にできるようになったところから、社会参加がはじまる。家族がそのことを理解し、家庭内で行えることを積極的に取り組んでいくことから家族を通した本人支援が始まる。

⑤関係性を築く(マッチング)

多様な問題と、様々な人々に対応するとき、対応する側も多様な人材を準備する必要がある。当事者が最初の出会いの段階で考える対象は、同性で同世代の人、同じ興味を持っている人(趣味やスポーツなど)、もしくは自分の抱えている問題を共に考えてくれる人、またはその解決を知っている人などである。

例、キャリアコンサルタント、臨床心理士、社会福祉士、パソコンインストラクター、介護福祉士などの専門職をはじめ、ひきこもり経験のある当事者やその家族などによるチーム対応をすることで多様な当事者へのマッチングを考える。

⑥アウトリーチ (訪問支援)

訪問は当事者と会うための方法の一つとしてまずは考えたい。積極的に家から出て、第三者と会うということにはエネルギーを必要とする。十分な準備を行うと、家族を通した活動案内によって、本人が希望して自ら訪ねてくることがある。

本人の状態を把握し、必要な(家族との信頼関係の構築)を待った上でのアウトリーチ(訪問支援)によって、次の段階へ向かう。訪問支援が可能となり、本人の意向や希望を聞きながら、一歩ずつ外に向かっての活動をさらに支援していく。

⑦中間的支援(同行支援・居場所など)

医療機関への同行や、いままでできなかったこと(映画を観る、買い物をするなど)を行う。他者への緊張が強い場合は、静かな所へ繰り返し出かける。そうするうちに外へ出かけることの抵抗感が少なくなるなど、行動することで本人が自分自身で制限をしていた殻から解放されていく。

居場所は社会参加の入り口で、十分に対人関係の訓練をそこで行うことによって、出口としての就労が可能となる場合が多い。多くの人との出会い、同世代の人たちとの様々な体験の共有など、そこで学び感じて成長し変化する。次なるステージの土台となる人としての強さを養う場でもある。

2. 就労体験について

まずは就労体験の受け入れまでにいろいろなやりとりが必要となる。引きこもり者の行動の特徴や性格の特徴、得手不得手や、禁句など。受け入れ先の担当者と丁寧な情報交換が受け入れのその後の状況が決まってくる。

①就労へ向かう時の困難

当事者が社会的参加に向けてチャレンジするときいくつもの困難が考えられる。

- ・空白の履歴
- ・途中で終わっている学校
- ・対人関係の不安
- ・難しい自己認知

課題を乗り越えるのではなくて、そんな自分であることを受け入れたところから、社会参加 に向けて動き出す思いが生まれる。

- ② 就労の3つの課題と向き合うこと。
 - ・新しい場所 (就労先)
 - ・新しい人(仕事仲間)
 - ・新しい事柄(仕事の内容)

③ 地域での受け入れ先を探す

未体験のことに慎重な引きこもり者が多いため、できるだけ地縁・人の縁による受け入れを作るように努めている。人との関係性を築くのがうまくできないので、すでに作り上げられている関係性の力を借りて、さきほどの新しい事柄の場所や、人の部分をカバーするように心がけることによって、チャレンジするハードルが低くなる。開かれている関係性に入っていくことにしり込みしない人は多い。たとえばすでに何人か受け入れられている職場ならばある程度の情報が伝わっていて、新しい仕事とはいえ自分ができるかどうかの判断をある程度はできる段階から入っていくことになる。

④ プラン作り

当事者に合わせたプラン作り(目標設定)は、身近なところから始める。

- 好きなこと・苦手なこと
- ・1日何時間なら、週に何日なら動くことができるか
- ・通勤時間はどれくらいを考えているか
- ・何人ぐらい働いているところをイメージできるか

具体的で普段の自分自身の生活とかけ離れていない所から就労のイメージを作っていく。も ちろんこれは未就労の人に向けてで、就労経験のある人は今までの仕事をまずは優先して考 える。それが嫌な仕事だったとしても、その経験を活かして次を考える。

⑤ スモールステップの大切さ

ひきこもる前に一定の就労経験(バイト経験)の有無は重要である。経験のない人への就 労支援は慎重に行わないと、最初の挫折を長く引きずることが考えられるからだ。「面接の電 話をするだけでも、すごいよ」と一つひとつを自ら行うことを支える。

面接をしたら「どうするか、自信がなかったら、面接しただけでも十分だから、次に緊張しないで面接できるようになったから」と。

実際採用されて仕事に行くことになっても、最初から長く続くことはほとんどは期待しない。仕事を初めて3日ほどで、「しんどいから」「この仕事は向いていないと思う」などと、辞めたいというメッセージが来る。辞めたいから「辞めたら」とは言わないが、振り返りをしながら本人自身が現在の自分の気持ちと、これからのことに対しての気持ちを考える時間を持つ。どうするか判断する、決断する、これが大事で、辞めるか辞めないかは重要ではない。自分で判断したら、次へのエネルギーは損なわれない。

仕事を探す、問い合わせる、面接する、そのひとつひとつを丁寧に積み重ねていくといつ の間にか働き始めている。

3. 回復の最終段階の見極め

就労・就学いずれにしても「もう、元気になった」「大丈夫」と周りが思う頃、本人も自由 に活動を初めて新しい環境(職場・学校)に溶け込んでいく。

回復の最終段階は、「自分の悩みを一人で悩まないで周りに相談し、解決に向けて動くことができる状態」と思う。生きている限り様々な困難は避けられないが、そんな時一人で悩まずに相談し、考え行動し、変化し成長する。

4. 家族に対する支援

オレンジの会では、ひきこもり当事者への働きかけと同時に、当事者に対して家族として どのように対応したらいいのか、家族は当事者(子ども)から学び何を変えて行けばいいの かなど、家族への対応によってひきこもりの状態は変化する。

ひきこもりは様々なことが絡み合ってなる状態で、生育の中で(心が)安心して、安定して育つことができず、しっかりした自己肯定観を持つことができなかった事も原因の一つと思われます。まずは家庭の中が安心できる場である事、その為には両親が安定した状態でいる事が大切。家族は本人の状況を理解して、見守ることができる、信頼することが家族の本人支援と考える。そんな家族がストレスを抱えすぎないためにも、同じ悩みを持った家族との交流は癒しと学習の場となる。

5. 事例から考える

①A さん (初回相談時13歳)

父母と姉の4人家族。中学2年生(不登校)。父親は子育てに関して母親任せ。相談時に「この数か月まったく話をしなくなって外出もしていない。そのことが不登校と同じくらい心配だ」と話す。中学在学中はハガキによる一方通行の働きかけだったが、卒業時に本人から「相談したいことがある」と電話で話したことがきっかけで、卒業後、作業所を利用するようになる。

漢字の読み書き、計算など学習支援を行う中で学習障害であることがわかる。本人も希望するのでドリルを使いながら、小学生レベルから勉強を始める。対人関係も、さまざまな人との出会いの中で自分らしいスタイル、自分らしい話し方を身に着けて(無口であるが)安定した毎日を送るようになる。何かアルバイトがしたいという本人の希望で、つてをたどって町工場の簡単な作業を見つけ、半年ほど働く。そんな中、自信が持てるようになってきたのか自分でアルバイトを探し、スーパーで働く。

中学卒業後3年過ぎて、「通信高校へ行って勉強する」と、高校へ入学、学費を自分で賄いたいという本人の希望があり、支援者の知り合いの飲食店を紹介。学校とバイトを両立させつつ、専門学校へ進む。現在は本人の希望する職種で就労。

②Cさん(初回相談時23歳)

父母と姉、祖母の5人家族、家族と全く別の生活を2年ほど続けていて、昼夜逆転、家族に対して「こうなったのは親のせいだから謝れ」と両親に対して攻撃的な言動を繰り返す。 困惑した母親が相談来所。介護が必要な祖母と、弟のことでうつ状態になった長女のことを どうしたらよいか、本人にどう対応したらよいかと困っていた。

その後家族は家を出て、Cさんは一人暮らしを始める。最初の相談時から家庭訪問を7年ほど続けるが本人と接触できずにいたが、ある時Cさんが出てくる。

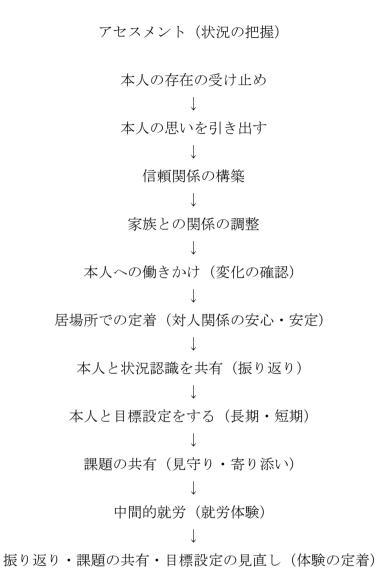
その後2回目のCさんとの接触時に「僕働くことができますか」という希望を受けて、支援を始める。介護の事業所での体験を重ねてバイトにチャレンジしたいと本人が希望する。

最初のバイトは家族の関連する事業所で始めるが失敗が多く長く続けることができず、2つ目のバイトは失敗が続き辞めざるをえない状況でやめる。

本人は「自立したい」と意志が固く、一緒に様々なアルバイトの面接を行う。3つのバイトで採用される。1つめは支援者と探した工場、2つめはサービス業、3つめは軽作業。どれにしようかと悩んでいたが、解雇に近いような失敗の連続という今までの事情を考えて、また掛け持ちできる時間帯ということもあって3つのアルバイトを掛け持ちして働くようになる。3年目を迎える。

6. 支援の流れ

家族の相談



全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)

5. 東海ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

別添成果物:「ひきこもり大学~普通学科~」DVD

東海ブロック「ひきこもり大学」学習会活動

開催日・開催タイトル	2014年 11月3日 (月) ひきこもり大学 in 名古屋			
実施(連携)団体名	NPO 法人オレンジの会 (全国引きこもり KHJ 親の会名古屋支部)			
会場	ウィンクあいち小会議室 B1209			
参加人数	計23名(当事者14名、支援者3名、一般3名、家族2名、不明1名)			
	チラシ 300 枚・ポスター10 枚作成及び配布。(愛知大会参加者:家族、当			
 ±□	事者、行政、社協、民生委員、支援機関関係者)			
広報	ホームページ、Facebook イベント、ダイヤモンドオンライン「引きこもり			
	するオトナたち」などで告知			
	「ひきこもり大学」DVD も併せてご覧ください			
	【前半 9:35~9:55】池上正樹氏(フリージャーナリスト)			
	- 長年ひきこもり問題を取材し、ネットコラムや書籍などで発信している池			
	上正樹氏から、ひきこもり支援の現状、対話の場としてのフューチャーセ			
	ッションについて、そこからひきこもり大学開始の経緯や意義などが語ら			
	れた。			
実施内容	【後半 10:10~10:40】宮武将大氏(ひきこもり自助グループ Lamp)			
	ひきこもり経験者で、香川県の高齢者施設で働きながら、ひきこもりの自			
	助グループ Lamp を立ち上げるなど、いろいろな市民活動をして			
	いる宮武氏から、ひきこもりで経験した「普通ではない事」と「普通」へ			
	の思いなどが語られた。			
	【グループトーク 10:50~11:30】			
	5 人程度のグループに分かれ、自己紹介を行い、池上氏や宮武氏の 港湾を関いての威相などを託し合った。 その後、それぞれのグループから			
	講演を聞いての感想などを話し合った。その後、それぞれのグループから			
	話し合った内容の発表があり、共有の時間があった。			

開催の模様 (写真)



ひきこもり大学開設の経緯を語る フリージャーナリストの池上正樹 氏



ひきこもりの体験を通して感じた、社 会的に「普通ではない」ことと「普通」 について語る宮武将大氏

	・当事者による支援団体、NPO 法人わかもの国際支援協会、NPO 法人
	グローバル・シップス こうべとの連携が図れた。
実施成果	・講義の様子を伝える DVD を制作。(※別途、成果物として提出)
決定事項	・参加者は、全国大会(愛知大会)の翌日だったこともあり、四国や北海
	道などから 23 名。
	・当事者や経験者の積極的な参加があった。社協、サポステ関係者ら、地
	域連携先の方との交流を得られた。
	・自分の考えと共感してもらえる人が、また何人か増えたのが一番
アンケートから見え	良かったです。
た良かったこと	・支援者の人と話ができた。
	・自分が認められて救われた気分になりました。
	・対人スキル等の改善
	・親子関係
₩ 2 2 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	・金銭的な面が一番困っています。
学習会・アンケートから見えた課題など	・一般就労できていない。
	・親御さんから手間にみあうお金をもらうのが心苦しいこと。
	・実際困っている人に会えないこと、から回りしている毎日です
	・作業所を設置したいと思っていますが、なかなか…
	・ひきこもり大学を開催していない府県でも開催してみたい。
今後の取り組み	・権利を守る支援と、本人の思いをていねいにおききしていくことの両方
	│ │があり、(内面と外的なこと)時間もかかり、行政に理解してほしいです。
	・ゲーム依存症者のアウトリーチ
	 ・かんもくの方とのチャットやゲームを使ったコミュニケーション
	・不登校をそのままにしない。 (連絡が途絶えても) リストを消さない取
	り組みをしています。
	1

別添成果物「ひきこもり大学」DVD も併せてご覧ください

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 - NPO法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) -

F/K/KOMORI

全国ひきこもり家族・支援者交流会 第9回・愛知大会の翌日に、 全国当事者交流会として、 「ひきこもり大学 in 名古屋」を 開催します。

日時

1/3(祝)

午前9:30~11:30

●場所

名古屋市内(申込者にのみお知らせします)

●対象者

ひきこもり経験者や家族・支援者・ 一般の方々

- ●定員 36 名 (先着順)
- ・申し込み締切:11月2日18時
- ●入場料

家族·支援者·一般:1,000円 若者·当事者500円



ひきこもり 大学 『普通学科』

私たちひきこもりは「普通」ではないのだろうか? それなら「普通」とは何か?



講師:宮武 将大さん

プロフィール

小学校6年生から不登校になり、そのままひきこもる。 その後社会復帰を果たし、高校、大学に進学。そして今年就職。 社会的に「普通ではない」ことと「普通」を経験。 現在は働く傍ら、ひきこもり自助グループ「Lamp」を立ち上げ、 居場所づくりを行う。

行

池上 正樹さん(ジャーナリスト)

問い合わせ・お申し込み NPO法人 グローバル・シップス こうべ

お申し込み時には、お名前(ペンネームも可能)、フリガナ、都道府県名、お立場(ひきこもり経験者・家族・支援者・一般)、連絡先メールアドレスを、 メールで kobe@global-ships.net まで送ってください。折り返しの返信メールをもって予約受付とします。

主催:NPO法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) 共催:NPO法人オレンジの会 協賛:NPO法人わかもの国際支援協会

ひきこもり大学 普通学科

宮武 将大

I. はじめに

私たちひきこもりは「普通」ではないのだろうか。それなら「普通」とは何か。

ひきこもりを経験した中で、社会もひきこもり当事者の中にも基準となる「普通」があるのを感じた。 社会において、何から踏み外したら人は「普通」ではなくなるのか。

ひきこもり当事者、家族、社会が求めている「普通」とは何か。

「普通」という言葉ひとつを考えるだけで、ひきこもりは生きやすくも生き辛くもなると感じている。 ひきこもり生活8年。社会復帰生活8年。

社会的に「普通ではない」と言われることと、「普通」と言われることを経験したからこそ感じた想いを伝えていきたい。

Ⅱ. 普通というレール

これまでのひきこもり当事者との出会いの中で、親の多くは公務員や教育関係者。自営業という人が多かった。

親の中の「普通」の基準が高いのか、「普通」のことしか知らないのか。

そうした親たちの「普通」というレールから外れた子どもをたちが今まさに生き辛さを感じていると 言える。

ひきこもり当事者もまた、「普通」というレールに振り回されており、

当事者も、家族も、社会も、自然と「普通」を求めようとしている。

「普通」の人生とはなにか。

学校に行く。勉強をする。友達がいる。問題を起こさない。進学をする。恋愛をする。就職をする。 働く。休みの日は友達と遊ぶ。

結婚をする。子どもが出来る。歳をとる。孫ができる。老いる。年金をもらう。歳をとって死ぬ。などだろうか。

「進学をしない」や「結婚をしない」という人は社会に数多くいる。

しかし「普通」ではないかというと、決してそうとは言えない。「結婚をしない」ことも結婚をする ことが当たり前の時代から、

今では晩婚化、結婚事態をしないことも人生の選択肢となっている。

ではひきこもりは何が違うのか。それはひきこもり1人で複数もしくは全てに該当してしまうからである。

ひきこもり当事者は「学校に行く」から「歳をとって死ぬ」までの全てを失ってしまう可能性がある のである。

Ⅲ、「生き難い普通」と「生きやすい普通」

単純に、あまりにも「普通」と言われるものから外れてしまうことが多いのである。

東海ブロックにおける学習会活動(ひきこもり大学テキスト)

これらがひきこもり当事者、家族に与える劣等感、疎外感、孤独感を招く原因の一部ではないだろうか。

しかし、学生生活も人間関係も「普通」に拘れば拘るほど、生き難いということに気づく。 何故ならひきこもることを選択したひきこもり当事者は、

人生そのものが決してその「普通」には当てはまらないからである。

重要なのは、私たちには私たちの生きやすい「普通」があるということである。

Ⅳ、違いを認める

「普通」ではないということは、個性でも特別でもない。人とは違うということである。 家族や社会はひきこもりの当事者と本当に向き合っているのだろうか。

「普通」と向き合うのではなく、ひきこもり当事者と向き合うことが必要である。

そしてひきこもり当事者もまた、違いを認める作業が必要である。

生き方が違うからこそ、人とは違うことができるのであり、「普通」であることの必要がない。 自分たちにとって生きやすい「普通」を生きよう。

別添成果物「ひきこもり大学」DVDも併せてご覧ください

ひきこもり大学って??

ひきこもり大学とは、ひきこもっている本人や経験者が先生となって、ひきこもっていた経験や知識・知恵を、親や家族、関心のある一般の人たちに伝えて、対話しながら参加者全員で学びあう学習イベントです。

「ひきこもりから学ぶ」という発想から、全国的規模でひきこもっている本人や経験者を中心に、 各地で自発的に実施されています。

ひきこもり大学の最大の特徴は、ひきこもっていた本人や経験者が先生になり、ネガティブと思われていた「空白の履歴」の経験や知識、知恵を、価値に変えることにあります。そして、それらの価値を学ぶ生徒は基本的に、親や家族、一般の人たちになりますが、同じ状況にある人の話を聞きたいという当事者も数多く参加しています。インターネットで知ったひきこもり大学をきっかけに、外に出たひきこもりの方もいると言われます。

先生は、授業で話したい、伝えたいテーマに沿って、自分で自由に学科をネーミングできます。「生きていたいと思いたい学科」、「メンタルヘルス学部」など・・・これまで多様なテーマが、全国で開催されてきました。

生徒は授業の後、価値があると思えたら、その気持ち分の金額を授業料として寄付金箱に募金をして頂きます。先生を務める当事者の交通費などの報酬に充ててもらおうというのが趣旨ですので、募金して頂くとしても 1 コインでも十分です。

大学は2013年9月に非公開でスタートして以来、まだ試行錯誤の段階であり、毎回問題点を改善しているところです。

「みんなでつくるひきこもり大学」というコンセプトを胸に、参加者たちにいい時間を過ごしてもらい、少しでも笑顔で帰って頂けるよう、みんなの思いをできる限り大事にしていきたいと考えています。

ひきこもり大学ホームページ http://hikiuniv.net/

東海ブロック(浜松)における学習会活動

開催日・	2015年2月15日(日)家族の機能回復とひきこもり本人の回復に向けて
開催タイトル	CRAFTを応用した支援
実施 (連携) 団体名	NPO 法人 てくてく (全国引きこもり KHJ 親の会 浜松支部)
会場	福祉交流センター(浜松市中区成子町140-8)
参加人数	計41名(当事者家族27名、当事者0名、支援者3名、民生委員5名、医療関係者4名 臨床心理士2名)
広報	チラシ300部・作成及び配布。通信100部 配布先:精神保健福祉センター、市町の保健師、教育委員会・浜松市社協 ・民生委員会 磐田市民生委員会 近隣 NPO
実施内容 (次ページに 続く)	【13:00~15:00】 講師:徳島大学大学院SAS研究部 准教授 境 泉洋 氏 ひきこもりの現状や様々な調査結果から、家族の機能回復と引きこもり本 人の回復に向けてCRAFTを応用した支援の必要性を説く。家族自身の機能回復とそれに連動してひきこもり本人との関係回復。それが進むにつれ 本人と社会との繋がりを進める。ひきこもりを抱えた家族は経済的、心的負担が大きく気持ちにゆとりが少ない。家族の中にどうせ何を言ってもだめだ、というあきらめの気持ちが芽生え、ポジティブなコミュニケーションが出来にくくなっている。家族間の信頼関係を取り戻し、ポジティブなコミュニケーションが成り立つように訓練(練習)する。 【15:15 ロールプレイ 講師:境 泉洋氏】 事例を挙げ、それについての講義。・望ましい行動を増やす・暴力的 な行動の予防 ・受療を進める際のコミュニケーションスキルについて例を挙げ、実践の方法に関して学習した。 【16:30 質問タイム】・褒めても喜ばないが?などの質問が出た。

開催の模様 (写真)



ひきこもりの現状とひきこもり 家族の機能回復について説明する 境 泉洋氏



様々な事例を挙げ、CRAFT 機能分析と 機能回復のためのポジテイブコミュ ニケーションについて説明する境氏

	会員以外に、精神科医、臨床心理士、看護師、民生委員、専門職の参加が			
実施成果	見られた。残念ながら行政関係者の参加はなかった。			
決定事項	次年度の年間計画にCRAFTを中心テーマにし、引き続き地域連携と機能			
	回復のためのロールププレイの実施が決まった。			
開催に関連する				
新聞記事	2月6日、中日新聞催事欄に開催の広報を出した。			
紹介記事の反響	・当事者家族が新聞を見て当日2組参加した。			
	・家族関係を良くするための具体的なポジティブコミュニケーションを示			
	していただいた。			
アンケートから	・本人を受容する事を基本にしていると、親は自分の感情を明確にする事			
見えた	が難しいと思い込んでいましたが、自分の感情はキチンとしていく事が必			
良かったこと	要だという事を学びました。			
IX NATION COLUMN	・望ましい行動を見つける訓練、望ましい行動を引き出す状況を作る事の			
	大切さを学びました。			
	・ひきこもり本人の兄弟への配慮他。今日のお話しは大変参考になった。			
	<親として>・父親として本人への接し方がわからないため。			
	・子供が 10 年ひきこもっており、先が見えない。			
	・話し相手が母親の他に居ないようだ。			
学習会•	・夫は取り付く島もない。			
アンケートから見え た課題など	・子供に対する言葉かけがうまく出来ない。			
	・子供が口を開かない。家族とも会わない。自室にこもっている。			
/こ床/虚/よこ	・暴言暴力が多いのが悩みです。本人が落ち込んでいる。			
	<支援者として>			
	・親自身も問題を抱えている場合の支援方法を知りたい。			
	・当事者だけでなく、家族も孤立するため、情報が行き届かない。			
	・ひきこもりの家庭があるが、精神病なのかメンタルなのか分かりづらい。			
	・望ましい行動を見つける訓練。			
	・当事者側からの視点の重要性			
今後の取り組み	・ひきこもり本人の兄弟への配慮他。			
	・質問に対する的確な答えが印象に残りました。			
	・ことばの選択の大切さ			
	・分かりやすい言葉での説明。笑いありの進行。			
/ (X *) 4X / htt.	・望ましい行動を引き出す状況を作る事の大切さを学びました。			
	・警戒心を弱める方法として安心させる事。			
	・現在、仕事を始めていますが、職場の人間関係で、困難な事が			
	あるようなので、よく聴いていくようにしています。			
	・まず、家族に参加してもらえる craft のようなプログラムが			
	当地でも多くの人にアクセス可能になればと思います。			

* この研修会は独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業により開催されます。 **クラフト (CRAFT)** コミュニティ強化と家族訓練 Community Reinforcement and Family Training CRAFTの目的 実施上の前提 家族自身の機能回復 ● 家族支援を最優先する。 ひきこもり本人と家族の関係回復 家族と子供の安全に最大限注意する ひきこもり本人と社会をつなげる ● 子供を受け入れる準備が出来てから 相談機関の利用を即す 日 時: 2月15日(日) 会場: 福祉交流センター 浜松市中区成子町140-8 TEL:053-452-3131 対 象 : ひきこもり支援団体・保健士・学校関係者・一般家庭・てくてく会員 定 員 : **50名 (予約制)** <予約先>090-1416-6224 (山本) 参加費 : 500円(資料代) 若者当事者 無料 前 半/研修会 12時30分~ 受付開始 13時00分~15時00分 テーマ 家族・こども・社会 『家族の機能回復とひきこもり本人の回復に向けて:CRAFT を応用した支援』 講 師 徳島大学 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス 研究部 准教授 境 泉洋氏 後 半/グループワーク 15時30分~17時00分 ポジティブなコミュニケーション(ロールプレイ) 講 師 徳島大学 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス 研究部 准教授 境 泉洋氏 17時30分閉会 主催:NPO法人全国ひきこもりKHJ親の会 共催:NPO法人 てくてく 特定非営利活動法人 てくてく 年齢を問わず、引きこもり当事者と家族が回復し、自分らしく暮らせるように支援します。 ●●●● 個別相談·訪問 定例勉強会 ●●●● 研修旅行 お楽しみ会

 特定非営利活動法人 てくてく

 年齢を問わず、引きてもり当事者と家族が回復し、自分らしく暮らせるように支援します。

 定例勉強会
 ・・・・ 届場所
 お楽しみ会
 ・・・・ 個別相談・訪問

 方くてくファーム
 ・・・・ 居場所
 ・・・・ 個別相談
 ・・・・ 「お蒸し仕事・アルバイト」

 訪問
 〒432-8054 浜松市南区田尻町208-2 携帯: 090-1416-6224 (山本)
 E-mail: tekutekuiku@bj8.so-net.ne.jp 訪問・相談
 予約受け付けます。担当:山本

2015.02.15

家族の機能回復と ひきこもり本人の回復に向けて: CRAFT を応用した支援

ひきこもりの現状

德島大学大学院SAS研究部

境 泉洋

不登校, ひきこもり, ニート

ひきこもりの定義(齊藤, 2008)

 様々な原因の結果として社会的参加(義務教育を 含む就学,非常勤職を含む就労、家庭外での交遊 など)を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概 ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらな い形での外出をしていてもよい)を指す現象概念で ある。

なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低くないことに留意すべきである。

156

ひきこもりの疫学調査

本人の性別(境, 2006に加筆

 「ひきこもり」がいる世帯数は、低めに見積もっても約232,000世帯(全世帯数の0.5%) (Koyama et al., 2010)。

ER K K

1000\$1.8~2.8 Actors 10241A 25200 10240A

- 趣味の用事の時だけ外出する「準ひきこもり」 を含めた広義のひきこもりの推計は69.6万人 (内閣府, 2010)。
- 18歳から55歳までのひきこもりは町民1293人 の8.74%にあたる113人(秋田県藤里町社会 福祉協議会, 2010年2月~2011年8月)。

Y 0 Y 21

3. 440 3x 0

\$300 (0)

100542.H~4.H B-881(300)

KO440 A~10042A 445(X0) 15年以上のひきこもり者15例

心身機能の変化(中垣内, 2010)

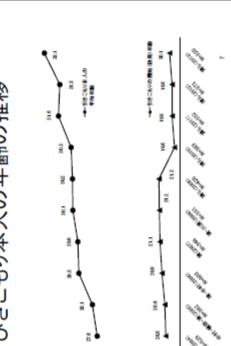
長期ひきこもりにおける



- 骨折 2例 肥満 1例
- アルコール乱用

1例

アルコール乱 発声障害 14



210

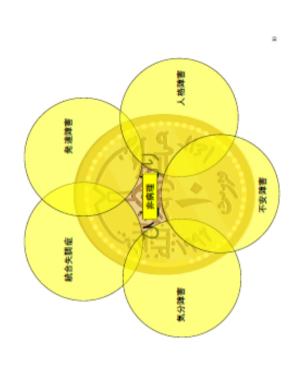
180

ひきこもり本人の年齢の推移

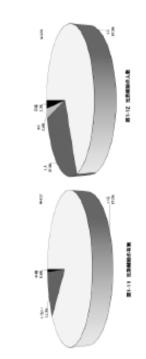
380

310 320 310 310 310

.



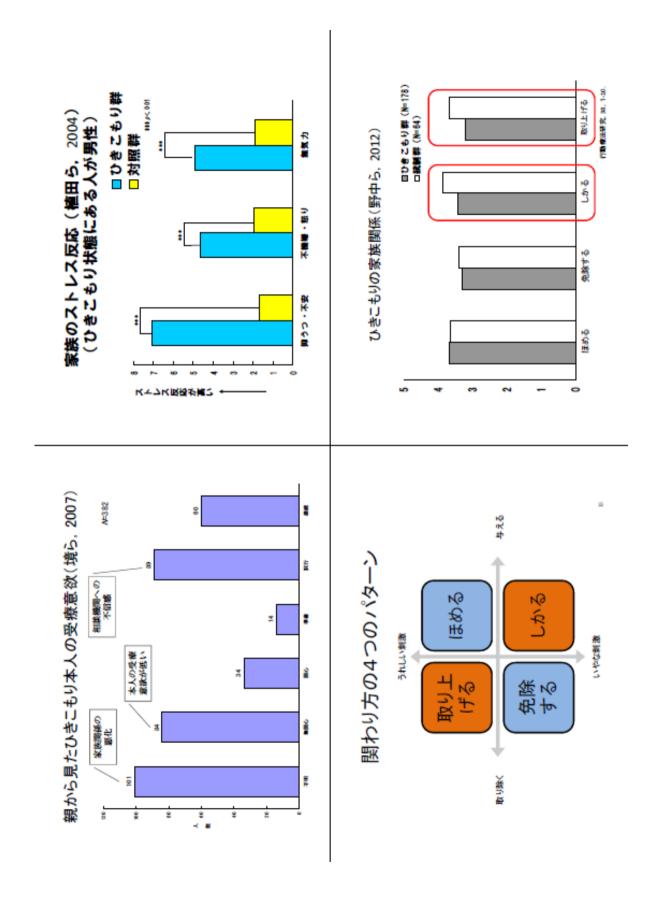
家族の心理と支援

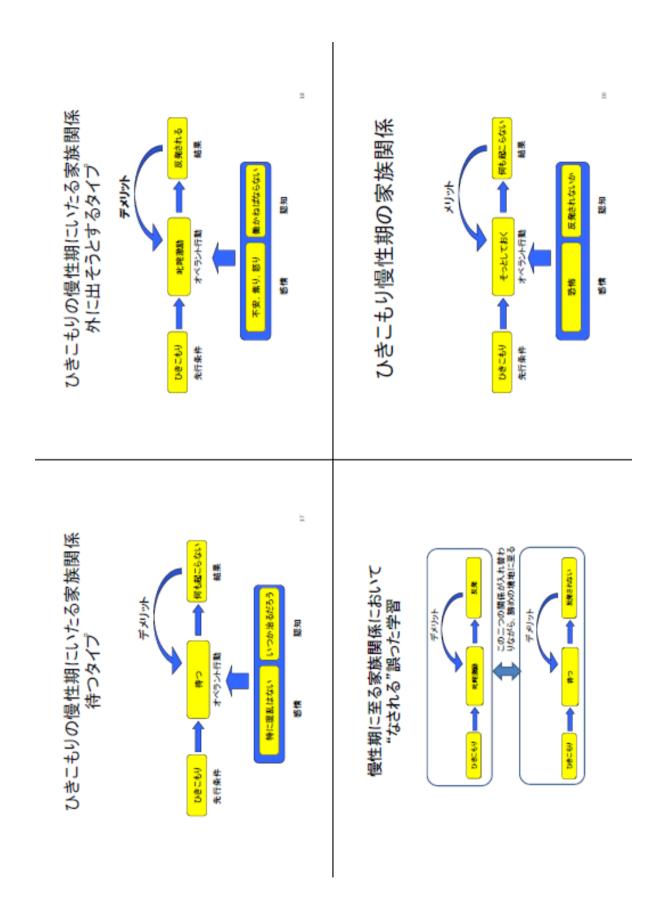


兄弟姉妹の有無(境ら, 2013)

ひきこもりの三分類と支援のストラテジー(p.24)

	我的我国国、我的事物、全然事物などの目前整合するののこれがあった。
3	素物療法などの生物学的治療が不可欠ないしはその有効性が認治さ
A I	れるもので、精神療法的アプローチや福祉的な生活・航労支援などの
	○個・社会的文庫も回時に実施される。
	代的社会連盟指令包約職業などの民連盟指令主診路とするひきこも
1	りで、数単特性に応じた顕常療法的アプローチや名法・教学支援が中
å F	ひとなるもので、薬物療法は影迷障害自体を対象とする場合と、二次
	障害を対象として行われる場合がある。
	パーソナリナイ幕権(ないしもの後向)や参拝機関指導権、同一指の
3	問題などを主診所とするひきこもりで、精神療法的アプローチや生
ti H	法・航労支援が申むとなるもので、薬物療法は対面的に行われる場合
	ታላቴ ቆ





> 無らせては いけない 盼春

甘やかしては いけない 無り

家族が抱える葛藤

CRAFTの目的

家族自身の機能回復

・ひきこもり本人と家族の関係回復

ひきこもり本人と社会をつなげる

2

CRAFTとは?

 CRAFT (Community Reinforcement and Family Training:コミュニティ強化と家族訓練)プログラムは、主に受療を拒否する物質乱用者の家族などの重要な関係者を対象とした介入プログラム。 オペラント条件付けによる行動の予測と制御を活用し、受療を拒否する物質乱用者の治療動機づけを高める効果が実証されている。

家族関係の基盤

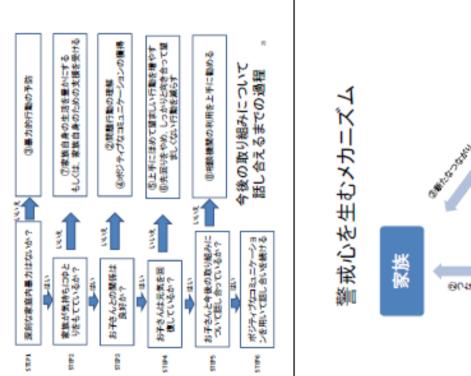
褒めると子供が喜び、 叱ると子供は反省する 信頼関係ができていれば、

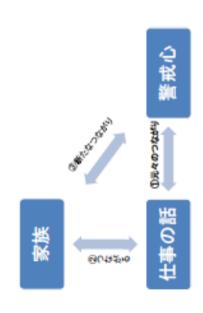
褒めると子供は嫌がり, 叱ると子どもは反抗する ・信頼関係が崩れていると

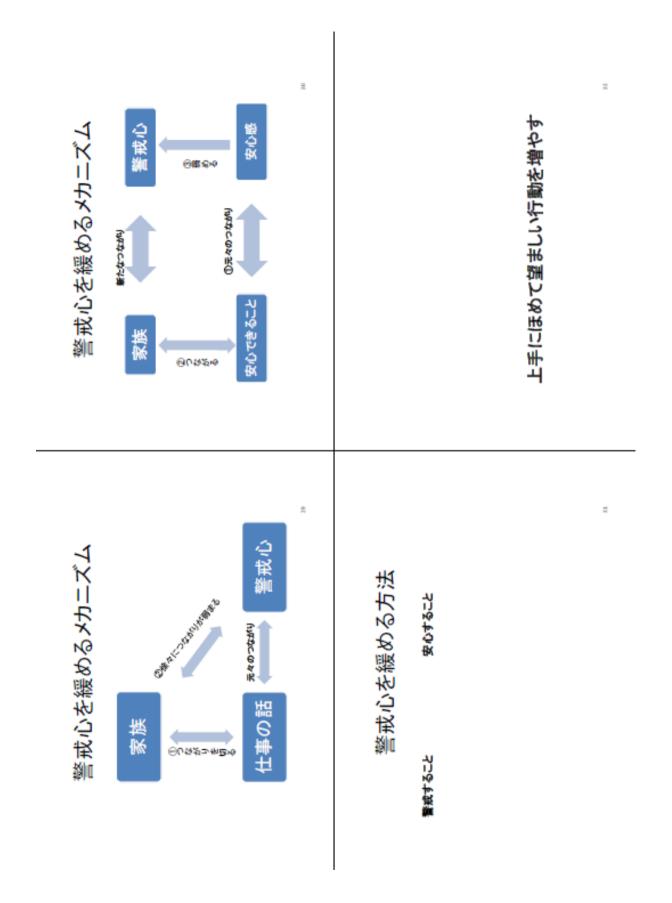
警戒心を緩める方法

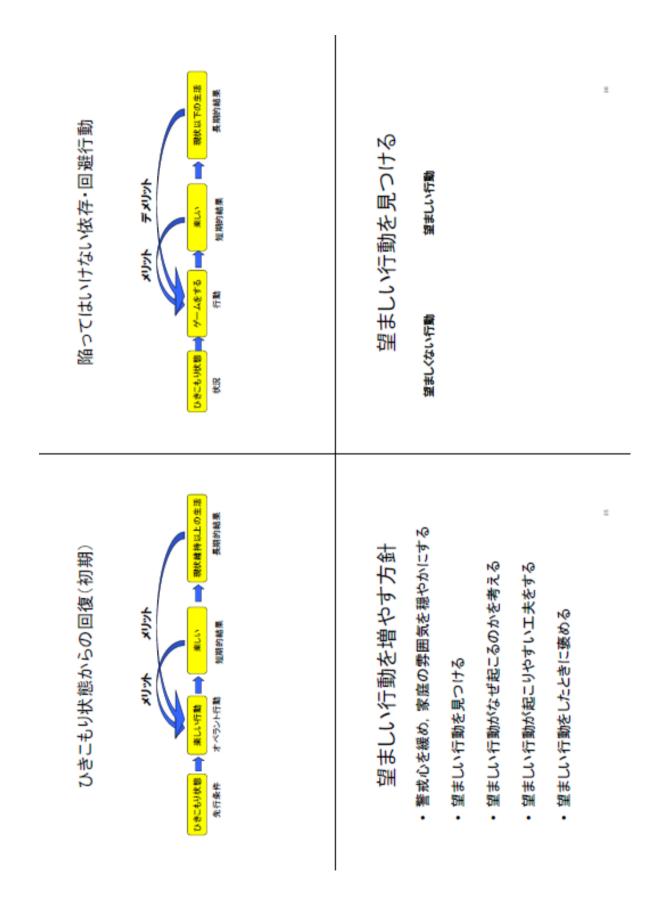
①子供が警戒することをしない

②子供が安心することをする









望ましい行動の機能分析

息子は28歳になるのですが、自宅に引きこもって仕事をしていません。自宅に引きこもってから3年近くになります。

鱼

最近は2階の自室で過ごすことが多く、ほとんど一階に降りてきません。夜ご飯に野球のテレビを見ている時は、たまに一階のリビングに降りてきてですている時でいます。リビングに降りてきたときてエンを見ています。リビングに降りてきたときは、これからのことを話そうと思うのですが、話しかけた途端に2階に上がって行ってしまいます。

M-100/02 22-00/00	 一般の整備の整件の内容を のかれたかなというの時の内 関係を対けていることのもの 関係を対けているこのものを のあるのかのを のあるのかのを のかのかのを のかのかのを のかのかのを のかのかののできた。 	nacedostremento?	1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1. 1	: 他 则 To	 f, Skillery :	8. E088 :
909 03 CAMPR	1、2000人はある中華の中でいた。 たんかんい たんかいいい ていかい にんかい にんかい にっしゃ しょうしょう	2、おびらんはその位置を したい名称。かんはこれを 着えないるい語いますか?	3、お野の人は白癬をして いる器 とんは無難もだり だた器・実がか?			
a	1、お子さんはこんな 編集しょうら だか?	2、お子さんはよの日 種類がの人の小妻の成 しんだい美しだか?	3、お子台へはから位 開発がの人の人の場合 したい表しますや			
内の数据しかけ	1、その位置の最高に、 物子の人ははCを開入て いたと聞いますか?	2、その行動の金額、お子の人はない。 子の人はた人は食物の だったた部へを対する				
ひらりを対象を	 本の印象をした こやれる。お子のを 日暮かと何かか? 	2. お子さんがもの 行動をした業所はこ こですか?	3. お子さんがもの 開催行動をしたの は、いつでぎか?			

機能分析を実施する際のポイント

順番よりも自然な語りを優先する。

・ワークシートにはThが記入する。

・完成させることよりも、機能分析をやって気づいたことを大切にする。

望ましい行動の機能分析の例

ş

外のない コンプリン	はのない しかり ひをなる はっかり	4	を 報行の 意見 安	生まりに対する
5		(数の)と20万里の であた	249 MR 70 ON B	9 0 0 0 19 90 8 97 88
				最の中でも開きです くなる
**************************************	8 >9>9	2.80	enamenterior.	そんな動は今はからに同し、他の中でリラックスして過ごと い
1000000000000000000000000000000000000		# M	※ ○	

望ましい行動の機能分析で 引き出すポイント

- 外的きっかけにおいて,望ましい行動が生起 する先行条件を明確にする。
- 内的きっかけにおいて,望ましい行動を行う 前の大変さを理解する。
- 短期的結果において,望ましい行動を行う上 での障害を明確にする。

長期的結果において,本人が同意するメリッ

ij

2

トに言及する効果的なコミュニケーションの方 法を考える。

長期的結果において,本人が同意する刈ッ

短期的結果において,望ましい行動を行う上

での障害を取り除く工夫を考える。

望ましい行動が生起しやすい状況を再現す

望ましい行動の機能分析と 対応方法をつなげる 望ましい行動を行う前の大変さに理解を示

ご褒美とは?

- それを提示することでお子さんが喜ぶ刺激
- 褒めた結果, その行動が減ったら, 家族が褒め るという刺激は、お子さんにとってご褒美となっ ていない。
- **吹った結果, その行動が増えたら, 家族が叱る** という刺激は、 お子さんにとってご褒美となって
- 何がご褒美になるかは、その刺激を与えること でお子さんの行動が増えることで確認できる。

望ましい行動を引き出す工夫

- ①自由に行動できるように、安心できる接し方をする。
- ②望ましい行動をお子さんがやれるように,家族がやらないで,あえて残しておいてあげる。 ③家族が望ましい行動を楽しそうにやっている姿を見
- ④望まし、行動を一緒にやらないか軽く誘ってみる。
- ⑤お子さんに手伝いとして望ましい行動をやってほし いと頼んでみる。

⑥望ましい行動をしたらご褒美をあげる約束を提案し てみる。

ポジティブなコミュニケーションスキル

- ・超く
- 背定的に
- 言及している行動を特定する
- 自分の感情を明確にする
- 思いやりのある発言をする
- 部分的に自分の責任を受け入れる
- 自省を促す
- 援助を申し出る

対応の数化

 子(タカ, テレビで野球を見ている時、リピングに降りてくる)
 での時、リピングに降りてくる)

 母: 最近、ずっと部屋にいるけどと)
 母: お茶でも飲む?(安心すること)

 何してるの?(警戒すること)
 子: 飲む。

子:別に何もしてないよ。 母:何もしてないなら、これからの ことも少し考えたら?(査定 的、警戒すること)

的、警戒すること) 子:もう、うるさいんだよ。(2階に 上がっていく)

いる時、リビングに降りてくる) 母: 約素でも飲む? (<u>安心するこ</u> 子: 飲む。 母: (お素を出す)はい、どうぞ。 (安心すること) 子: ありがとう。 母: たまには、こうやってのんびり 一緒にお素を飲むのもいいね 「実施」(<u>個人</u>) 育定的に、言及 (文庫) (<u>個人</u>) 青空的に、言及

でいる行動を特定する。E の整備を明確にする)。

ポジティブなコミュニケーションスキル

- 短
- 肯定的に
- 言及している行動を特定する
- 自分の感情を明確にする
- 部分的に自分の責任を受け入れる
 - ・思いやりのある発言をする
- 自省を促す
- 援助を申し出る

ポジティブなコミュニケーションの獲得

_	
•	
•	,
- 1	
	7
ш	1,

長いコミュニケーションは、多くの場合、聞き手の 気持ちを削いでしまう。 短く話すというのは、相手の様子を見て話してよ で、相手の話をしっかり聞くことに意識を向ける さそうな内容を取捨選択し、簡潔に伝えること ことである。 普段あまりはなし話ができない場合、話ができる このチャンスに今まで考えていたことをすべて話 そうとするために話が長くなってしまいがち。

肯定的に

お子さんの発言に肯定的に反応する。

悪いところばかりに注目しすぎない。

無条件の肯定的配慮:相手のあらゆる発言 について肯定的に反応するという意味。

・「××してはいけない(否定文)」ではなく、 「〇〇するといいよ(肯定文)」を心がける。

短く

見い倒

・もし、何か考えていることが ・お母さんは、あなたが「特来どうした」、のかが全然わからないの! もう心配で心配で! おった ! おった ! もった ! おった ! まった / ことはかりで: ました かんな ! まった / は、 まんな | かんな | まった | かんな | かんな | まった | かんな | まった | かんな |

な?教えてくれたら、お母さ

あったら数えてくれないか

んも何か役に立てると思う

んだけど。

肯定的に

良い倒

(息子が行きたい場所を言 いった 息子 に対した いいい わね. ガロに行ぎたいのぐ う)へぇー. そこに行きたい (海外旅行に行きたいと なこと言ってるの! 私が行きたいわよ. てもいないのに、なに贅沢 こった 耐平 口 対した) 奪い ・ (海外旅行に行きたいと

食事中は、少し話をしよう。 この魚、おいしいでしょ? ・食・母・株・株・たいじるのは やめなさい。 2

z

言及している行動を特定する

- 行動の変化は,思考や感情の変化よりも見 しいかかく、評审しかかい。
- 褒める時も, 叱る時も, 具体的にどの行動に ついて言及しているのかを明確にする。
- 行動を明確にしない褒め方では, 次にどの行 動をしたら褒められるのかがわからない。
- 行動を明確にしない叱り方は, 人格否定に なってしまいかねない。

自分の感情を明確にする

しょ あなたのために言って るのに、どうして分かってく このままじゃ何も変わらな いって何度も言ってるで

なっちゃうのか、お母さん心 配なんだ(感情の明確化)。 あなたはどう思ってるのか な? このままだと、この先どう

定の行動)と、とても助かる 流し台まで運んでくれる(特 夕食の後に自分のお皿を 言及している行動を特定する まったく片付けをしてくれないけど、たまには手伝ったら?

このままだと駄目だね。

イライラしたとき、物にあた

る(特定の行動)のはいけないことなんだよ。

自分の感情を明確にする

お子さんの行動にどんな感情を抱いているか を家族自身が自覚していることが重要です。

純粋性:自身の感情についての気付き

ただし、自身の感情をお子さんに伝えるかは 慎重に検討する必要がある。

部分的に自分の責任を受け入れる

- 外的なきっかけの分析を踏まえて、部分的に 責任を受け入れることができるかどうか振り 返ってみる。
- 単にお子さんを非難したいのではなく、家族が自身の役割をよく考えようとしているのだということを、お子さんに示すことになる。
 - 部分的な責任を受け入れるメッセージを最初に伝えることは、お子さんを守りの姿勢に入りにくくさせる。

んか 厨にこもってないで、 い あなたが何を考えているの か、まったく理解できない わ。お母さんにもしも自由 な時間ができたら、家にな

思いやりのある発言をする

でいろんなことに挑戦するもの難しいよね。あなた自身も、つらい状況なんだよね。 確かに、今のあなたの状況 ろんなことにチャフンジする

部分的に自分の責任を受け入れる

をするの!うちの家庭がこ どうしてそんな口のきき方 んなふうになったのも, み

んなあなたのせいよ!

お母さんも何度も同じことを 分的責任の受け入れ)。で もお母さんもあなたの気持 言ったの は悪かったわ(部 もを知りたいから、何か話 してくれないかな。

思いやりのある発言をする

- なっていることをお子さんの観点から理解し、 内的なきっかけの分析を踏まえて、問題と 理解したことを言葉にしてみる。
- 共感的理解:気持ちに理解を示すこと
- 理解」を示すことは、お子さんの行動を許すこ 抗のある方がいる。この背景には,「共感的 家族の中には「共感的理解」を示すことに抵 とになるのではないかという誤解がある。

自省を促す

る背景に、お子さんが短期的にメリットを得てい るという点に共感的理解を示すことで、相手の守 短期的な結果の分析から、問題行動が維持され

小限伝えることで、 お子さんの自省を促すことが 長期的な結果の分析を踏まえて, 長期的に起こ りうるお子さんが同意できるデメリットを必要最 出来る。

自省を促すには伝える順番、タイミングが大事。

良い倒

自省を促す

和覧がはかったいけないん 言いたいことを言えないと

<u>ると、そのときは楽かもしれないけど</u>(短期的メリットへ 意できる長期的デメリットへ の言及)。 の共感)、それを繰り返して <u>ちゃうんだよ</u>(お子さんが同 いると, あなたの気持ちが 自分のことを言わないでい 他の人に伝わらなくなっ

援助を申し出る

のうち自分で何とかする」っ て言ってるけど、結局何も しないじゃない。 くと, あなたは「うるさい! そ お母さんが特来のことを聞

るっていつのは難しいと思う から、お母さんに向か手伝えることがあったら、お母さ ・ お母さんが、年来のことを賢 いても,1人で何かを始め んにどうしてほしいのか 言ってね。

自省を促した時にお子さんが行き詰ったような様子を示した場合, 非難せず, 協力的な支援を申し出ることで, お子さんは援助の申し出を受け入れやすくなる。

援助を申し出る

3

3

言ったことにポジティブなコミュニケーションを使って応答していく。

合には、お子さんにやさしくに、「どうしてほしいのか」を言ってもらう。そして、お子さんが お子さんが行き詰ったような様子を示した場

訆践練習

①練習する場面を決めましょう

② (Thが子ども役をして)ロールブレイをしてみましょう

③家族の影想を聞きましょう

④家族のよかったところを言ってあげましょう ガイドライン(恒く 肯定的に、特定の行動に注意を向ける、自分 備に名前をつける。部分的に責任を受け入れる。目省を促す、別 を申し出る)、姿勢、視線、表備、声の大きさ、話す早さ、声のトー伝わる雰囲気、印象に残った言葉。

⑤にうするとより、いっかもというところをThが言ってあげましょう

実践練習のポイント

- 演じる必要はない。言葉のやり取りから始める。
- お子さんが言いそうなセリフをこれまでのやりと りからピックアップしておく。
- 結論を得るまで話し続けるのではなく、簡潔で、 気持ちのよい終わり方を心がける。
- ・改善点の指摘は、クライエントができそうな一つのポイントにする。
- ・改善点が実践できるか、同じ場面で再度ロール プレイを行う。

実践練習の方法

- AさんとBさんで二人組をつくります。
- Aさんが支援者, Bさんが家族になります。
- ・Aさんがリードしながらロー ルプレイをします。 ・ロールプレイをするときは、Aさんが 当事者を
- 演じます。 ・ロールプレイは1分程度にします。
- ・ロールプレイが終わったら、Aさんがリート ながらロールプレイの続きを行います。

例:望ましい行動を増やす

- 息子は28歳になるのですが、自宅に引きこもつて仕事をしていません。自宅に引きこもってから3年近くになります。
 最近は2階の自室で過ごすことが多く、ほとんど一階に降りてきません。夜ご飯に野球のテレビを見ている時は、たまに一階のリビングに降りてきてTVを見ています。リビングに降りてきたときは、これからのことを話そうと思うのですが、話しかけた途端に2階に上がって行ってしまいます。
 - ほとんど話もできない状況なので、どうしたらいいのか困り果てています。

172

例:暴力的行動の予防

・ 息子は29歳になるのですが、自宅にひきこもって家族 とのコミュニケーションもあまりありません。自宅にひきこもってから4年以上になります。このままではいけないという思いに駆られますが、焦らせてはいけないとそっとしていました。

しかし、ある日、息子がパソコンでゲームをしているときに、ふと将来のことが不安になり、「将来どうするの?少しはこれからのことを考えたら」と言ってしまいました。すると息子は「うるさい・」と窓鳴りながら壁を蹴って穴をあけてしまいました。私は驚いてしまい、何も言えなくなってしまいました。

相談機関の利用を上手に勧める

相談を促すときのポイント

受療を勧めるタイミング

重大な問題を起こして後悔している時

本人が同意した場合、つなげられる場所を確保しておく。理想的には2か所以上の選択肢を用意しておく。・タイミングを目迷されて本人が同音」を発生・タイミングを目迷されて本人が同音」を発生

自分の問題について,全く予想していなかった意見 を聞いて,動揺しているように見える時

タイミングを見逃さない本人が同意した後は 即座に動く(例:受診する,予約を入れる,など)

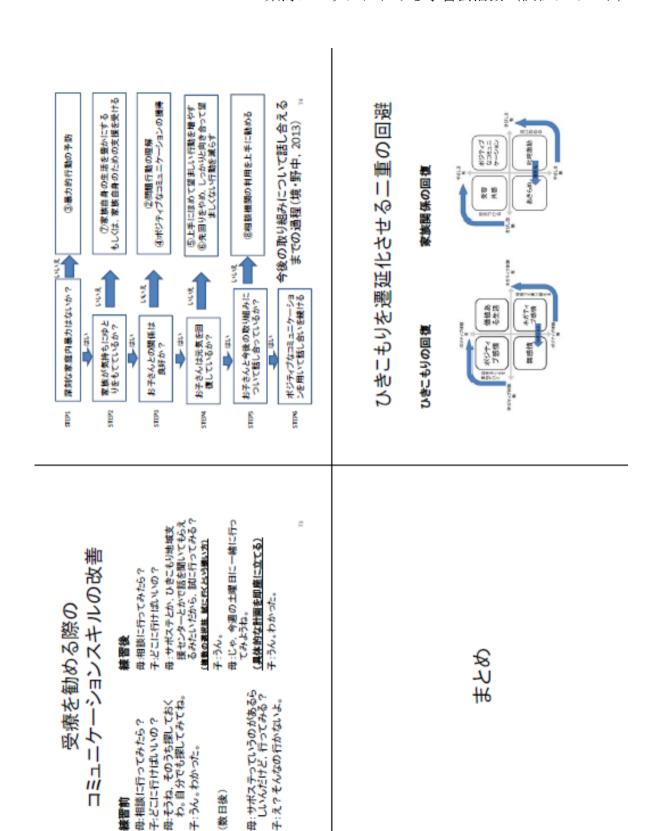
一度で結論を見出す必要はない

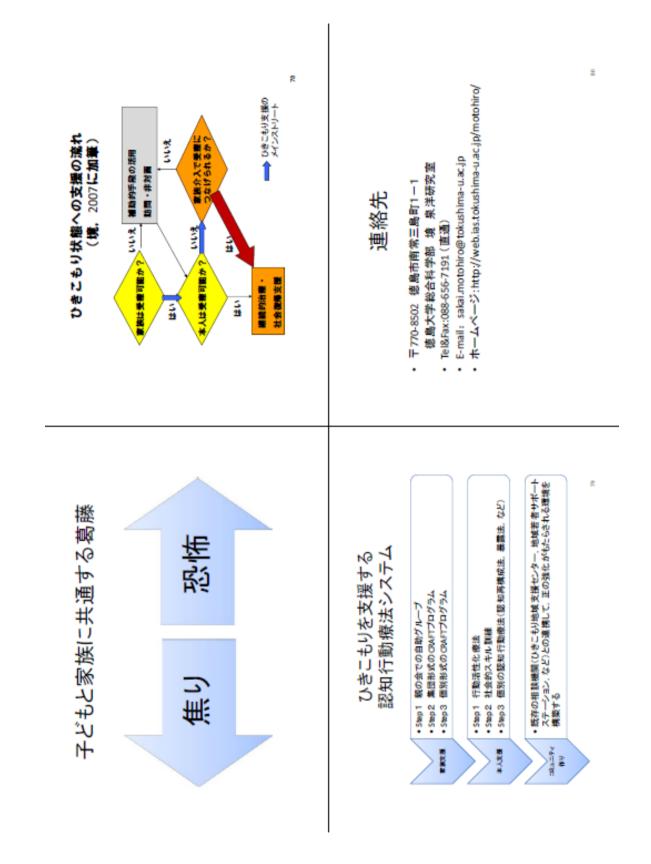
Ľ

家族の行動が変化した理由を尋ねられた時

家族がカウンセリングでやっていることを尋ねられた時

173





警戒心を緩める方法

警戒すること

安心すること

1

望ましい行動を見つける

望ましくない行動

望ましい行動

2

望ましい行動の機能分析

外的なきっかけ	内的なきっかけ	行 動	短期的な結果	長期的な結果
 その行動をしているとき、お子さんは誰といますか? 	 その行動の直前に、 お子さんはなにを考えて いたと思いますか? 	 お子さんはどんな 望ましい行動をしまし たか? 	 お子さんはその行動を 行うことで、どんなデメ リットを得ていますか? 	 その問題行動によってお子 さんにどんなメリットがあると 思いますか?メリットの中で も、お子さんが同意すると思わ
	 その行動の直前。お 子さんはどんな気持ち だったと思いますか? 		 お子さんはその行動を している間、どんなことを 考えていると思いますか? 	れるものは何ですか? a. 人間関係:
3. お子さんがその 問題行動をしたの は、いつですか?		3. お子さんはその行 動をどのくらいの時間 していましたか?	3. お子さんは行動をして いる間, どんな気持ちだっ たと思いますか?	b. 身体面: c. 感情面:
				d. 法律: e. 仕事:
				f. 金銭的: g. その他:

実践練習

- ①練習する場面を決めましょう
- ② (Thが子ども役をして)ロールプレイをしてみましょう
- ③家族の感想を聞きましょう
- ④家族のよかったところを言ってあげましょう ガイドライン(短く、肯定的に、特定の行動に注意を向ける、自分の感情に名前をつける、部分的に責任を受け入れる、自省を促す、援助を申し出る)、姿勢、視線、表情、声の大きさ、話す早さ、声のトーン、伝わる雰囲気、印象に残った言葉、
- ⑤こうするとよりいいかもというところをThが言ってあげましょう

4

東海ブロック(名古屋)における学習会活動

	,		
開催日・開催タイトル	2015/2/28 社会的孤立を防ぐためのネットワークづくり		
実施(連携)団体名	NPO 法人名古屋オレンジの会、NPO 法人東海なでしこの会		
協力団体	NPO 法人わっぱの会 NPO 法人ささしまサポートセンター		
会場	栄ガスビル 5F 会議場		
	計 85 名		
参加人数	(一般 10 名、当事者 9 名、家族 44 名、支援者 15 名、行政 3 名、医療		
	1名、教育1名、議員2名)		
	チラシ 100 部作成及び配布。		
広報	配布先:精神保健福祉センター、医療機関、各行政窓口、ひきこもり		
が対	支援センター		
	名古屋市社会福祉協議会、就労移行支援事業所、NPO 支援団体		
	【基調講演 13:35~14:25】沖野充彦氏(大阪希望館 事務局長)		
	大阪における生活困窮者自立支援事業を時代に先駆けて実施した独自		
	の事業についての大阪希望館の経過と、2007 年大阪ホームレス就業		
	支援センターと NPO 釜ヶ崎支援機構で、厚労省と大阪市の「ネット		
	カフェ宿泊者」 調査を実施。 「住居喪失者」 への支援開始 2008 年 OSAKA		
	チャレンジネット(厚労省事業の住居喪失不安定就労者支援センター)		
	を開設。2009年5月、リーマンショック後の「派遣切り」失業青年の		
	増加に対処するため、大阪市北区に「大阪希望館」という名称で民間		
	アパートを借り、「住居喪失者」の再出発支援事業を開始する。		
	【シンポジウム 14:25~15:30】		
	コーディネーター 川北稔 氏(愛知教育大学 准教授)		
	パネラー 齋藤縣三 氏(特定非営利活動法人 わっぱの会 理事)		
実施内容	パネラー 沖野充彦 氏(大阪希望館 事務局長)		
(次ページへ続く)	パネラー 大熊宗麿 氏		
	(名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター センター長)		
	パネラー 加島 玲 氏		
	(名古屋市仕事・暮らし自立サポートセンター 職員)		
	│ │ 地域での困窮者のネットワーク作りについて検討する。パネラー各位		
	の現在の活動について報告が行われる。		
	【パネルディスカッション 15:40~16:00】		
	 ネットワークには「社会資源間のネットワーク」と「支援者間の		
	 ネットワーク」の両方が必要であることなど、それぞれの立場からの		
	 討議が行われる。		
	【質疑応答 16:00~16:30】		

	現実的な実施の中でどのような解決が図れれるのかなどの質問が		
	あり、名古屋市のモデル事業実施の中でひきこもり支援の民間断定と		
	の連携を図る中で模索しているとの回答がされる。		
開催の模様		ない。 大きない。 、 大きない。 、 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 大きない。 、 大きない。	
(写真)	当日参加者の様子	14:20 からのシンポジウム	
	85 名参加	風景。左から	
		齋藤縣三氏(わっぱの会)、	
		沖野充彦氏(大阪希望館)、	
		大熊宗麿(名古屋市社協)、	
		加島玲(名古屋市社協)	
実施成果 決定事項	精神保健福祉センター、市町の保健師、岐阜県社会福祉協議会、就労移行支援事業所、NPO支援団体など、多様な関係諸機関からの出席を得た。 各支援団体からの参加者と懇親会を行い、顔の見える関係性・ネットワークの構築に繋がった。生活困窮者支援の中でも、とくに障害者・ひきこもり問題について掘り下げて議論することができた。		
	・地道な活動を続けていらっしゃる方に頭が下がりました		
	・人の死に向き合うという思いで支援を考えていらっしゃる方がどこ		
	か(大坂とか)におられるという事を知ったこと。		
	・社協の取り組みについての情報が得られてありがたかった		
アンケートから見えた	・ひきこもりばかりが目立っていたが、社会的孤立は生活困窮者と同一でいろんな制度を活用していく必要ありとわかった。		
良かったこと			
(次ページへ続く) ・生活困窮者の支援、社会資源をどう使		どう使うのか等。思った以上に相談	
	窓口があるとわかった。		
	・私自身が生活保護受給者ですので、独居老人です。愛情を知りたい		
	と思って参加しました。お話し全部を消化しきれませんが、色々と学 べました。		
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	支援機関が少かい また 情報が行	
	・"ひきこもり"をメインに扱う支援機関が少ない。また、情報が行き届いていない。		
学習会・アンケート	・自分自身が生活保護を受給しており、本講演会テーマについて、		
から見えた課題など	ぜひ学びたかった		
	·	いる現状が生活困窮に当てはまる。	
	1 111 1111 2 2 2 3 2 1 1 1 2	- >= >= 0.00 do	

死後、子どもはどうなるのか。

<下記、アンケートからの抜粋>

- ・バラバラでなく一本化の行政になってほしい。共に生きる時代への 変化を。
- ・自ら色々な相談窓口へ出向けないこと (コンビニなどへは自由に行けるのに)
- ・経済的自立に向けた活動ができないこと (アルバイトなどを自分で探すなど)

(支援者の立場として)

- ・各機関への同行を柱に活動しているが、複合的な問題を抱える相談者を各専門機関につなげるのも困難な問題があり、支援が長期化し、 行き詰っている例がある。
- ・時間がかかる。財政の問題。
- ・ご本人の生きづらさゆえに継続支援ができないこと。
- ・ひきこもりに正面から向き合う、公的な支援機関が非常に少ない。
- ・財政的基盤がないので、職員及び居場所の確保が困難となっている。
- ・居場所など、運営について、資金が足りない。
- ・本当に深い部分で共有する事の不安。

今後の改善案 (挑戦)

生活困窮者の定義は、生活保護受給者や路上生活者のみでなく、高齢者、DV被害、シングル介護、ひきこもり問題、育児、障害者、多岐にわたり含まれることを各地の支援活動を通して掘り起こすことができた。これらについて、どのようにネットワークを作っていくか、また具体的に支援活動をどのように行っていくかを団体間で共有していくかが今後の課題です

<下記、アンケートからの抜粋>

- ・一般就労にやや困難を抱える中で、中間的な就労を拡充して欲しい。
- ・社会的孤立を防ぐためのネットワーク作りは必要で大切。
- ・応援団になる。
- ・就労支援、居場所、アウトリーチ



社会的孤立を防ぐためのネットワーク作り

名古屋に社会的排除・孤立をなくす市民のネットワークを

2015年2発28日 栄ガスビル わっぱの会 斎藤縣三

1 1970 年代からの市民運動ネットワーク

「既に野宿者(日雇い労働者)への支援活動として市民ネットワークは1970年代からあった。」

- ・ 1975年「どっこい人間節」の上映運動(横浜寿町のドヤ街・小川伸介監督)
- ・ 冬の凍死・餓死者―第一回越冬活動 (炊き出し活動)
- ・ 1976 年 名古屋越冬炊き出しの会 結成される 市民団体に呼びかけ→わっぱの会からも2名が会活動に参加

「市民運動から市民活動へ・反差別のたたかいから市民・行政の協働へ」

- ・ 1980 年代 1983 年「民衆ひろば」(市民運動の連帯)
- 1990年代 NGO・NPOの時代

1997年市民フォーラムセンター21(市民活動の中間的支援)

・ 1900 年から 2000 年代以降 貧困(生活困窮)と不平等(格差)が増大 同時に社会的 排除・孤立が深まる

- ⇒ 「排除と孤立に取組む地域ネットワークが切実に必要
- 2 新しい支え合いシステムとしての地域包括ケア
- ・ 「地域の実情に応じて、高齢者が、可能な限り、住み慣れた地域でその有する能力に応じ自立した 日常生活を営むことができるよう、医療、介護、介護、介護予防、住まい及び自立した日常生活の支援が 包括的に確保される体制をいう。」

「地域医療・介護総合確保推進法 第2条」(2014年)

・ 地域包括ケアシステムの包括化

「ここで包括化とは、地域包括ケアを高齢者福祉の領域に限定せずに、生活困窮者支援・障害者福祉・子ども子育て支援など多様な領域における政策課題とつなげていくことを意味する。」

宮本太郎「地域包括ケアと生活保障の再編」(2014年)

- ⇒ これからの「生活保障」には地域包括システムの包括化が求められてはいるが
 - ・社会的排除・孤立をなくすには住宅・仕事・経済保障・医療・生活支援(福祉サービス)を つなぐ地域包括的な取り組みこそが必要
 - ・そこでホームレス・引きこもり・障害・薬物依存・刑余者・外国人・こどもの貧困など様々な課題ごとに分かれた市民の活動の共同化(協同化)とあわせて、市民と行政の協働化、 行政内部の垣根を越えた協業化か同時的に求められる。

- 3 社会的孤立・社会的排除をなくす取り組みとはではなく
- ・「支えられる」者と「支える」者との関係=支援 「共に生きる」関係づくりこそが大切
- ・ワンストップサービス、同行支援、寄り添い型支援はこれまでにはない より良い支援ではあるけれど
- → その先に「生活」「労働」の場と「共に生きる」人間関係が必要 めざすは「共に生きる」地域社会の確立 ————
- 4 名古屋における市民活動の共同事業体

そして、市民活動の地域ネットワークを

- 2014年生活困窮者自立支援モデル事業に、わっぱの会・ささしまサポートセンター・ オレンジの会・からし種の 4 団体で〈自立相談支援・就労準備支援・家計相談支援〉のモデル 事業に共同事業体(コンソーシアム)として申込むも落選
- (1) 再び何団体かの「共同事業体」として生活困窮者自立支援の事業としての「仕事・暮らし自立サポートセンター事業」に挑戦
- ・ 制度化された新事業に市民活動の連帯で取組むことは与えられた課題をやりきるだけではなく、制度から落ちこぼれた人、制度が考えていない取組みを含めて、社会的排除孤立なくすための地域づくりを行うということ
- ・ 共同事業体のそれぞれの団体はホームレス・引きこもり・障害者・どこからも切り捨てられた人 などの課題に制度のない時代からまさに開拓的にそれぞれ取り組んできた団体
- ・ 制度を最大限活用し、かつ更なる開拓と挑戦の意志をもって新たな地域を拓くことが課題
- (2) 共同事業体としての取り組みだけではなく、この事業を核としつつ様々な社会的排除や孤立に 取組む団体の広範な市民ネットワークを作っていくことが必要
- ・ 現在月1回の会議で5団体で行っている学習活動や事業準備を重ねている。

今後このネットワークをいかに拡げ市民の連帯と共同をどう作り上げるかが大きな課題

全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)

6. 近畿ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

近畿ブロック(大阪)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015 年 1 日 24 日 (土) WuT ナ牌バキンオ M 安佐士坪油佐港沱스	
	2015 年 1 月 24 日 (土) KHJ 主催ひきこもり家族支援連続講演会	
実施(連携)団体名	NPO 法人大阪虹の会(全国引きこもり KHJ 親の会大阪支部)	
会場	大阪社会福祉指導センター	
参加人数	計 45 名(当事者家族 20 名、当事者 8 名	
3 ,,	支援者・ボランティアスタッフ 17 名)	
	チラシ 3, 000 部・ポスター50 部作成及び配布。	
広報	配布先:大阪府内の保健所(精神保健福祉担当)、府市町のひきこもり	
	担当窓口、大阪府内の社会福祉協議会、NPO 支援団体、会員、支援者等	
	【前半 13:00~14:45 】池上正樹氏(フリージャーナリスト)	
	ひきこもり問題を取材し、多くの当事者の思いを発信している池上正樹氏	
	から、ひきこもり当事者たちの思いが熱く語られた。池上さんがネット上	
	のダイアモンドオンラインで「大人のひきこもり」を連載中だが、このサ	
	イトに多くのひきこもり当事者がアクセスし、悩みや思いを寄せてきてい	
	るという。当時者は、セーフティネットの狭間、社会保障制度の谷間にい	
	 る人たちである。選択肢のない中、誰にも相談できず、本人も家族も孤立	
	 し追いつめられていく。そんな中、当事者の思いから当事者の希望に合っ	
	 た企画として当事者が講師になる「ひきこもり大学」や「フューチャーセ	
	 ッション・庵 - IORI - 」などが始まり、全国各地に広がりつつある。親の	
	 会もこれらの当事者たちの動きに関心を持つべき。今年4月から施行され	
	 る生活困窮者自立支援法を積極的に活用することも大切だと伝えた。	
実施内容	【後半 15:00~16:30】岡崎剛 (メンタルワークス大阪代表、臨床心理士)	
	大学院で臨床心理を学ぶころから不登校・ひきこもりの若者への訪問指導	
	にとりくみ、のべ900人余りの当事者と向き合ってきた岡崎剛さんから、	
	<mark>「当事者を元気にする家族の対応」</mark> について講演を受けた。徳島大学の境	
	泉洋先生に CRAFT プログラムを学んだ岡崎さんは、 <u>CRAFT は当事者に最も</u> 	
	<u>近い存在の家族を変革し元気にする有効なプログラム</u> であるとし、実践に	
	生かされている。当日は、CRAFTの8つのプログラムのうち「問題行動の	
	理解」と「ポジティブなコミュニケーションスキルの獲得」について、具	
	体例を交えて講演いただいた。ひきこもる原因は様々であり、犯人(原因)	
	捜しより状況を適切に評価し、自立のために必要なこと(できることを重	
	ねていく、本人にとって価値あるものを大切に)を当事者ごとに考えてい	
	くことが大切だと強調された。 子どもが動かないのであれば、家族が支援	
	者とつながることが重要で、 あきらめないことが大事。家族だけで抱え込	
	んでしまうとあきらめやすくなるので、家族会など出かけていく場所を作	
	ることも重要だ、とまとめられた。	

もり家族支援連続講演会 開催の模様 (写真) 講演中の池上正樹さん 講演中の岡崎剛さん ・当会は、大阪府南部の高石市に事務所があり、これまでは高石市を中心 に講演会などを開催してきた。今回はじめて大阪市内で開催したので不安 実施成果 があったが、社会福祉協議会、市町、保健福祉士、支援機関職員、当事者、 決定事項 家族などの参加を得て成功した。今後ともネットワークの拡大につとめる ことが大切だと感じた。 参加者の中には、1/19の読売新聞の連載記事を見て KHJ 本部に問合せ、大 紹介記事の反響 阪での講演会を知った方も何人かいた。 ・池上正樹さんの話から元気な当事者たちが全国各地で「ひきこもり大 学」を開いている事を知り、元気を得た。「ひきこもりの唄」は、当事者 の気持ちが良く理解できて良かった。 ・池上氏が言われた『当事者の声』が『息子の訴え』と共通点があると気 づいた事 ・人を傷つけたくない、人に傷つけられたくないとの思いからひきこもら ざるを得なかった我が子のことを思うと「ごめんね」の思いばっかりです。 アンケートから見え ・みんなひとりの人間である。この言葉が大事だと思う。いろんな状態が あり、通過点にひきこもりがあるという考えに共感。 た良かったこと ・岡崎剛さんの話から、家族会の大切さが再認されました。良かったです。 ・CRAFT の内容が具体的で建設的で誰でも応用できる基本的なコミュニケ ーションの考え方を分かりやすく説明されててよかったです。 ・日常生活の中でのコミュニケーションスキルアップにも繋がりそうな 話でした。 ・ひきこもり者やその親御さんが、具体的にできることとして情報を得ら れて良かったです。 学習会・アンケート ・多くの家族が参加してくれたが、はじめて KHJ や大阪虹の会の活動を から見えた課題など 知った人が多く、広報活動の強化の必要性を痛感した。居場所や相談 機関にいくことができない当事者とその家族とどうつながるかが、引き 続き大きな課題だと感じた。 ・仕事をするに当たって何をどうしたいかしっかり自信を持って話せな

	くて、就職に至らないところ。
支援者からの課題	・批判される恐怖が強すぎて動けない。
	・最近ようやく、相談機関につながったが、一回で途絶えてしまった。
	・相談業務にも来ることができないひきこもり、またそのご家族の方とど
	うすれば出会うことができるのか。
	・初回のアウトリーチのタイミング。
今後の取り組み	・イベントなど、企画運営。
	・本人のニーズを大切にする。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

近畿ブロック in 大阪

ひきこもリ家族支援連続講演会

ひきこもりの有効な支援策が見つからないまま、若者の孤立化、長期化、高年齢化が進み、家族の孤立や高齢化も進んでいます。わたしたち KHJ 親の会は、全国で親の会を組織し、若者の居場所運営、政策提言などを行っています。まずは家族が集まり、つながることでともに一歩を踏み出しましょう!

今回の連続講演会では、まず、長年ひきこもりの問題を取材し、ひきこもり大学などの開催を通じ、多くの経験者や当事者とのつながりを作っているフリージャーナリストの池上正樹さんからひきこもり支援の現状について講演をいただきます。次に、ひきこもる若者や家族のカウンセリングを大阪で長年続けていられる臨床心理士の岡崎剛さん(メンタルワークス大阪代表)からひきこもり当事者を元気にする親・家族の対応について講演いただきます。ふるってご参加下さい。

日時:2015年1月24日(土)

午後 1 時~4 時 30 分

会場:大阪社会福祉指導センター

大阪市営地下鉄谷町線谷町 6 丁目駅徒歩 5 分 〒542-0065 大阪市中央区中寺 1-1-54 TEL:06-6762-9471(代表)>

内容 ★講演①:

「ひきこもり当事者たちの思い」

講師=池上正樹さん(ジャーナリスト)

★講演②:「ひきこもり当事者を元

気にする家族の対応」

講師=岡崎剛さん(臨床心理士:

メンタルワークス大阪代表)

参加費: 無料(講演資料集は 1000 円で販売)

定員 50 名。(締め切り 1/22 まで)

主催:NPO 法人全国ひきこもり KHJ

親の会(家族会連合会)/

共催:NPO 法人大阪虹の会

〒592-0011 高石市加茂 1-13-26
Tet & fax 072-265-2021
e-mail: osakanijinokai@gmail.com

大阪社会福祉指導センター



岡崎剛さん講演要旨 「ひきこもり当事者を元気にする家族の対応」

皆さん、こんにちは。岡崎と言います。緊張しますね。家でお鍋をして家族に見られるだけで 手が震えるんです。そういう対人恐怖的な所があるにも関わらず、1年間に20回位講演してしま ってるんです。池上さんは、当事者の方について話されていましたが、私は家族の方に対する話 をしたいと思います。この中に僕の話を聞いた人いますよね。同じ話になると思います。違うと ころもありますが。基本的な所を喋ります。

まず、あなたは誰ですか?というところから始まりますので、その話をさせて頂いてから本題 に移らせて頂きたいと思います。僕は就職をしたくなかったので、大学院に行きました。大学3 回生の時に、大学院があることを知ったんですね。そういう所があるなら研究に行こうかな。と 思って徳島に行ったんですね。行ったんですが、家が貧乏だったのでバイトしないといけないな ということで、家庭教師を始めたんです。そうすると、僕は心理学科だったので、不登校気味の 生徒をあてられるんです。そうしているうちに、徳島県がやっている、不登校の生徒に勉強とか を教える「メンタルグレームス」という大阪府がやっているようなものに従事しました。そこで 始めて出会ったのは中学校3年生の子だったんですけど、家に行って、いろいろ話をすれば、高 校の進学はとりあえず、やめておく。という結果になったんですね。それもいいかな。と思った んですが、県のお金で行っているので、籍がなくなると次の年からは、行ってはだめだというこ とになったんです。なんか、おかしいなと思って、大学院で「おかしくないですか。」と言ったん ですね。「そういう制度だから仕方ない。」と言われ、右往左往していたら、ある先生が「私が責 任を持つからそこの家に行きなさい。」と言ってくれたんですね。それで、15歳の学籍のない、 ひきこもっている、発達障害で IQが 160 位ある子の担当をしました。そんな感じで、結構不登校 や、ひきこもりの子に対応することがすごく多かったんですね。大学院2年間で大体20-30人位 に会わせて頂きました。

そして、就職の時期が、近づいてきて、嫌だなと思っていたんですが、結婚しなくてはいけなくなり、大阪で仕事を探さなくてはいけないなという所で、たまたま知り合いが、平成21年に東大阪若者サポートステーションで求人を募集している。訪問スタッフがほしい、ということを知らせてくれました。僕が、家庭教師とか、家庭教師以外の訪問をしていたので、その縁で東大阪若者サポートステーションで、就労支援をメインに仕事を始めました。だんだんと就労支援しかできないことに、行き詰まりを感じてきたんですね。そんなんであれば、自分で開業したら、何をしてもいいかな。ということで去年3月開業したんです。思い立ったらすぐ行動しないといられないんです。これと同時進行に診療内科のクリニックでスタッフもしています。

臨床心理士としての専門は、家族への対応と家にいるひきこもりの人達に基本的には対応します。その、寝屋川にある三家クリニックなんですが、先生が精力的でおもしろく、すぐに往診す

るんです。たまたま縁がありました。往診する先生について行くんです。そういうことでいろんなことをしています。これは読売新聞のオンラインです。6月3日で開業した時の記事です。知り合いの「育ちあげネット」の代表から記事にしていいか。と言われました。普通カウンセラーは素じょうをさらしたがらないんです。だけどいろいろ訳あって、自分の過去の経歴を含めて、すべてネットに書いて頂きました。僕は母子家庭で、4人兄弟の1番上だったんですね。仕事をしたくないから、大学院に行くために、めちゃくちゃ勉強したとかを、書いています。それは、僕の訪問先の人に読んでもらうためです。どんな人物かを知ってもらうためです。基本は会いたくないんです。なので書いて頂きました。

ひきこもりの定義は、資料にありますが、飛ばします。言いたいのは、ニートやひきこもりは大阪府下で55000人いるということです。ひきこもりだけでなく、いろんな人にいろんな配慮があるので、全部いう必要はないかな。と思いますが、とりあえず、いろんな事がかけ合わさってきて、家にいるという状態になっているということですね。一般の人の講演会で「結局なんでひきこもっているのか。」とか、言う人がいますが、家族の方に言いたいのは、原因は、特定するのは、むずかしいし、ひきこもった原因は1個ではなくて複合的です。ちなみに、僕はひきこもりの子どもをもった家族は1000家族、ひきこもっていた当事者は1500人くらい、いわゆるニート状態の1500人位、合計で5000人位の人と会ってきました。現在週15名位の家族と10名位の当事者の方と会い、訪問支援が8件位しています。家族の方が犯人捜しをする必要はないんですけど、家族の人と話していると犯人捜しをします。あのお父さんが言わなかった。あれがいけなかった。甘やかしたから。など。その話をして子どもさんが出てくるかというとそうではありません。その話よりも今大事なのは、子どもさんがどういう状態なのかということを知っていく必要があります。

ひきこもっている人にもいろいろいます。僕が関わってきた人たちの中には全く病気のない人もいますし、病気のあった人もいますし、ひきこもりの結果によって病気になった人もいます。 これはそういう風なことを書いていますね。もともと統合失調症になってしまって、その症状としてひきこもりの現象が起きるものと、その他の場合とかがあります。

なぜこういう人を支援しないといけないのかというのが、講演会ででてきます。そういった人たちのために書いています。「ひきこもりってなんですか?」孤立している状態である。そしてひきこもりの状態が続くとマイナスが多いです。

これはひきこもりの支援に対するガイドラインです

家族の人は何処かにつなげようとすることが多いんですけど、1番大切なのは本人のニーズが大事なんです。働きたくないと思っている人や働こうと思っていない人をハローワークに連れて行ってもなかなかむずかしいです。本人は自分の話を聞いてほしいし、同じ境遇の人と喋りたいのに、本人のニーズをないがしろにされて、親の欲望で面接に行かされていくと、なかなかむずかしい。そして合わない施設も存在する。合わない施設へ行ってショックを受けるのは本人です。その施設の誰と合うのかわからない。だから組み合わせて使って行くということも、1つの方法です。

ひきこもりのことは、本を読んだりして、理解していると思います。しかし、大切なのはここからです。家族の人が具体的にどう対応していけばいいのかを話していきます。

これはKHJの調査のデータ―ですが、ひきこもりのことで相談に訪れる人のうち、子ども自ら相談に行く割合は6.6%なんです。93.4%は自分から相談の施設に行く可能性は低い訳です。こう考えた時に、家族は「ひきこもり支援の中核を担う人」なんです。子どもさんの自立とは、なんの自立をさしていくかということは、それぞれ違うことなんですが、1つ目に家族自身の負担を軽減する。2つ目に家族関係を改善する。3つ目にお子さんの相談機関の利用を促進する。ということなんです。基本的にこの3つの事が家族がしなければならない対応です。

「家族関係の回復過程」です。家族というのはその時々に応じて、形を変えます。ひきこもり 状態の家庭は同じようになる傾向にあります。家族がどのように変わればいいかは、正解があり ません。こういうものであると考えていくことが重要です。一般的に家族関係がよいと言われて いる家庭とは、ポジィティブなコミュニケーションをしています。ポジィティブなコミュニケー ションとは、相手の話をきちんと理解して、思いをきちんと受け止める。必要な時は、必要なア ドバイスをすることができるという、ポジィティブなコミュニケーションです。だけど、家族が 子どもを追い詰めるという側面があります。それは何かというと、子どもが何かをして傷ついた り、ショックを受けていたりすると、叱咤激励をする形が多いんですね。がんばれ。とか言いま す。がまんを、ずっとしていけば、いつかよくなる。と家族の人は思っています。それはなぜか と言うと、今まではそれで、上手くいっていたことが多かったんです。そうすることによって子 どもは追い詰められていきます。この時一番よくないのは、正論を言うことです。朝おきればい い。たばこをやめればいい。お酒をやめればいい。など。できないのと一緒ですよね。言ってで きれば誰も苦労しないですよね。だけどなかなかむずかしい。そしたら家族はなかなか動かない とあきらめてきます。あきらめと放任の方にいきます。本人がすることに反応を示さない。けれ ど、講演会や、テレビのドキュメントなどをみた時に「この前テレビでひきこもりのことやって たんだけど、あなたに合ってるんだけど。」とか言って部分的に火をつける。あんに何かを教えた りするんですね。だけど本人が動ききれないので、結果として、家族があきらめの境地にはいる。 このポジィティブなコミュニケーションに叱咤激励を通って戻ろうとするんですけど、家族に必 要なのは、こちらです。受容、共感を通ってポジィティブなコミュニケーションをとらないとい けない。受容、共感の話をするんですが多くの家族の人は甘やかせばいいと思っています。甘や かしと受容共感は全く違います。きちんと相手の気持ちを理解して受け止める。つまり、それは 自分が受け止めたと思うんではなくて、相手が受け止められたと思わないといけません。ここに 惹きつけると書いてあるんですけど、ちゃんと話を理解してくれる人には話そうと思うんです。 会話が成立しない家族は受容共感の割合がとても低いですね。そうすると、口が悪いですけど「な んで、あんなばばあに喋らなあかんねん。喋ったところで、意味無い。」となるんですね。結局こ の人なら喋ってもいいかな。というプロセスが大切になってくるんです。そうすることによって、 この人のいうことやから叱咤激励されたことをやってみようかえな。という気持ちになる人もい ます。結局受け入れることから始めて、アドバイスをしていかないと聞く耳を持ってくれません。 大体お父さんというのは受容共感がにがてなんですね。「お腹痛いねん。」と言うと「正露丸飲ん

どき。」と言うんですね。わかります?そこで正露丸じゃないんですね。型にはまってしゃべるんではないんですね。大丈夫かと最初に言ってやり、気持を察する方法を先にとらないといけないんです。「お腹すいた。」「はい。おにぎり」ではないんです。

本人の回復度は何かということにはいります。「ひきこもりからの回復過程」に価値ある生活と あります。価値ある生活というといいことばかりがあるのではない。51 いいことがあって 49 嫌 なこともあるけれど、何とか生きれるかな。という生活です。けれども、その下にある否定的な 感情を感じます。人によってさまざまな原因があります。何かによって否定的な感情を感じます。 そうするとそんな感情を感じるのが嫌なので、多くの人は、ひきこもることで無感情にしたくな ります。もちろん感情は残っているんですけど、そういう感情を感じたくないと思っていれば、 人間のもともと持っている防衛本能で感じなくなってくるんです。「回りの人は楽しそうでいいよ ね。」と言う風に思い、楽しい感情も少なくなってくるし、悲しい感情も少なくなっていく生活に おちいることが多いです。けれども、この国で育っていくとですね、小学校位から嫌なことは乗 り越えろと強く、教えこまれているので、本人も頑張って乗り越えようとするんですね。けれど もなかなか、辛い出来事が起こったりして無感情の方へ行ってしまいます。だから僕が今まで会 っている中でも、回復していく過程はみんな違います。肯定的な感情を感じるような行動も人に よって違います。本人がよかったなあ。と思われることをたくさん経験することが必要になって きます。人によって肯定的感情を感じることが違います。肯定的感情を感じることを求めていく ことによって、否定的な感情があったとしても、乗り越えられる可能性が高くなってきます。だ から家族の人は、家族としてどういうような対応をして、子どもさんがどのような方向性に向か う事が大切なのか考えないといけません、この社会には、とりあえず頑張れ信仰みたいな、とり あえずがまんするというのがあります。そうするとしんどくなってしまいがちになります。学術 的な所から引用しているんですけど、「できることを重ねていく」ということなんです。そして「不 快なことに耐える力が必要」なんですが、これはひきこもりの回復段階で、ある程度活動ができ てきたら、思いきって言うなら、多少不快なことに耐える力が必要になってきます。そして本人 の価値あることを大切にすることです。たとえば、お父さんとお母さんが相談に来て、娘さんが 韓流ドラマにはまって、親御さんが「だめでしょう。」と言うんです。何が悪いかわからなかった んですが。「何がだめなんですか?」と言うと、韓流スターのライブに行き始めたそうです。お父 さんの年代からすると、アイドルに走るとか受け入れづらかったんですね。お母さんも働きもし ないでというのが頭にあって、心から喜べないんですね。でも12年ぶりに外へ出ているんですね。 だから喜ぶポイントが違うんですね。価値あるものが見つかった人は幸運な訳です。価値あるも のというのは本人の中に必ずあります。それは人によって違うんです。音楽が好きな人は音楽、 音楽の中でもいろいろなジャンルがあり、人によって違うので、そこを大切にしていかないと支 援とは言わないですね。価値あるものを回りの人が大切にしていくことが大切です。

今まで喋ってきたことを含めて家族の人が子どもさんに、できる対応方法としてCRAFTと 言われている対応方法があり、いまはベターと言われています。これはアメリカで開発されたん ですが、これは受療を拒否する物質乱用者の家族などの重要な関係者を対象とした介入プログラ ムであり、有効だと言われています。日本でも重要だと言われているんですね。プログラムに乗っとって支援を実施していくことで子どもの生活の中での苦痛が減る。と言われています。これまで、大体ひきこもりの家族の人達が受けていた支援とは、話を聞いてもらうだけか、家族の人達だけで集まって喋っているかでした。この2つも効果があるとされていました。ただし、家族の負担は減るけれども子どもの負担は減らない。ここに書いてあるように、ただ、聞く、アドバイスをもらう相談とは異なる。実際にどのように子どもを理解し、どのように対応するかを家族が練習し自分自身の行動を変えていくプログラムです。講演会を聞いても子どもが出てくる訳がない。何時間も話を聞いてもらって、子どもが出てきて元気になるのなら、それでいいかもしれない。けれどそういう訳にはいかないです。結局変えなければいけないのは、周りだということです。

今日は、そのCRAFTの本『CRAFT ひきこもりの家族支援ワークショップ』の内容の一部分を紹介します。このCRAFTプログラムの本は、徳島大学の境先生が取りまとめられたものです。さっき学生時代に徳島にいたと言ったんですけど、その時は全く面識がなかったんです。ある研修会の中で、境先生に始めて会って、ひきこもりの家族支援のCRAFTプログラムをやっていると聞いたので「教えてもらっていいですか?」、と聞いたんですね。そしたら「いいですよ。」と言ってくれたんです。僕は社交辞令かどうかわからないところがあるので、そのまま徳島に行ったんですね。もちろんアポとってですが。大体2週に1回CRAFTを実施しているのがあるとのことでした。「また2ヶ月後からはじまるのがあるので来ませんか?」と言われ「行きます。」と言ったんですね。2週間に1回高速バスに乗って徳島に行って大体12時位に着くんです。そこから、大体5時くらいまでプログラムをして、5時半に又高速バスに乗るという生活をしたんですね。そこで学んでいったんです。

家族にとって重要なのがわかります。そして自分の中に取り入れていきます。このCRAFTプログラムは8つのプログラムから構成されていて、家族の人が子どもさんにどのように対応していくかというのを、話を聞くだけでなく実践を交えて理解していくというものです。今日はこの中の、問題行動の理解とポジティブなコミュニケーションスキルの獲得の2つを説明していきます。家族関係を円滑にするには信頼関係の構築が重要です。信頼関係をどうするかというと、受容、共感の基礎となる相手の気持ちを理解することです。親というのは性質上子どもの気持ちを理解できないようになっていると思います。なぜかというと、大体家族の方に残っている記憶は小さいときのものなんです。たとえば「お子さんの好きな食べ物は何だと思いますか?」と聞くと「ハンバーグ」というんですね。絶対変わっているはずなんです。そのことに気づいてないんです。つまり大人になればなるほど、小さい時の子どもの像を見ているんで、やりとりがおかしくなるんです。これはこもっているからではなくて、僕の親も、帰るとキットカットを大量に買ってくるんです。これはこもっているからではなくて、僕の親も、帰るとキットカットを大量に買ってくるんです。僕はキットカットが好きじゃないんです。キットカットが好きと勘違いしているんです。言ったらかわいそうなんで言わないんですが。問題の行動を理解することが重要です。問題の行動とは親から見てです。親から見て、この行動はあかんな、と理解することが必要です。たとえば無視されるとか、話しかけても「うるさい」という言葉の裏を考えて下さい。こ

れは家族の相談です。「息子は30歳になるんですが、3年間、自宅にひきこもっています。話をしようと思っても反応がなく、焦りがつのりますが、そっとしています。ある日、昼過ぎに息子が起きてきたので「何にもしていないんだから朝はちゃんと起きたら」と言ってしまいました。すると、息子が「こっちの苦しみもしらないで!うるさい。俺が何をしようと勝手だろう!」と怒鳴りました。私は驚いてしまい、何も言えなくなり、それ以降息子の暴力が始まんりました。」ということで、大切なのは「何もしていないんだから朝はちゃんと起きたら」「こっちの苦しみも知らないで!うるさい。俺が何をしようと勝手だろう!」という所です。

CRAFTとは何をするかと言うことを説明すると、まず悪循環の起きる流れを家族の人に検討してもらいます。コミュニケーションできっかけ、反応、結果を繰り返す。この結果が次のきっかけになり、反応、結果になります。「おはようございます。」「おはようございます。」これは、きっかけ、反応です。こちらがにこっと笑って挨拶する。「いい天気ですね。」と反応があります。機能分析とは、その言葉にどういう機能があるのかを検討していきます。書いてもらうことが多いです。実際に書いて検討していきます。機能分析をしていくと、「きっかけ」があります。さっきのでいったら、「朝ちゃんと起きたら」です。という部分です。きっかけは「外的なきっかけ」と「内的なきっかけ」があります。「外的なきっかけ」はシンプルです。誰が観察してもそう見える。さっきだと「ちゃんと起きなさい。」というのが外的なきっかけです。「内的なきっかけ」はそれを聞いた息子が感じたことです。どちらも理解することが大切です。どう言葉かけをするのということと、本人がどういう風に思っていたかです。「内的なきっかけ」の理解と子どもとうまくコミュニケーションがとれるというのは、非常に重要にかかわってきます。

先ほどの例で考えると「もしかしたら」と絶対ではなくていろんな可能性を考えることが大事です。たとば「いつも同じことばっかりいうな。」と思っているかもしれないし、「そんなことわかっている。」と思っているかもしれないし、寝れなくて、起きれなかったかもしれないし。こんなんになったのは誰のせいや。」と思っているかもしれないし、イライラしている。いろんな可能性があります。ここで大切なのはいろんな可能性を考えないといけないということです。大体こんな風に感じてるな。というのは僕は感じることができます。「こんなことがありました。」「辛かったですよね、」「別に辛くはなかったんだけど。」そんなことがあったら、辛いだろうと思っている、こちらの方が間違ってといるということがよくあります。ここが大事です。

人は必ずしも答えを望んでいないんです。ここが家族と本人のずれが大きくなって先ほどのように間違って言ってしまったんですね。たとえば「最近しんどい」というと「病院いったら」と言う。これわかります?「どうしたん?」と言わないんです。「お金がないねん」「働いたら。」シンプルです。たぶん僕だったら「「何ほしいん?」「何に使うん?」と聞きます。反射的に「働いたら。」と言ってしまうと、「もうええわ。」と拒否してしまうんです。「全然寝られへんねん」「目っむったら寝られるよ。」こういうのを、観察してもらうんです。こんな一言でという親もあるんですが、こんな一言で傷つくんです。

僕もこのまえ「眠られへん」といったら「睡眠薬だそうか。」とドクターに言われるんです。そこじゃ、ないですよね。傷つきますよね。眠られへんねんな。大変やな。ということです。「原稿書かれへんねん。」というと「根性でかけよ。」と答えを言われると、別にそれがほしい訳ではないんです。例えば、家族の人が支援者に言われた。「子どもに接することが怖いんです。」と言うと「考えましょう。」と言います。答えが役にたたないんです。そんなのは、わかっています。必ずしも。答えを望んでいないし、必ずしも内面をほじくられることを望んでいる訳ではないんです。

問題行動の理解は、親が問題と思っていれば僕は問題と思うんです。考えることを推測して行動することによって、信頼関係が生まれます。考えたことを伝えないといけないんです。結局聞いたり、伝えたり、行動していかないことには、相手に伝わらないんです。

テレビの前に座ってこのアイドル好きやねんけどなあといっても出てこない。伝えないと変わらない。分かってもらえると、守りが解かれ変化の準備がはじまります。それは家族だけじゃなくても、僕みたいなのもそうです。わかってもらえると思わないのに、相手の守りは取れないですね。この仕事を始めて、家に行った時に、行った瞬間にバーンと音を鳴らされたんです。危ないな。と思ったんですけど、なんで大きい音をだしてるんかなあ。と思って会いに行ったんです。「何で大きい音だしてるの?」と聞いたら「帰れ」と言わなかったんです。「帰れ」と言われたら帰ろうかな。と思ってたんですが。結局行ってマンガの話をしたんです。何で暴れたのか伝えたくないやろうな、と思って。そしたら、「あいつやったら、ええ。」と言われたんです。僕で10人目位だったんですね。たまたま僕とは合ったんですね。相性もありますし、もちろん合わなかった人もいますしね。

理解のない対応は本人のやる気を削ぎます。いまから○○しようと思ってた時に水をさしたりすることです。そして、甘やかすとは違う。相手の考えを理解し受け入れる。もちろん家族の人は大変だということを理解しているんですけど、そのことを理解しているのは、子どもの方かもしれませんね。全員が全員持っているとは言いませんが、親に対する何らかの気持ちを持っているとおもいます。しかし完全にわかり合える事はできません。どんな仲の良い家族でもです。だけど、わかり合えることが少ないと孤立していきます。 CRAFTで大事なのは子どもさんがどんな心境で言葉を発していたり、行動しているかですね。例なんですが、親に対して「3000万円用意しる。」と言ったんです。親は「3000万円用意した方がいいですかね。」というんです。僕からすると何で3000万円用意しないといけないのかを知りたいわけです。「何でですかね?」というと「答えてくれへんと違いますか」というんです。「他の兄弟は大学へ行ったけれど本人は行ってないからか?」かもしれませんね。「他にありますか?」みたいな話をしていきます。家族の人とどういう風に話をしていったらいいか練習をするんですね。そして家でやってもらったら、本人は「今までの自分に対する慰謝料の合計だ。」といいます。どういう計算かわかりませんが。そこから自分の辛さとかを話しだしたんです。結局3000万円は渡さなかったんですが。3000万円

という自分の辛さと恨みをちょっとは理解してくれたと感じたのかな。と思います。本人に聞いてないからわかりませんが。結局どこまで聞けて、理解できるかということです。「3000万円は大きいやろ。1000万円くらいやろ。」と言う親もいるんです。だから大切なのは、相手が思っている事をどういうふうに理解するかが大事です。

次にポジティブなコミュニケーションの方法です。

家族が子どもさんと喋るときに必要なしゃべり方です。僕との相談はこういう事を練習することも多いです。まずは話を短くしましょう。そこに書いてあるように「お母さんはあなたのことを思っていっているのよ。本当に若いんだから少しは動けばいいのに。なんで無視するの?話をするくらい簡単じゃない。死ぬわけでもないのに。いつもいつも・・・」長いですよね。相手の気持ちを削ぎます。聞く気になりません。やめて。結局何が言いたいの、みたいな。短いと伝わるんです。なぜ、こういう話し方になるかというと、家族はこうなりやすいんです。たまにしか喋らないからこのときとばかり、いっぱいしゃべるんです。大切なのは短く喋るということです。

2つ目は肯定的にです。例えば「昼間っからパソコンをやめなさい」ではなくて、「今日は天気がいいから散歩でもしたら」という提案をします。○○をやめなさい。というのは、小さい時からのくせが抜けていないんです。非難されると話を聞こうと思わないんです。大切なのは、相手がきちんと話をしやすい状況を作るということです。

3つ目は、特定の行動に注意を向ける。「まったく片づけしないけど、たまには手伝ったら?」 これは何が悪いかと言うと、片づけということかわからないんです。なにをしたらいいかわからないんです。だから言葉で何かを伝えるときは具体的でないとわからないんです。「ご飯を食べたあと流しまで持って行って」と言ったらわかるんです。大体親が喋るのはあいまいなんです。あいまいだとわかりづらいですね。あと「このままだとだめだね」という。何を怒られているのかわからない。大切なのは「イライラした時に物にあたるのはあかんよ」ということです。イライラしている時に物にあたっている。という行動があかん。そうでないとこのままだとだめだよ。だと全部があかんとなる。全部があかんという話をしてるんじゃなくて、物にあたるのがあかんということを伝える。大切なのは伝わらないと意味がありません。

4つ目は自分の感情の「名前」を明確にする。これは結構むずかしいことなんですけれども。「このままじゃ何もかわらないって何度もいってるでしょう!あなたのために言ってるのに、どうして、わかってくれないの!」ではなくて「このままだと、先が見えなくて、お母さん心配なんだ。あなたはどう思っているの?」と言う言い方です。大切なのは、家族の人がどういう感情なのかというのを示す。それは冷静で非評価的、非難しないようなものであるということです。「あんたみてたらがっかりやわ」これはだめです。大切なのはあなたがこういう行動をしたら、わたしが不安になることもあるんやで。」と伝えないといけないんです。親の気持ちを必ず子どもに伝えなくてはいけません。親を1人の人間に思えないんです。親は親という役割でみてしまうんですね。大切なのはどういう感情になっているかというのを、すべて言えばいいというのではないですけ

ど伝えないと理解できないんです。「いいよ。いいよ」と言って顔はぜんぜんいいよと言っていません。 すぐにばれてしまいます。そして子どもの親に対する信頼がそこなわれていきます。

5つ目に部分的に責任を受け入れる。「どうしてそんな口のきき方をするの!うちの家がこんな風なったのも、みんなあなたのせいよ!」全部責任を子どもになすりつける。全部あんたが悪いですよ。0か100で相手をせめます。部分的に責任を受け入れると「確かにあなたに何度も同じことを言ったのは悪かった。でもお母さんもあなたの気持ちをわからずにごめんね。」と言うふうに部分的に責任を受け止めてくれないとぜんぜん話が次に進まないんです。「確かそう言ったのは本当に悪かった。反省もしている。」これは、親子だけでなく人間関係すべてに言えることかもしれません。

6つ目は思いやりのある発言をする。1番大切なのはここなのかな。と思います。たとえばあ なたが何を考えているか全くわからないわ。お母さんに若さと自由な時間があれば、家にいない でいろんなことにチャレンジするわ」と思いやりのかけらもない気がします。下に「あなたの状 況ではなかなか辛いよね。仕方ないところがあるね。」思いやりがあるとはそういうことです。相 手の状況をきちんと理解する。親が子どもを見下して喋るのは思いやりがありません。思いやり があると相手が感じることです。例えば子どもが「旅行に行きたい」と言うと「働いてもないの に、なに贅沢いってんの!私が行きたいくらいよ」全く思いやりがありません。大切なのは、そ のことを認める、認めないではなくてそういう気持ちになったことを聞くということです、「ええ やんか。何処に行きたい?」思いやりを持つということは相手に興味関心を向けることです。僕 が相談を受けていて多いのが、子どもが何に興味を持っているか、全然知らないんです。「お子さ んはテレビ何をみてるんですか?」「何かアニメ見てます。」「なんていうアニメですか?」「知ら ないです。興味ないんです」大切なのは興味を持つということです。知らない限り進まないです。 僕はいろんな人とお話するんですけど、子どもに興味のあることをきいていると、なんでそこへ いくんやろな。と思うようなことがあります。僕はわからないんですが、わからないことをわか らないまま「そうですか。」と言うのは共感ではないです。このまえ、例えば「この間、友達とか 知り合いにいわれて、しんどかったんです。」「友達とか知り合いてどういうこと?」「わからない」 「そうか。それはしんどかったな。」今のはいろんなことを知るために話をしていくということで す。

7つ目は自省を促す。例えば「言いたいことを言えないと世間ではやっていけないよ」これはコミュニケーションではなくて反省しなさい、ということです。ただ反省を促す時には今はこういうことだが将来的にはデメリットが訪れることがあるよ。と伝えないといけないんですね。「自分のことをいわないでいるとその時は楽かもしれないけど、それを繰り返していると、あなたの気持ちが他の人に伝わらなくなるんだよ」大切なのは本人が同意するデメリットを家族が理解できるかどうかです。小さいときは弟か妹ができて、悪いことをした時「そんなことしたらあかんで」とは反省するように言われる。又生まれて来た弟に対しても、お兄ちゃんらしく「何をするんかなあ?」と言われるけれど「僕しない」としたくないかもしれません。本人が同意するデメ

リットだからですよ。あんぱんまんならそういうことするかな。よく自分の子どもに自省を促すんですけど。「あんぱんまんだってそういうことするで」とか言うんです。相手が同意するデメリットということは多くの人間関係です。上司が部下に「そんなことしてたら俺みたいになられへんで」と言っても「お前みたいに誰がなるか。」というのがあるんですけど。大切なのは 1 から 6 ができるようになったあとに、こういう場面もでてくるんです。

8つ目に援助を申し出る。ある程度信頼関係ができてるんですよね。「お母さんが将来のこと聴いても、1人で何かを始めるっていうのは難しいと思うから、お母さんに手伝えることがあったら、気軽に言ってね」みたいな援助を申し出ます。これは信頼関係が無かったらむずかしいことです。始めて会う人に「困っていることがあったら、手伝うから」と言われてもむずかしいのと一緒なんです。「この人なら大丈夫」という関係がないとむずかしいです。お互いが誰か知り合う。ここまで話をしてきたを、家族の人と練習していくんです。実際の場面を想定して、実際の場面で使えるまで練習をするんです。今までに使っていない言葉のさいを作らないといけない。今までは「だめじゃないの」「これしなさい」というのから、ちょっと受け入れるさいを作っていく。本人が仕事をしたとしても、居場所とか自助グループに出かけて行ったとしても、ずっと必要になります。僕かいままでかかわってきて就職した人が1000人位いるんですけど、そのうちの何割かは親の言葉でやめているんですね。昔のように言葉という鋭利な刃物で切りつけるんです。話をするというのはすごく大切なんですね。やろうと思っていてもやる気を削いでしまいます。

ここは、どういう時に本人が支援をうけようと思うか、当事者の人にアンケートをとったものです。「相談を受けるときっとよくなるんやろな」「〇〇にあるんやろな」「どんな人かわからなかったら行きづらいし」「〇〇みたいな人がいるらしい」「相談に行ってもお金がかかったら申し訳ないなという気持ちもあるし」とこういったことを1つ1つクリア—しておく必要があるし本人がそういう所へ行こうとする気持ちが高まっているタイミングでそういうことを伝えないといけない。歯が痛いというタイミングで「歯医者に行かんとあかんな」と伝えないと、タイミングを外すと行かない。これはHow to みたいなものでこういうこともありますよ、というものです。

こういう講演会で一番怖いのは、僕がしゃべったことをそのまま、本人に喋べることです。こういう所はあくまで情報なんです。情報というのは、必要な時に引き出せて始めて意味がある。それでないと、なかなか使える情報ではなくなる。子どもがどこかにつながっていないのであれば、こういう講演会の場でつながっておくと「引きこもり大学」のあるのを知るとか、当事者のグループがあるのを知るということで、つながって来て初めて家族が入手できる情報なんですね。そうでないと、何処に何があるかとか、生活困窮者自立支援法とかも知らないんですね。仕事をしたいと思っていれば、何歳でも準備が整えられれば仕事は可能です。諦めないことが大切なんですけども、1人で、家族だけで抱え込んでしまうと諦めやすくなります。そしてかけ違ったボタンであれば、1度、外してみて。かけなおさないといけない。これは家族関係です。何処かで

間違った糸はよけいからまってしまうんですね。そして、出かけていく場所が大切。そこを作る 必要もある。出かけましょうよ。と言っても出かける所がないと意味がないんですね。

僕は人は人の中にいる方が回復しやすいと思います。人の中でつながりを持つことの方が精神的な安定度が高いですね。僕が今相談を受けている高齢のお母さんは90歳です。当事者は60歳をこえています。1番下は15歳です。訪問している中で1番長いのは40年家にいるんです。20年お風呂にはいってないんです。その人ともつながりかかっているんです。訪問して何するんやろな。と思って喋っていたら、案外喋るんですね。「岡崎さんが来てから、生活が変わってきました」と言うんです。僕は会ってくれてすごいなあ、と思いました。ご両親は死んでるんです。「僕はこう見えて、ネットとか何もできないんですよ」「言って下さいよ」「お母さんは老人ホームに入りたいけど、子どものことが心配でしんどくなってるんですよ。」「岡崎さん何しにきたんですか?」「お母さんに言われて。」「お母さんのいうこと信じるんですか?」「ちょっと待って。信じるて何?」そういう話をして「じゃまた。又来ていいんやね。」とつながっていきます。

ひとがいっぱいいればいいのかと言うとそうではないかもしれない。本人がいろんな所へ相談に行ったり、訪問を受け入れたりするのは、親が相談を受けるより大変なんです。家族が苦労するより何十倍も苦労するわけです。だから家族が先にそのしんどさを受け入れるほうが、結果的にいいわけです。家族の人が「なんで私たちだけこんな辛い思いをしなくてはいけないんですか」と言うんですね。私たちだけと思っていることを変えていく方が大事なんです。ひきこもっている子どもたちたちは、こういう所に出られない人が多いですから、結局家族がこういう講演会をしたり、虹の会へ行ったりという、社会資源がたくさんありますので、つながっていったらいいなあと思います。有難うございました。

近畿ブロック(京都)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015年2月1日(日)「貧困社会の中で自立する生き方(第8回)」		
実施(連携)団体名	NPO 法人京都オレンジの会(全国引きこもり KHJ 親の会京都支部)		
会場	大津ふれあいプラザホール		
参加人数	計 27 名 (家族、当事者、支援者、社協職員、民生委員、保健師、行政 関係職員、カウンセラー、学生)		
広報	チラシ 600 枚作成及び配布。 配布先:京都府、京都市、社協、医療機関、保健センター、その他支援 機関、家族、当事者		
	 【第一部:<若者支援と生活困窮者支援法について>】		
	講師 立命館大学産業社会学部教授 山本耕平 氏		
	 精神的貧困が、日本の平均的生活レベルよりも著しく低い「相対的貧困」		
	│ │をもたらしているという現状の指摘がありました。。生活困窮者自立支援		
	│ │法が4月から施行される。『これまで十分でなかった生活保護受給者以外		
	│ │の生活困窮者に対する第 2 のセーフティネットを拡充するものである』と		
	│ │ されている。しかし、障害枠に入らないひきこもりの若者たちへの手立て		
	はどうなるのか。「青年期の自立とは		
	経済的自立・親からの自立・人格的		
	自立の3つ」が社会的自立と言える。		
実施内容	この3つの自立を守り、育てるために		
	大人側、社会側からの手を差し伸べる		
	必要がある。		
	【第二部①:<ひきこもり・ニートと家族のかかわり方】		
	講師: NPO 法人全国ひきこもり KHJ 親の会代表 池田佳世氏		
	ひきこもり・ニートにとって家族		
	・家庭環境がとても重要であり、学		
	習会への参加によって親が変わるこ		
	とによって子どもがストレスフルに		
	ならなくなるということが、参加し		
	た親からのアンケートから示されて		
	いる。本人(子ども、青年)がひきこもることをどのように受けとめてい		
	るのかを親が理解しないと、どのような働きかけをしたらよいかわかりま		
	せん。家庭を治療の場にするために家族は『親の学習会』に継続的に参加		
	して親のコミュニケーションの幅と回数を増やそうというお話があり、参		
	加者も納得されていました。		

【第二部②: <ひきこもり施策を進めるに当たって>】 厚生労働省社会・援護局総務課統括補佐 荒川英雄氏 来年度から施行される生活困窮者自立支援法の枠組みの中でひき こもり対策がどのように位置づけられるか、また、全国組織であるひき こもり KHJ 親の会が、法の枠組みの中でどのように活動し、社会参加して いくか、その方向性について述べられた。 ・「組織」(ひきこもり親の会)としての社会参加 ・「個々人」(経験のある者)としての社会参加 「ひきこもり親の会と基礎自治体」との協働 ・面接・相談の標準化(研究事業) <生活困窮者自立支援法に基づくひきこもり支援> 厚生労働省社会・援護局総務課課長補佐 日野徹氏 ひきこもりサポーター養成研修、派遣事業についての説明があった。 ひきこもりを抱え家族や本人が市町村などの住み慣れた地域で相談でき る体制を構築する必要があること、また、ひきこもり地域支援センターや 自立相談支援機関に適切につなぐことも必要である。訪問支援のために、 ひきこもりサポーターの養成研修派遣事業を行っていく必要について 述べ、国からの流れを太くできるような協同体制を願い講演を終えた。 【第二部③シンポジウム:ディベート式討論会 「働くことは楽しい・いやそうじゃない」について】 実社会で活躍中の皆様の真面目なご回答いただいた。 ○働くことは楽しい:自分の思う仕事ができて楽しい。 働くことに よって人や社会とのつながりが持てる。どんな仕事も価値があると思う。 人のためになる。人に感謝される。 ●楽しくない:上司の言うとおりにしなければいけなくてしんどい時が ある。自分の力が足りないと思い悔しい。自分の思う仕事ができて楽し い。好きなことは仕事ではなく遊びでしたい。 全体の参加者数は、当日の荒れた天候の影響もあって、やや少なめだった 実施成果 が、公的機関や支援者の方々に多く参加していただき、厚生労働省の方か 決定事項 ら直接話を伺うことができて、勉強会として効果を得ることができた。 開催に関連する 京都新聞 2015年1月26日に講演会の告知記事が掲載された。 新聞記事 紹介記事の反響 問合せが14件あった。 ・親亡き後の不安について。(発達障害の息子がいるが、片づけることが 難しく生活の基本的な部分ができない。子どもだけになったときに不安) 学習会・アンケート ・家族、特に母親同士の人間関係に、支援の困難さがあることが多い。 から見えた課題など ・テーマを絞って、深めてもらった方が良かった。盛りだくさんで、少し 理解しにくかった。

今後の取り組み

①家族のコミュニケーション・セミナー

- ②若者のコミュニケーション・セミナー
- ③過疎高齢化の進む農村との交流 を具体的に行っている。
- ・未だ、具体的には分かってないところもありますが、継続して支援していきたい。

※この講演会は独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業により開催されます。

平成 26 年度講演会シリーズテーマ

「貧田社会の中で自立する生き方」

平成 26 年度 総括 講演会シリーズの最後にあたり、「生活困窮者自立支援法」に ひきこもりやニートの若者たちがどのようにサポートされるか、 考えていきましょう。

ひきこもり対策について厚生労働省と語りあいます

日 時: 2月1日(日) 会場: ひとまち交流館京都

市パス4、17、206号系統「河原町正面」下車

第1部 勉強会 <第3会議室>

10:15 会場受付 テーマ「生活困窮者自立支援法」について

10:30 ~11:30 調師 立命館大学教授 山本 耕平 氏

対象 社会福祉協議会,保健センター等、関係諸団体、一般家族参加も可能

定員 30 名程度 参加費 無料

<午後のみの参加も可能です>

第2部 講演会 <大会議室> 定員 200 名程度

13:00 会場受付 テーマ「ひきこもり・ニートと家族のかかわり方」

13:30 ~ 14:20 講師 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会代表

休憩 10分

臨床心理士 池田 佳世 氏

テーマ「ひきこもり施策を進めるに当たって」と

14:30~15:50

「生活困窮者自立支援法に基づくひきこもり支援」

統括補佐 荒川 英雄氏・課長補佐 日野 徹氏

講師 厚生労働省 社会援護局総務課

休憩 5分 構造機性 元川 英雄氏 ** 株式機 15:55~16:30 シンポジウム (司会 山本 耕平 氏)

16:40 閉会 荒川 英雄氏、日野 徹氏、池田 佳世 氏

対象 関係諸団体、家族一般: 参加費 500円(資料代)、若者当事者(無料)

主催:NPO法人全国ひきこもりKHJ 親の会

共催:特定非営利活動法人京都オレンジの会

20~40代のひきこもり経験者が、社会に出られるようにサポートをしています。

交流広場ライフアート クライフアート京都 オャリアサポート Kyoto-Oranga 自立開議・就労継続支援日型事業 ところのサポート地域活動助成事業 カウンセリング・ジョブサポート事業

> 〒605-0028 京都市東山区分木町 74 番 3 号 東山三条ライフステーション 3F Tel: 075-752-0289 E-Mail: kyotojajs@yahoo.co.jp

「貧困社会の中で自立する生き方」 NPO法人全国ひきこもりKHJ親の会 (京都オレンジの会)

ひきこもり施策の方向性

<平成27年2月1日>

社会・援護局総務課 荒川 英雄



ひきこもり親の会の活動と生活困窮者自立支援法

- 〇「組 織」(ひきこもり親の会)としての社会参加
 - → 「事業所」(都道府県が事業を認可)
- 〇 「個々人」(経験のある者)としての社会参加
 - → 「相談員」(福祉事務所設置の「市」に配置) ※官民協働の相談
- 〇 生活困窮者自立支援法モデル事業
 - → 「ひきこもり親の会と基礎自治体」との協働 ※基礎自治体の理解
- 全国組織(ひきこもりKHJ親の会)としての社会参加
 - → 面接・相談の標準化(研究事業)
- ※ 社会福祉推進事業(国)

1

参加する意志がある自身の「出来ること」への表現

OOしか

00なら

依存•他律

自主•自律

【苦境】 【好機】 【選択】 【挑戦】

pin<u>ch</u> <u>ch</u>ance <u>ch</u>oice <u>ch</u>allenge

2

絶対的貧困と相対的貧困について

〇「貧困」には絶対的な定義はない。

例えば、生きていくための水・食料を得ることができない。住む家がない。病気を罹ったが病院に行くお金がない。など、 「貧困」という言葉一つで多くの事が想像できる。

〇「貧困」とは「モノや金がないこと」とする誤り。

もちろん収入が低いことや生活必需品がないことは「貧困」の要因である。しかし、それは「貧困」の一部でしかない。中村尚司先生は、「<u>貧困とは自分ではどうしようもない外的な力によって、経済的に従属されている社会関係」であると述べている。</u>

○ 元国連専門家のジョン・フリードマンは、(「市民・政府・NGO」新評論)で<u>貧困を「カ」が剥奪された状態として、そのカ(パワー)を8つを挙げている。</u>それは、

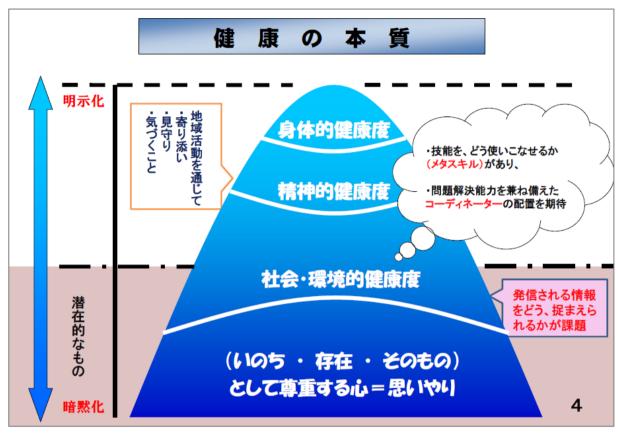
(1)資 金、(2)社会ネットワーク、(3)適正な情報、(4)生存に費やす時間以外の余剰時間、(5)労働と生計を立てるための手段、(6)社会組織、(7)知識と技能、(8)防衛可能な生活空間(=居場所) であるしている。

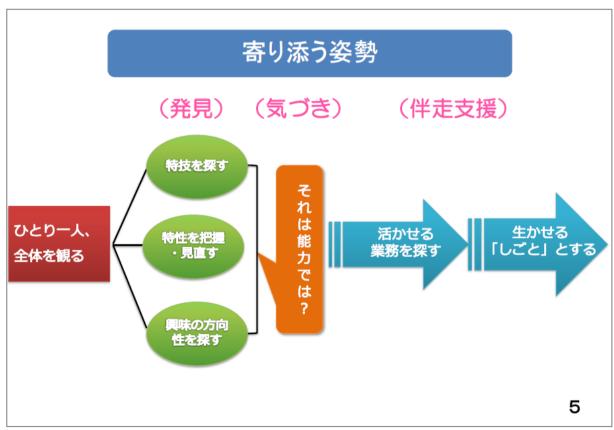
〇 [世界学生サミットでの「貧困」の定義]

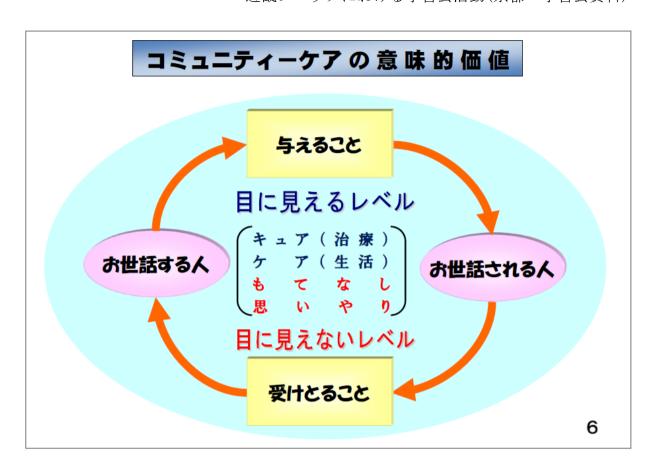
絶対的貧困...人間が生きていくために必要な資源、つまり水や食料という物質的なものが欠如している状態をいう。

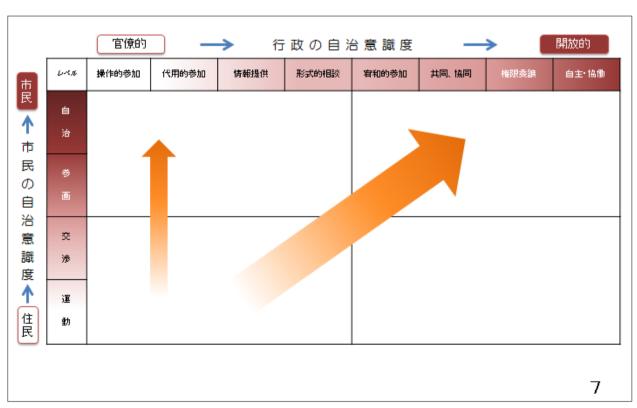
相対的貧困...物質的・精神的に劣勢を感じる状態。つまり、物質的に満たされているが、他人と比べる事によって生じる 意識的なもの</u>をいう。

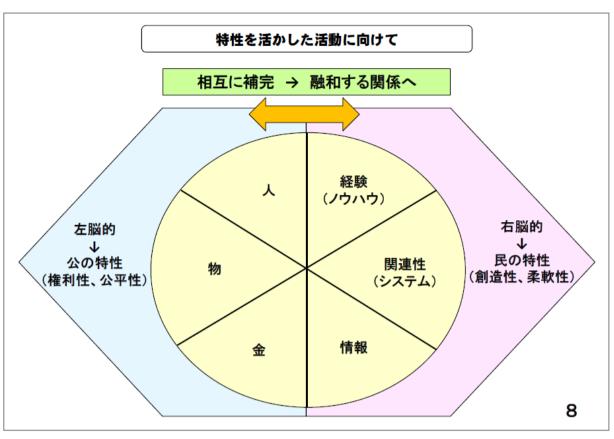
貧困状態を生じさせない地域社会、即ち、幸福感を感じられる地域社会(憲法13条) 3

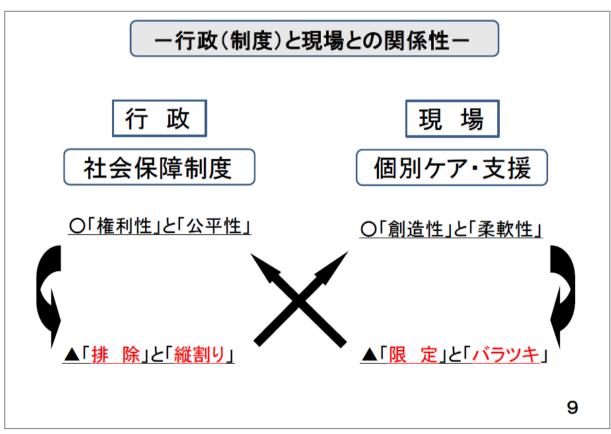












<u>私は何も出来ない</u> <u>あの人は何でも出来る</u>

<u>あの人にも何か出来ないことがある</u>
<u>私にも何か出来ることがある</u>

チェスターフィールド「わが息子よ、君はどう生きるか」

(社会的孤立を理解するうえで・・・参考図書)

上田紀行 「生きる意味」

エーリッヒ・フロム 「自由からの逃走」

10

「貧困社会の中で自立する生き方」 NPO法人全国ひきこもりKHJ親の会 (京都オレンジの会)

ひきこもり対策推進事業等について

<平成27年11月2日>

社会・援護局総務課

日 野 徹



ひきこもりについて

定義

様々な要因の結果として、社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職員を含む就労、家庭外での交遊)を回避し、原則的には6か 月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしていてもよい)を示す現象概念。

※ ひきこもりは、原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神症性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低くない。

「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」より

推計数

厚生労働省関係調査

ひきこもり状態にある世帯数 約26万世帯

平成18年度 厚生労働科学研究「こころの健康についての疫学調査に関する研究」による推計

○把握方法 全国11の地域の住民から無作為に抽出し、調査に協力いただいた4,134名を対象に、調査員の戸別訪問により直接面接

を実施 (平成14~17年度にWHOの主導する国際的な研究プロジェクトである世界精神保健調査に参画して実施)

〇調査結果

面接を受けた対象者全員の中で、現在、ひきこもり状態にある子どものいる世帯は、O. 56%。

全国の総世帯数にこの率を乗じて、ひきこもり状態にある世帯は、約26万世帯と推計。

内閣府関係調査

広義のひきこもり状態にある者 69.6万人、狭義のひきこもり状態にある者23.6万人

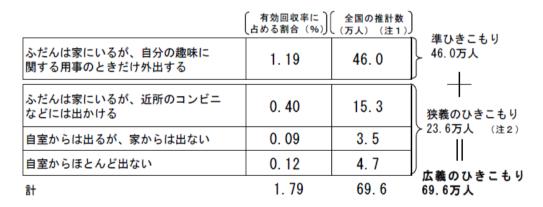
平成22年7月「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」による推計

1

(参考) 内閣府における「ひきこもりに関する実態調査」

〇平成22年7月 「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)」による推計

15歳以上39歳以下の全国5,000人を対象に調査員が訪問することにより調査を実施。



ただし ア)現在の状態となって6ヶ月以上の者のみ

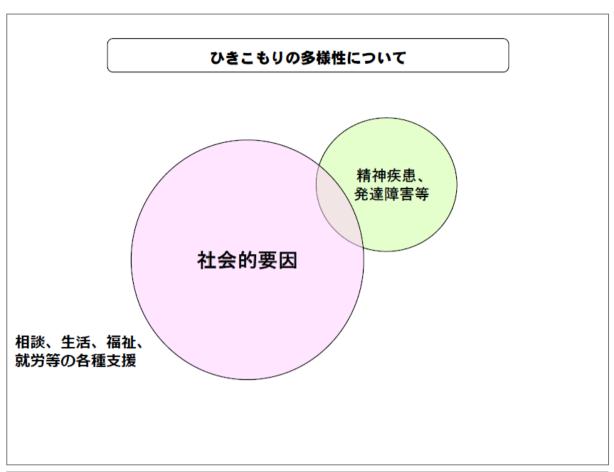
イ)「現在の状態のきっかけ」で、「病気(病名:)」に統合失調症又は身体的な病気、 又は「その他()」に自宅で仕事をしていると回答をした者 を除く

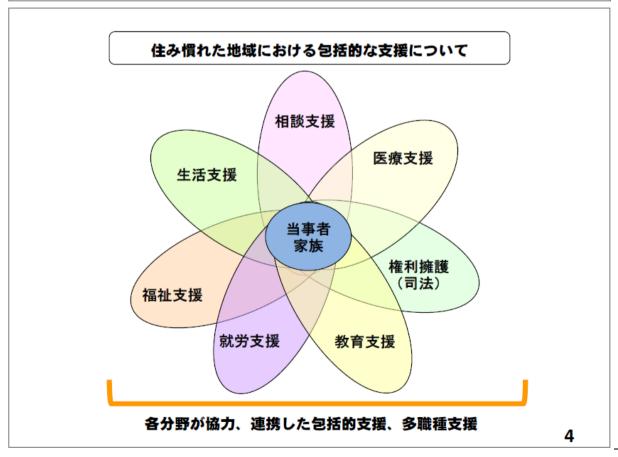
ウ)「ふだん自宅にいるときによくしていること」で、「家事・育児をする」と回答した者 を除く

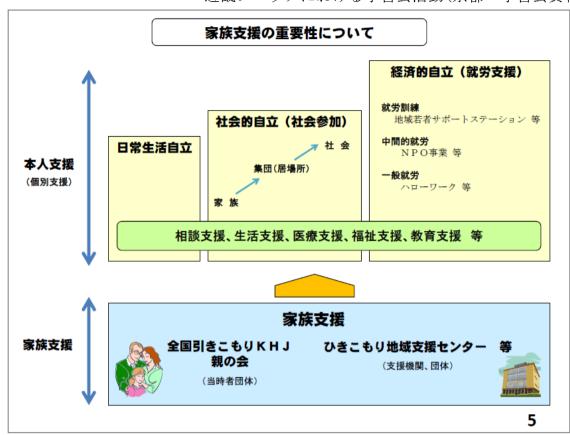
(注1)総務省「人口推計」(2009年)によると、15~39歳人口は3,880万人より、 有効回収率に占める割合(%)×3,880万人=全国の推計数(万人)

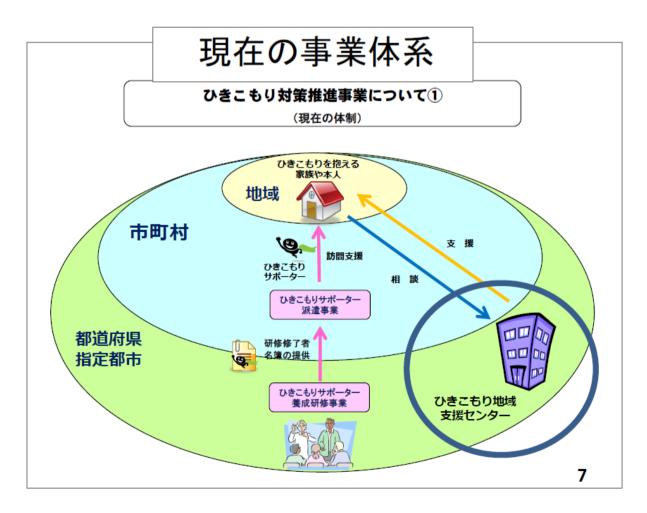
(注2)厚生労働省の新ガイドラインにおけるひきこもりの推計値は25.5万世帯となっており、ほぼ一致する。

2











ひきこもりサポーター 養成研修、派遣事業

(平成25年度~)

都道府県

ひきこもりサポーター養成研修事業

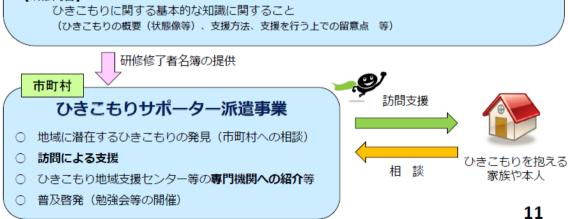
【目的】

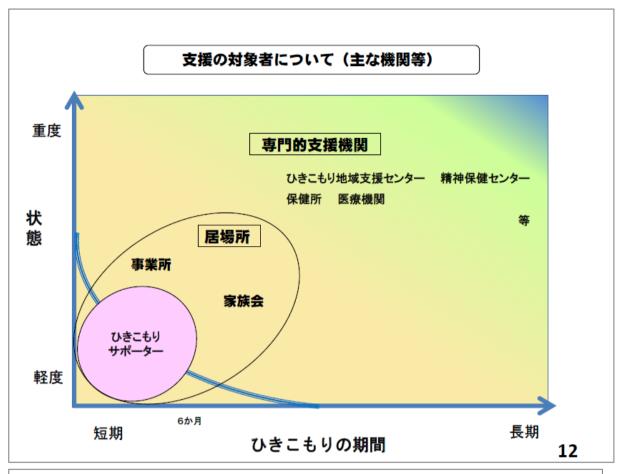
ひきこもりの経験者(ピアサポート)を含む「**ひきこもりサポーター**」を養成し、派遣することにより、地域に潜在するひきこもりを**早期に発見し、適切な支援機関に早期につなぐ**ことで自立を促進する。(**本人や家族に対するきめ細かで継続的な支援の実現**)

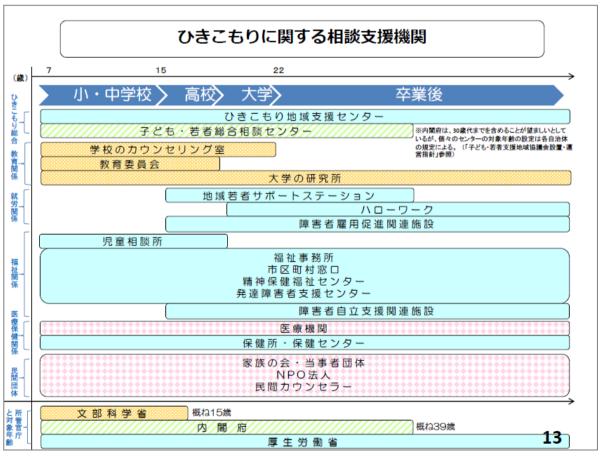
【研修対象者】

ひきこもり本人や家族等に対する支援に関心のある者 ※資格等の要件はない

【研修内容】







生活困窮者自立支援法の施行について

(平成27年度からの事業体系)

新たな生活支援体系について

生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会報告書(平成25年1月25日)より

新しい生活支援体系の4つの視点

①自立と尊厳

すべての生活困窮者の社会的経済的な自立を実現するための支援は、一人一人の尊厳と主体性を重んじたものでなければならない。

②つながりの再構築

孤立している人々が多様なつながりを再生・創造できることを目指し、そのつながりを人々の主体的な参加の基盤とする。

③子ども・若者の未来

次世代が可能なかぎり公平な条件で人生のスタートを切ることができるように、その条件形成を目指す。

④信頼による支え合い

制度に対する国民の信頼を強めるため、生活保護制度の情報を広く提供しつつ、信頼を損なう制度運用の実態があれば是正していく。

新しい生活支援体系の3つの具体的なかたち

①包括的・個別的な支援

地域における多様なサービスをできる限り一括して提供する。生活困窮者それぞれの事情に応じた個別的な支援を提供する。

②早期的・継続的な支援

訪問型も含めた早期対応を図る。個々人の段階に応じたサービスが提供されるよう、継続的な支援を行う。

③分権的・創造的な支援

民間の柔軟で多様な取組が活かされ、国や地方自治体がこれを支える。地域ごとの多様な条件に応じて創造的な取組を行う。

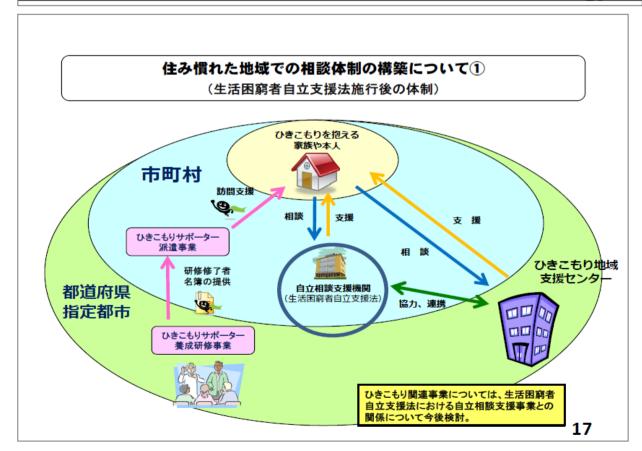
ひきこもり地域支援センターと自立相談支援機関との連携等について

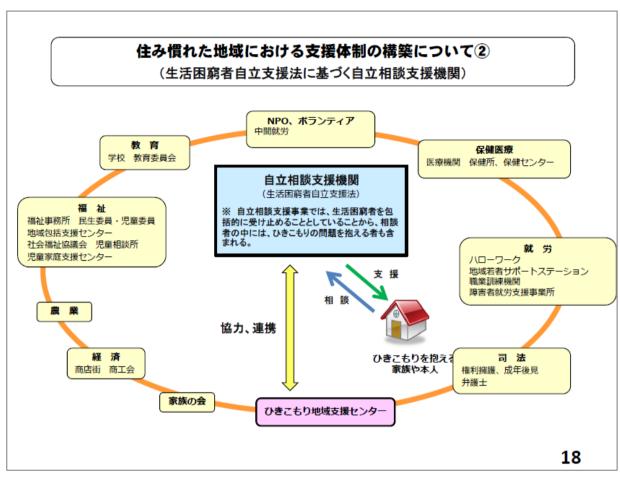
- 平成27年度4月より生活困窮者自立支援法が施行され、全国に生活困窮者への包括的な支援体制が整備されることとなる。
- 同法に基づき実施する自立相談支援事業の対象者は生活困窮者であるが、相談事業の性格 上、所得・資産に関する具体的な要件を設けるものではなく、複合的な課題を抱える生活困窮者 が「制度の狭間」に陥らないよう、できる限り幅広く対応することが必要である。

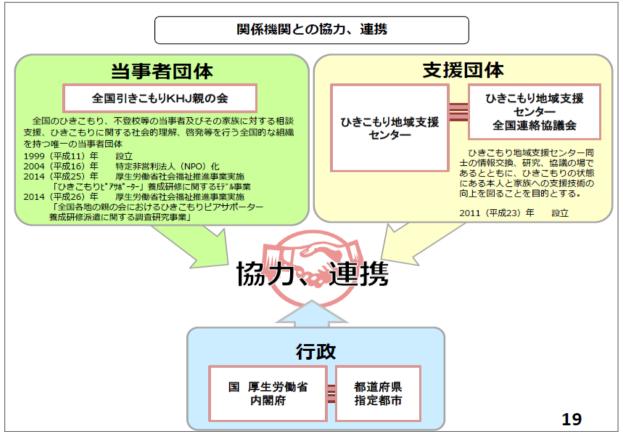
また、生活困窮者の中には、社会とのつながりが薄れ、自らサービスにアクセスできない者も 多いことから、対象者の把握は、アウトリーチも含め早期支援につながるよう配慮することが重 要である。

このように、自立相談支援事業では生活困窮者を包括的に受け止めることとしており、<u>相談者</u>の中にはひきこもりの問題を抱える人も含まれる。

- 一方、ひきこもりの相談窓口は、ひきこもり支援コーディネーター等の専門家が配置されている、 ひきこもり地域支援センターが担うこととしている。
- 今後、自立相談支援事業の実施機関は、<u>ひきこもり地域支援センターとの連携体制を構築するとともに、自立相談支援機関に相談に訪れたひきこもりの問題を抱える人への支援については、相談者の状況に応じて、ひきこもり地域支援センター等に適切につなぐことが必要である。逆に、ひきこもり地域支援センターで相談支援を行っているひきこもりの人のうち、就労支援などが必要な者については、自立相談支援機関に適切につなぐことが必要である。</u>







近畿ブロック(滋賀)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015 年 2 月 22 日 (日) 「貧困社会の中で自立する生き方(第 9 回)」	
実施(連携)団体名	NPO 法人京都オレンジの会(全国引きこもり KHJ 親の会京都支部)	
会場 大津ふれあいプラザホール		
参加人数	計30名(家族、当事者、支援者、社協職員、民生委員、保健師、行政関係職員)	
	チラシ 500 枚作成及び配布。	
広報	配布先:京都府、京都市、滋賀県、大津市、社協、医療機関、保健センタ	
	一、その他支援機関、家族、当事者	
	テーマ「ひきこもり講演会・相談会〜家族がつながって楽になる〜」	
	【第一部:<正しく知ろう ひきこもり>】	
	精神保健福祉センター所長 辻本哲士氏	
	ひきこもりに関する基礎的な知識についてお話いただいた。青年期のひ	
	きこもりのケースは精神医学的には大きく3つの群に分けられ、第1群は	
	統合失調症、気分障害などを主診断とし、第2群は広汎性発達障害や精神	
	遅滞などの発達障害を主診断とし、第3群はパーソナリティ障害や同一性	
	の問題、身体表現性障害などを主診断とするもので、それぞれ必要な治療	
	や支援が異なってくる。ひきこもりの心性として「人と接したい」けど「人	
	がこわい」、矛盾した考えが自然に共存する場面や状況ですぐに心変わり	
	する、否定的な考えの堂々めぐりなどの特徴がある。いずれにしても原因	
	探しは重要ではない。家族に対しては見守る姿勢を持ってもらい、過干渉	
実施内容	や無関心から普通の距離感になるように。	
	ひきこもりから脱するきっかけは何がきっかけになるかは分からない	
	ので、本人に対しては小さな成功体験を積み重ね、できることから少しず	
	つ取組んで、本人の気持ちを安定させるために周囲の見守り、安心感を持	
	てる関わりが重要である。	
	【第二部①:<家族のあり方と家族会の大切さ>】	
	講師: NPO 法人	
	全国ひきこもり KHJ 親の会代表	
	臨床心理士 池田佳世氏	
	ひきこもり・ニートにとって家族・	
	家庭環境がとても重要であり、学習	
	会への参加によって親が変わること	
	によって子どもがストレスフルにならなくなるということが、学習会へ	

	参加した親の方へのアンケートから示されている。今は人と人のつながり
	が困窮している時代であり、当事者も家族も孤立しがちなので情報を交換
	し合える家族会の存在はとても重要です。
	【個別相談会】
	ひきこもり・不登校を支援する団体の個別相談会。
	当会を含め滋賀県で活動している4団体がブースを出展し、会場に来られ
	た方の個別相談を受けた。
	・滋賀県にて初の試みとして、第1部に講演会、第2部に他の支援団体を
	招いた相談会を開催できた。
*** ** ** **	・相談会に参加した他の支援団体と交流ができ、今後のネットワーク作り
実施成果	に役立った。
決定事項	・当事者・家族と支援団体とのマッチングはこれからの課題の一つで
	あるが、こういった交流の機会を設けることで、多くの方が支援団体に
	つながるきっかけになると思われる。
	・家族会の必要性を認識できた。
	・ひきこもり及び家族会について勉強になった。
	・ひきこもりには何かしらの原因があることを理解できた。
マンケートから日立ち	・子どもと親は傷つき、どうしたいいのかわからない→周囲が優し
アンケートから見えた	く見守る必要があると感じた。
良かったこと	・講演会に参加する回数も増えてきたため、以前の講演会と多少
	重なる内容もありますが、一回聴いただけでは各講演会の内容を
	十分には理解しきれないので、何度も聴けるという意味では良い事
	だと思います。
労羽 会、マンケー1	・兄弟姉妹から寄せられた困難事例。
学習会・アンケート から見えた課題など	(当事者以上に、母親が不安定になっている場合、母と当事者本人にどう
	接していけばいいか)
	・家族会とのネットワークづくり。今日の講演会等への参加。
今後の取り組み	・ひきこもりに対しては、長い目で、暖かい、優しい立場で見守る必要が
	あると実感した。

※この講演会は独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業により開催されます。

平成 26 年度講演会シリーズテーマ

「貧田社会の中で自立する生き方」

平成 26 年度 滋賀講演

ひきこもり講演会・相談会

~家族がつながって楽になる~



平成27年2月22日(日)

13:30~16:30

(受付13:00~)

ふれあいプラザホール

大津市浜大津4-1-1明日都浜大津4階

定員 60名 (会費無料)

定員になり次第受付終了となります。

申込方法 電話または FAX

裏面の申込用紙をご利用ください

第1部 ひきこもり講演会

13:30~ 「正しく知ろう ひきこもり」

講師 滋賀県立精神保健福祉センター 所長 辻本 哲士 氏

14:30~ 「家族のあり方と家族会の大切さ」

講師 NPO 法人全国ひきこもり KHJ 親の会 代表 池田 佳世 氏

第2部 個別相談会

15:30~ ひきこもり・不登校を支援する団体の個別相談会

参加団体 (予定): NPO 法人京都オレンジの会 幸重社会福祉士事務所

とまとの会(家族会)

一般社団法人セレンディップ

主催:NPO法人全国ひきこもり KHJ 親の会

共催:特定非営利活動法人京都オレンジの会 後援:社会福祉法人大津市社会福祉協議会

問い合わせ:特定非営利活動法人京都オレンジの会

自立訓練・就労継続支援B型事業 / こころのサポート地域活動助成事業 / キャリアサポート Kyoto-Orange 〒605-0028 京都市東山区三条通大橋東六丁目分木町 74番3号 東山三条ライフステーション 3F

Tel: 075-752-0289 E-Mail: kyotoorange0289@yahoo.co.jp

全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)

7. 中国ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

中国ブロック(広島県)における学習活動

開催日	H27. 2. 7(土)		
開催タイトル	KHJ 岐阜「鵜の会」/ひきこもり家族会・発足講演会		
実施(連携)団体名	KHJ 広島「もみじの会」(全国引きこもりKHJ親の会広島支部)		
会場	広島市西区地域福祉センター 3階大会議室		
→ → 1 1 ¥L	40人(行政関係7名、社会福祉協議会関係3名、支援者3名、		
参加人数	家族会 22 名、一般 5 名)		
	チラシ 500 部作成及び配付		
 +⊓	配付先:広島県健康対策課・同精神保健福祉センター		
広報	広島市精神保健福祉課、同地域福祉課、同精神保健福祉センター		
	広島市社協、県社協、保健所等		
	学習会では、講師3名による基調講演と各講師間の意見交換、講師と会場		
	間の意見交換、会場内での行政職員、社協職員、相談員(13名)と家族会		
	(22 名)との意見交換を実施した。		
	【13:00~13:40】広島市健康福祉局 地域福祉 課児高課長		
	H26 年度のモデル事業である「広島市くらしサポートセンター」を通じて、		
	ひきこもり対応の具体例を述べて頂き、併せて H27 年度 4 月からの生活困		
	窮者自立支援法施行に伴う本格 実施の方向性等についてお話し頂いた。		
	【13:40~15:00】ひきこもり相談支援センター		
実施内容	(西部センター)齋藤相談員 (中部・北部センター)山田相談員		
	ひきこもり対応例についてのお話しをいただいた。		
	【15:00~15:20】講師間の意見交換を実施した。		
	【15:20~16:00】会場に参加いただいた行政職員、社協職員、相談員と講		
	師間との意見交換や家族会との意見交換を行い、 会場内での行政職員、		
	社協職員、相談員と家族会との意見交換を実施した。		
	なお、司会はもみじの会の代表藤岡が対応した。進行については、各講師		
	の話 が 40 分×3 人=120 分。講師間の意見交換 20 分。会場との意見交換		
	40分。(行政職員、社協職員、相談員と家族会との意見交換も行なった)		
開催の模様 (写真)	2015/02/07 13:34		
	広島市児高地域福祉課長から 生活困窮者自立支援法に 関する話と広島市の方向性に		

ついて。

	広島ひきこもり相談支援センター(中部・北部)山田氏から相談事例について		
実施成果 決定事項	生活困窮者自立支援法に関わる市区担当者、広島市のモデル事業を受託している市の社会福祉協議会等から13名の参加があった。参加者の中には、一般参加者もあり、ひきこもりの家族会について理解したいとの意見もあったのは想定外であった。社協関係者から、現在何をしてよいかわからないとの意見もあり、末端での理解が課題。これらがわかったのは行政・社協等としても理解が進んだ。生活困窮者自立支援法、ひきこもり対応の現状と新制度に伴う今後のひきこもり対応について議論を通じて理解を深められ、関係者との連携ができたことは成果があったといえる。		
アンケートから見えた 良かったこと	・ひきこもり相談支援センターの取り組みについて具体的な事例を交えてわかりやすく説明があったのでイメージがつかめた。 ・支援センターでの関わりで回復した事例を聞けて少し希望が持てた。 ・生活困窮者自立支援制度の動きや今後の方向性が良く理解できた。この制度を十分活用して、社会復帰の可能性を探し行動を起こしたい。 ・家計相談支援があることを初めて知り将来は活用してみたい。 ・本人が相談に行けない場合、家族相談を通じ本人の環境を整えてていく方法がある。(我が家に当てはまるかどうかはわからない) ・齋藤相談員の話しは説得力があり勇気づけられた。		
学習会・アンケート から見えた 課題と成果	生活困窮者自立支援法の理解が進んだ。一方、いまだに情報入手を希望しているが、将来に不安を抱えている家族の実態が明らかになった。また、支援者の側でも生活困窮者自立支援法の理解が進んでいない状況や、ひきこもり相談支援センターの活動状況に関する理解がされていない支援者もおり、ひきこもりへの対応に苦慮している状況が明らかになった。学習会でそれらについて理解できたとの意見をいただき、家族会と行政職員や社協職員、相談員などとの連携のきっかけができた。 生活困窮者自立支援法の自立相談支援事業を受託している社協との連携		
今後の取り組み	強化により家族支援に資する。また、同法の支援実施のためには本人同意が必要であるので、家族の理解を進めたい。		

※この学習会は独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業により開催されます。

学習会「ひきこもり対策の現状と今後の課題」

[講師] 広島市健康福祉局地域福祉課 児高 静博課長

広島ひきこもり相談支援センター(西部センター)齋藤圭子相談員 広島ひきこもり相談支援センター(中部・北部センター)山田晃靖相談員

【主催】NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) 【共催】KHJ 広島「もみじの会」

[日時]平成 27 年 2 月 7 日(土)

13 時~16 時(開場 12 時半)

[場所]広島市西区地域福祉センター3階大会議室

広島市西区福島町2丁目24-1 (電話:082-294-0104)



現状のひきこもり対策、生活困窮者自立支援 法(H27.4 施行)の広島市でのモデル事業実施 状況(その内、特にひきこもり相談状況)なら びに今後のひきこもり対策の課題などにつ いて話し合います



【対象者・定員】社会福祉協議会、保健所(保健センター)等関係諸団体、家族 100人 【参加費】無料

【参加申込】FAX,メールで

FAX 082-924-2922(岡本宛)

メール: sanfrecce.hiromu.forza@docomo.ne.jp (岡本宛)

平成27年 (1015年)2月7日 KHJ広島 もみじの会」H27年2月学習会

生活困窮者自立支援制度について

広島市健康福祉局地域福祉課

目 次

- 1 新たな生活困窮者支援制度の創設
- (1) 生活困窮者自立支援法
 - 2) 対象者のイメージ
 - 3) 生活困窮者自立支援法の理念
 - 4) 法に基づく各種事業

広島市における取組状況

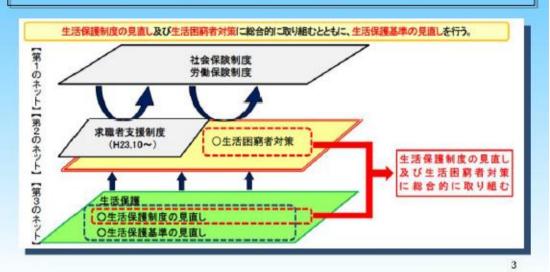
- (1) 生活困窮者自立相談支援モデル事業
- (2) 平成27年度の事業展開の方向性

1 新たな生活困窮者支援制度の創設

(1)生活困窮者自立支援法 平成25年12月成立 ⇒ 平成27年4月1日施行

法の目的

生活保護に至る前の段階の<u>「第二のセーフティネット」</u> を拡充し、生活困窮者の自立支援策を強化する。



2)対象者のイメージ

「現に経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者」(法第2条)

自主的な求職活動等により自 具体的な生活困窮者の例 自主的な自立 左が見込まれる人 他の機関、制度による支援 課題が複合化しておらず、他 ・生活保護ボーダー層 機関の実施する支援制度等に サポステ、法テラスなどの支援 より自反が見込まれる人 · 非正規雇用者 各種手当の受給など 失業者 ・ひきこもりの方 就劳、家庭環境、金銭問題 健康問題等の複合的な課題を ・ニートの方 抱えるなど、自立に向けて包 生活图窮者自立支援制度 · 高校中退者、未就労者 括的、継続的なサポートがみ 要な人 ·刑務所出所者 多重債務者 なと 生活保護の受給要件を満たす 生活保護制度

(3)生活困窮者自立支援法の理念

① 生活困窮者の自立と尊厳の確保

(=個人へのアプローチ)

- ・本人の自己選択、自己決定を基本に、経済的自立だけでなく、日常生活自立や社会生活自立など、本人の状態に応じた自立を支援する。
- ・生活困窮者の多くが自己肯定感、自尊感情を失っていることに留意し、尊厳の確保に特に 配慮する。

② 生活困窮者支援を通じた地域づくり

(=地域へのアプローチ)

- ・生活困窮者の早期把握や見守りのための地域ネットワークを構築し、包括的な支援策を用意するとともに、<u>働く場や参加する場を広げていく。</u>(既存の社会資源を活用し、不足すれば開発・創造する。)
- ・生活困窮者が社会とのつながりを実感し、自ら主体的に参加することができる<u>「相互に支え</u> 合う」地域を構築する。

5

新しい生活困窮者支援のかたち

~一人一人の状況に応じた「寄り添い型・伴走型」の支援~

① 包括的な支援

生活困窮者の課題は多様で複合的である。「制度の狭何」に陥らないよう、広く受け止め、就労の課題、心身の不調、家計の問題、家族問題などの多様な問題に対応する。

② 個別的な支援

生活困窮者に対する適切なアセスメントを通じて、個々人の状況に応じた適切な支援を実施する

③ 早期的な支援

直に国際している人ほど9の9を発することが難しい。「待ちの姿勢」でけなく早期に生活国際者を把握し、課題がより深刻になる前に問題解決を図る。

④ 継続的な支援

自立を無理に急がせるのではなく、本人の段階に合わせて、切れ目なく経続的に支援を提供する。

⑤ 分権的・創造的な支援

主役は地域であり、国と自治体、官と民、民と民が協働し、地域の支援体制を創造する。

4) 法に基づく各種事業

■必須事業

福祉事務所を設置する自治体は、必須事業のほか、地域 の実情に応じた任意事業を実施

事業名	内容
自立相談支援事業	就労その他の自立に関する相談支援、事業利用のためのプラン作成等
住居確保給付金の支給	離職により住宅を失った生活困窮者等に対し、家賃相当の給付金 を支給 ※現行の 住宅支援給付」に相当

■任意事業

事業名	内容
就労準備支援事業	ただちに一般就労が困難な生活困窮者に対し、就労に必要な訓練 を日常生活自立、社会生活自立段階から有期で実施
一時生活支援事業	住居のない生活困窮者に対して一定期間宿泊場所や衣食の提供 等を実施
家計相談支援事業	家計に関する相談、家計管理に関する指導、貸付のあっせん等を 実施
学習支援事業その他必要な 事業	生活困窮世帯 生活保護世帯を含む。)の子どもに対する学習支援、その他、地域の実情に応じた事業を実施

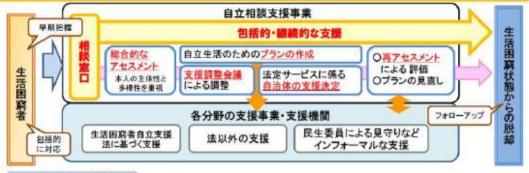
7

生活困窮者支援制度の全体像 再就職のために ◆「住居確保給付金」の支給 包括的な相談支援 居住の確保が 必要な者 ・就職活動を支えるため家賃費用を有期で給付 ◆自立相談支援事業 就労支援 ◆就労準備支援事業 ・訪問支援(アウトリーチ)も含め、 就労に一定 ・就労に向けた日常・社会的自立のための訓練 生活保護に至る前の段階から早 期間を要する者 なお一般就労が困難な者 期に支援 本人の状況に ◆「中間的就労」の推進 ・生活と就労に関する支援員を配 直ちに一般就労が困難な者に対する支援付きの就労の場の育成 置し、ワンストップ型の相談窓口により、情報とサービスの拠点と ◇ハローワークとの一体的支援 ・自治体とハローワークによる一体的な就労支援体制の全国整備等 により早期支援を推進 星期就学が 見込まれる者 して機能 ·一人ひとりの状況に応じ自立に 向けた支援計画を作成 --時生活支援事業 緊急に衣食住の 確保が必要な者 ・住居喪失者に対し支援方針決定までの間衣食住を提供 支援 ・地域ネットワークの強化など地域 づくりも担う 索計再建支援 8 ◆家計相談支援事業 家計から生活 家計再建に向けたきめ細かな相談・支援 家計再建資金賃付のあっせん 子ども・若者支援 基本は現金給付ではなく自立に向けた ◆学習等支援 貧困の連鎖 生活困窮家庭のこどもに対する学習支援や保護者への進学助言 人的支援を、有期により提供 の助止 ※ 右記は、法に規定する支援(◆)を中心 その他の支援 に記載しているが、これ以外に様々な支援 (令)があることに留意 ◇関係機関・他制度による支援 ◇民生委員・自治会・ボランティアなどインフォーマルな支援

自立相談支援事業について

新事業の概要

- 福祉事務所設置自治体が直営又は委託により自立相談支援事業を実施。
 - 要託の場合は、自治体は受託機関と連携して制度を運営、行政は支援調整会議に泰商し、支援決定を行うほか、社会資源の開発を担う。
- 自立相談支援事業は、生活困窮者からの相談を受け、
- ① 生活困窮者の抱えている課題を評価・分析(アセスメント)し、そのニーズを把握
- ② ニーズに応じた支援が計画的かつ継続的に行われるよう、自立支援計画を策定
- (3) 自立支援計画に基づく各種支援が包装的に行われるよう、関係機関との連絡開整を実施 等の業務を行う



期待される効果

- 生活保護に至る前の段階から早期に支援を行うことにより、生活困窮状態からの早期自立を支援。
- 生活困窮者に対する相談支援機能の充実により、福祉事務所の負担経済とともに、社会資源の活性化、地域 全体の負担経滅が可能に。 0

住居確保給付金について

新事業の概要

- 福祉事務所設置自治体は、離職により住宅を失った又はそのおそれが高い生活困窮者であって、 所得等が一定水準以下の者に対して、有期で住居確保給付金を支給。
- 現行、緊急雇用創出事業臨時特例基金(住まい対策拡充等支援事業分)事業として平成21年10月から 行われている住宅支援給付事業 (平成26年度末までの事業) の制度化を図る。

(参考)現行の住宅支援給付制度の概要及び実績

> 支給対象者

離職後2年以内かつ65歳未満の者であって、①現在住居がない又は②住居を失うおそれのある者

- > 支給要件 (東京23区の場合)
- ①収入要件:(単身)月収約13.8万円未満、(2人世帯)17.2万円以下 ②資產要件:(単身)預貯金50万円以下、(複数世帯)100万円以下
- ③就職活動要件:ハローワークでの月2回以上の職業相談、自治体での月4回以上の面接支援等
- > 支給上限額(東京23区の場合)

複数世帯: 69,800円 単身:53,700円

原則3か月間(就職活動を誠実に行っている場合は3か月延長可能(最長9か月まで))

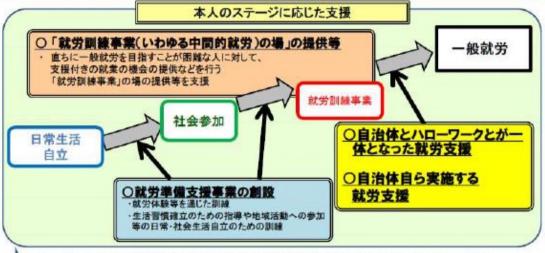
- ◆ 支給決定件数 154,493件(平成21年10月~平成26年3月実績)
- 常用就職(※)率 平成25年度実績:75.4%(平成21年10月~平成26年3月の累計実績:44.7%) (※)期間の定めがない又は6ヶ月以上の雇用期間が定められた雇用契約による就職者

期待される効果

- 有期の代理納付という仕組みの中で生活保護に至らないためのセーフティネットとして、効果を発揮。
- 自立相談支援事業や就労準備支援事業との組み合わせにより更なる効果を目指す。

就労に向けた支援の充実・強化

◎ 就労準備支援事業の創設、就労訓練事業の場の提供の推進等により、本人のステージに応じたきめ細かな支援策を実施する。



法により、これまで支援が十分されてこなかった層への就労支援が充実する。各種就労支援は、 生活困窮者の多くが自尊感情や自己有用感を喪失し、次のステップに向かうことができなくなって いる状況にあることを踏まえ、その回復・醸成を図りながら行う。

就労進備支援事業について

新事業の概要

- 一般就労に従事する準備としての基礎能力の形成を、計画的かつ一貫して支援する事業(就労準備支援事業)を創設。
- 福祉事務所設置自治体の事業(社会福祉法人等へ委託可)。最長で1年の有期の支援を想定。
- 生活習慣形成のための指導・訓練(生活自立段階)、就労の前段階として必要な社会的能力の習得(社会自立段階)、事業所での就労体験の場の提供や、一般雇用への就職活動に向けた技法や知識の取得等の支援(就労自立段階)の3段階。事業の形式は、通所によるものや合宿によるもの等を想定。

支援のイメージ(現行の取組例)【横浜市】

横浜市における就労意欲喚起事業 (就労準備のための訓練)

- 中区保護課で、平成23年10月から 新たな就労支援プログラムを開始。
- 平成24年9月現在、56人が受講し、 うち48人が修了、29人が知識。



期待される効果

○ 生活習慣の形成等、個人の状況に応じた支援を行うことで、一般就労に就くための基礎的な能力の習得が可能となる。

就労訓練事業(いわゆる中間的就労)の推進について

新事業の概要

- 社会福祉法人、NPO法人、営利企業等の自主事業として実施。対象者の状態等に応じた作業等の機会(清掃、 リサイクル、農作業等)の提供と併せ、個々人の就労支援プログラムに基づき、就労支援担当者による一般就労に 向けた支援を実施。
- 対象者としては、就労準備のための支援を受けても一般雇用への移行ができない者等を想定。
- 事業実施に際し、都道府県等が事業を認定する仕組みとする。
- 立上げ時の初期経費の助成、税制優遇等を検討。



期待される効果

○ 個人の状況に応じた支援を行うことで、一般就労や求職活動を行うための動機付け・準備が可能となる。

13

一時生活支援事業について

新事業の概要

○ 福祉事務所設置自治体は、住居のない生活困窮者であって、所得が一定水準以下の者に対して、省令で定める期間内 に限り、宿泊場所の供与や衣食の供与等を実施。

(参考)ホームレス緊急一時宿泊事業(シェルター事業)の概要

(※緊急雇用創出事業臨時特例基金[住まい対策拡充等支援事業分]による平成26年度までの事業)

- >目的 ホームレス等に対し、緊急一時的な宿泊場所を提供し健康状態の悪化を防止すること等によりその自立を支援する。
- > 支援の内容
 - ① 日常生活・健康面での支援
 - 緊急一時的な宿泊場所を提供し健康状態の悪化を防止する。
 - 保健所等との連携の下で健康診断等を必要に応じて実施。
 - ② 就労に向けた支援
 - 就労に関する情報の提供を行うとともに、就労意欲のある利用者に対して、緊急一時的な本事業から、更に、個々人の 状況に応じたきめ細やかな就労自立に向けた支援を行う「ホームレス自立支援センター」の利用を促す。
 - ③ その他
 - 福祉サービスの提供が必要な利用者に対して、福祉事務所等における支援が受けられるよう助言・指導を行う。
- ➤ 利用料
- > 利用期間 原則3か月以内
- ◆ 実施自治体数(H25.3月現在)
- 都道府県又は市町村が設置し、設置形態として、施設を設置する形態(施設型)と、旅館やアパートを借上げて設置する形態(惜上型) がある。
- 施設型・・・・全国で2自治体5施設(定員1,514人)○ 借上型・・・・全国で54自治体151施設(定員1,238人)

期待される効果

○ 自立相談支援事業と緊密に連携し、又は一体的に運用することにより、入居中に、課題の評価・ 分析(アセスメント)を実施し、就労支援につなげるなど、現行以上の効果的な支援を行う。

家計相談支援事業について

事業の概要

- 福祉事務所を設置する都道府県又は市町村は、家計相談支援事業を任意で実施。家計相談支援事業は、
- ① 家計収支等に関する課題の評価・分析(アセスメント)し、相談者の状況に応じた支援計画を作成
- ② 生活困窮者の家計の再生に向けたきめの細かい支援(公的制度の利用支援、家計表の作成等)
- ③ 法テラス等の関係機関へのつなぎ
- ④ 必要に応じて貸付のあっせん等を行う。
- 福祉事務所設置自治体が直接実施するほか、地域の社会資源の状況に応じて社会福祉協議会や消費生活協同組合等の 貸付機関等に委託が可能。

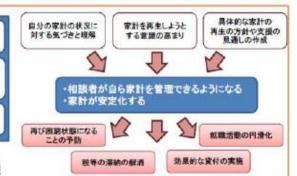
支援のイメージ

相談者自身が課題を見えるようになる支援
①家計の状況の「見える化」と根本的な課題の把握

ともに目標を設定し、家計の再生に向けて歩き出す支援 ②家計支援計画の作成と必要な支援の調整 (給付・減免等の利用、貸付のあっせん、債務整理へのつなぎ)

相談者が自ら家計管理を続けていくことの支援
③家計の状況のモニタリングと出納支援ツールの紹介等

一体的・総合的かつ継続的に実施し、相談者が自ら家計を 管理できるようになることを支え、早期の生活の再生を支援



期待される効果

○ 家計収支の改善、家計管理能力の向上等により、自立した生活の定着を支援。

177

21

子どもの学習支援等について

新事業の概要

- 統合補助金事業により、地域の実情に応じた柔軟な事業運営を行う。
- 例えば、生活困窮者の自立促進のための生活困窮家庭での養育相談や学び直しの機会の提供、学習支援といった「貧困の連鎖」の防止の取組や中間的就労事業の立ち上げ支援など育成支援等を行う。

支援のイメージ(現行の学習支援に関する取組例)

生活保護世帯等の子ども及びその保護者に対しては、日常的な生活習慣の獲得、子どもの進学、高校進学者の中退防止等に関する支援を総合的に行う事業が全国94自治体で実施(平成24年度)

埼玉県生活保護受給者チャレンジ支援事業

【対象】埼玉県内(政令市以外)の生活保護受給世帯の中学 生全昌及びその保護者等

【運営】一般社団法人に委託して学習支援等を実施。教員の Bなどの教育支援員が、定期的な家庭訪問を行い、子ども 及び親に対して進学の助言等を行う。

県内17カ所で週1~3回の学習支援室を開催し、学生ボラン ティアによるマンツーマンの学習支援も実施。

【実績】平成24年度は中学3年生の対象者782人のうち331 人が参加。うち321人(97%)が高校へ進学。

高知市高知チャレンジ塾における学習支援

【対象】福祉部局と教育委員会が連携し、生活保護受給 世帯の中学生を対象とした学習支援を実施。

【運営】市が雇用した就学促進員(教員免許資格者)が定期的に家庭訪問し、保護者へ事業参加への働きかけ等を行う。

民間団体に委託して、教員OB・大学生などの学習支援 員が週2回程度、市内5カ所で学習支援を実施。

【実績】平成24年度は生活保護受給世帯の生徒106人が参加。中学3年生43人のうち41人が高校へ進学。

期待される効果

- 地域の創意工夫により、実情に応じた生活困窮者支援が可能となる。
- 例えば、学習支援など効果的な事業に安定的に取り組むことができるようになる。

2 広島市における取組状況

(1)生活困窮者自立相談支援モデル事業 -

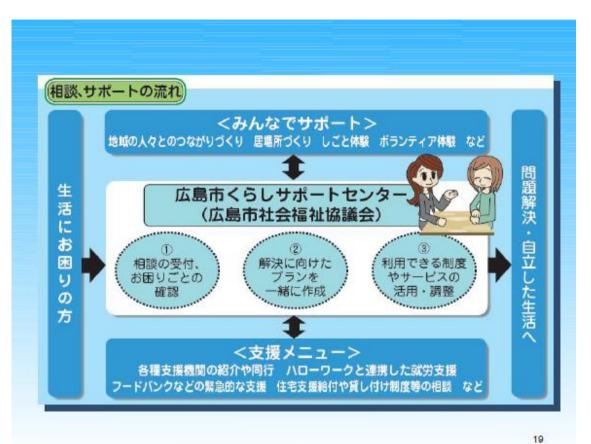
平成25年度以 降、全国254自 治体が取り組む

平成26年9月1日「広島市くらしサポートセンター」開設

【概要】

- (1) 実施方法 社会福祉法人 広島市社会福祉協議会への委託
- (2) 設置場所 広島市中区千田町一丁目9番43号 広島市社会福祉センター2階 広島市社会福祉協議会 福祉課内 ※8区社協の協力により、区社協事務所も面接場所として利用
- (3) 実施体制 主任相談支援員(常勤)1名、相談支援員(非常勤)2名、事務補助1名 ※主任相談支援員及び相談支援員は社会福祉士であり、相談業務の従事経験者





モデル事業の実施状況 新規相談の状況(平成26年9月~12月) 平成26年10月 平成26年11月 平成26年12月 슴計 平成26年9月 108 54 244 52 30 新規相談者の年代別内訳 新規相談の主訴別内訳 10代 0.8% 20代 5.3% 金銭管理 30代 7.4% その他 2.5% 生活費不 20.1% 40代 足·借金 不明 家族ひきこもり 12.3% 31.1% 36.5% 5.7%(14件) 50ft 将来の不安 9.8% 仕事をした 6.1% 65歳~ 60~64歳 住まい 6.1% L 15.29 21.3% 6.6% 家族その他 13.1% ※継続支援となるものは約半数。これまでに6人に対し支援プランを策定 20

② 相談事例 1 支援プラン策定)

世帯状況	・本人Aさん 30代男性。心臓に持病があり、一昨年手術を受けた。また、4年間は祖母の介護をしていた。内向的で、なかなか自分の思いをはっきりと言えない性格。 ・叔母 同居):60代。パニック障害あり。なかなか定職につかないAさんのことを心配している。
相談時の状況	Aさんは大学卒業後、いくつかの仕事を転々としたが、どれも長くは続かなかった。また、平成22年以降は、祖母の介護や自身の病気のため、ほとんど仕事はできなかった。 Aさんの体調が落ち着いてきたため、ハローワークで就職活動を開始したが、なかなか就職に結びつかず、世帯の家計が圧迫されてきたこともあったため、現状を心配した叔母より相談が入った。
対応状況	本人にも就労の意思があり、ハローワークと連携した就労支援事業である 生活保護受給者等就労自立促進事業」の利用につなげた。相談支援員がハローワークに同行し、支援担当者と面談実施。現在は、週 1回、区役所の就労支援窓口での定期面談に同行している。定期面談では、求人検索して面接につなげることはもちろん、履歴書の書き方や面接の指導にも対応してもらうことになっている。
今後の見通し等	就労支援窓口での定期面談には、担当相談支援員が毎回同席し、Aさんの状況確認をおこないつつ、本人が伝えにくいことがあれば助言、代弁するなどして、就労につなげていく。

② 相談事例 2 アセスメント中)

and the second second second	
世帯状況	・本人Bさん 30代男性。自称アスペルガー症候群、うつ病。外出はするが、今のところ就労意欲は薄い。 母:以前はBさんと同居していたが、大声で暴言を吐かれるなどして精神的に追い詰められ、転出した。 姉:40代。母とともに転出し、母と同居中。 ・兄:40代。県外在住。家族の間に立っている状態。
相談時の状況	Bさんは実家で母、姉と同居しながら仕事をしていたが、仕事上のストレス等から家族に不満をぶつけ、ことあるごとに衝突。うつ病などを理由に仕事を辞め、同居の家族は転出して単身生活になった。 現在は不就労のため社会との接点も少なく、家族が生活費を援助している。家族としても今後どうしていくべきか悩んでおり、できれば、なんとか仕事に就かせたいとして、兄と担当民生委員から相談が入った。
対応状況	Bさんと面識のある担当民生委員と訪問するなど、本人との関係づくりから着手した。最初に訪問した際には反応がなかったが、書き置きや民生委員の働きかけにより、直接やりとりをすることが可能になった。しかし、本人は家族への不信感が強く、具体的な支援よりも家族間の仲介をしている状態となる。当初想定していた医療へのつなぎや就労支援は、本人の求める支援とは合致せず、支援の同意が得られない。
今後の見通し等	途中から本人と連絡がとれなくなっているが、相談支援員から手紙を 出すなど、つながりを断たないように粘り強く接触を試みる。

2 1	日談事例	3 アセス	メント中)
			· /

世帯状況 本人Cさん:40代男性。統合失調症で障害年金あり。15年間ひきこもり状態で、外出は可能だが、社会とのつながりはない。母同居)軽度の認知症 姉同居):40代。※他に別居の姉が2人 Cさんは20代の頃、職場の上司とのトラブルをきっかけに仕事をやめて実家に戻り、以来15年間ひきこもり状態。その間、統合失調症の診断を受け、6年前には入院治療もした。本人に病識がなく、薬は家族がお茶に混ぜるなどして飲ませているが、状態に波があり、母への暴言は悪化傾向にあるため、母はCさんへの恐怖心を覚えている。現在は実家で母、姉と同居中。認知症の母のために介護サービスを入れたい。また、長年ひきこもりであるCさんの状況をなんとかしたいとして、姉から相談があった。 家族には、就労を目指す前にコミュニケーションの回復や社会とのつながりを取り戻すことから始めることを助言。また、今後の対応方針を検討した。との表述は思いてきたがは、場合は表述と思いてきたがある。
て実家に戻り、以来15年間ひきこもり状態。その間、統合失調症の診断を受け、6年前には入院治療もした。本人に病識がなく、薬は家族がお茶に混ぜるなどして飲ませているが、状態に波があり、母への暴言は悪化傾向にあるため、母はCさんへの恐怖心を覚えている。現在は実家で母、姉と同居中。認知症の母のために介護サービスを入れたい。また、長年ひきこもりであるCさんの状況をなんとかしたいとして、姉から相談があった。 対応状況 家族には、就労を目指す前にコミュニケーションの回復や社会とのつながりを取り戻すことから始めることを助言。また、今後の対応方針を検討するため、主治医とPSW、ひきこもり相談支援センター、くらしサ
ながりを取り戻すことから始めることを助言。また、今後の対応方針を 検討するため、主治医とPSW、ひきこもり相談支援センター、くらしサ
ポートセンターの相談支援員、家族で協議の場を持った。
今後の見通し等 当面、くらしサポートセンターの相談支援員がひきこもり相談支援センターの相談員と同行して訪問し、本人との関係づくりから始める予定。C さん自身が困っていることを糸口に、社会とのつながりを取り戻す支援につなげたい。

支援実施上の課題

- 支援実施に関する本人同意
- ・「日常生活自立」からの段階的な支援提供
- ・多様な「出口」の準備
- ・関係機関との連携

(2) 平成27年度の事業展開の方向性①

■自立相談支援事業の体制強化

相談支援員の増員や相談窓口の複数設置等により、実施体制を強化。

■住居確保給付金への移行

現行の住宅支援給付事業から移行。

■支援メニューの充実

任意事業への取組や社会資源の開発などにより支援メニューを充実 (例) 就労支援、シェルター、家計相談、子どもの学習支援など

25

(2)平成27年度の事業展開の方向性 ②

■就労支援の充実

生活困窮者の状態に応じた段階的な就労支援を実施

	生活困窮者の状態		支援内容
I	生活リズムの改善、基本的な 生活習慣の形成が必要	日常生活自立支援 【就劳準備支援事業】	生活習慣改善、定期面談、カウンセリングなど
着実に	コミュニケーション能力の習得 が必要	社会的自立支援 【就労準備支援事業】	グループワーク、ボランティア活動 、就労体験など
にステッ	就職活動に向けた知識・技法 の習得が必要	就労自立支援 【就劳华值支援事業】	面接訓練、パソコン研修など
ステップアップ	一般就労への移行までに柔 軟な働き方による訓練が必要	中間的就労の実施 【就労訓練事業】	軽作業の体験や短時間勤務などに よる就労の訓練
	就労に向けた準備がある程度 整っている	一般就労	自立相談支援機関による就労支援 ハローワークと連携した就労支援

(2)平成27年度の事業展開の方向性 ③

■子どもの学習支援

現在実施している生活保護受給世帯の学習支援事業の対象を、生活困窮 世帯の子どもに拡大することを検討中

■一時生活支援事業(シェルター)

現在NPO法人等が市内で運営しているシェルターについて、市の事業 として実施するよう検討中

■家計相談支援事業

家計収支に課題を抱えている人に対しては、家計管理や金融に関わる知識・技術 を有する専門の相談員が支援するよう検討中

■地域の関係機関・団体との連携、ネットワークづくり

くらしサポートセンター、福祉事務所、ハローワークの緊密な連携を中心に、公的機関やNPOなどの支援団体とも幅広いネットワークを構築

27

ご清聴ありがとうございました。

広島ひきこもり 相談支援センター西部

NPO法人 青少年交流・自立・支 援センターCROSS 齋藤圭子

ひきこもりの状態、環境別

ご紹介するケースは典型的なもので個人を特定しての説明ではありません。 A 親と同居のケース

B一人暮らしのケース

- 親が勧めて一人暮らしにしているケース。センターで勧める場合もあります。
 - ② 大学不登校のケース
 - ③ 自立して一人暮らしをしていてひきこもってしまうケース。

ひきこもりの状態、タイプ別

ご紹介するケースは典型的なもので個人を特定しての説明ではありません。

1 精神病を原因としたひきこもり。

服薬が有効であったケース

2 発達障害や人格障害を原因としたひきこもり。2次障害として不安障害や抑うつ状態がおこる場合も多い。

本人の自己理解があれば、福祉枠を使うことが多い。

- ①発達障害者支援センターとの連 携で落ち着いたケース
 - ②本人の生き方だと親が受け入れたケース

3 様々な挫折経験から自信を失ってひきこも りとなったケース(精神病は1次的にはなく、 2次的な不安障害や抑うつ状態があることが 多い。

根本には多少、人格障害があることが多い。 ひきこもり相談支援センター西部では3のタイプを主な支援対象と考えている。

保護者の継続相談が有効な事が多い。

- 1環境調整でよくなったケース
 - ②フリースペースを利用したケース

広島ひきこもり相談支援センター (中部・北部センター) の相談状況

相談員 山田晃靖 (H27.02.07)

もくじ

心理面接

アウトリーチ

外部支援

生活困窮者自立支援法に関連する取組み

心理療法

本人が来所できる場合

- •20代が多い
- ・親とのコミュニーションが比較的良好
- ·近隣地域(東広島·呉·安芸郡·広島市)
- •社交不安傾向
- 精神科受診歴はない場合が多い

社交不安への取組





不安階層の二極化



面接の継続

交通手段の配慮

時間の配慮(面接回数・面接時間)

金銭的な配慮

相談者の検討

ウォーキング



グループワーク

新聞ワーク

侵入性が低い 発音トレーニング 記事の選択 事前のシナリオ作成が困難 社会的接点 自己主張

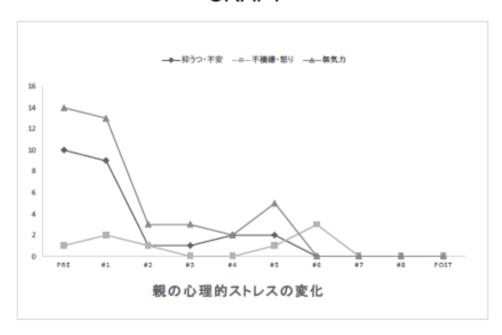
心身の関係性に焦点

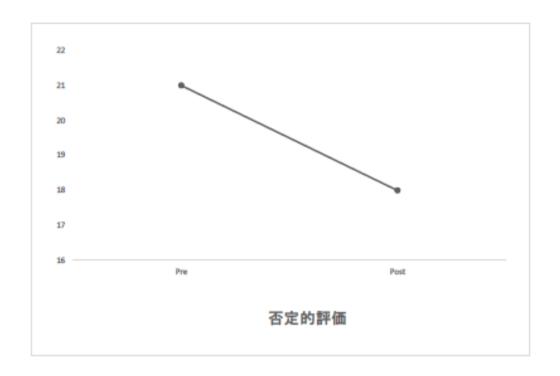
ソマティック・エクスペリエンス(S・E) (相談室内での身体的体験)

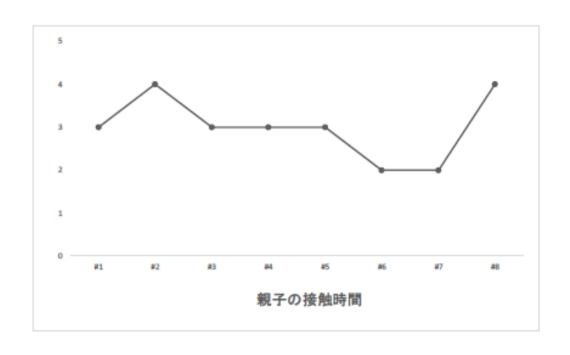
瞑想(呼吸を含めて)

天井の目・自己実況中継

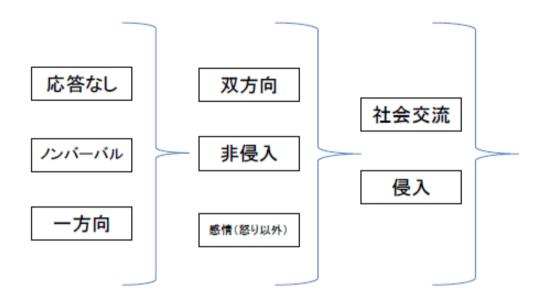
CRAFT







コミュニケーションの質



アウトリーチ

- 訪問面接(本人もしくは家族)
- ・ 家族会の参加
- 保健所等のケースカンファレンス

外部支援







生活困窮者自立支援法に関連する取組み

- 事例
- 今後の展開 (就労・住居・親の高齢化への対応)

中国ブロック(鳥取) における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015/2/8 (日) 鳥取らくだ会 (2月例会)
実施(連携)団体名	KHJ 鳥取らくだ会 (全国引きこもり KHJ 親の会鳥取支部)
会場	鳥取市福祉文化会館3階第三会議室(和室)
参加人数	15 名 (家族、当事者)
広報	鳥取らくだ会便り30部作成及び配布。
/公報	配布先:会員(支援者)
	【前半:講演会13時40分から15時00分 経験者の体験発表他】
	①講師:渡辺聖史(NPO 法人「結」「遊び村」「冒険広場ささやま」
	リーダー)活動内容:活動し始めた頃、現在の心境を語る。
	②講師:森下徹 (グローバル・シップスこうべ 代表)
	活動報告:フューチャーセッション等、多くの人とつながる事の大切さを
	訴えた。
	③講師:横山泰三(わかもの国際支援協会 理事)
	活動報告:何故、当事者同士で立ち上げた団体活動をしているのかを
	説明した。
	【講演内容】
	①講師:渡辺聖史(「結」「遊び村」リーダー)NPO 法人結と「遊び村」
	の活動内容の説明があった。「引きこもっていた頃は、世界が灰色に見え
	存在を消したかった。その時、親に生きているだけでいいと言われて嬉し
	かった。居場所に参加し始めたころ人との接し方が分からなかった。心が
実施内容	喜ぶ事をしようと言う居場所の方針が良かった。今は 自分より若い人達
(次ページへ続く)	に一体何が出来るんだろうと考えるようになった。活動が自分の居場所に
	なっている」と話された。
	②講師:森下徹(NPO法人グローバル・シップス こうべ 代表)
	訪問支援、在宅で出来る仕事「ホームページの作成・テープ起こし」、フ
	ューチャーセッション、グローバルシップスこうべ、ひきこもり大学等の
	説明をされた。「良い所は認めやすいが、一見悪いように見えるところも
	含めたその人なりの理由があるので理解することが大切。引きこもりとは
	何か親も支援者も一緒に考えてほしい。失敗からも学べるし、自分では
	やれないと思っていたことが出来るようになる事が分かったきた」と
	話された。
	③講師:横山泰三(わかもの国際支援協会 理事)
	「オンラインゲーム上で知り合いになり、仲間同士で団体を立ち上げた。
	何回も就職活動をしたが断られ続けたので、会社勤めは無理だと思った。
	自分達で起業して皆で支えあい、協力して仕事を作っていくことが本質だ
	と思った。支援機関が好きでなかったし、訪問されるのが嫌だった、自分

	の意思を踏みにじられるのは嫌で、自分の人生は自分で決定したかった。 就職しても幸せだとは限らない。長時間労働をして鬱になったり、リスト ラされる事もある。皆が無い物ねだりをしているのではないかと思う。 対人関係が苦手なので自分で仕事を作って、家で出来る自営業みたいな 働き方の合う人が人口の中に何割かあるのではないかと思う。ホーム ページを作る仕事を受注して、皆で仕事を分け合って、後で合わせる事を している。ビデオレター(見た人が自分だけでは無いなあと思ってもら える)を作ろうと考えている」と経験を話された。
	Hyptoda with the state of the s
	【後半:グループ交流(15時10分~16時30分)】 3~4人のグループに分かれて講演者が移動した。25分位の交流を3回
	行った。自分達の悩みを出し合い講演者の意見を参考にした。
決定事項	・次回の月例会は3月8日(日)午後1時30分~、会場同じ所。
	・実体験をもとにお話しが聴けた。娘と合わせて聞くことが出来た。 ・良い所は認めやすいが、一見悪く見えるところも、そのままで認めてみ
マンルートルと見され	So the transfer of the barton limber to be a second
アンケートから見えた	・一緒に考えてみる。失敗する事の大切さを考えてみる。
良かったこと	・自分の子供には親の見方をしてしまいがちだが、第三者の当事者の体験
	談、思いを聞くことで、多くの判断材料が増えて、子供の気持ちに寄り
	添える方向に対応方法が少しづつ変わっていけるのではないかと感じ
	られた。
	始まったばかりの会で、手さぐり状態で活動している。親の要望(外へ 出て働くこと)と、当事者の気持をどうつなげていくのかが問われている。
	山 (
学習会・アンケート	・生活をする上での悩みはないが、家から外に出ようとしない。どうした
から見えた課題など	ら外に出て、働くことが出来るようになるか…
W D JUTCTERRASTS C	・仕事に就かなくても良いから、息子と笑って食事をしたい。
	・日常生活は本人のあるがままを受け入れる日々を通していますが、
	自分の意中を話してくれない、時期を待ち見守るようにしている。
	内容は様々だと思われるが、この時代に起こっている問題でもあると思わ
今後の取り組み	れるので、大勢の方と出会い、語り合いと思っている。

鳥取らくだ会便り

(KHJ鳥取支部 鳥取らくだ会)

正月に雪が少し積もりましたが、今年は1月にしては雪が少なくて、過ごしやすいと安心していました。その代わりにインフルエンザが流行っているようです、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて次回の予定は、第一回月例会(講師:池田氏・池上氏)と2回月例会(講師:稲垣 氏)に参加されていて、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、兵庫県でひきこもり経 験者のNPO法人「グローバル・シップスこうべ」代表をされている森下さんと、経験者 の方々をお招きして、ひきこもり経験者シンポジウムを開催します。

ご家族や当事者、関心のある方々のご参加をお待ちしています。

~ ~ ~ 鳥取「らくだ会」 月例会 ~ ~ ~

テーマ:「ひきこもりの孤立を防ぐために」

~ひきこもりから、いつ、誰と、どのようにつながっていったか~

講 師 進行:森下 徹 (NPO法人 グローバル・シップス こうべ 代表)

出演: ひきこもり経験者

・渡辺聖史「NPO 法人(結)(遊び村)冒険広場ささやま リーダー」

・森下徹「グローバル・シップスこうべ 代表」

横山泰三「わかもの国際支援協会 理事」

日 時 2015年 2月 8日(日)13:30~16:30

13:30 開会の辞

13:40 「ひきこもり経験者シンポジウム」

14:50 休憩10分

15:00 グループ交流会

16:30 閉会

16:30 (運営会:ご参加をお願いします)

(会場は13:00~17:00まで)

場所 福祉文化会館 3階 第3会議室(和室)

(鳥取県鳥取市西町二丁目311番地)

参加費 500円 (当事者は無料) ※内容が変更になる場合があります

【主催】NPO法人全国ひきこもりKHJ親の会(家族会連合会)

本部事務局E-mail: info@khj-h.com 〒170-0002 東京都豊島区巣鴨 3-4-4

Tel: 03-5944-5250 FAX: 03-5944-5290

【共催】KHJ鳥取支部鳥取らくだ会・鳥取支部長 田中 隆雄 Tel090-4653-2554

---独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業---

ひきこもりの孤立を防ぐために

~ひきこもりから、 いつ、 誰と、 どのようにつながっていったか~

NPO法人「結」・遊び村 渡辺 聖史

不登校・ひきこもりの経験

- 中学1年の春、不登校
- 高校進学するも再び不登校→退学・ひきこもり
- その後、通信制高校を卒業、数年間ひきごもり
- ・19才の頃、篠山の居場所「交流館しゃべり場」に通うように※この頃、内職・新聞配達
- 2010年~ 遊び村の活動
- ・2014年~ 篠山市・丹波ブランチの相談員

※2012年に結婚、2015年1月10日 息子誕生!

遊び村とは

- 約1500坪の広さの山あいの土地
- ・すべて手作りの遊具が50種類くらいある遊び場
- ・小学生くらいの子供達が遊びにくる
- ・企画・管理・運営などを不登校・ひきこもり経験者で
- お客さんとのふれあいなど、不登校・ひきこもり 当事者の体験活動の場
- 居場所



中1の春から不登校

- ・原因はよく分からない。今になれば中学校への不安感が強かった気がする
- 別室登校や適応教室に通い卒業
- ・高校で再び不登校、ひきこもり、通信制高校へ

その頃考えていたこと

- 「世界が灰色に見える」
- ・「何のために生きているのか...」
- 「死にたい」というより「消えてしまいたい」感じ
 - →現実逃避・・・ゲーム、テレビ、マンガ、 ネットなど

親の言葉

<嬉しかったこと>

→「生きていてくれるだけでいい」

〈辛かったこと〉

- →「専門家でないから分からない」
- →これからの為に高卒資格がいかに大事か

ひきこもっていた頃

どんなことを考えていたか

- 「自分はひきこもりじゃない」
- 先が見えない、親が死んだ後どうするのか、考え出すと、ただ重苦しい気持ちに。お腹も痛くなってくる
 - →<u>なるべく考えない、現実逃避、ただその日を暮ら</u> す

(居場所について)

- 「どうせ根暗な連中が傷のなめ合いをしてるんだろう」
- 見下すような態度
- でも関心は持っていた

居場所に行ったきっかけ

- 親から居場所の情報
 - →まず親が居場所の代表とつながっていた
- 自分が好きな、海のイベントに引っ掛かった
- 20才という節目の年齢のあせり、動き出そうとしていた時期
- 本当は理解し合える仲間を求めていた
- 語り合いたい、でもなかなか自分が出せない
- 「人間観察をしに来てみないか」(by 井上)
 - →19才の時、初めて居場所のイベントに参加

初めの頃は・・・

- 話しかけられない、お茶も自分でとれない、ただ圧倒されていた
- 「ありがとう」が出てこない
- 話し方、接し方、距離感をどう取ればいいか分からない
- 居場所に慣れるまでに、かなりの期間

居場所の方針…"心が喜ぶことをしよう"

- いろいろ工夫を凝らした楽しいイベント →参加しているうちに元気に
- そのうち、イベントがない時でも集まりだした 3日に1回ペース、ただひたすらトランプ
- 講演会などで体験発表をするように
- 体験によって変わっていった

何が変わったか

一人で生きていこうとしていた自分から 人と関わろうとする自分へ

- →1人では味わえない楽しさ
- →落ち込んだ時に助けられた経験

いい加減さ、失敗ができるように

→井上さんとの出会い、人からの影響・吸 収

遊び村に加わったのは

- 特に何か決心したわけではない
- たまたま、居場所が変わろうとしていた時期
- 何となく、流れのままに、居場所の仲間たちと作業 を始める
- → <u>偶然、出会い。一人でひきこもっていたのではそ</u> のチャンスをつかめなかった

遊び村で思うこと

- ・課題に気付く場
 - →自分を知る、何がネックになっているか
- 苦手にチャレンジする場
 - →やってみれば案外できる (もの作り、子供の相手など)
- 経験の積み重ね
 - →他のことへの自信にもつながってい く

~現在

- 2011年~ 遊び村オープン→スタッフのリーダーとして活動
- 2014年~篠山市ひきこもり支援相談員兵庫ひきこもり相談支援センター丹波ブランチ相談員
 - →経験者の立場から(まだまだ見習い)

今の活動の中で思うこと

- 今もひきこもる心を持った当事者
- 人間関係は相変わらず苦手
- ・ 今の立ち位置の中途半端さ
- そんな中で自分に出来ることは何か
- 支援の輪を次の世代に
- 活動自体が居場所のようなもの

KHJ鳥取支部 鳥取らくだ会 月例会 「ひきこもりの孤立を防ぐために」

~ひきこもりから、いつ、誰と、どのようにつながっていったか~



2015年2月8日(日) 鳥取市福祉文化会館

NPO法人 グローバル・シップス こうべ 代表 森下 徹

自己紹介

- * 兵庫県姫路市出身の47歳、明石市在住
- * 不登校・ひきこもり経験者・当事者 高校卒業後の2年間と大学卒業後の約14年間、合計約16年間
- * 行っていること

NPO法人 グローバル・シップス こうべ 代表 フリースクール(進路・学習担当)や、支援機関(居場所担当) 訪問(支援)・アウトリーチ

体験発表(出演や企画)

パソコン修理や在宅ワーク(ホームページ・チラシ制作、テープ起こし)

文章書き

池上正樹氏ダイアモンドオンライン「引きこもり」するオトナたちにレポート Facebook





ひきこもり体験

- * 小さい頃 おとなしい子どもで、友達となじめない
- * ひきこもるきっかけ 高校2年、祖母の死・課題・病気で不登校に。卒業してひきこもる(2年間) 大学3年、アルバイトのつまずきで不登校に。卒業後にひきこもる(14年間)
- * 当時の生活 家族の手伝い、買い物、ポランティア 旅行、在宅ワーク、ポランティア
- * 困っていたこと 強迫行為と対人恐怖
- * 出るきっかけ 親元を離れたい 母の認知症・生活の破たん(人間関係・経済的)・夢の実現
- * 姫路でいくつかの支援機関と関わるうちに、神戸の支援機関へ通うように。 体験発表、ホームページ制作、訪問、NPO立ち上げ

3

法人活動

- * 特定非営利活動法人 グローバル・シップス こうべ
- * 当事者主体のNPO法人、会員10名、2006年設立、2009年法人化



Service of the control of the contro

* 活動 電話相談の事務局



ホームページで情報発信 イベント・支援機関



http://www.global-ships.net/

シンポジウム ライブトーク(2011年と2012年・神戸)



フューチャーセンターセッション (2012年度・神戸、東京、京都、大阪)



ひきこもり大学 (2013年9月福岡)





5

ひきこもりについて

* 一般の方へ

社会が作り出している。悪い事?治療や訓練して、働ければ解決? 自立って?ひきこもりって?当事者って?

- * 支援者の方へ
 - 一方的な『支援』より、お互いの『支えあい』『助けてもらう』 役立ちたい。必要とされたい。『自分のため』より『人のため』
- * ご家族の方へ

家族が動く・つながる

子どもの味方・理解者に。存在(いい)所も悪い所も)を認める。 家族の関係やご自身の生き方を見つめなおす。 家族で抱え込まない、助けを求める、第3者を入れる。

* 本人・当事者の方へ

貴重な体験で、あなた自身。失敗をおそれず、試行錯誤しよう。 当事者からも声を出そう!嫌じゃないことをやってみよう!

おわり



ありがとうございました。



7

ひきこもり大学とは?

ひきこもり大学ホームページより http://hikiuniv.net/

- * 発案者:とらさん
- * 目的: ひきこもっている本人が先生になって、ひきこもっていた経験や知識・知恵を頼や家族、関心のある一般の人たちに伝えることによって、周囲の誤解を解き、家族関係を改善していくこと。
- * 特徴: 当事者が先生になり、ネガティブと思われていた「空白の履歴」の経験や知識、知恵 を価値に変えることにあります。そして、それらの価値を学ぶ生徒は基本的に、親や家族、 一般の人だちになりますが、同じ状況にある人の話を聞きたいという当事者も数多く参加し ています。
- * 学科: 先生は、授業で話したい、伝えたいテーマに沿って、自分で自由にネーミングできます。
- * 生徒は授業の後、もし価値があると思えたら、その分の金額を授業料として寄付金箱に募金をして頂きます。先生を務める当事者の交通費などの報酬に宛ててもらおうというのが趣旨ですので、募金して頂くとしても1コインで十分です。

2013年の授業

2013年

- 7月 東京「ひきこもり大学 準備会」
- 8月 東京「ひきこもり大学 オープンキャンパス」
- 9月 東京「生きていたいと思うようになりたい学科」 東京「生きていたいと思うようになりたい学科」 福岡「生きていたいと思うようになりたい学科 (デモンストレーション)」
- 10月 東京「弱さでつながる学科」 東京「生きていたいと思うようになりたい学科」
- 11月 **大阪「みんなちがって、みんないい学科」** 東京「ニート学部」

9

2014年の授業

2014年

- 1月 大阪「ひきこもり大学 in 大阪 でんがなーまんがなー」
- 3月 兵庫「ひきこもり大学 in 神戸 ひきこもり経済学」
- 5月 東京「ひきこもり大学 in 東京キャンパス こもっていいとも?!」
- 6月 東京「生きていたいと思うようになりたい学科」
- 11月 名古屋「メンタルヘルス学部(デモンストレーション)」 「ひきこもり大学 in 名古屋 普通学科」 札幌「道産こもり179大学」
- 12月15日 東京「自己表現学部 軽音楽科 クリスマスライブ」
 - 23日 大阪「ひきこもり大学 in 大阪 ひきこもり当事者学会」
 - 1月31日 大阪「ひきこもり当事者学研究会第2回」
 - 3月29日 高知 ミニひきこもり大学

私なりに

講演会・シンポジウム

支援者や家族・行政が企画・主催

支援者・識者が講師で、家族や支援者が参加(当事者参加は少なめ)

謝礼は、主催者から講師へ

質疑応答など (参加者の交流は少ない)



ひきこもり大学

企画・先生は当事者・経験者 家族や支援者が生徒・参加者 謝礼(寄付)は、お客から先生(当事者・経験者)へカンパ 対話や交流、懇親会など そこが居場所、出会いや交流の場に

主役は当事者で、みんなで作る

11

まとめ

従来

支援者主体の支援

目的が就労に偏る

履歴書に空白がある者には抵抗感

治療や教育、訓練など変わることを強制される

自己肯定感が低い者には、さらに自己肯定感が下がる

参加する当事者は少ない

結果的に、長期化、本人や家族の高年齢化

提案

当事者主体の自発的な活動を支援

自助会、セルフヘルプグループ活動

起業への支援

NPO法人立ち上げ、在宅ワーク

ピアサポーター

当事者・経験者がその体験や発想・特質を生かせる仕事に

中国ブロック(山口)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015/3/1 (日) 牟田武生先生を迎え「ひきこもり学習会」
実施(連携)団体名	KHJ 山口県「きらら会」 (全国引きこもり KHJ 親の会山口支部)
会場	山口県教育会館 (5階 第一研修室)
参加人数	69 名(家族、当事者、社協職員、保健師、民生委員、支援者など)
	チラシ約 300 枚作成
	配布先:山口県精神保健センター、長門市役所福祉課、宇部市役所
広報	福祉課、県下の各保険所の保健師、山口市社会福祉協議会関係の支援機関、
	きらら会の会員 (家族、当事者)
	教育研究所 所長・牟田武生氏を講師に迎え、メインテーマ「ひきこもり当
	事者とのコミュニケーションの取り方」を中心に講演が行われた。
	*講演(13:00~15:10)
	まず、牟田先生が不登校・ひきこもり当事者と関わり始めたきっかけの
	話しをされた。先生が大学院で心理学を勉強されていた 40 年前、奥さんの
	仕事の関係で不登校(当時はその言葉はなかった)と出会う。心理学の本
	の中にどこにも書かれていない。なぜ学校に行かないのか興味を持たれ勉
	強を始めたという。ひきこもり当事者とのコミュニケーションの取り方で
	大切なことは、発想のチェンジが必要だと言われた。普通の人は話しをす
	る時には主観と客観をうまく使いわけながら相手のことを考えてコミュニ
	ケーションを取ろうとするが、ひきこもり当事者は客観的に話しが出来
	ず、主観だけで話しをする。相手のことを考えることが出来ない。このこ
実施内容	とをしっかり認識し、コミュニケーションを取るよう気を付ける必要があ
夫 爬內谷	ると話された。
	ひきこもり当事者は体力が厚生労働省の調査で20歳で70歳の体力年齢
	しかないとのこと。若者当事者と年寄りの方とコミュニケーションを取る
	ことで認知のズレが治るそうだ。高齢者と一緒に行動して治す方法もある
	と話された。
	*質疑応答(15:20~16:00)
	Q. 家族の方「40 歳の息子(当時者)が高額な金額を要求するが、どのよう
	な気持ちで要求するのかが分からない」
	A. 年齢が35歳以上の者は自虐的な考えで、自分がお金を使うことで今の精
	神状態を満たす。将来がとても不安な状況。35歳以下の場合は他罰的な状
	態で、親に自分の方を見てほしい、意識してほしいのでお金を要求する。
	とのことだった。 その他、「なぜ日本にひきこもりが多いのか?」等の
	質問があった。

開催の模様 (写真)	全田先生講演中
実施成果 決定事項	山口県精神保健センター、県下の各保険所の保健師、市町の保健師、山口 市社会福祉協議会、認定 NPO 法人支えてネットワーク「和の家」、各所の 支援者、ひきこもり当事者および家族の方から多く出席を得た
開催に関連する 新聞記事	2月28日山口新聞に告知掲載。2月28日読売新聞に告知掲載。
紹介記事の反響	「ひきこもり学習会」の問い合わせが3件あった。
アンケートから見え た良かったこと	・息子には現在の不安はない事を再認識でき、全く違った事で引っ張って みることも考えられるという事を教えてもらった。 ・ひきこもり当事者の気持ちを踏まえた支援の在り方について参考になっ た。 ・心理的な話し、対応の仕方、その他大変勉強になりました。
学習会・アンケートから見えた課題など	当事者とのコミュニケーションの取り方が分からない方が多く、当事者 家族、支援者の多くの方が悩まれていると改めて実感した。当事者 (子供) に対する親の考え方で夫婦間の相違がけっこうあると感じた。一人で悩みを抱えている人が多く、その方々が家族会に参加して悩みを少しでも解消してほしい。 <下記、アンケートより抜粋> ・私が高齢の為将来のことが心配 (病気・死亡など)。・コミュニケーションの取り方が分からない、話してくれない・父親母親で子供に対する意見、対応が違う事でトラブルがある。 <支援者の立場から> ・価値観の違いを、こちらは外に出る事が良いだろうと思って支援しても家族や本人は今のままで十分幸せですと言われる。こちらの価値観の押しつけではと悩む。・家族関係は回復しているが次のステップへ向けての一歩が踏み出せない。・本人への支援 (出て行く場所がない、あっても本人が行かない)・長期にひきこもっている人への支援が難しい。10年以上ひきこもり(本人40歳以上~50歳以上)、家族が高齢となり、介護分野との連携が必要になってきている。まだまだ意識が乏しいと思う。・30~40代のひきこもり当事者がふえつつあり、どう関わっていくか(家族も将来への不安を抱えているのに具体的な策がない。)

今後の取り組み

・今後の改善として、一人で悩み孤立している家族が、ひきこもり家族会である「きらら会」につながってもらうために、広報活動の方法等を考え、 力を入れる必要がある。

- ・ひきこもり家族教室、家族の集いを主催。家族会の支援。
- ・本人の居場所、行き場所となりえる資源についての情報収集
- ・家族教室・アウトリーチを行なっている (保健所です)
- ・山口市でひきこもりサポーター派遣事業が始まることになりました。

牟田武牛先牛を迎え

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

ひきこもり無料学習会学学会会学

~ひきこもり当事者とのコミュニケーションの取り方~

日時 平成 27 年 **3** 月 **1** 日 (日) 13:00~16:00 (受付 12:00~)

会場 山口県教育会館 5階第一研修室 山口県山口市大手町 2-18 TEL: 083-922-0383

対象 ひきこもり当事者・家族、支援者、関心のある方

む た たけお



講師 牟田 武生 先生

1947年宮崎県生まれ。教育コンサルタント NPO 法人教育研究所 所長。 40年間にわたり、不登校・ひきこもりの臨床研究、相談、サポートなど を続けている。厚生労働省の委嘱を受け、2006年から「若者自立塾」 を富山県黒部市宇奈月温泉で主宰。事業仕分けにより2010年3月に廃 止されたのちも、「若者自立塾」の主宰者として若者の自立支援を継続し ている。元NHKラジオ「子どもと教育電話相談」相談員。文部科学省元 「生徒指導等関連事業審査委員会」委員。著書は、「ひきこもり/不登校 の処方箋」「ニート・ひきこもりへの対応」(教育出版)など。

- ■主催 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)
- ■共催 KHJ 山口県「きらら会」
- ■後援 山口県精神保健福祉センター、認定 NPO 法人支えてねットワーク「和の家」

問い合わせ KHJ 山口県「きらら会」事務局 TEL:0837-22-5495 上田

全国 KHJ 親の会山口県「きららの会」講演

2015. 3. 1

「ひきこもり当事者とのコミュニケーションの取り方」

NPO 法人 教育研究所 所長 牟田武生

1 旧人類と新人類の価値観の違い

旧人類…バブル経済崩壊の前の世代(親世代) 新人類…崩壊後の世代(メイン・ストリユームを失った世代・子世代)

旧(親)が新(子)に対して、何事も思うように進めないことに対するもどかしさ、苛立ち、ふがいなさを社会が変わったと思いつつも、うちの子だけは違うだろう。

非正規社員になるな、正規社員になったら、石にかじりついても我慢しろ!等という 当事者への思いや期待が、新を襲う。

旧の考えの根底には家族企業体時代の古き良き時代の終身雇用の考え方がある。(アメリカの経済 学者ハーマン・カーンの 21 世紀は日本の時代)

それに対し、新は不確定な不確実な時代、例え、大学を卒業しても先が見えない、人間関係力も 含め、多くの能力を試される競争が激化した会社や組織体制からくる厳しい労働環境と働く意味 や価値を見出せない、(労働観の熟成が出来ない学校教育) さらにはどう生きるかも見えない、問 題解決能力が育たず、学歴偏重からくる詰込み教育を受けて来て自分でどう生きていけばいいの かその解決方法が見つからず不安な心理・精神状態の継続。

その結果、旧新の、お互いの「善意」「思い」「認識」が大きくズレが起きる。

そして、旧は自分の時代の価値観に縛られる。新は、自分の未来や社会が見えず、先に進めない。 その原因は、社会環境の変化の受け止め方の違いである。

同時に、教育・就労支援の哲学は以前の価値観のままであることも原因している。

さらには、長期化すると起きる「ひきこもりの二次症状」からくる様々な精神的な状態と感情が 重なって、より理解が難しくなる。

旧は病気と健康の二極の捉え方が中心、新は不安や焦り、緊張から心身相関から身体症状の表れ、 それに対し、多くの医師は対処療法としての投薬によるさらなる混乱と混沌を体験、親の言うことを聞いていたらロクなことにならない(陰性感情と親との大きな断裂(信頼感の喪失)

そんな時、当事者の苦しさを傾聴し、受け止めることの大切さと、当事者が話す関係性をどう作るか。また、その意味は…。

2 相手が間違っているとか、おかしいのではないかとの思いは自然と…

比較したり、誤りを探そうとする、そのことによってさらに関係性の悪化が起きる。

「自分は正しい、世の中の先輩であり、世の中の事を知っている、お前は間違っている、考え方を直さないといけない」と、自分自身の考え方が旧態依然で、もう、通用しないことすら分かっていないで、当事者に迫ることが多い。コミュニケーション以前の問題である。それを打破するためには、先に思考や判断があるのではなく、

情報収集→認識→理解→感情の共有化を図る必要がある。

3 そのためには、そこに今、存在する、実存することを認める。

その真摯な態度がないと、会話が成り立たない。

特に、親によって責められると、自身の苦しさ、何もかも上手くいかないことの原因を、親に向け、自分が少しでも楽になろうと他罰的な行動をとり、さらに、親の意見に、今まで従っていたのに、何一つ上手く行かなかった。お前の責任だ!と親を責める。

あるいは、反対に、このような状況になったのは、すべて、自分が悪いと自罰的になり、自死 を言い始める者も多い。

35 歳以下は他罰的な人が多い。それ以上の人は自罰的な人が多い。

自罰的な人は、自分自身の世界には入り込み主観的で観念的世界にいる。

さらに、今度、親の話を聞いて実行しても、上手くいかないどころか、完全に自分は、落ち込み、 生きていられなくなるかもしれないという、先取り不安から、誰とも話したくない。だから、親 となんて絶対もう会話したくないとなる。

でも、親しか自分を救ってくれる人はいないとも思う。どうすれば、良いのかと思っているうちに時間だけが、過ぎていく。優柔不断な世界にいるこれをどう突破するか。

柔軟策と強行策がある。

- ・柔軟策は、無言でも、相手が否定しない、自分のことを認めてくれると、本人が感ずることが カギとなる。悪意ではなく善意で向き合ってくれると思えば、自ずと、強気や弱気を出す筈で ある。
- ・強行策は、事前に資産等の資料を集め、このままでは、家も土地も売れないと家族は解体しな ければならない等、具体的に迫る必要がある。ただし、精神疾患がある場合はしてはならない。

4 そして、何ができるのか、何がしたいのか、どんな能力が本当はできるのかを一緒に考える、態度で示す必要がある。

それには既存の枠にとらわれずに考える必要性がある。親の場合、成功している人ほど、過去の 価値観の固定観念に囚われていることが多いので注意を必要とする。

しかし、本人にあるのは、固定観念ではなく、自分に対する自信のなさと、不安からくる強いこだわりであり、プライドが支配し、悪循環し、ネガティヴな感情の陰性感情が強固になってしまっていることが多い。無理のないやれるところからやれるようにする配慮が大切である。

親自身の勉強やカウンセリング→ピア・サポーターの訪問支援→居場所につなげる→中間就労→ 就労体験→職種の見直し→職業的自立に向けて、自分自身を失わず、自分らしく生きるための就 労

5 それらの感情にひとつずつ応えていくこと、

あるいは気持ちを共有することによって、共感関係が成立し信頼関係が初めて成立することにな る。それらが、うまく機能せず、進まない場合は、

精神疾患を伴って"いるか"いないか"によって対応に違いが生じる。

精神疾患を伴わない場合は、虚無的な世界があるか、愛着感情が育ってないか、絶望的な不安感情に支配されているかである。

6 それが出来れば、

外に向けて、一日一事で良いから、一事を丁寧に行なっていくことをしてみよう。

7、大切なことは、

連携、仲間との、居場所としての、中間就労のようなものに、如何につなげるかの問題である。

全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)

8. 四国ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

四国ブロック(高知)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015年1月11日(日)
	ひきこもりフューチャーセッション 庵-IORI- in 高知
実施(連携)団体名	KHJ 高知県やいろ鳥の会(全国引きこもり KHJ 親の会高知支部)
会場	高知市東部健康福祉センター 3階 和室(教養室 A・B)
参加人数	計49名(スタッフ7名、当事者・元当事者10名、家族19名、支援者
	9名、その他4名)
	・チラシ400枚作成。
	<配布先>高知県立精神保健福祉センター(100枚配布)、高知県担当
広報	課、高知県生涯教育課、高知市市民協働部、各NPO団体、社会福祉協議
	会、一般、企業などに配布。メール配信で100件。
	〈ホームページ〉・Facebook イベントで告知。
	【ひきこもりフューチャーセッション庵一IORIー in 高知】
	13:30 ご挨拶 (やいろ鳥の会 会長 坂本勲)
	最近のひきこもり界隈の話(池上正樹)
	庵-IORI-について(庵ディレクター川初真吾・庵運営メンバー)
	13:45 2人組で対話「最近うれしかったこと/ほっこりしたことは?」
	14:15 テーマ紹介
実施内容	①あなたにとっての「やいろ鳥の会」②こんな居場所があったらいいな
	③高知の良いところについて話そう ④フリースペース
	14:30 テーマに分かれて対話 (1回目)
	15:00 テーマに分かれて対話(2回目)
	15:30 テーマに分かれて対話(3回目)
	16:00 感想・質問の共有
	【フューチャーセッション庵-IORI-の目的】
	「ひきこもりが問題ではない社会」の作り方を模索
	 参加者:様々な人(当事者、ご家族、興味を持った人・・・・)
	 どんなことをしてる?→対話を通じたアイデア出し、受け止め合い
	(上下、正否ではない)
	 大事にしていること →「答えはみんなの中にある」
実施目的	「誰のアイデア・考えも受け止める」
	【庵一IORI-の対話ルール】
	1. 話している人がいたら、"うなずき"多めで聴いてください。
	2. いろんな人が話せるように、自分の話しは簡潔に!
	3. 自分の考えとちがうな~と思っても、否定はしないでください。
	異なる意見の中に新たな発見があるかもしれません。
	4. 個人的な話しも出ると思います。今日の話しはこの場限りで。

開催の模様 (写真)	
実施成果	今まで経験したことのないスタイルで、親も当事者も自分の殻を破ること
決定事項	ができる場であったこと。
開催に関連する	開催後、1月13日の毎日新聞で、フューチャーセッションの模様が掲載
新聞記事	された。
紹介記事の反響	・3月度月例会への新たな参加申込みが4組あった。
アンケートから見えた 良かったこと	・多様な居場所の型の発想を頂いた。なべの会や、夜間見回りの会など。 ・社会のことに関して、ボランティアの方の存在が知れたこと。 ・いろいろな人との関わりで、いろんな方の考え、話しが聞けたこと。 ・他の人の意見から、気づきの考えに向かっていけること。 「聞く」ということの柔らかさを持っている人と時間を共有できました。 ・他にも自分と同じ悩みの人がいて、少し不安がなくなった。 ・会話の進め方の勉強になった。 ・自由に参加できるプログラムだったので気分は楽でした。 ・内輪(ひきこもり当事者)だけでなく、ファシリテーターの方が、自分達の仕事を持っていて、ボランティアで来て下さった方が居たことはよかった。青年団の人も参加して下さって、もっともっと関係者以外の方に参加してもらえたら違う視点も入っていいのではないか。 ・香川から来たので、初めての人がほとんどだったので、新しいお話しが聞けてよかったです。 ・当事者の方がこの会に出席して、自己紹介が出来たことが嬉しい。 ・明るく前向きな意見が活発に出て良かった!!楽しかった!最高でした!
学習会から 見えた課題など	・今まで経験したことのない表現に対する受け止められ感と排除されることはないという安心感はさらなる知的な表現を誘うものであり、再度開催して欲しいという要望が多くあった。 ・何を言っても排除されないという受容のなかでの話し合いは自分の本音を表現し、ほかの参加者の意見を受け止める事を容易にしていたと思われる。このような安心し表現できる場は心が解放される。 ・既存のルールなどに縛られない安心と受容の場は参加する人たちの潜在的な力を解放する場になると思う。

	(下記、アンケートから抜粋)
	・ひきこもりは自分でなるものじゃない!外からの力でそうなるので
	は?
	・青年団の人も参加して下さって、もっともっと関係者以外の方に参加
	してもらえたら違う視点も入っていいのではないか。
	・周囲に苦しみを理解してもらいづらい。
	・居場所(ひきこもり)の少なさ。一つの居場所の人間関係が死活問題に
アンケートの感想、	なって来る。
課題など	・親亡き後の生活。経済等。生き様。
	・東京都地方の温度差を感じました。居場所にしてもアクセスの面や
	スタッフの件にも問題が沢山あると感じました。
	・当事者本人を信頼する、任せてみる→これがとても難しい。
	助けて「あげたい」はきっと余分なもの。
	・今やっている事の結果が中々すぐに見えてこない。個別性が高く、
	「これ」といった簡単なマニュアルにならない。
	・居場所への助成がなくなり、今後、どうするかが課題です。
	庵を定期的に開催したいという要望が強かったが財政的に難しい。今後の
	検討課題である。
	(下記、アンケートから抜粋)
	・スタッフの確保。(責任のない責任者)をどう確保して、ひきこもり当
	 事者が安心していられる方法を考えて欲しい。
	・行政の支援が財政・財源次第となってしまっている。当事者本位、ひき
A 440 - 100 N 400 N	- こもり予防への取り組みへとシフトさせたいと考える。
今後の取り組み	・「支援」という言葉が邪魔です。
	▶支援が長期になることが多い。その中で、どのあたりを目指していくの
	 か。相談者と共有すること。
	・他分野との交流が出来ればと思います。きっと違う視点を共有できると。
	- ・当事者にいろいろと教えてもらえるようにする。話をよく聴くようにす
	る。
	°° ・うまず、たゆまず、あきらめず、あせらず、継続して関わる。
	7 1.7 1. 1.7 0.7 1. 1.7 C. 2.7 7 1. 1.7 C. 2.7 1. 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.1 1.



庵 -IORI- in 高知

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

「ひきこもりが問題でない未来を描く」対話の場、フューチャーセッション庵 -IORI- を始めてあっという間に2年が過ぎました。東京では開催する度に想定を上回る参加者の数となり、毎回驚かされます。今回、当事者や家族の皆様からお声がけいただき、高知での庵 -IORI- が実現しますが、東京以外の場所で本格的な形で開催するのは初のことです。行動を起こしたくても選択肢の少ない地方ならではの事情があるなかで、何かの変化を起こす種として、対話の持つ力に期待を寄せてくださったことを、とてもありがたく思います。

庵 -IORI- は、様々な立場の人たちが集まり、対話を続けながら、それぞれの未来に関係しそうな人たちを巻き込んでいくための仕掛けです。お互いの話にじっくり耳を傾けたり、会話を深めたりしているうちに、参加者の皆さん一人ひとりが、お互いの中にあるものを自然に共有できるようになっていくことを願っています。

庵 -IORI- ディレクター 川初真吾 (しんごにぃにぃ)

平成 27 年 1 月 11 日 (日)

時間 13:30~16:00 (開場 13:00)

場所 高知市東部健康福祉センター3階和室

住所:高知市葛島4-3-3 電話:088-882-9380

アクセス 会場へはお車が便利です

電車:とさでん交通後免線西高須停留場から約500メートル

参加費 無料

申込み 不要 (定員45人)

★やいろ鳥の会の月例会として実施しますが、どなたでもご参加いただけます。

★遅刻や早退、黙っているだけの参加でもOKです。

問い合わせ E-mail:ja5cin@arion.ocn.ne.jp

電話:090-3184-8109(坂本)

プログラム

1. ごあいさつ

庵ディレクター 川初真吾

2. 説明

ファシリテーターについて

庵での過ごし方

3. テーマの発表

4. テーマグループごとに過ごす時間

5. 全体で共有する時間

6. 自由に過ごす時間

主催 NPO法人全国引きてもり KHJ 親の会(家族会連合会) 共催 全国ひきてもり KHJ 親の会高知県支部やいろ鳥の会 ひきてもりフューチャーセッション庵 -IORI-

四国ブロック(愛媛)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015 年 2 月 7 日 (土) ひきこもり支援セミナー
実施(連携)団体名	KHJ 愛媛県こまどりの会(全国引きこもり KHJ 親の会愛媛支部)
会場	テクノプラザ愛媛(1 部・2 部はテクノホール)(3 部は会議室)
参加人数	約180名 (当事者家族 90名、当事者 30名、支援者・ボランティア・スタッフ 60名)
広報	◆チラシ3000部作成及び配布。 配布先・・・愛媛県・松山市・その他各市町村の福祉課並びに教育委員会、愛媛県心と体の健康センター、民生委員の代表者、愛媛県・松山市社会福祉協議会、NPO支援団体、カウンセラー協会、愛媛県生涯学習センター、シルバー人材センター、各地公民館など目につきそうな場所で広報を依頼した。 ◆マスコミへの掲載・放送依頼愛媛新聞社、朝日新聞愛媛支局、NHK愛媛放送局、リビングえひめ新聞社(特にNHKのラジオで何回も呼びかけていただき、聞いたという声が各所から寄せられた。) ◆広報まつやまへの掲載市会議員の努力にて、2月1日号にて松山市の全世帯に配布◆ホームページでの広報松山市社会福祉協議会のおいでんか通信、愛媛県生涯学習センターのイベント情報、愛ワークえひめのホームページ掲載
実施内容 (次ページへ続く)	最初に主催者並びに来賓(愛媛県心と体の健康センター所長・河野英明氏)の挨拶があり、下記の3本立てにて講演会を開催した。 【第1部 体験談 13:00~14:00】KHJ香川県オリーブの会若者3名 ◆宮武将大さん 8年間の不登校・ひきこり時期の気持ち、ひきこもりになった原因、人生を一緒に向き合ってくれた家族により社会復帰できたことや感謝の思い。また、ピアサポート活動を通して、現在は若者支援のための様々なネットワーク(自助グループ)を立ち上げ、活動していることをパワーポイントを使い元気一杯の報告であった。 ◆秦 昌彦さん 大学を卒業、就職をしたが対人関係がしっくりいかず、ひきこもりに。 0か100かの選択肢で、いつも困っていた。ネット検索により、パーソナリティー障害だと解り、病院に行って安心した。昔はじっと人の話を聞くのが苦手だったが、自分の症状を理解することによって、今では跡を継いだ僧籍においても、いろんな人の話を聞くのが苦ではなくなった。

◆加藤 正起さん

母親の期待に応えようと、小さい頃から頑張ってきたが、挫折が重なり 長期のひきこもりになる。プライドが高く自分自身を、ずっとこんなはず ではなかった思っていた。転機は香川県のピアサポーター研修を受けた こと。まだ就職は決まっていないが、自分の経験を今ひきこんでいる人の 役に立てたく、専門知識を深める為にも、今年は産業カウンセラーの資格 取得に挑戦したい。

【第2部 講演 14:10~15:40 (15:50) 】

境 泉洋氏(全国引きこもり KHJ 親の会理事、徳島大学大学院准教授)

「認知行動療法を使ってひきこもりの若者のやる気を引き出す」というテーマで講演をしていただいた。境先生のわかり易い説明、また声のトーンが非常にソフトで、聴きやすい講演で、あっという間に1時間30分が経ってしまい、最終的には10分超過した。ひきこもり状態からの回復を図を使い、認知行動療法を応用し説明いただいた。当事者と家族、双方が抱える葛藤や、解決策としてのCRAFTによる家族支援について、具体的な例を引きわかり易く説明していただいた。

(使用テキストは、東海ブロック・浜松学習会テキスト 156ページを参照)

【第3部 16:00~17:00(17:15)】

懇談会(境先生・若者3名を囲んで)約50名が参加。境先生のグループ、若者のグループの2グループに分かれ、それぞれが質問に答える形で懇談会を行った。運営の稚拙さもあり、時間オーバーしてしまった。特に境先生を囲んでのグループでは、活発な質疑応答がされていた。

開催の模様 (写真)



実施成果 決定事項 (次ページへ続く)

・当日は、同じ松山市内で発達障害者の大きな講演会(社会福祉協議会主催等)が2ヵ所であり、保健師・民生委員が大動員(450名)されていた。先約がなければ「ひきこもり支援セミナー」の方に参加したいのにーという声は、多くの支援者から聞きました。このような状況下で、我々のセミナーには、7~8割方が当事者およびその家族の参加で、本当に困っている関係者に、KHJがあるということを、認知していただく良い機会になった。

・愛媛県心と体の健康センターの保健師、愛媛県教育委員会生涯学習課職員、松山市会議員、今治市会議員、NPO支援団体、民生委員など、

	多様な関係諸機関からの出席を得た。
	・次回の家族会の開催日を案内。2015年3月15日(日)13時~16時30
	分 愛媛県身体障害者福祉センター 2F 大会議室
	第1部:DVD 視聴「ひきこもり本人と家族への傾聴訓練」
	第2部:懇談会「小グループに分かれての懇談会(茶話会)」
明児)ヶ田(ホナッ	1月23日付け朝日新聞にて予告記事。1月30日付け愛媛新聞にて予告記
開催に関連する	事。1月31日付けリビングまつやま新聞にて予告記事。2月9日付け愛媛
新聞記事	新聞にて開催記事が掲載 。
紹介記事の反響	3月度月例会への新たな参加申込みが4組あった。
	・3人の当事者の体験発表がすごくよかった。自分のひきこもりの過程や
	意見を堂々と発表する姿に感動した。等身大の経験を真剣に話されていて
	とても良かった。
	・ピアサポート活動についてとても興味を持った。若者3名、素晴らしい
	サポーターになってほしい。
	・香川から来られた3人の体験者の話しを聞いて、ひきこもりが豊かな時
	間(物事や、自分自身について考える)、多くの普通といわれているのと
	少し違う価値観を認めて、かえって、深く人生を生きていけるんだと思っ
	た。
アンケートから見えた	・当事者と親がこの会に一緒に参加でき交流できたことが、とても
良かったこと	よかった。
XN JREEC	・コミュニケーションとは会話だけではなく、行動や表情の変化もコミュ
	ニケーションの 1 つであること。
	・家族支援のスタート地点もわかった。安心感を大切にしたい。
	・わくわくリストなど、わくわくを共有していくことから続けて行こうと
	思いました。
	・ひきこもりのメカニズムが理解できた。様々な衣を着ているが、本当の
	ところがつかめて、実践できるようにしたいと思う。
	・ニートの義兄の気持ちを少し理解できた。
	・親である自分の気持ちの持ち方に迷いがありましたが、今日、教えて頂
W == 4	いたことを心において、子供と付き合って行きたい。
学習会から見えた	・家族の方が多く参加してくれていた。講演会(第2部)の中でも、質疑
課題など	応答の時間が取れれば満足感がもっとあったかもしれない。
	・第3部懇談会は会場を変え(1Fホール→2F会議室)、お茶でも飲み
	ながら、のんびり懇談していただこうと考えていたが、思わぬ大勢の方の
	参加で、部屋も狭く、逆に、混乱させてしまった。第3部終了後にアンケー
	ートを書こうとしていた人からは、時間のズレ込みもあり、いただく間が
	なかった。移動ロス防止の為、会場は変えない、想定外のことも考えた綿
	密な事前打ち合わせなど、多くの課題が浮かび上がりました。

アンケートからの 感想、課題など

(下記、アンケートから抜粋)

- ・長期高齢化となり、変化のない生活を送っている事が心配。将来が不安。
- ・子供が私と話すことを避けている。
- ・新しく人と関わろうとしてひきこもっている現状、素性を明かさなければならないので、人との関わりを限定してしまう。
- ・理屈では分かっていても、動き出せない本人を促す方法。
- ・自分に出来そうな仕事がひとつもない。自分は接客も電話対応も苦手で 嫌すぎるので、仕事が本当にない。
- ・履歴書の空白。
- ・親の私の行動に制限が出来て、思うようにいかない。まわりの冷たい態度。(近所等)
- ・長期にわたり当事者に関わってくれるピアサポーターがいないのか。
- ・より論理的、合理的な対応方法を知りたい。自分の経験や対応が正しいのか否か不安であった。(自分の子は復帰できたが、その方法が他の人に対して OK かどうか?)
- ・家族は困っているが、本人は困っていない。又は困っていると言わず、 相談、受療する意思がない時にどのように支援したらいいかについて。

愛媛県では、民間が主催し、これほど大きな「ひきこもりの講演会」をしたのは、初めてのことだった。ひきこもり家族にとっては大きな情報提供の機会になったのではと、感じた。今回のような講演会を1回限りにするのではなく、<u>多くの困っているひきこもり家族に継続的な情報提供ができる仕組みを、行政機関の力もお借りしながら作っていかねばと考える。</u>

現在、松山市では市会議員がひきこもり問題を大きく取り上げてくれ、 情報提供の場となるポータルサイトの立ち上げという約束(成果)に繋が った。これを松山市だけではなく、全市町村に広げていただくよう、親の 会としても出来る限りの協力をして行きたいと考える。

<下記、アンケートから抜粋>

今後の取り組み

- ・認知行動療法を使ってひきこもりの若者のやる気を引き出す方法を知りたくて参加しました。子供の為に使ってみたいと考えています。
- ・対人恐怖症のため、何度もアルバイト、仕事に失敗している。愛媛県で 引きこもり対策、就業支援を積極的に行ってほしい。
- ・本人の好きなこと、楽しいことについて、理解し、そこから外の世界に つながりやすくなるような、支援を心がけています。
- ・電話が苦手の方も多いので、メール対応を行なっている。
- ・地域の人達にひきこもりを正しく理解してもらい、地域の人達に関心を 持ってもらう活動。
- ・状態とは関わらずにその人自身と向き合うこと。
- ・個別・集団の認知行動療法・適正な情報発信。

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

ひきこもりである。 支援セミナー

第 1 部 体 験 談 13:00~14:00

ひきこもりの体験・ピアサポート活動について 経験者の話 (KHJ 香川県オリーブの会の若者)

第2部 講演 14:10~15:40

認知行動療法を使って ひきこもりの若者のやる気を引き出す

第3部 16:00~

ひきこもりの当事者・家族の懇談会 ※お気軽にご参加ください

第2部 講師



1976 年宮崎県生まれ、宮崎大学教育学部卒、早稲田大学博士(人間科学)。臨床心理士、認定行動療法士。日本認知・行動療法学会代議員、NPO法人全国ひきこもり KHJ 親の会理事、徳島県青少年健全育成審議会委員。著書:「CRAFT ひきこもり家族支援ワークブック」他多数。認知行動療法を応用して、ひきこもりの若者やその家族への支援を行っている。

徳島大学大学院

ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部 准教授 境 泉洋 先生

日時 2 月 7 日(十) 13 時間会

■場所 テクノプラザ愛媛 1階テクノホール

愛媛県松山市久米窪田町337-1/089-960-1111

- ■対象 ひきこもり当事者・家族・支援者・関心のある方(先着150名)
- ■主催 NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会) 共催 KHJ 愛媛県こまどりの会
- ■後援 愛媛県 愛媛県教育委員会 松山市 松山市教育委員会

申込先

KHJ 愛媛県こまどりの会 電話 090-7578-4214 (武田) FAX 089-994-5503 メール oooyykk 1@gmail.com

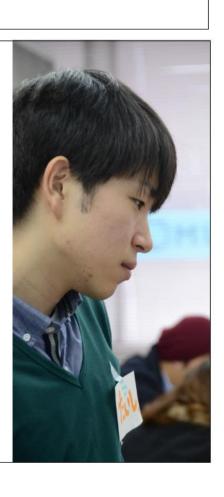
ひきこもり
 の体験、
 ピアサポート活動について

KHJ香川県オリーブの会

自己紹介

宮武 将大

- KHJ香川県オリーブの会
- ひきこもり自助グループLamp
- ユメジナル。
- 介護男塾
- かがわ変差値向上委員会
- 株式会社あい介護サービス



香川県生まれ香川県育ちです。 小学校、中学校不登校です。

そのまま8年間ひきこもりました。母親と二人三脚の日々でした。 家族の支えとアルバイトをきっかけに社会復帰しました。 アルバイト先の上司とおばちゃん達が僕を支えてくれました。 アルバイトをしながら通信制高校に通いました。 社会復帰後初めて向き合える先生と友達に出会いました。 チェンスをもらい、大学に進学しました。

鬱状態になりました。
他人から頑張っていることを認められました。
大学で4つの団体の代表になりました。
学生団体を立ち上げました。
かがわ絆サミットというイベントを開催しました。
ユメジナル。を立ち上げました。
ひきこもりピアサポーターに認定されました。
講演活動をはじめました。
大学を卒業しました。
福祉企業に就職しました。

介護男塾を立ち上げました。 かがわ変差値向上委員会を立ち上げました。 ちなみに障害はありません。

ひきこもり自助グループを立ち上げました。



なぜ、ひきこもったのか

勉強に欲が無かった

求めている事と求められている事の違い

◯⟩きこもり中、何をしていたか

考えていた

死ぬことと生きることの繰り返し

なぜ、社会復帰できたのか

家族や他人の支え

状態ではなく一人の人間として

ピアサポート活動

- KHJ香川県オリーブの会
 - 訪問活動
 - ・ピアカウンセルグの成長のために
- ひきこもり自助グループLamp
- ・外に出られる当事者

・外に出られない当事者

- 切れ目のないサポート
- 啓発活動
- かがわ変差値向上委員会
 - 情報発信
 - 社会教育
 - · 人材育成

- ・外に出た後の当事者
- 社会
- ・環境

- 講演活動
 - 2013 KHJ香川県オリーブの会 「実は僕、ひきこもりでした。」
 - 2013 四国少年院 「生きる選択肢」
 - 2014 特別支援学校教員研修 「ものさし」
 - 2014 さぬき若者サポートステーション 「ひきこもりと向き合う一歩」
 - 2014 ひきこもり大学in名古屋 「普通学科〜私たちひきこもりは「普通」ではないのか? それなら「普通」とは何か?」
 - 2014 ひきこもり講演会in兵庫 ひきこもり経験者シンポジウム 「ひきこもりの孤立を防ぐ為に」
 - 2014 ひきこもり当事者学会in大阪 「男の生きづらさ」
 - 2015 青少年育成支援ネットワークフォーラム パネリスト 「若者が輝く香川のために」



2014年 (第2回) ひきこもり大学in大阪 2014年12月23日 ひきこもり当事者学会 「男の生きづらさ」

 $\mathbf{node} \ (\mathbf{1} - \mathbf{F})$

線と線の結び目を表す言葉 ネットワークの接点

サポート

生き難さを抱えている人たちが社会を支援する

ひきこもり → 生き難さ

生き難さ → スペシャリスト

- ひきこもり自助グループLamp
 - → http://selfhelpgroupmoonlight.jimdo.com
- かがわ変差値向上委員会
 - → http://ameblo.jp/hensachiup

KHJ香川県オリーブの会 宮武 将大

四国ブロック(徳島)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015年12月21日(日)
	「訪問支援とポレポレ農園の若者について」
実施(連携)団体名	KHJ 徳島県つばめの会(全国引きこもり KHJ 親の会徳島支部)
会場	とくしま県民活動プラザ1F研修室(徳島市東沖州2丁目14番地)
参加人数	計30名(当事者家族27名、支援者3名)
広報	チラシ 400 枚作成。 配布先:県の保健所に 150 枚、社会福祉協議会に
	150 枚配布。徳島新聞「情報とくしま」に掲載。
	【前半 13:10~14:30 】
	松田勝氏(上級カウンセラー・ポレポレ農園経営)
	10年前から、引きこもり者を対象にポレポレ農園を経営し、農作業を通し
	て、働く喜び、大切さを教え若者との会話等を通じてコミュニケーション
	の回復を図っている。若者は1~2年在籍後いろんな職業に従事している
	が、また戻ってくる若者もいる。若者と社会の接点としても、病院、
	ハローワークとも連携し、若者の支援をしている。若者の回復過程、
実施内容	若者像について、わかりやすく、伝えてくれた。
天旭四台	【後半 14:40~16:10 】
	谷口仁史氏(佐賀県子ども若者総合センター長など)
	訪問支援について・家庭環境、若者の精神状態、組織としての支援の
	あり方等多面的角度から、訪問支援について説明があった。現在若者が
	抱える、多重困難家庭、精神疾患、依存行動などの支援について、産業カ
	ウンセラー、臨床心理士、社会福祉士、などの専門分野と連携し、訪問
	支援の多面的アプローチについて説明があった。
	【質疑応答 16:10~16:30】
	・現在の若者が抱えている、貧困、精神疾患、コミュニケーション不足な
	どについて改めて理解できたこと。
実施成果	・訪問支援について、カウンセラー、保健所などと連携し、多面的アプロ
決定事項	ーチについて改めて学んだこと。
	・次回例会2015年1月18日に決まった。(京都オレンジの会小島悠
	佑さんの経験談、松田勝氏の集団カウンセリングを行う)
開催に関連する	
新聞記事	2014 年 12 月 17 日付徳島新聞に開催日時・講師について掲載された
紹介記事の反響	新聞に掲載されると数名から出席等について問い合わせがあった。
	・谷口講師の話がうまい。実践・行動が素晴らしい。
アンケートから見えた	・アウトリーチの方法、当事者を含め家族構成、生まれ育った環境など、
良かったこと	 あらゆる視点から探り現状を知る大切さを痛切に感じました。
	・諸々の事象はつながっていることが良く分かった。

	・講師を招く機会が少ないため、アウトリーチを実践されている谷口さん
	の体験を聴くことが出来、良かったです。
学習人 マント 1	・当事者同士の交流の場がない。・親も高齢化が進み、社会参加をあきら
学習会・アンケート	め気味。・長期化・高年齢化したケースで、親亡き後の不安を抱える方へ
から見えた課題など	の助言が難しい。
今後の取り組み	継続して諸々の情報を用いて、活用したい。



訪問支援と

 ●学校に行けない、仕事が続かない、将来に希望が持てない…。不安や困難を抱え自分のための一歩が踏み出せない若者 き…。私たちスチューデント・サポート・フェイスは、「出かける」「つながる」「はぐくむ」をキーワードにさまざまな活動で子ど も・若者をサポートしています。

ポレポレ農園の

●農作業を足がかりに、引きこもりなどを抱える子供の自立を支援する活動の場となる「ポレポレ農園」、農園で子供たちがすることは一つ。自分で考え、判断し、そして決めて、それを言葉か行動に移すことだ。農作業はその手段であり、苗から生き物を育てることに喜びを感じたり、太陽の光を浴びてたくましくなると考え、多くの若者を支援している。

若者について



今回は、佐賀県の「NPOスチューデント・サポート・フェイス」理事長の谷口仁史氏と、「ポレポレ農園」経営者の松田勝氏をお招きして、講演会を開催いたします。訪問支援につきましては、7~9割方、本人には会えず、家族との面会が多いと聞いております。谷口氏からは、これらのノウハウについて教示していただきたいと思います。松田氏はポレポレ農園の現場で、若者と一緒に農作業に従事し、カウンセリングも行っておられます。農園で働く若者像について、いろいろな角度から語っていただきたいと思います。



2014・12/21(日)・開会13:00~・休憩[14:30~14:40]・質疑[16:10~17:00]



ポレポレ農園の若者について ■13:10~14:30

講師プロフィール:松田 勝(まつだ・まさる)

1994年東かがわ市生まれ、高校卒業後、広島の造船所に城麓。68年から 教諭となり、教育カウンセラーとしても活躍。2005年にポレポレ農園を発 足させた。

NPO日本教育カウンセラー協会番川協会顧問。

香川県さぬき市で、農業を通じて引きてもりの人たちの社会復帰を支援 する「ボレボレ農園」は、小学校長や中学校の教園を務め、不登校やいじ めのカウンセリングも長く経験した松田氏が、定年退職後の2005年4月 に、私財を投じて立ち上げた。これまで多くの「卒業生」が就職するなど 自立し、農業を始めた人も多い、農場の名前「ボレボレ」はスワヒリ語で 「のんびり、ゆっくり」という意味だ。

会場/とくしま県民活動プラザ(1F・研修室) 徳島市東沖洲2丁目14番地

■参加費/無料

[主催] NPO法人全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会) [共催] KHJ徳島県つばめの会

KHJ徳島県つばめの会は月に1回、月例会を開催しています。 初めての方はお気軽に参加して下さい。

^{つばめの会} ホームページ http://www.yhwh.iicat.jp/

振興助成事業により実施されています

この事業は独立行政法人福祉医療機構社会福祉

KHJ徳島県つばめの会 代表 高橋 浩爾 ■お問い合せは Tel.090-1325-2740

ひきこもりの訪問支援について ■14:40~16:10

講師プロフィール:谷口仁史(たにぐち・ひとし)

1976年生まれ佐賀県武雄市出身。佐賀大学文化教育部卒業。在学中からボランティアで不登校、ニートへのアウトリーチ(=訪問支援)に取り組む。卒業後、大学教授ら有志を募リ「NPOスチューデント・サボート・フェイス(略称 S.S.F.)」を設立。特定非営利活動法人「NPOスチューデント・サボート・フェイス(代表理事、任質者者サボートステーション総括コーディネーター。佐賀県子ども・若者総合相談センター長、平成22年度子ども若者育成・子育て支援功労者表彰「内閣総理大臣表彰」受賞、佐賀県子ども、若者後合相談センター長、さが若者サボートステーション総括コーディネーター。社会保障審議会鑑時委員(厚生労働省)。雇用戦略対 鉄ワーキングゲルーブ(内閣前) など



295

ポレポレ農園の若者について

(ポレポレ農園の現状と今後の課題)

(岡山・徳島)

ポレポレ農園代表 松田 勝

1 10年間の参加する子どもたちの変化

- 心の問題で自信をなくしたり、強い不安を持ったりして集団に入れない。↓ (短期間で卒業)
- 多様化してきた。

(長期化する子どもの増加)

○ 二次被害をもつ子どもの増加と高齢化 (同じことの繰り返しで変化が困難)

1

〇 差別のきびしさ

2 10年間で140人の参加

- 106人が再就職・再入学10人余が途中リタイア
 - 24人が現在活動中

3 10年間で変化した私

- (1) 子どもたちの変化による影響
 - 対応の仕方を子どもから学ぶ
 - 農園での活動だけでは解決できない問題
- (2) 自分自身の問題での変化
 - 高齢化へのあせり
 - 〇 活動の活発化
 - 後継者の育成
- (3) カウンセリングの限界 (長期化)

4 引きこもりの実態から見た脳の状態

- 完全に引きこもりになった状態・・・・・ほとんど血が流れていない
- エネルギーが蓄積されてきた状態・・・・ほとんど流れていない状態
- エネルギーが外に向かう状態・・・・・・少し流れ出してきた状態
- 訪問が可能な状態・・・・・・・・流れが少しずつ多くなった
- 選択できる環境の提示をする状態・・・・多く流れたり、少なくなったりする状態
- 本人が決定しようとする状態 (12月~4月頃)・・流れが一定の状態

5 新しい取り組みの必要性

- 〇 根本的な解決策
 - 公平・正義が尊重され、自律心のある社会
 - いじめ・不登校のない学校づくり
- 対処療法的な解決策 (家から出るまでの)
 - 狭義の捉え方だけでなく、広義として捉える必要性
 - うつ病の治療との関係を重視
 - 二次被害の治療
 - 精神科医、脳医学、カウンセリングなどと、活動場所の機能的な連携
- ① 1を聞いて3を知る(行動することの大切さ)
- ●日本の子どもは、6人に1人が食べることも困難な貧困な状態
- 動きこもりの状態の人で年齢が高い人、プライドが高い人の職場づくり
- 年金生活の高齢者の人の援助

「だれかがしてくれるのを待つのではなく、自分が立ち上がらなければ」

「1月から1口500円の善意の募金で」・・・ボランティア事業を開始

ポレポレ農園 検索

四国ブロック(徳島)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015年2月18日(水)「クラフト研修について」		
実施(連携)団体名	KHJ 徳島県つばめの会 (全国引きこもり KHJ 親の会徳島支部)		
会場	徳島県立総合福祉センター 401 会議室		
参加人数	計40名(民生委員、県下の社会福祉協議会職員、社会福祉士など)		
	チラシ 400 枚作成。		
広報	配布先:県の保健所に 150 枚、社会福祉協議会に 150 枚配布。		
	徳島新聞「情報とくしま」に掲載。		
	・徳島大学大学院 SAS 研究部准教授、境 泉洋氏から「クラフト」について		
	説明があった。		
	・資料をもとに家族が抱える葛藤、家族関係の回復過程、望ましい行動を		
実施内容	増やすことについて、ポジティブなコミュニケーションスキルについて、		
	受療を勧めるタイミングについて、本人を社会につなげることなどに		
	ついて、わかりやすく説明がなされた。		
	(使用テキストは、東海ブロック・浜松学習会テキスト 156 ページを参照)		
実施成果	生活困窮者自立支援施行に伴い、社協、民生委員はじめ支援者の参加が目		
決定事項	立った。ひきこもり者及びその家族への関わり方について学び、支援の幅		
	を広げたいという理由が多かった。今後の家族会の活動、連携に役立った。		
	・支援者として本人主体で関わるため基本的な姿勢、考え方を学んだ。		
	・ひきこもり者およびその家族の心理状態、本人との対応の仕方、ひきこ		
	もり本人と社会につなげるタイミングなどについて学べたこと。		
アンケートから見えた	・人はメリットある行動だけする。からんでる糸は意外と簡単にほぐれる		
良かったこと	・望ましい行動、家族支援のポイントもわかってよかった。		
(支援者の立場から)	・親への接し方や親の気持ちが勉強になった。相談を受ける側としての姿		
(又1仮日ツエ場かり)	勢を考えさせられた。		
	・家族関係を良好にしていくことが、第一歩とあらためて思った。		
	・「良い所を見つけてほめる」の「良い所」の意味がわかった。		
	・望ましい行動、家族支援のポイントもわかってよかった。		
	・ひきこもりが長期間になって、家族が今の生活を変えることに強く不安		
	感を感じている。・親自身が年金生活になるので、経済面が不安。		
学習会・アンケート	当事者の反応を恐れてしまい、親の思っていることを素直に伝えることが		
	できない。		
	<支援者として>		
から見えた課題など	・結果をすぐに求めていることが多く、継続的な支援が難しい。行政に相		
	談するケースが少ない様に感じる。		
	・当事者と全く会えないケースについて困っている。家族やキーパーソン		
	もいない状況。		

今後の取り組み

- ・何回訪問しても、まだ一度も会えないひきこもりの方にメッセージを 置いて帰ってきていますが、メッセージの内容に工夫しています。ひき こもりの方が喜んでもらえる情報提供をスタッフで試行錯誤している。
- ・何度も家族訪問を行ない、本人に会えるよう、家族との信頼関係を築く。
- ・保健師による電話訪問、来所相談。精神科医による来所相談。
- ・高校中退後、20年以上ひきこもっている男性と、中退後25年ひきこもっている女性に対し家族や親族へのアプローチに取り組みはじめた。
- 生活困難者モデル事業を通して訪問支援を行なっている。



クラフト研修について

このたび、民生委員、保健福祉士など、福祉関係者にクラフトについて学んでいただき、日常業務に役立てていただくために次のような研修を企画しました。

クラフトとは〈コミュニティ強化と家族訓練〉という一連の家族支援プログラムのことですが、このプログラムでは、一つは引きこもり本人の心理状況について理解を深め、お子さんへの適切な対応を学びご家族が自信を取り戻すとともにご家族が自分自身の生活を豊かにしていくためのポイントについて学びます。

二つめは、日常生活における家族内のコミュニケーションのとり方について学び、 ひきこもりからの回復に役立てることです。

三つめは、どのようなタイミングでひきてもり本人に相談機関の利用を促すか、について学びます。





クラフトについて

いあスチスチ派 ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授



[プロフィール] 1976年・宮崎県に生まれる。 2004年・早稲田大学大学院 人間科学研究科博士課程健康科学専攻(単位取得後退学)。2005年志學 館大学大学院心理臨床学研究科講師(教育臨床心理学)。2006年広島大 学大学院教育学研究科附属心理臨床教育センター客員研究員などを経て 現在、徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授。 その 他、全国引きごもりKHJ親の会顧問

会場/徳島県総合福祉センター(401会議室) 徳島市中昭和町1-2

■参加費/無料

[主催] NPO法人全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会) [共催] KHJ徳島県つばめの会

KHJ徳島県つばめの会は月に1回、月例会を開催しています。 初めての方はお気軽に参加して下さい。

つばめの会 ホームページ http://www.yhwh.iicat.jp/

KHJ徳島県つばめの会 代表 高橋 浩爾 ■お問い合せは Tel.090-1325-2740

この事業は独立行政法人福祉医療機構社会福祉 振興助成事業により実施されています。 ※今回の講演会会場は徳島県総合福祉センターとなります。駐車場がご利用出来ない場合がありますので公共交通機関をご利用下さい。



全国引きこもり KHJ 親の会 (家族会連合会)

9. 九州沖縄ブロックにおける学習会活動

活動報告テキスト集

九州ブロック(鹿児島)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015年1月25日(月)		
州惟口・川惟クイトル	KHJ 鹿児島県「楠の会」/ひきこもりのための学習会		
実施(連携)団体名	KHJ 鹿児島県「楠の会」(全国引きこもり K H J 親の会鹿児島支部)		
会場	鹿児島市精神福祉交流センター はーとぱーく		
参加人数	計 28 名 (当事者家族、当事者 15名・支援者・ボランティア・スタッフ		
参加入 数	13 名)		
	チラシ印刷 200 枚。		
広報	配布先:県の保健所、精神保健福祉センター、コンビニ、スーパー、		
	南日本新聞(平成 27 年 1 月 19 日)に告知記事掲載		
	①13:20~14:10		
	大脇 正徳氏(NPO法人なでしこの会理事長)		
	娘さんのいじめや不登校、ひきこもありなどから体験したことを話され		
	た。保護者の働きにより、いじめが少しずつ減っていたことや教職員の		
	協力により不登校が変わってきたことなどを語られた。ひきこもりに		
	ついては親の働きが大切になることを伝えられた。		
	また、自身で運営する『なでしこの会』についても説明された。		
	②14:40~15:40		
実施内容	伊神 亮氏(NPO法人なでしこの会/ピアサポーター)		
天旭刊台	自身のひきこもりけ件から感じたこと想ったことを話された。自身の		
	ことについて「自分の脳の働き方と心の働きの個性が悪く、脳が誤動作を		
	起こす」と表現する。質疑応答では、親に対する想いや、何を支えにここ		
	までやってこれたかなどの質問に答えた。		
	$315:45\sim16:40$		
	松本 太郎 (NPO 法人 大分ステップの会 理事長)		
	「進化するひきこもりの支援」の歴史を説明し、ひきこもりの問題は		
	社会との深く関係していると話された。また、ひきこもりは誰かと接する		
	ことで変わる(化学反応を起こす)と語られた。		

開催の模様 (写真)



「家族会活動から見えてきたもの 〜親の体験的知識を力に〜」

大脇 正徳氏

	「自身の体験から得たものについて」 伊神 亮さん		
	「進化するひきこもり支援」 (タテ社会でこぼれる人たち・ 日本社会の変遷からひきこもりを 考える)松本太郎氏		
実施成果	市長の保健師、精神保健福祉センターなど、多様な関係諸機関からの出席		
決定事項	を得た。		
開催に関連する 新聞記事	平成27年1月19日に南日本新聞にて紹介記事が掲載		
紹介記事の反響	退会した会員 2~3 名の再度入会したいという希望が聞けた。		
アンケートから見えた 良かったこと	・ひきこもり当事者を持っている方の具体的な話し。貴重な講演と体験談を聞かせて頂いた。多くの勉強をした。 ・広い視野、多くの視点を持つ方のお話しを伺えて、力が湧いてきました。 ・自分の子どもをもう一回見つめなおしていかなければと思った。 ・名古屋の大脇さんの活動が参考になりました。居場所は行政に相談して 欲しいとのことだった。		
学習会・アンケート から見えた課題など (支援者として)	・長年ひきこもった状態が続き、親が高齢になって相談がある。親がひき こもりに向き合う力がまだあるうちに相談に来られると良かったのにと 感じる事が多い。 ・本人へのアプローチがとても難しい。		
今後の取り組み	・脳の誤作動をおこしている部分を探ったり、カバーする方法、工夫、 作戦を考えたりしている。・音楽(楽器)を使った支援。・居場所の提供。情報を含めて。		

〈独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業〉 《ひきこむ』問題の社会的理解・支援事業~家族会活動の意見を見つめる~》

テーマ『ひきこもりの家族が元気になる!』の集い

"どなたでもご自由にお出かけ下さい(参加無料)"

【主催】NPO法人全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)

【共催】KH、親の会廰児島県楠の会

【協賛】NPO法人なでしこの会・NPO法人大分ステップの会

♥♥♥講演者

NPC法人なでしこの会 **フレンドシップなでし**こ(PSN)(名古屋) 理事長 **大脇正徳氏**による 『家族会活動から見えてきたもの』

NPO法人なでしこの会 **フレンドシップなでし**こ(PSN)(名古屋) 居場所 スタッフ

ひきこもり

ビア・サポーター伊神 亮氏による 『ビア・サポート活動への関わり』

*******シンポジュウム

NPG法人大分ステップの会

理事長 松本太郎氏による 『なぜつながる家族会活動が必要なのか』

ご案内

日時 平成27年1月25日(日曜日)

・受付 12:30から

•開始 13:00開始

•終了 16:30予定

場所 鹿児島市精神福祉交流センター(はーと・ばーく)

〒890-0063鹿児島市鴨池2丁目22番18号(鴨池ダイエー隣)

TEL 099-214-3352 FAX 099-206-8571

お問い合 KHJ親の会鹿児島県楠の会 渉外 吉留よし子 TEL 090-4519-544

進化するひきこもり支援 (##:NPOは人大分ステップの会 松本太郎)

(タテ社会でこぼれる人たち・日本社会の変遷からひきこもりを考える)

	(世の中と家族会の流れ)	支援者の流れ (代表的なもの)
(1950年) -	- 現行の「生活保護法」施行	(精神保健福祉センター・保健所 を除く) (ハローワーク・児童相 談所・福祉事務所・若着自立塾・小 さなNPO注人等除外)
(1967年) -	(パプル経済はじける) (60年代前半) 『タテ社会の人間関係』中根千枚著 (1000年にわたる日本社会の土台)	
(1975年) —	(父親不在の時代) 「国際障害者年」(障害は個人と環境の問題)	←<ため整>発足A
(1981年)—	「アスペルガー症候群」ローナ・ウィンク 家庭内暴力発表(青少年白書)	
(1985年) — (1987年) — (1989年) —	宮崎市から「往診家族療法」水野昭夫医師 「精神保健法」の制定 (人様) 高校中进者12万人	
(1991年) —	「ひきこもり・不聖校児童福祉対策モデル事業」 (厚生省)	
(1993年) -	(企業で円高による生産拠点を海外へ、空洞化・ 長期不況) 「障害者基本法」(精神障害入る・福祉の対象)	←<ニュースタート>発足①
(1995年) -	「精神保健福祉法」(手模)	1
(1998年) —	『社会的ひきこもり』 斉藤禄苓 (日本経済の曲がり角	i) ← <n o="" p="" 法人ニュースター<br="">ト>②</n>
(1999年) -	KH J全国ひきこもり親の会発足・奥山雅久会長 ニートの発表 (イギリス内閣府)	← <npo法人青少年 自立援助センター>B</npo法人青少年
1	「精神保健福祉法」(移送制度新設)	
1	204	7

(2001年)	『ひきこもりケースの家族援助』近藤直司編 秋田に「長信田の森診療クリニック」児玉隆治医師	
	フリーター417万人(国民生活白書)	
(2003年)	「ひきこもり対応ガイドライン」(精神疾患を除外して)	
(2005年)	新潟で「ひきこもり外来」中垣内正和医師	
	「発達障害者支援法」施行	
(2006年)	NHK「ワーキングプア」放映 生活保護151万人	
	生活国窮者600~850万人 「自殺対策基本法」 ←地域若者サポートステー	
(2007年)	日本テレビ「ドキュメントネットカフェ難民」年収200万円 ション	
	以下・1022万人(国税庁) 『ワーキングプア』シブラー	
	著 (アメリカの見えない若者たち) リーマンショック (200	
	8年)	
(2009年)	「子ども若者育成支援推進法」 ←ひきこもり地域支援	
(2010年)	「ひきこもり新ガイドライン」(精神障害との関連) センター	
	『ドキュメントひきこもり』池上正樹著 『父親再生』信田さよ	
	子著 生活保護受給者186万人	
	The Limited States of the Stat	
(2011年)	KHJ親の会 池田佳世代表による新体制 『ひきこもり支援者 】	
(2011+)	流本』(内閣府) 生活保護200万人時代	
(2012年)	『ひきこもり町おこしに発つ』藤里町社協	
(20124)	『ひきこもりに出会ったら一こころの医療と支援』斉藤万比古編	
	和歌山紀の川病院ひきこもり専門外来とショートケア・宮西照夫医師	
	和政田能の川州死のきこもり等円が来とショートケノ・名西原大区印	
(2013年)	「いじめ防止対策推進法」「子どもの貧困対策法」町田市保健所・山形 √ ←福岡大会に参加	
(20134)		
	The state of the s	
- 1	字奈月で「ひきこもりピアサポーター養成研修」(50名) 徳島県受託 仁史(サポステ)、	
- 0	事業報告書 境泉洋著	
1	インターネットゲーム障害がDSM-5に採用(アメリカ精神医学会の 池上正樹(ひきこも	
	診断基準 『CRAFT』境・野中著 り大学)	
(2014年)	KH J全国5か所で「ピアサポーター養成研修」(170名) ←全国若者・ひきこもり協同	q
- 1	香川県ひきこもりサポーター養成研修事業 (県レベル) 実践交流会②	
- 4	『長期・年長ひきこもりと若者支援ネットワーク』竹中哲夫著	
- 1	『「ひきこもり」に何を見るか一グローバル化する世界と孤立する個人』	
	鈴木圀文・古橋忠晃・ナターシャ・ヴェル編	
	『大人のひきこもり』池上正樹著	
(2015年)	「生活国窮者自立支援法」戦後70年(家族と社会の変化) -全国多数の社協	
	The second secon	
1		
	. 1	

沖縄ブロック(沖縄)における学習会活動

開催日・開催タイトル	2015年1月26日(月)		
Not the second s	KHJ沖縄「てぃんさぐぬ花の会」/ひきこもり交流研修会		
実施(連携)団体名	KHJ沖縄「てぃんさぐぬ花の会」		
(全国引きこもり KHJ 親の会沖縄支部)			
会場	沖縄県総合福祉センター(東棟402研修室)		
参加人数	計 61 名 (当事者家族 13 名、当事者 5 名、支援者・ボランティア・		
沙 //□/ √ 5久	スタッフ 27 名、不明 27 名)		
	【前半 14:10~15:10】		
	大脇 正徳氏(NPO法人なでしこの会/フレンドシップなでしこ理事長)		
	NPO法人なでしこの会・理事長、愛知県ひきこもり支援推進会議・		
	代表委員である大脇正徳氏は、「なでしこの会のひきこもり支援の取組み		
	について〜親の体験的知識を力に〜」を語って下さった。定時制教育で教		
	師をしていた頃の経験から、「待つこと、聴くこと、褒めること」と		
	いう教育理念を掲げ、生徒たちに接していくなかで、生徒たちがどんどん		
	良い方向に変化していくのを感じた。しょうがいを持つ娘のこともあり、		
	「不登校・ひきこもり支援」に関心を持つようになった。現在は、愛知県		
	でひきこもり支援推進会議代表委員をしている。なでしこの会での常設の		
	居場所である「フレンドシップなでしこ(FNS)」では、仲間との活動の		
	なかで、「自助・自治・自立」を高め、自分を受け入れ、人から認められ		
	ることで「自分らしさ」を取り戻し、社会参加への一歩としている。FN		
والمرار المالية والمرارات	Sのなかで、スタッフや親同士で自分の気持ちを話すことで、自分がどう		
実施内容	行動すれば良いのかが明確になり、気持ちのリフレッシュにも繋がる。親		
(次ページへ続く)	の変化が当事者にも良い影響を与え、変化が生まれると考える。当事者が		
	社会復帰をするには、まず親が支援機関と繋がり、スタッフと共に当事者		
	を巻き込み、地域を再生していくことが必要だと話した。また大脇氏は、		
	当事者と接するうえで、「待つ・聴く・褒める」ことが大切だと話した。		
	【後半 15:20~16:20】伊神 亮氏		
	(NPO法人なでしこの会/居場所スタッフ・認定ピアサポーター)		
	ひきこもりを経験した自身の経験談を語った。20歳の頃、学校を卒業		
	したがやりたいことが見つからず、とりあえず介護の仕事に就くが、長く		
	は続かなかった。親から就職について急かされているうちに、家にひき		
	こもるようになってしまった。そこから数年間、その状態が続いていた		
	が、ある日親が参加している「なでしこの会」に参加することとなった。		
	そこで親の会の人から、質問攻めに合うだろうと考えていたが、言われた		
	のは「よく来たね。」の一言だけであった。その時のことを伊神氏は「拍		

子抜けした。」と笑って話していた。そこから、なでしこの会の手伝いを するようになり、現在では、大脇氏とともに、講演会を行ったり、当事者 のサポート活動を行っている。

【おわりに】吉村 文恵氏(KHJ福岡県楠の会)

福岡県の福岡楠の会にある、「おやじの会」のことを話し、母親だけでなく、父親の支援も必要。現在、親の会には母親の参加が多いことから、 父親への呼びかけや協力を促すことが大切であると話した。また、行政の 力に頼るだけでなく、親自身が変わっていき、行動に移していく ことが必要であるとした。

開催の模様 (写真)



元教師の経験と御自身の娘と の関わりのなかで、当事者と 接するときには「待つこと・ 聞くこと・褒めること」が 大切だと語る、大脇 正徳氏。



自身のひきこもり経験を乗り越え、なでしこの会のスタッフに なるまでの経緯など、当事者の 目線で語る伊神亮氏。

実施成果 決定事項

- ・市議会議員、教育委員会職員、福祉保健所職員・ケースワーカー、市 役所職員、障害者職業センター職員、公共職業安定所職員、青少年支援セ ンター職員、県青少年育成県民会議職員、沖縄県青少年こども家庭課 職員、一般社団法人職員、臨床心理士、地域若者サポートステーション 職員、こども若者みらい相談プラザ職員、NPO支援団体、沖縄タイムス 新聞記者、琉球新報記者など、多様な関係諸機関からの出席を得た。
- ・KH | 沖縄以外の新規の5名の会員の確保ができた。
- ・各地の親の会との交流が深まった。
- ・次回の親の会定例会の開催日が決定

2015年2月10日(火)18:00~20:00 コリンザ2F

紹介記事の反響

KHJ親の会沖縄支部「てぃんさぐぬ花の会」への参加の問い合わせが5件あった。

アンケートから見えた 良かったこと

- ・大脇さんのお話しの中にあった、「待つこと、聞くこと、ほめること」 の大切さを再認識した。それができていなくて(焦りもあり)子供と向き 合うことを実践したいと思います。
- ・親がやっておかなければならないこと、本人の意志を尊重する事と、本

	人と対等に向き合わなければならない事を学びました。				
	・当事者の生の声を聞けたのはとても良かった。				
	・ひきこもりの実態、具体的な対応策が聞けて良かった。またひきこもり				
	経験者、その親の話しが聞けて勉強になった。				
	・ベースに障害を持っていることもあるため、見極めが必要。				
	・支援のノウハウが分からず、支援にまで至らない。				
	・ひきこもりへの理解が足りない。				
	・親自身も問題を抱えている場合の、支援の方法				
	・講演会や勉強会の場が、もっと必要				
	・当事者だけでなく、家族も孤立しているため情報が行き届かない				
	<アンケートより抜粋>				
学習会・アンケート	・居場所作りをしてほしい。就業・ボランティアでもよいが、人間関係を				
から見えた課題など	築ける団体(場所)が欲しい。				
	・行政でもっとひきこもり支援を積極的にやってほしい。				
	・親もそろって世帯でひきこもっている。				
	・当事者だけでなく、家族もかなり孤立しているため、必要な情報が届い				
	ていない。ひきこもり支援の重要性を認識していて、実際に動ける関係				
	機関(民間機関・公的機関も含む)が少なすぎる。 現在のひきこもり支援				
	は就労(労働)中心で、医療が必要な方になかなか支援が届かない。				
	もっと医療保健福祉分野とも連携したほうが良い。				
	・KHJ親の会の活動を広め、会員を増やす。				
	・月1回の定例会以外にも、料理教室や農業体験など、当事者も一緒にで				
	きる活動の企画。				
	・交流会や勉強会を開く。				
	<アンケートより抜粋>				
	・定期的な家庭訪問(当事者及び家族への信頼関係作り)。				
	・短期のアルバイトや、研修期間など、実際に職場での体験(労働→給与)				
人 级	をすることが、一番効果が大きいと思います。VRT カードを使って働く				
今後の取り組み	ことへの興味を持たせています。				
	・関係機関を訪問。見学して、その情報を学校や関係者、保護者に提供				
	している。				
	・相談窓口の設置、周知、広報。				
	・外へ出てもらうため、最初は週一回の1ヶ月、その後、週2回外出して				
	もらっている。今後、短期 1~2 週間の就職活動を提案したいと考えて				
	います。				
	・社協職員や保健師を巻き込み、介護福祉サービスの活用を促している。				

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

KHJ 沖縄「てぃんさぐぬ花の会」

ひきこもり交流研修会のご案内



ひきごもり問題の社会的理解・支援事業~家族会活動を考える講演会と 家族交流会を行います。

【主催】NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 【共催】KHJ沖縄「ていんさぐぬ花の会」

どうで お気軽に お越しください!

参加

無料

日時:平成27年1月26日(月)

14:00~16:30 (受付13:30~)

会場:沖縄県総合福祉センター 東棟402研修室

挑퐥市首里石嶺町 4-373-1 tel. 098-882-5811 (代表)

※席に限りがありますのでお早めにご来場ください

■講演会

◆講師:大脇正徳氏 NPO法人なでもこの会/ フレンドラップなでもこ (FSN)理事長

テーマ:なでしての会の「ひきこもり支援」の取組みについて 〜親の体験的知識を力に〜

プロフィール:NPO法人なでしての会・理事長、愛知県ひきてもり支援推進 会議・代表委員。元高校教員としての経験と障害をもつ娘と 向き合う経験を活かし知多市社会複雑協議会と共に不登校・ ひきさもり支援組織「岩者応援隊まなざし」を立ち上げ4年 同従事。



◆講師:伊神 売氏 NPO法人なでしるの会 図場所スタップ・該定じアサポーター

テーマ:「ひきこもり経験とその後の活動」について

プロフィール:NPO法人なでしての会居場所「フレンドシップなでして」非常 製スタッフ(KHJ認定ひきこもりピアサポーター)。20歳の頃 より数年間のひきこもりを経験し、親の会である「存でして の会」の支援を受けて会の手伝いなどを経て、体験話をした り、当事者の方々が居場所に来られた際のサポート活動を行う。



- ◆当日は、KHJ福岡県「楠の会」吉村文恵氏も来会されます。
- ■交流会・・・講演会終了後は、参加者の皆様と交流会を予定しています。
 - ◆ひきこもりでお悩みのご家族、ご本人、支援関係者、その他関心のある方は 是非お気軽にご参加ください。
- -お問い合わせ-

KHJ沖縄「てぃんさぐぬ花の会」

沖縄県沖縄市高原7-34-29 NPO法人サポートセンターゆめさき内 TEL 098-930-1066

見える存在感のある活動へ

- 「職親事業」と「当事者向けハンドブック作成事業」-

NPO 法人なでしこのの会/フレンドシップなでしこ(FSN)理事長 大脇正徳

平成24年度から、なでしこの会では見える存在感のある活動として2つの活動に取り組んできた。一つは長期ひきこもりに悩む本人向けのハンドブックの作成、そして、もう一つは、社会復帰を目指す若者が安心して就労体験ができる場を提供するための、職親の開拓である。

職親事業

職親とは社会復帰をめざしている本人に理解があり、その本人に対して社会体験の場所を提供する事業所・企業等のことである。本人が就職をする前に社会体験をしながら、生活のリズムを立て直し、働く喜びを感じ、自信を取り戻し、その後の社会活動につなげるものである。

まず、職親事業で既に成功している京都府を参考にするため、職親チームのメンバーで京都府府民生活部青年課へ出張し、ノウハウを学んだ。京都府をモデルにさせていただき、「社会復帰支援職親事業実施要綱」などの書類を作成した。

また、実際の職親開拓は、なでしこの会の会員の紹介や愛知中小企業家同友会との連携により進めている。

現在、4団体(造園業、介護、溶接、機械部品の組立)に体験先として協力していただいている。それぞれの体験先は知的障害者や発達障害者の雇用、体験の受け入れ等の実績がある団体である。また、職親チームが実際に見学し、事業の目的と主旨を説明したことで、十分な理解を得ることができた。

一方、本人に対しては、職親に対して理解を深めていただくために「職親ハンドブック」を作成した。「職親とは何か?」というところから、具体的な体験先の内容や写真、事業主からのメッセージを載せ、わかりやすく、親しみを持ってもらえるように心がけた。(添付資料参照)

平成26年3月には、「職親ハンドブック」を用いて、興味のある本人に対し、説明会(語り場特別編:8頁)を開催した。今後も、定期的に本人・親に対し「職親事業」についてお伝えしていける場を作って行きたい。また、更なる体験先を開拓していく予定である。

当事者向けハンドブック作成事業 ~本人と家族の高齢化に向けた取り組み~

「陸のひとりだけ島」発「新大陸」行き 生活マニュアルハンドブック ~ なでしこの会 ひきこもりサバイバル アイディア集~

愛知県「NPO等が行う生活困窮者等支援事業」

「陸のひとりだけ島」発「新大陸」行 生活マニュアル ハンドブック

~なでしこの会 ひきこもりサバイバル アイディア集~



編集・発行 NPO法人 なでしこの会協力 生活支援相談ほっとセンター (一般社団法人 愛知県社会福祉士会)

●ハンドブック作成の目的

なでしこの会には、本人と家族の高齢化の実態があり、親亡き後について不安を抱える本人・家族が多く在籍していることが明らかになっている。

<u>主な対象を「長期ひきこもりに悩む本人」とし、親亡き後に本人が手に取ることで、明日への希望を持ってもらえること</u>、第3者との繋がりのきっかけになることを願った。

また、作成にあたっては、親の会の特性を生かし、親スタッフと専門職スタッフが意見を出し合い ながら、以下の点について試行錯誤を重ねて実施した。

- ・ハンドブックの題名や挿絵はそれぞれ FSN を利用する当事者の方に協力をいただいた。
- ・当事者が読みやすい文字の大きさ・言葉の選択、内容に配慮した。
- •暮らしのアイデア集は会員の親にも協力をしてもらい、アイデアを募った。 (協力していただくことによって、親亡き後についての課題を共有した)
- ・本人・家族がもっとも心配をしている金銭面のページは、本人が混乱しないよう、最低 限必要な情報を厳選した。また家族が書き込めるよう、自由記述式頁も採用した。
- ・ハンドブック作成において、幅広い分野の知識が必要であったため、生活支援相談ほっとセンターの高橋氏に協力をいただき、なでしこのノウハウでは不足している部分に多くの意見をいただいた。

本人向けのハンドブックは全国でも珍しく、全国ひきこもり KHJ 親の会や全国の支援者交流会でも大きな反響を得た。

ハンドブックの内容は現在完成しているもので完結ではなく、親の会の生の声を取り入れながら、 随時改定を繰り返し、より親や当事者が活用しやすいものにしていきたい。

<目次紹介>

- 1. 長期 ひきこもり経験者 今日一良かったと思えるを増やしていきたい(男性・40代)
- 2. なでしこの会 暮らしのアイディア集
- 3. 生活に困ったら・・・?
- 4. 各家庭 記入 シート
- 5. 相談場所 フレンドシップなでしこ 行政機関の相談場所 リスト

<冊子ダウンロード>

KHJ 東海 NPO法人なでしこの会ホームページより無料ダウンロード可。

http://www11.ocn.ne.jp/~ndsk2012/handbook1.pdf

第二部

学習会アンケート報告

- 1. アンケート結果から見えた傾向と課題
- 2. 事業全体の成果と課題

1. アンケート結果から見えた傾向と課題

1) アンケートの目的

ひきこもり問題の社会的理解・支援促進を目的とし、参加者が現在抱えている課題や学習会における効果等を測定するために実施された。

2) アンケート実施方法

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)(以下、(親の会)とする)の支部(連携団体)が、学習会終了後、参加者を対象にアンケートを実施した。

各学習会の参加人数とアンケート回収数の内訳は以下のとおりである。

<調査回数・対象人数・回答率>

アンケート対象人数は合計 1916人、アンケート回収率は 56.3%で半数を超えた。

学習会開催回数 (開催地域数)	33 回	(全国 29 地域)
参加人数合計	1916名	(平均 58 名 /回)
アンケート回答人数 (回収率)	1078 名	(56.3%)

表 1 各学習会の参加者と回答者数の内訳

			42 day 1	<u> </u>
開催日	開催地	実施・連携団体名	参加人	回答者
			数	数
2014年8月16日	山梨	本部(家族会発足)	95 名	56名
2014年9月23日	山梨	本部 (山梨学習会)	51名	27名
2014年9月13日	島根	本部 (家族会発足)	40名	12名
2014年9月14日	鳥取	本部 (家族会発足)	35 名	12名
2014年10月25日	青森	本部 (家族会発足)	70名	40名
2014年12月7日	岐阜	NPO 法人オレンジの会 (家族会発足)	45 名	29 名
		NPO 法人東海なでしこの会		
2015年1月12日	三重	NPO 法人オレンジの会 (家族会発足)	55 名	27名
		NPO 法人東海なでしこの会		
2015年2月11日	福井	本部 (家族会発足)	130名	9名
2015年2月18日	熊本	本部 (家族会発足)	60名	27名
2015年3月7日	兵庫	本部 (家族会発足)	60名	22名
2014年12月21日	宮城	NPO 法人宮城県「タオ」	24 名	18名
2015年2月17日	山形	NPO 法人から・ころセンター	50名	44 名
2015年2月20日	米沢	NPO 法人から・ころセンター	45 名	30名
2015年1月11日	石川	KHJ 北陸会	25 名	16名
2015年2月21日	新潟	NPO 法人 KHJ にいがた「秋桜の会」	60名	19名
2015年1月25日	千葉	NPO 法人 KHJ 千葉県なの花会	69 名	51名
2015年1月27日	東東京	NPO 法人楽の会リーラ家族会	100名	75 名
2015年2月8日	栃木	KHJとちぎベリー会	139 名	106名
2014年11月3日	名古屋	NPO 法人オレンジの会	23 名	22名
2015年2月15日	浜松	NPO 法人オレンジの会	41 名	36名

2015年2月28日	名古屋	NPO 法人オレンジの会	85 名	55 名
2015年1月24日	大阪	NPO 法人大阪虹の会	45 名	22名
2015年2月1日	京都	NPO 法人京都オレンジの会	27 名	7名
2015年2月22日	滋賀	NPO 法人京都オレンジの会	30名	17名
2015年2月7日	広島	KHJ広島「もみじの会」	40名	33名
2015年2月8日	鳥取	KHJ 鳥取らくだ会	15 名	9名
2014年12月21日	山口	KHJ山口県「きらら会」	69名	25 名
2015年2月18日	高知	KHJ高知県やいろ鳥の会	49 名	38名
2015年2月7日	愛媛	KHJ愛媛県こまどりの会	180名	108名
2014年12月21日	徳島	KHJ 徳島県つばめの会	30名	8名
2015年2月18日	徳島	KHJ 徳島県つばめの会	40名	29 名
2015年1月25日	鹿児島	KHJ鹿児島県「楠の会」	28 名	19名
2015年1月26日	沖縄	KHJ沖縄「てぃんさぐぬ花の会」	61名	30名

3) アンケート内容(※アンケートは巻末資料を参照ください)

学習会(アンケートには講演会と記載)参加者に、以下について回答を求めた。

<選択式>

- ①学習会の満足度 ②満足に思った点 ③不満に思った点 ④性別 ⑤年齢
- ⑥参加者の立場 ⑦ひきこもり当事者との同居別居について (家族の立場)

<自由記述式>

- ⑧学習会の参加理由(当事者・家族の立場)
- ⑨学習会の参加理由(支援者の立場)
- ⑩生活する上での困難や悩み事(当事者・家族の立場)
- ⑪ひきこもり支援を行うにあたっての困難(支援者の立場)
- ⑩ひきこもり支援を行うにあたっての現在の取り組み(支援者の立場)

4) アンケート結果 (選択式①~⑦について)

①学習会の満足度について

図1に示したとおり、学習会に対して 満足を得ることができた参加者は、「満足」 55%、「やや満足」37%で、全体の92%の 方が何らかの満足感を得たことがわかった。

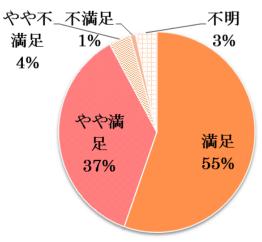
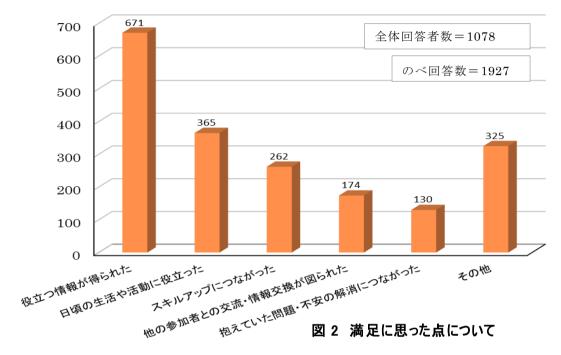


図1 学習会に対する満足度

②満足に思った点について(複数回答)

図2に示したとおり、満足に思った点として、「役立つ情報が得られた」と回答した参加者は671人で、1078人の回答者のうち半数以上(62.2%)の方が、ひきこもりの理解、もしくは、ひきこもりの支援について有効な情報を得たということがわかった。また、のべ回答数が回答人数の1.78倍の値を示していたが、これは、満足に思った点を複数回答した参加者が多かったためと考えられる。



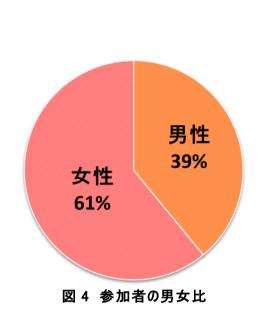
③不満に思った点について (複数回答)

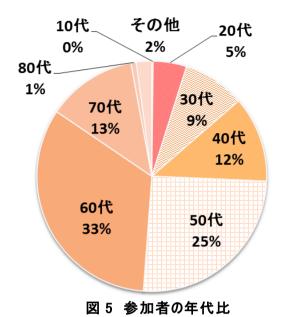
図3に示したとおり、不満に思った点として、最も多かったのが「問題・不安の解消につながらなかった」、次いで、「役立つ情報が得られなかった」であった。回答者人数からすると、全体の約1%~2%の方は、学習会から役立つ情報を得られなかったため、問題の解消には至らなかったと考えられる。



④性別 ⑤年代

学習会に参加された男女比は図4、年代は、図5に示すとおりである。 年代別では、60代 (33%)、次いで50代 (25%) の参加が目立っている。



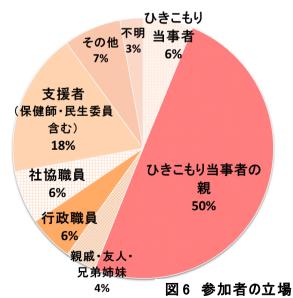


⑥参加者の立場

表1及び図6に示すとおり、参加者の場としては、ひきこもり当事者、当該家族が全体の50%を占め、関係諸機関の支援者(保健師、民生委員、社協職員、行政職員等)からの参加が全体の30%に上った。親の会が主催した学習会で、親以外の参加者が半数を占めたということは、学習会への告知(広報)が多方面になされ、支援者側からも関心を持たれた結果が示されたといえる。

表 2 参加者の立場の内訳

立場	回答数
ひきこもり当事者	67
ひきこもり当事者の親	538
親戚・友人・兄弟姉妹	41
行政職員	61
社協職員	71
支援者(保健師・ 民生委員含む)	193
その他	77
不明	30
合計 (有効回答数)	1078



⑦ひきこもり当事者との同居別居について(家族の立場)

ひきこもり当事者を持つ家族(親、兄弟姉妹、合せて 543 人)から、当事者との同居 別居の状態を尋ねたところ、図7に示したとおり、同居が83%を占めた。

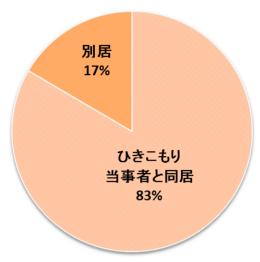


図7 ひきこもり当事者との同別居

5) アンケートから見えた傾向と考察(自由記述式⑧~⑫について)

以下のアンケート項目は、自由記述式で実施された。その内容を取り纏め、記述内容から見えた参加者の傾向を考察する。

- ⑧・⑨学習会の参加理由(当事者・家族・支援者の立場)
- ⑩生活する上での困難や悩み事(当事者・家族の立場)
- ⑪ひきこもり支援を行うにあたっての困難 (支援者の立場)
- ⑫ひきこもり支援を行うにあたっての現在の取り組み(支援者の立場)

【傾向と考察】⑧・⑨学習会の参加理由~当事者、家族、支援者の立場から~

学習会の参加理由について、当事者及び当該家族、支援者の立場から、それぞれ回答を求めたところ、以下の傾向が示された。

表 3 学習会の参加理由

	当事者・家族の立場	支援者の立場
(1)	ひきこもった子への関わり方を学びたい (対応方法・ノウハウの習得)	ひきこもり者とその家族への関わり方を 学びたい (対応方法・ノウハウの習得)
(2)	誰にも相談できない不安、先行きの見えない不安を何とかしたい (社会的孤立・親亡き後の不安の解消)	対応の難しいケースがあり、解決の糸口 を見つけたい (問題解決への糸口)
(3)	ひきこもりの現状を知り、支援、制度、地域資源に関する情報が欲しい(情報収集)	ひきこもりの現状を知り、ひきこもりに 対する理解を深めたい (情報収集)

以下に、アンケート結果から主だった参加理由を抜粋する。

(1) 対応方法・支援ノウハウの習得のため参加

<家族の声・・・・ひきこもり状態を改善する方法を知りたい>

- ・ひきこもり状態からどう脱していくか手立てが見えない。
- 何をしたらいいか、どのように関わっていいかわからない。
- ・日頃の関わり方、どのようにコミュニケーションを取っていいかわからない。
- ・回復の兆しも見えなく、今の状態を少しでも改善したい。
- ・家族関係は回復しているが次のステップ(居場所や社会参加)へ向けての一歩が踏み出せない。固定化して変化がない。何か良い変化を起こすきっかけがほしい。
- ・(兄弟姉妹の立場から参加)親も疲れてしまっているので、何かヒントがあるかと。
- ・当事者の方の話を聞きたかった (子どもの気持ちがわからず不安)

<当事者の声・・・・今の自分の状態を変えたい>

- ・完全ひきこもりから丸2年になり、そこから脱却できるヒントが欲しかったため。
- ・自分を変えたい。少しでも自分の生活の役に立てばと。

<支援者の声・・・・参加の背景にある「ひきこもり相談」の増加>

- ・ひきこもりの方の相談が増えて来た。支援について学びたいと思った。
- ・ひきこもりに関する親からの相談が増加。関わりについてヒントが得られれば。
- ・関わっているケースに、ひきこもりが数名いる。当事者の気持ちを理解したい。
- ・生活保護のケースワーカーをしています。どう支援していいかわからず参加。
- ・ひきこもりの就労支援始める。就労支援をしていく前にどう当事者と向き合って支援していくか参考にしたい。
- ・ひきこもりの方を対象とした家族の会を毎月開催。何かスキルアップ出来ないか。
- ・今後の民生委員の活動の参考にしたい。・訪問支援について勉強したい。
- ・高齢者とひきこもりのケースが多くなり、今後の支援の参考にしたい。

<支援者の声まとめ・・・ひきこもり対応の難しさを感じて参加>

支援者の声をまとめると、特に、社協職員、民生委員のケースの中で、「ひきこもりの方がいて、支援の難しさを感じている」、「少しでもひきこもりのことを理解したい、支援のヒント、関わり方を学びたい」といった意見も目立った。また、今後さらに、ひきこもり問題が大きくなってくることを見据えて、「これから支援者として何か役に立てることはないか」といった意見も見られた。

(2)親自身の孤立・先行きの不安の解消のため参加(※については後述)

<家族の声>

- ・家族だけではどうにもならない。親もひきこもり。 (※家族の孤立化の問題)
- ・他人に相談もできない現状なので少しでも良い情報を得るため。
- ・ひとりで(本などで)学び、実行し続けることに不安があった。
- ・悩みを抱えた家族と交流し、希望を見つける為。
- ・ひきこもりが長引いており、出口の見えないトンネルに入ってしまったようで、本人の先の明るい見通しが持てない。 (※長期化の問題)
- ・子どもの今後の生活に見通しを求めて。なんとか社会参加させたい。
- ・親も年を取ってきているので親亡き後の将来が不安

(※親の高年齢化と親亡き後の問題)

(3) ひきこもりに関する理解と情報収集(制度・地域資源)のため参加

<家族の声・・・・将来の生活困窮を見据えて参加>

- ・生活困窮者自立支援制度の詳しい内容が知りたかった
- ・生活困窮者の支援等、社会資源をどう使うのか等。
- ・ひきこもりの子供も今後状況によっては、生活困窮者の方向に進むことも考えられる ので参加した。

<当事者の声・・・自分の居場所を求めて、将来への不安から参加>

- ・私の課題は「ひきこもり」。とりあえず親の援助のもとで、困窮者にはなっていませんが、明らかに「社会的には孤立」している。
- ・何とか(自分の)居場所を確保したいと思ったから。
- ・自分の住む地域での、自助グループなどが存在するのがどうか、支援も含め、その情報にアクセスしたいと思っているが、まが見つけられずにいる。
- ・社会とのつながりを求めて参加した。親がいなくなった後のことが心配。
- ・今は、完全なひきこもりではないが、社会的自立・経済的自立が出来ていない状況なので、様々な状況を知っておきたいと思って参加。自分が年をとっていく中で、先のことを考えると大変な不安がある。(※当事者として将来に対する生活困窮の不安)

<支援者の声・・・ひきこもり長期化と困窮者への対策に向けて参加>

- ・当事者グループの運営者として勉強したいと思って参加した。
- ・支援者として、経験したことだけでは情報が少ないと感じているので、情報を得て、 伝えて行ければと思って参加。
- ・4月から始まる生活困窮者支援制度の担当者として「引きこもり」支援のヒントを得 たいと思って。
- ・40代、50代のひきこもりの方が多数いる。支援の参考にしたかった。
- ・"ひきこもり"や"生活困窮"またそれに陥りそうな方を支援する機会が増えている。 潜在化している方も含めると、(家族会と)一緒に何かを作り出す機会を作ったりすることがあると思ったため参加した。 (※長期化高齢化、生活困窮の問題)

<支援者の声まとめ>

特に、4月から施行される生活困窮者自立支援事業を受託した社協などの支援機関では、「ひきこもり」状態が長期化しているケースが増えていることを踏まえ、ひきこもりの実態、当事者の生の声やニーズを知りたいという参加動機が目立った。

<初めて参加した支援者の声・・・家族会を知りたい>

- ・今までこのような会があるのを知らなかったので、どのようなものか知りたかった。 思ったよりオープンな雰囲気で居心地がよかった。
- ・家族会の活動状況、当事者や家族がどういうことに困っているのか知りたい。

<一般の方の声・・・身近な地域で出来ることを見つけたい>

- ・私の町内会にひきこもりがいるので、少しでも役に立ちたい気持ちで参加した。
- ・地域の中でどのように関わっていけばよいのか勉強したいと思ったから
- ・以前からひきこもりに関心があり、研修会や集会に参加していた。私に何ができるか (お手伝いできるか模索している)。

【まとめ】学習会の参加理由について

・ひきこもりに対する対応方法やノウハウ、当事者の理解繋がる情報が、家族、支援現場においても、非常に不足している傾向にあると考えられる。「長引くひきこもりから脱出する糸口が少しでも見つかれば」「変化が見られない。何かきっかけが・・」「親だけではどうしようもならない」との思いが、参加の強い動機づけとなっていたことがわかった。

(※ひきこもり長期化の問題)

・相談機関や支援の情報が行き届いておらず、誰にも相談できないまま、地域からも社会 からも孤立している家族(地域)には、特に不安が大きくなっていることがわかった。

(※家族の孤立化の問題)

- ・地域資源、支援機関などの第三者との連携を望む声には、親の高齢化に伴う親亡き後の不安が強く表れていると思われる。子どもが「将来、生活に困るのではないか」という親の不安であると共に、当事者自身も生活困窮者予備軍として不安を抱き動き始めているという現状もある。
- ・今年4月からの生活困窮者自立支援法施行と並び、全国でひきこもりの相談が増えてきている現状からも、ひきこもり支援の今後に強い関心が寄せられていることが示されたと言えるだろう。 (※親の高齢化と親亡き後の生活困窮の問題)

【傾向と考察】⑩生活する上での困難や悩み事(当事者・家族の立場)及び ⑪ひきこもり支援を行う上での支援者の困難について

当事者、家族、及び支援者の立場から、生活する上での悩み及び、支援者の立場から、ひきこもり支援を行う上での困難について回答を求めた。

アンケートから主だった声を抜粋し、ひきこもり支援(家族及び当事者)における困難な現状とその傾向を考察する。

(1) ひきこもりの長期化・親の高齢化・親亡き後の不安について

<親の声・・・親が高齢となった時、親亡き後の子どもの孤立と生活に対する不安>

- ・子供のひきこもり期間が長く、私達(親)が死んだ後どうなるか心配。他の子供に迷惑をかけたくない。長期に渡り当事者に関わってくれるピアサポーターがいないのか。
- ・両親が亡くなった後の息子が社会から孤立してしまうのではないかと思って。
- ・親自身が高齢になり介護が必要となった場合の不安。
- ・本人を支える親の方が年を重ねて体が動かない、疲れてできなくなる。
- ・現在年金生活。貯金を切り崩して生活しているので、先行き不安。
- ・そろそろ親自身が年金生活になるので経済面が不安。
- ・親亡き後の生活。生活費(毎月赤字)。
- 保護者亡き後の当事者のサバイバル。
- ・ひきこもり当事者が将来一人でも生きていける方法を勉強したい。
- マネープラン、遺言など。

<当時者の声・・・金銭的な不安、就労への不安>

- ・(当事者本人として) 就労ができず、金銭的な面が一番困っている。
- ・親がいなくなった後のことが心配。
- ・高齢の親がひきこもりを抱えている現状が生活困窮に当てはまる。
- ・ひきこもり者でもできる仕事があったらいいと思う。具体的には、少々ミスをしても 大目に見てくれて、技術が向上したら給料も上がって、一生使えるスキルが身につく ような仕事。

<支援者の声・・・介護分野との連携乏しい、40歳以上の支援機関が少ない>

- ・長期にひきこもっている人への支援が難しい。家族が高齢となり、介護分野との連携 が必要になってきているが、まだまだ意識が乏しいと思う。
- ・年齢の高い方、40歳以上等に対しての相談窓口が少ない。就労支援の場がない。

(2) 当事者・家族への関わりの難しさと家族間の葛藤、疲弊

<親の声・・・・子どもの対応への難しさと疲弊>

- ・無言、暴力、暴言、子供と関われない。
- ・聴覚過敏への対応。生活、食事の不規則、強迫性障害への対応
- ・子供二人がひきこもっており、日常生活に精神的苦痛を抱えている。
- ・子供と親の考え方の違い。子供の言っていることが解ってあげられにくく困る。
- ・本人に動く意思が見られない。出て行く場所があっても行かない。自分ではひきこもりと自覚していないかもしれない。
- ・私自身が子の苦しみを十分に理解し、支援していこうという姿勢が貫けていない
- ・当事者の反応を恐れてしまい、親の思っていることを素直に伝えることができない

<母親からの声・・・・夫婦間の意見の不一致、母親の孤立>

- ・子どもに対する考え方で夫婦間の相違が大きい。
- ・夫に理解してもらえず、母親が一人で悩みを抱えてしまう。

<当事者の声・・・抱える困難(人間関係、金銭面、居場所、就労)>

- ・居場所の人間関係がうまくいかない。
- ・ (何かをやるとき) 同時並行できない。
- ・親子関係が問題。
- ・金銭的な面が一番困っています。
- 一般就労できていない。
- ・皆でいる時はいいけど、1人になると辛いこともある。

<支援者の声・・・・家族の閉鎖性、解決に長い時間を要する点>

○支援者→家族への関わり方の難しさ

- ・家族が就労などにこだわり、本人の意向をきかない。
- ・本人の現状を家族が受容しないため、また無理をして、精神状態を悪くしてしまう。
- ・ 当事者の親の協力を得る事が難しい(支援を丸投げしたい態度)
- ・家族との価値観の違い、ギャップ。こちらは外に出る事が良いだろうと思って支援 しても家族や本人は今のままで十分幸せですと言われることがある。こちらの価値

観の押しつけではと悩む。

(※親の無理解の問題)

- ・最初のアプローチ方法の難しさ。まずは、家族からの相談がないと、こちらから動くことが出来ない。地域内でも情報が少なく見えない部分であることが多い。
- ・親自身の理解がなく、隠して生活している事が多い。親は周囲に知られることを嫌がっており、なかなか実態をつかめない。近所からの情報をもとに、ただただ見守り活動しか出来ずにいる。 (※家族・地域の閉鎖性の問題)

○支援者→本人への関わりの難しさ

- ・接触が困難。(本人のニーズ、ストレングス等にたどり着けない)
- ・ひきこもり支援を拒否する、本人同意を取り付けるのが難しいケース
- ・継続的(長期的)な関わりが必要であるが、中断してしまう事も多く、支援者としてどう関わっていいのか悩むことが多い。
- ・支援途中で連絡が取れなくなり、地道に電話・手紙を送付し、反応を待つこととしたが、 期間が読めないため難しさを感じる。 (※支援拒否、接触困難、途絶の問題)
- ・ひきこもりを自覚していない、自分はひきこもりではないと主張し、腰を上げない。
- ・家族は問題だと思っているが、本人は今のままで良いと感じて自立する気がない。 (※当事者の問題意識が低いケース)
- ・接してもその後の時間がかなり必要。先が見えない。
- ・ラポール形成に時間がかかる。または、信頼関係を築くまでには至らず、話を聴いて他機関を紹介するにとどまる。もっと何かできないか。
- ・提供したサービスを利用してもらえない。

○支援者→複数の問題(病気や貧困)を抱えた家族、支援の長期化と行き詰り

- ・病気や貧困など複合的な問題を抱える相談者を各専門機関につなげるのが困難。
- ・父親が失業中(生活保護受給)。母親が、社会不安障害で通院中。本人が不登校のケース。現在ラポール形成中であるが、他の社会資源(関係機関)との連携の必要性がある。
- ・家族やキーパーソンもいない状況で、当事者と接触が困難になっている。
- ・親自身も問題を抱えている場合の支援が困難。

(※親自身も問題があるケース・兄弟姉妹への負担)

(3)行政機関、支援機関の抱える困難、課題

- ・対象となる方の把握方法や関係機関との連携体制が不十分。(※連携体制の問題)
- ・医療が必要と思っても必要性を伝えられない、または適切な医療機関がないこと。
- ・行政では、病名の付いていないひきこもりと、統合失調症等で通院している方とでは、 支援方法が違っている点。
- ・ひきこもりに正面から向き合う、公的な支援機関が非常に少ない。
- ・息の長い支援が必要ですが、行政は転勤があったり、継続支援ができないこと。
- ・結果をすぐに求めていることが多く継続的な支援が難しい。(※長期継続支援が困難)
- ・生活保護を受けているひきこもりの方が対象のため、就労につなげることなど、居場所 づくり以上に優先させるべきことがあり、就労前の人とのかかわりを作っていく居場所 支援などは難しいと思った。
- ・財政的基盤がないので、職員及び居場所の確保が困難となっている。

【まとめ】当事者・家族・支援者が抱える困難や問題について

- ・<u>家族の孤立化の背景に</u>、家族自身の閉鎖性(世間体や無理解、価値観の問題)があることがわかった。また、潜在的に孤立している家族を把握する方法や、関係機関との連携体制が不十分であることがわかった。
- ・<u>ひきこもりの長期化の背景に</u>、当事者に対する関わりの困難さ(接触困難、支援途絶)の問題、家族が複合的な問題を抱えている現状があることがわかった。また、行政の担当者が変更してしまうことによって、同じ人が長期的に継続支援を行うことができない現状があること、すぐに結果を求められ、息の長い支援に結びつきづらいことも指摘された。
- ・<u>ひきこもりの高齢化の背景に、</u>40代以上を対象とした支援機関(地域資源)が少なく、 ひきこもりの高齢化への対策が十分でないまま、困窮化に陥るのではないかという不安が 指摘された。
- ・<u>親亡き後の不安の背景に</u>、子どもの生活困窮の他に、子どもの社会的孤立状態への不安 (家族以外の人間とは関われないことへの不安)があることがわかった。また、金銭面に ついての不安と共に、親自身が身体面で介護が必要な状態になったときにどうするのか? といった不安があり、その辺りの対策が乏しい現状も垣間見えた。

【傾向と考察】⑫ひきこもり支援を行うにあたっての現在の取り組みについて

支援者の立場から、ひきこもり支援を行うにあたって現在取り組んでいる事項について 回答を求めた。

アンケートから主だった声を抜粋し、ひきこもり支援(家族及び当事者)における困難 な現状とその傾向を考察する。

<連携と協働>

- ・県として、支援機関のネットワークや相談窓口を作っている。(青森)
- ・住民の全ての困りごとを受け止める「福祉なんでも相談」を始めている。その中で わずかであるが、「ひきこもり」の相談もあり、さらに広げていくつもり。 (東京)
- ・支援を必要としている対象者の抽出・把握を行う。(東京)
- ・地域包括支援センターなどと協働して生活改善に取り組んでいる。(広島)
- ・社協職員や保健師を巻き込み、介護福祉サービスの活用を促している。(沖縄)

<地域ぐるみの連携~人と人の繋がりの支援~(山形)>

- ・生活困難家庭の支援として、これまで高齢者や経済的困難への取り組みが中心でした が、最近、将来の心の支援が大切になっているように思います。
- ・不登校の子供を見かけると、「おかえり」等の声かけをしている。
- ・自治会としての日常の活動を推進していく。

<社協の取り組み>

- ・今後の支援活動の参考に、家族会と社協の連携ができればと思う。 (熊本)
- ・社協でひきこもり支援に取り組む全国事例を聞いているが岐阜県ではまだ事例がない。この動きを広報誌に取り上げ、各市町村の社協や民生委員、福祉施設へ伝えたい(岐阜)

<幅広い情報収集・共有・広報の促進>

- ・本人の居場所、行き場所となりえる資源についての情報収集。
- ・(行政側として)支援を必要としている対象者の抽出・把握を行う。
- ・(家族会側として)積極的にひきこもりのことを行政に伝えていきたい。
- ・情報の提供。特にホームページに力を入れている。(三重)
- ・地域の民生委員情報をいただいて、保健師から、家族へ手紙(集いのチラシ)を出している。(岐阜)
- ・行政機関と連携しながら、ひきこもり家族に継続的な情報提供ができる仕組みづくりを 作っていきたい(愛媛)

<他機関との連携>

- ・全国引きこもり KHJ 親の会と、全国精神障害者家族連合会との話し合いの実現を 希望。(山梨)
- ・発達障害の親の会に参加しているが、役立っている。ASD の会とつながりを持っていければ良いと思った。(山梨)

<粘り強い継続支援、家族支援~早期的・継続的・段階的な支援が必要~>

- ・(連絡が途絶えても)リストを消さない取り組み(名古屋)
- ・第一歩として家族支援からの取り組み(ひきこもり家族教室、家族の集いの継続)
- ・家庭訪問、来所にて相談対応。一緒に好きな所へ出かける。好きなことをする。
- ・現在 19 才~62 才までの、引きこもっている方の支援をしている。関連する機関(民生委員・高齢障害者支援課)と連携し、半年かかわり、(アウトリーチは毎月行い、本人と会っていました)今月(1月)本人同意が取れた。(千葉: 社協職員)
- ・ボランティア情報などの紹介。短期体験の促し。寄り添い支援。定期的に電話をして 状況把握。
- ・何回訪問しても、まだ一度も会えないひきこもりの方にメッセージを置いて帰ってきていますが、内容を工夫しています。ひきこもりの方が喜んでもらえる情報提供をスタッフで試行錯誤しながら考えている。(徳島)
- ・何度も家族訪問を行ない本人に会えるよう、家族との信頼関係を築いていくこと。
- 保健師による電話訪問、来所相談。精神科医による来所相談。
- ・生活困難者モデル次事業を通して訪問支援を行なっている。(徳島)
- ・支援が長期になることが多い。その中で、どのあたりを目指していくのか。相談者と 共有すること。(高知)

<垣根のない交流の場づくり、発想の持ち寄り(高知)>

- ・いろいろな人との関わりの場づくり、居場所づくり。庵(IORI)の試み。いろいろな人との関わりで、いろんな考え、話しが聞けたことで、多様な居場所の型の発想を得た。なべの会や、夜間見回りの会など。
- ・当事者本位、ひきこもり予防への取り組みへとシフトさせたいと考える。

【まとめ】ひきこもり支援にあたっての現在の取り組みについて

ひきこもり対策は、社会全体で取り組むべき問題であることが広く理解されていることがわかった。支援の困難さについての現状が明らかになったが、そのための対策として、 多様な関係機関との連携協働に向けた前向きな取り組みが始まっていることがわかった。 早期継続支援のための環境整備、対象者の把握抽出や、広報促進の必要性も示された。

2. 学習会全体の成果と課題

●目標とする学習会参加者層・参加者数の達成について

- ・学習会の参加者は合計 1916 人に上り、当初見込んだ目標人数 1500 人を上回った。 (100 名を超えた学習会が、4回、開催された)
- ・参加者層は、前述の図6に示したとおり、ひきこもり当事者、当該家族が全体の50%、関係諸機関の支援者(保健師、民生委員、社協職員、行政職員等)が全体の30%に上った。ひきこもりに対する社会的理解と支援の促進に向けて、広く開かれた参加者層を得ることができた。
- ・特に、支援関係者の参加が多かった学習会については、役所として通常業務のある平日 に開催したことが功を奏したと思われる。

●講演会への参加促進について・・・多方面の地域資源への告知と新聞告知を実施

- ・33 地域での全ての学習会において、行政機関、保健所、社会福祉協議会他、民間支援団体ををはじめとした地域資源への広報を実施したことで、多方面からの参加を得た。(学習会報告の広報配布先を参照)
- ・広報促進のため、地元の新聞社をはじめマスメディアに告知記事掲載ならびに取材を依頼した。これは、地域の閉鎖性且つ潜在的に孤立した家族、情報が行き届かない家族を発掘し、家族の孤立化を早期に脱却させ適切な支援に繋げるためであり、社会的啓発を目的として、KHJが発足当初から、力を入れて行なっていることである。
- ・これにより、潜在的に孤立した家族を、家族会に繋げることができた。

|●潜在的な孤立家族発掘に家族会の果たす役割と意味~家族同士の安心感の醸成~

家族会発足講演会のアンケートの声から、潜在的に孤立した家族が、家族会(学習会) 参加を通じて「安心感」を得ることができたことがわかった。(以下にアンケートを抜粋)

- ・相談する場所が見つからず行き詰まっていたが、参加して気分が少し明るくなった
- ・我が家だけではない。困っている方々がこんなにも多くいる。同じ悩みを持つ方々と話 しが出来て、それが一番ホッとしました。
- ・本音で話せる場。独りで抱え込まないことが本当に大切だとわかった。
- ・自分一人で考え込まないで、同じ悩みを持った者同士が話して気持ちが楽になった。

行政機関からも家族会の果たす役割に期待が寄せられた。

「郡内地区の全般に言えることですが、地域性(外間を気にする)のため、相談に来所される方が少なく、状況把握が出来ないという声があった。今回のように民間の NPO から顕在化し連携することで、潜在的に孤立する家族の拠り所(繋がる場所)を提供していくことができる。そのための家族会運営の充実に繋げていく」(山梨)

<今後の取組みと課題として>

初めて相談に出向く際に、同じ悩みを抱える当事者会から情報を発信し、集いを開催することで、孤立状態から脱し、安心感を得る家族も多く、家族会が果たす役割と意義が改めて示された。今後も家族会を知ってもらうための広報活動をより一層充実させることが求められるだろう。

●支援者に対し正しいひきこもり理解の提供ができたか

前述の図2に示されたとおり、全体の62.2%の方が「役立つ情報が得られた」と回答した。ひきこもりに対する理解を深められたとともに、家族、当事者、支援者からの生の声と、具体的にできることについて情報を得られたことが良かったという声が多かった。以下、支援者から寄せられたアンケートからの声を抜粋する

<当事者・家族の体験発表の持つ訴求力>

- ・当事者のお話が具体的で実にわかりやすく、とても良かった。今後の相談活動に役立つ 話だった。
- ・当事者の生きた言葉に説得力があった。とても参考になった。
- ・ひきこもる人達の気持ちが理解出来たような気がします
- ・ご家族、ご本人の生の声から、支援に役立つ視点をたくさんいただいた。
- ・データや数字を見て「ひきこもりとは・・・」と体系的に理解するだけではなく、まず、 当事者の生の声を聞いてほしいという訴えに同感した。
- ・理論よりも実際、具体的な取り組み、本人の生の声が知れてよかった。
- ・本人と関わるだけでなく、家族の支援によりまず家族が楽になることが非常に大事であることがよくわかった。

<具体的且つ実践的な情報の提供>

- ・秋田県藤里長社協(菊池まゆみさん)の積極的支援が、支援方法を教えて下さった。事業の成功例だけでなく失敗談も聞け、実践していることはとても説得力があった。そしてこの中に私達が出来ることがあるのではと思った。(東東京)
- ・社会的孤立は生活困窮者と同一でいろんな制度を活用していく必要ありとわかった。

●親自身の学び、気づき、変化への希望と意欲の促進

学習会を通じて、親自身の気づき、変化への希望と意欲が促進されたことがわかった。 以下、アンケートから主な声を抜粋する。

<親自身が自ら変わろうとする気づきが生まれた>

- ・「家庭を治療の場にする」という言葉に感動した。専門機関の中には、本人が動くのを待 てばと言われても、どうすればいいか困っていたので。
- ・親の態度の取り方が学べた。親自身も考え方を変える必要があると感じた。(山梨)
- ・人を変えるには、自分自身を変える必要があり、それは大変重要なことであり、取り組 みづらいとかもしれないが、努力していかなければ前進できない。(新潟)
- ・子どもの良さ、物事を深く考え、自分のことを気遣ってくれるとても優しい子だったのだが、自分の身勝手な判断・行動で、その良さをを押しつぶしてきたのだと最近になってやっと気づいた。(広島)
- ・自分の子供には親の見方をしてしまいがちだが、第三者の当事者の体験談、思いを聞く ことで、多くの判断材料が増えて、子供の気持ちに寄り添える方向に対応方法が少しづ

つ変わっていけるのではないかと感じられた。

・当事者の実体験を聴いて、『子どもからの訴え』と共通点があった。本人の気持ちが少し 理解できた。

<家族の体験発表から・・・家族関係の改善が第一歩>

- ・本人と関わるだけでなく、家族の支援が非常に大事である
- ・夫婦の感覚の違い、父親と母親の考えの違いがある。しかし、子供のことは二人で相談 することがとても大事だとわかった。夫婦、家族が罪悪感を持つことなく同じ考えで対 応し、同じ方向を向くことが大切。
- ・兄弟(姉妹)の思いにも耳を傾ける必要があることがわかった。

●地域資源との連携促進、相互理解につながった(交流の場としての役割)

学習会を通じて、当事者及び家族が、地域資源と繋がるきっかけを得られたことがわかった。以下、アンケートから主な声を抜粋する。

- ・(当事者として)「ひきこもり大学」の存在を知ったこと、当事者が発言出来る場所、機会があることがわかった。
- ・居場所が開かれることを知って参加した。
- ・ひきこもり相談支援センターでの関わりで回復した具体的な事例を聞けて希望が持てた。
- ・国や行政機関の支援のあり方自体が問われ、重要になってくることが理解できた。
- ・民生委員として関係機関にいかにつなぐかが私達の仕事だと再確認した。
- ・ (親や当事者や支援者など) 立場の違う者同士の交流を通して、相手の気持ちに気づく ことができた。
- ・様々な活動が活発に行われていることを知れて、私も何かに参加してみたり、参考にして何か始てみたいと思った。

<民生委員・児童委員の方々と地域ぐるみの連携>

- ・担当地区のひきこもりの若者に対する支援を学び、地域ぐるみで見守りたい。
- ・今後も民生委員・児童委員との連携を強くし、身近な地域における、ひきこもり支援の促進につなげたていきたい。(山形)

<ひきこもり問題の社会的理解から相互的理解の促進>

本事業による学習会を通じて、家族、当事者、支援者が相互に学び合う機会を持つことができた。ひきこもり問題の社会的理解と支援の促進がなされたと共に、立場や垣根を越えて繋がることで、ひきこもり問題の相互的理解も促進された。

地域資源、社会資源について正しく知り、その活用等を知ることで、新たな視点から、 ひきこもり問題に対する変化の希望を持つことができたと言えるだろう。

< 今後の課題として~本事業を通じて発足した新支部と共に>

今後も、ひきこもり問題の社会的理解と支援促進のために、当家族会が、唯一の全国組織という強みを活かして、さらに広く社会、地域に開かれていく必要があるだろう。本事業を通じて新たに9か所に家族会支部が発足したが、安定した家族会運営のための財政基盤づくりや、運営維持力の強化も長期的な課題であると思われる。

おわりに

~今後の家族会全体の取組みについて~

今回の学習会アンケートから読み取れるもの

今回のアンケート調査は、ひきこもりの社会的理解・支援促進を目的とし、当事者、家族、支援者、行政等、それぞれの立場が抱えている課題や問題点を検証するためのものである。

ひきこもり当事者と家族が、平成 27 年度から始まる生活困窮者自立支援法の対象者となる関係上、実施主体者としての福祉事務所設置市町村等の担当者・支援者が、今後どのような支援を行って行けばよいのか手探りの状態の中、このアンケート調査は実施された。

全国各地で行なわれた、学習会は、(独)福祉医療機構 社会福祉振興助成事業として、全国 KHJ 親の会を主催団体として実施され、元ひきこもり当事者や家族の声を直接聞くことが出来たことは、非常にタイムリーな企画であり、開催された学習会は参加者人数が予定を大幅に超え、さらに、大多数ともいえる 92%の参加者が満足感を得ることができた(満足 55%・やや満足 37%)。

この調査で、次の三点が明確になってきた。

- ・ひきこもり当事者と家族の高齢化(図5と図6)
- ・当事者・家族の孤立と生活困窮の兆しが明確になった。(自由記述)
- ・家族及び支援者の対応ノウハウと情報不足がひきこもりを長期化させる原因であることが明らかになった。(自由記述)

これまで、ひきこもりの実態調査については、調査対象の年齢上限を、厚生労働省は34歳、内閣府は39歳としているが、昨年度の厚生労働省社会福祉推進事業の調査研究事業で、当会が年齢制限を設けずに実態調査を行った結果、本人の平均年齢は33.1歳であり、2002年の平均26.6歳から比べると、約7年も上昇していることがわかった。また、本人の年齢が35歳以上である家族が全体の約43%、40歳以上である家族が全体の約23%を占めていることもわかった(平成25年度調査報告書(家族調査))。

調査対象から抜け落ちている高年齢(30代後半以上)の子どもを持つ家族が、約40%いるということ、本人の平均年齢の上昇を踏まえると、ひきこもりの長期化と本人および家族の高齢化は明らかであり、今回の調査は、それを裏づける結果となった。

当事者が 40 代に突入するとおのずと保護者の年齢は上がり、多くの保護者は現役を退き年金生活に移行する。年金は高齢者本人と配偶者のために支給されるので、扶養家族を養うことが困難になり、生活困窮状態に陥る可能性を含んでいる。

年金生活者は、同時に社会との接点が少なくなる。さらに、世間のひきこもり当事者に対する意識が、怠けや変わった人などであり、また、保護者も、子育てに失敗した、親になれない親という見方をされる場合も多く、そうした視線から逃れるように、保護者自身もひきこもりの生活に陥らざるを得ず、当事者と家族が孤立していく様子が多くの自由記述から読み取ることができた。

これらは、さらなる深刻化現象を意味している。なぜならば、ひきこもりという社会問題の解決策を今まで充分に見出せず、少子化社会にもかかわらず、不登校とともに、年々、増加傾向を示しているからである。(注) 平成25年度厚生労働省社会福祉推進事業より

「生活困窮者自立支援法」を受けて

誰もが社会的に排除されない社会を実現するために、これからの社会に定着しなければならない概念として、「インクルージョン(社会的包摂)」がある。これは、国民全体の幸福につながり、貧困や犯罪予防にもなる。同時に、福祉的支援から個としての自立につながれば、やがては国家予算削減になる。

ひきこもりの当事者は、多くの場合、家族からも孤立し、家族は地域社会から孤立していることが多い。日本では育児から始まり、就職や自立までは、子育てを親の責任として考える因習がある。そのため、親が子育ての責任を主に担ってきた。この考え方を、子どもや若者は社会の大切な一員であり、親と共に社会全体で担っていくという欧米並みの考え方に変えなければならない。

親が子の自立をすべて担わなければならないと思うと、責任が重く圧し掛かる。たとえ、学校でいじめを受けて、先生や級友が信じられなくなり、不登校になっても、未だに、学校や社会から放置され、変わった子、打たれ弱い子とレッテルを貼られることもある。それらの心理が、ひきこもり当事者や親にも共通する圧迫の心理であり、ひきこもりの遠因にもなる。

ひきこもり当事者や家族を、経済的貧困と社会的孤立に追いやってはならない。インクルージョンを実現するためには、親ひとりでは、無力である。同じような悩みを抱える親同士が、相互扶助精神で助け合う家族会が核となり、地域や行政に働きかける時が来ている。その後ろ盾になる法律が「生活困窮者自立支援法」である。

今後の家族会全体の取組み

今後の家族会の役割は孤立防止である。孤立や孤独は、家族においても、社会においても、ひきこもり問題における最大のネックであり、解決を遠ざける最も大きな課題である。まず、家族だけでは、長期化したひきこもりを絶対に解決出来ないという認識に立ち、ひきこもり当事者や家族の経験談等の学習会を中心にした相互支援できる家族会を全国に拡げ、情報交換及び支援ネットワークを強化し、学識経験者や研究者のアドバイス、先進的事例の提示をさらに充実させる必要がある。

さらに、厚生労働省社会・援護局と進めているピアサポーター養成研修と派遣事業、その延長線上にある居場所事業やひきこもりフューチャーセッションによる新たな生き方の発見や、家族会が運営する事業体による中間就労に結びつけていきたい。

無論、家族会にできることとできないことがあるので、できないことは社会・援護局を含めて、行政支援を受け、様々な支援機関との協働事業としてネットワーク作りを行い、そのシステムの中核団体として家族会が活動することが大切であるという認識が必要である

そして、この支援は、当事者と家族を中心に据え、個(当事者と家族)と全体(同じ悩みを持つ、多くの家族)のために、寄与していくことが、家族会による社会貢献であると認識している。

最後になりましたが、本事業を援助いただいた独立行政法人 福祉医療機構の皆さまに心から感謝申し上げます。

NPO 法人 教育研究所 所長 全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)監事 牟田 武生

資料編

学習会アンケート

「ひきこもり問題の社会的理解・支援促進」学習会に関するアンケート

本日は、ご参加いただき、誠にありがとうございました。

このアンケートは、全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)の今後の活動の参考とさせていただくとともに、本事業の実施に必要な助成金(独立行政法人福祉医療機構(WAM)が行う社会福祉振興助成事業)の事業実施の参考とすることを目的に行うものです。ご参加いただいた皆様からの忌憚のないご意見をいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

≪以下の設問で該当する欄に☑を入れてください≫

	□満足		やや満足		やや不満足		不満足		
	(-	→設問 2	2 ^)		_	(→設問 3	<u>^)</u>		
(1 で「満足」「	やや満	足」を選ん	だ方)と	ごのような点	が良かった	たですか。		
(複	[数回答可)								
	役立つ情報な	が得られ	れた □	日頃の生	活や活動に	役立った	□スキ	ルアッ	プに
2	ながった								
	他の参加者と	この交流	流・情報交担	ぬが図ら.	れた 🛘	抱えている	た問題・不	安の解消	消に
2	ながった								
	その他 一良	かった	点を具体的	に教えて	こくださいー				
(〜 1 で「やや不湍	ま足 」 「	不満足」を	選んだえ	ī) どのよう	な点が良っ	くなかった	ですか。	
	[数回答可)	.,						7 7 10 0	
	し役立つ情報が	ぶ得られ	しなかった	ПЕ	目頃の生活や	活動の参え	考にならな	かった	
	スキルアップ								± +>
			よかりほか	つだ こ	11他の参加	者との父と	允・情報父	換かでき	\geq \prime 4
カ	った	/ (C)/	よい ひ (ない)・	つに	□ 他の参加	者との父に	氚・情報父	換かで	5 V
	った 抱えていた					者との父に	魚・情報父	換かで	5 1
	抱えていた問	問題・2	不安の解消し	こつなが	らなかった		血・情報父	換かで	5 Y
		問題・2	不安の解消し	こつなが	らなかった		魚・情報父	換かでも	5 Y
	抱えていた問	問題・2	不安の解消し	こつなが	らなかった		魚・情報父	換かでも	5 /1
	抱えていた問	問題・2	不安の解消し	こつなが	らなかった		允・情報父	換かでも	5 /1
	抱えていた問	問題・▽ くなか	不安の解消し った点を具	こつなが. 体的に耄	らなかった		允・情報父	換かでも	5 14
本	抱えていた その他 一良 	問題・ <i>フ</i> くなか 参加さ	不安の解消し った点を具	こつなが. 体的に耄	らなかった		允・情報父	換かでき	5 14
□ □ 本)	抱えていた間 その他 一良 【 日の講演会に	問題・▽ くなか 参加さ 性	不安の解消に った点を具 った方は ? □女性	こつなが. 体的に耄	らなかった	V)—			
□ 本)	抱えていた問 その他 一良 (日の講演会に 性別 □男	問題・▽ くなか 参加さ 性	不安の解消しった点を具 った点を具 れた方は? □女性	こつなが. 体的に耄	らなかった 女えてくださ	V)—			
本()け	抱えていた問 その他 一良 (日の講演会に 性別 □男 年齢 □10	問題・▽ くなか 参加さ 性	不安の解消しった点を具 った点を具 れた方は? □女性	こつなが. 体的に耄	らなかった 女えてくださ	V)—			
□□ 本((け)	抱えていた問 その他 一良 (日の講演会に性別 □男 年齢 □10 □80代	問題・2 くなか 参加さ 性代	不安の解消ルった点を具 れた 方は? 口女性 □20代	こつなが .体的に参 □30 代	らなかった 女えてくださ	V)—			
□□ 本((け)	抱えていたほ その他 一良 日の講演会に 性別 □10 年齢 □80代 参加された方	問題・プ くなか か か が が	下安の解消にった点を具れた方は? ロ女性 □20代	こつなが .体的に参 □30 代 =	らなかった 対えてくださ	\\\ \\\\ □50)代 口(30 代	
本()けり	抱えていた問えの他 一良 その他 一良 日の講演会に 性別 □10 「をかきこもりきなれたり当	問題・プ くなか 参 性代 事事者	不安の解消にった点を具 れた方は? し女性 □20代 家族など ○ひき	こつなが .体的に参 □30 仕 = こもり当	らなかった 対えてくださ □ 40 代 (い− □50	○代 □6	30 代	
□□ 本((け)	抱えていたほ その他 一良 日の講演 □ 10 講演 □ 10 は 1 0 代 たりもる ひきこさきまるひ □ ※当事者及で	閉く 参 性代 事当ご か	不安の解消に った点を具 れた方は? □ 20 代 □ 家族 □ と 家族 □ し、同 な ○ こ	こつなが :体的に参 □30 代 □ 10 号 □別居の 1	らなかった 対えてくださ □ 40 代 (い− □ひきこう もチェック	○代 □6	30 代	
□□ 本((け)	抱えていたほ その他 一良 日の講演 □ 10 講演 □ 10 は 1 0 代 たりもる ひきこさきまるひ □ ※当事者及で	閉く 参 性代 事当ご みか か さ ・ か さ ・ さ ・ さ き き き き き き き き き き き き き き き	不安の解消に った点を具 れた方は? □ 20 代 家族 □ は 家なひ、 まの方は、 もり もり	こつなが :体的に参 □30 代 □ 130 円 □ 130 円	らなかった 対えてくださ 1 □ 40 付 有事者の親 「無について	い− □ひきこう もチェック	○代 □6	30 代	
□□ 本() け()	抱えていー良 えの他 (日の講演 □ 10 (日の開始 □ 10 (大の地) ○ 3 (大の地) ○ 3 	閉く 参 性代 事当ご みか か さ ・ か さ ・ さ ・ さ き き き き き き き き き き き き き き き	不安の解消に った点を具 れた方は? □ 20 代 家族 □ は 家なひ、 まの方は、 もり もり	こつなが。 :体的に参 □30 件 □ 5 B の す と同子	らなかった 対えてくださ 1 □ 40 付 有事者の親 「無について	い− □ ひきこう もチェック)代 □(もり当事者 ・ 願います	30代	□

表ページで、「 <u>ひきこもり当事者・家族など</u> 」に☑を入れた方に質問します。
5. 本日の講演会に参加した理由をお聞かせください。(自由記述)
6. 現在、生活をする上での困ったことや悩み事をお聞かせください。(自由記述)
表ページで、「保健師や社協職員など支援者の立場から」の参加に☑を入れた方に質
問します。
7. 支援者の立場として、本日の講演会に参加した理由をお聞かせください。(自由記述)
8. ひきこもり支援を行うにあたって、困難を感じていることがありましたらお聞かせく
ださい。(自由記述)
9. ひきこもり支援を行うにあたって、現在取り組んでいる事項がありましたらお聞かせ
ください。(自由記述)
ご協力ありがとうございました
NPO法人 全国引きこもりKHJ親の会(家族会連合会)

—— 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業——

ひきこもり問題の社会的理解・支援促進事業

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業報告書

平成 27年 3月 発行

問い合わせ先

NPO 法人全国引きこもり KHJ 親の会(家族会連合会)

〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-4-4

電話: 03-5944-5250 FAX: 03-5944-5290

メール: info@khj-h.com

ホームページ: http://www.khj-h.com